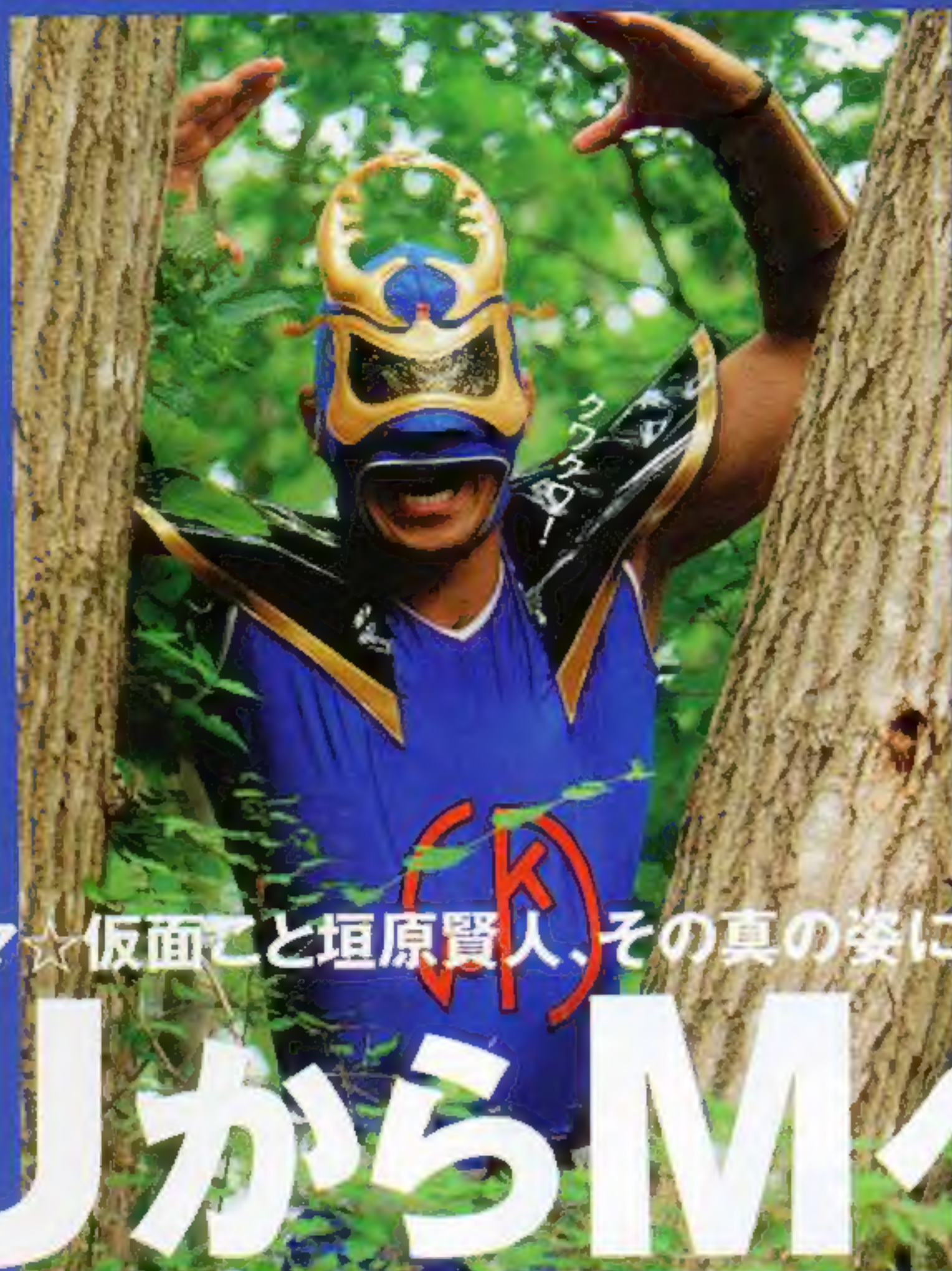
田村潔司、幻の『Dynamite!!』参戦の裏側!!
kamipro
YAH! YAH! YAH!
紙のプロレス
MMA & PRO WRESTLING MAGAZINE
enterbrain MOOK
2007
112
880yen
みんなのヒーローが
『HERO'S』の主役奪取宣言!
所英男
暗雲を極め飛ばす!
新生PRIDEの青い希望!!
青木真也
一寸先は予想外!
鬼が出るか、蛇が出るか?
はじまり、
マット界再編の
はじまり～!!
"世紀の再戦"に賛否両論!!
徹底検証!!
桜庭和志 vs ホイス・グレイシー
んあ～!『Dynamite!! USA』大成功論を語る!!
谷川貞治
FEG代表
"MMAの支配者"が今月も毒舌三昧!
ダナ・ホワイト
UFC代表
これって開戦!? PRIDE王者とUFC王者が激突!
ダン・ヘンダーソン
クイントン・R・ジャクソン
ほわた!? 北斗の男がイノキゲノム継承者に!?
ジョシュ・バーネット
♪これから一緒に殴りに行こうかぁ～!!
6.17『ハッスル・エイド』
がやってくれた!
"ハッスルのモハメド・アリ"が特大ホームラン!
ウォーレン・クロマティ

AQ INTERACTIVE
Wii
拳で闘え。
頭で闘え。
はじめの一歩
THE FIGHTING!
Revolution
レボリューション
この新感覚は、
まさにリアル・ボクシング。
パンチを繰り出す
スイングモード
急所を狙い打つ
ポインターモード
Wiiリモコンとヌンチャクをパンチのように繰り出す「スイングモード」に加え、画面上のポインターで正確に急所を狙う「ポインターモード」を搭載。直感的な操作感を実現してリアルボクシングを追求。原作を忠実に再現したストーリー・グラフィックなど、多彩な演出で表現される「はじめの一歩」の世界は、新感覚ボクシングをさらに熱くさせる。
先着購入特典!!
単行本そっくりノート
※特典は無くなり次第終了となります。予めご了承下さい。
好評発売中
Wii専用ボクシングアクションゲーム 価格:5,800円(税込価格6,090円)
最新ゲーム情報はこちら http://ipom.jp (PC・携帯共通)
株式会社AQインタラクティブ ■ユーザーサポート Tel. 03-3585-5350 11:00～13:00 及び 14:00～17:00(弊社休業日、土日祝日を除く)
©森川ジョージ/講談社・VAP・NTV ©2007 AQI/講談社
Wiiは任天堂の商標です。
CERO A 全年齢対象

2007 No.112 CONTENTS

kamipro

表紙写真／吉場正和

ミヤマ☆仮面こと垣原賢人、その真の姿に迫る!!

UからMへ

Dynamite!! USA

PRIDE & UFC

PRO-WRESTLING

HUSTLE

IGF

Columns

Another

ット界再編のはじまり、はじまり〜!!

う未来!!

♪いまから一緒にぃ〜
♪これから一緒にぃ〜
♪殴りにぃ〜行こうかぁ〜

と、髙田総統&〝モンスターK〟川田利明が『ハッスル・エイド』で見せたドトウの勢いを見習って、YAH〜YAH〜YAH〜と、筆を走らせてみたが、たとえばあの選手は「いったい誰と一緒に」、そして「どこの誰を殴りに行く」のか。ズバリ言って、いまのマット界は誰が敵なのか、誰が味方なのかが把握できねえんです!

――今年4月、『PRIDE』のDSE体制終焉によって、長らく日本マット界を支配していたDSE vs FEG対立時代にピリオドが打たれた。そして水面下では新たな秩序を構築すべく、魑魅魍魎による百鬼夜行な探り合いが展開されている。

昨日の敵は今日の友。昨日の友は今日の敵? 昨日の友は今日も友! 昨日の敵は今日も敵!? でも、ゲノムは未来永劫にゲノム、ダーッ!!

対立時代にはとても考えられなかった、選手ないしは各プロモーション同士の接近、関係改善、協力体制構築――。

そんなマット界地殻変動の予兆ともいえる現象が、田村潔司の幻の『Dynamite!! USA』ド緊急参戦であり、ボブ・サッ

“一寸先はボブ・サップ”なマッ界

絡み合う

プとK－1のウルトラ電撃和解劇でもある。よくよく考えてみれば、対談ならまだしも撮影のみのオファーで、『PRIDE』と『HERO'S』の選手が同席することもかつては考えられなかった。時代を支配していたルールは緩やかに変化している。

何がどうなるかわからない。まさに一寸先は田村潔司 or ボブ・サップ！　もしかしたら、本誌が発売される頃には、〝あの山〟も動いているかもしれない。7月中にはあの〝恐怖の大王〟が振ってくるのが確実と噂されている――。

これまでは『PRIDE』とK－1が鎬を削ることによって互いの質が向上し、日本マット界は大きく膨れあがってきた。

しかし、UFCのビッグバン、ボードッグに代表される巨大資本のMMA参入により、日本マット界の構造は粉々に打ち砕かれたと言っても過言ではなく、否が応でも再編が求められている。そのためには、これまでの常識ではありえなかった動きが、あたりまえのように次々と起こっていくことだろう。

どことどこがくっついて、どことどこが切れるのか？　こんがらがって身動きがとれなくなるヤツは誰だ？　日本マット界をリボーンさせる、一寸先は○○○○なサプライズは、もう目の前に迫っている!!（ジャン斉藤）

頑固者、またしても動く！

カリフォルニア州アスレチック・コミッションのメディカルチェックを極秘裏にパス!?

6.2『Dynamite!! USA』ホイス・グレイシー戦実現未遂に迫る！

6.2『Dynamite!! USA』の解説者として、TBSの地上波放送に登場した田村潔司。あの田村がわざわざロスまで行き、唐突に解説を務めたことを不思議に感じた人も多いだろうが、じつは桜庭がカリフォルニア州アスレチック・コミッションのメディカルチェックを通過できなかった場合の“代打”として、ホイス・グレイシーと闘うべくロスに飛んだとの噂がまことしやかに流れている。4.8『PRIDE.34』での桜庭和志戦“実現未遂”に続き、田村の中で何かがうごめいているのか!?　大きく動き出そうとしている頑固者を直撃した！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫

祝！結婚!!
田村

――田村さん、先日、いつの間にかロサンゼルスへ行ったようですね。

田村　そうね、なんか突然行くハメになっちゃってね。

――『Dynamite!! USA』の地上波中継を観ていたら、なぜか井上和香の隣にタキシードを着た田村さんがいて（笑）、ビックリした人も多いと思いますよ。

田村　いやホント、なんで俺が行かなきゃならないのか、こっちが聞きたいぐらいで（笑）。まあ、いろいろ大変でしたわ。

――何が大変でした？

田村　まぁ、具体的に何が大変だったかは、俺の口からはあんまり言えないけど。そのへんは谷川さんに聞いて。

――いや、じつはもう、そのへんのことはちょっと聞いちゃってるんですけどね（笑）。

田村　そうなの!?

――まぁ、その話はおいおい聞いていくとして。ではまず、今回の感想からうかがいましょうか。アメリカへ行ったのはひさしぶりですか？

田村　そうだね。たぶん15年ぶりぐらいだと思う。

――前回はUWFインター時代、ルー・テーズ道場へ修行に行ったときですか？

田村　そうそう、テーズさんは（テネシー州）ナッシュビルっていうところに住んでて、確かそのとき以来だと思うんだけどさ、海外ってさ、記憶が混ざらない？なんかアブダビに行った記憶と混ざっちゃってるんだよ。

――アブダビとアメリカじゃ、全然違うじゃないですか（笑）。

田村　いや、アブダビで会った人と、今回ロスで久しぶりに再会したのが何人かいたからさ。前回会ったのもアメリカだったかな？　とか思っちゃって。パレット・ヨシダとか。

――田村さん、パレットじゃなくてバレットです（笑）。

田村　あ、バレットか（笑）。海外ってどこに行ってるのかわかんなくなるんだよね。今回も気がつけば飛行機に乗せられてたような感じだからさ。

――『ガキの使い』の罰ゲームみたいに（笑）。

田村　そうそう（笑）。いやホント、ある意味、罰ゲームだよ。気づいたら飛行機に乗って、まあ意外と楽しめたけど……。

大会前は胃が痛くてメディカルチェックも胃潰瘍でダメだったんじゃないかな（笑）

――そんな慌しい中、『Dynamite!! USA』を観戦したわけですけど、いかがでした？

田村　そうだねえ、ハコがデカいぶん、ちょっと動員的には見た目が悪かったけど、会場の雰囲気は良かったよ。1試合目から盛り上がってたしね。

――印象に残った試合を挙げるとどれになりますか？

田村　いや、俺は第1、第2試合と後半の3試合しか観てないんだよね。テレビ解説は後半3試合の担当だったから。途中の俺が知らない選手、外国人同士の試合とか、そのへんは観てなかった。

――では、後半3試合に絞って感想をうかがいましょうか。まずは所英男vsブラッド・ピケット戦。

田村　所くんは良かったね。相手も凄く強い選手って聞いてて、実際、実力的には紙一重だったと思うんだよ。だからヘタしたらグダグダの試合になりかねないところで、ああやってきれいに一本で極めて、一方的な試合というイメージをつけたのは凄くいいと思った。

――ホントは実力が拮抗してるけれども、圧勝に見えるような試合をやったことが凄い、と。

田村　そうそう。それって大事なことなんだよね。だから最後のブロック・レスラーも一緒だよね。

――田村さん、レスラーじゃなくて、レスナーですよ！（笑）。

田村　あ、レスナーか。

――とても解説者とは思えない（笑）。

田村　そうだよねぇ。昔、前田さんがよく新弟子の名前を間違えて呼んでたけどさ、俺もそれに近いものあるな（笑）。

――いや、前田さんのほうがもっとハイレベルでしょう。伊藤（博之）選手のことをずっと「横井、横井」って呼び続けてましたからね（笑）。

田村　あったねぇ。で、しまいにはさ、リングスが活動休止した一年後くらいに前田さんが元リングスの若手とか、ZST広報の上原くんなんかを連れて、釣りに行ったらしいんだよね。そのとき伊藤が「おまえ、誰やっけ？」って言われたらしいよ（笑）。

――ダハハハハ！　弟子の顔も忘れちゃいましたか。伊藤ちゃんもショックだったでしょうね。

田村　「横井」って呼ばれ続けた挙げ句、「誰やっけ？」だからね（笑）。

――そんなことはいいとして。なんの話でしたっけ？　あ、レスナーか。

田村　ブロック・レスナーvsキム・ミンスは……試合の数日前に金泰泳選手とキム・ミンスと食事する機会があったのよ。だから心情的にはキム選手のことを応援してたんだけど、あれもレスナーが最初のタックルに成功したから一方的に見えたけど、キム選手が上になってたら逆の結果だったかもしれないし。ああいう重量級のパンチって見た目の10倍ぐらい効いてると思うから、ちょっとかわいそうだったね。

――では、桜庭選手vsホイス・グレイシー

[6.2「Dynamite!! USA」5分3R]
○ホイス・グレイシー vs 桜庭和志×
（判定 3-0）

伝説の桜庭vsホイス戦、7年ぶりの再戦は、桜庭がグラウンドを中心に試合をコントロールするが、終始コツコツと打撃を放ち続けたホイスが手数で上回り、判定勝ち。今大会でもっとも緊張感のある試合ではあったが、両者ともに慎重な闘いぶりだったこともあり、観客に伝わらずブーイングが飛んでしまった。

戦なんですけれども。

田村　サクの試合は、やっぱりあらためてサクは試合の組み立てが凄くうまいと思ったね。全体を通して、主導権は全然握ってたし。あとは打撃の組み立てがもうちょっとできていたら、圧倒してたと思うんだけどね。

――まだシュートボクセの打撃スタイルと自分のスタイルが完全に一つのスタイルになってないって感じですかね？

田村　シュートボクセのカラーが出てた部分もあったと思うけど、まだ「こう来たらこう」みたいなパターンが少ないと思うんだよ。サクの向こうでの練習を見たわけじゃないから、なんとも言えないけど、まだパンチが主体で、キックを織り交ぜたコンビネーションまではいってないようなイメージを受けたね。

アウェーだから判定は仕方がないけど実力は桜庭のほうがはるかに上だよ！

――結果は、残念ながら桜庭選手の判定負けになりましたけど。

田村　それはまぁ、しょうがないね。放送席で観ていたときは、圧倒的にサクの勝ちだとは思ってたけど。

――「放送席の田村裁定」では桜庭選手の判定勝ちでしたか。

田村　うん。贔屓目に見てる部分を差し引いても桜庭の勝ちだと思ったんだけどね。でも、帰国してテレビであらためて客観的

6.2「Dynamite!! USA」PUTI REVIEW

○ベルナール・アッカ vs ジョニー・モートン×
（1R 0分38秒 KO）

今大会の目玉の一つである元NFLの花形プレイヤー、ジョニー・モートン。『Dynamite!!』らしい有名人路線がアメリカでどこまで通用するか注目されたが、「塩コショー」の塩こと、アッカの右フックで秒殺失神KO負け。英雄がお笑いに失神させられてしまった……。

○ユン・ドンシク vs メルヴィン・マヌーフ×
（2R 1分17秒 腕ひしぎ十字固め）

多くの人が今大会のベストマッチと口を揃える熱闘。『PRIDE』では勝ち星を挙げることができなかったユンが、マヌーフの嵐のような打撃を受けながらも目を腫れ上がらせながら耐え抜き、見事に逆転一本勝ち。"悲運の柔道王"がついに、その実力を開花させた。

○ブロック・レスナー vs キム・ミンス×
（1R 1分9秒 タップアウト）

チェ・ホンマンがメディカルチェックを通過できず、キム・ミンスに変更になったレスナーのMMAデビュー戦。レスナーは急な対戦相手変更にも動じず、テイクダウンからマウントを奪い、パンチでタップアウト勝ち。さぁ、次はIGFのカート・アングル戦（のはず）だ!!

に観てみると、桜庭は試合展開を握ってはいるんだけど、ホイスはチョコチョコ足を出して、効かないんだけどジャッジに「蹴ってますよ」って印象づける攻撃はできてたから、ホイスの圧倒的ホームでもあるし、この判定でもしょうがないかなとは思った。ああいう試合になると、ちゃんと一本取るかKOしなきゃ、なかなか勝つのは難しいよね。

――田村さんは以前、「ホイスと闘いたい」って言ってましたけど、いまでもその気持ちは変わりませんか?

田村 ホイスとはやりたいね。俺の中のリストにはホイスは入ってるから。

――それはどんな興味でリストに入ってるんですか?

田村 なんだろうなぁ……、そこまで細かくは考えてないけど。

――リストに入ってるというからには、もちろん勝つ自信はある、と。

田村 勝つ自信は……、そのときの体調にもよるからね。でも、けっこうしぶとい選手だとは思うよ。桜庭戦を観ても……、サクって体力的に下り坂だって言う人もいるけど、基本的な能力はズバ抜けてるから。そのへんの選手と同じに思われたら困るぐらいの選手だからね。その選手とやって、5分3ラウンドという短い時間だったけど、フルラウンド闘ったんだから、しぶといことはしぶといよね。まぁ、実力差は全然あるけどね。

――それは桜庭さんのほうが全然上ということですよね?

田村 うん。全然上だよ。これは解説でも言ったけど、ホイスのタックルでは桜庭は倒せないけど、桜庭のタックルはホイスを倒せる。グラウンドでも桜庭は8割方コントロールできると思うから。今回は5分3ラウンドだから極めきれなかったけど、もし60分1本勝負だったら、最初の20分間で体力を使わせて、残りの39分でイジメて、残り1分で極められるぐらい、ホイスを完全にコントロールできるだろうね。

もし船木さんが現役復帰するなら 俺と闘う可能性も出てくると思う

田村潔司の中の"リスト"に入っていると思われる4人。いずれの試合も実現すれば大きな話題となることは間違いない。"余震"が続く田村が、今年下半期、"激震"を起こすか?

――そこまで差がありますか……。田村さんも桜庭vsホイスを観ながら、自然とシミュレーションしたというか、自分だったらどう闘うかとか考えたんじゃないですか?

田村 そうだね。それはどんな試合を観てもそうだけど、相手が後ろ足か前足か、どっちに重心をかけているのか、ジャブを打ったときどんな反応をするのかっていうのは、必ずチェックするね。

――じゃあ、自分が実際にホイスと闘って、勝つイメージなんかもできましたか?

田村 いや、勝つイメージっていうか……、負ける気がしないんだよ。

――ほう! 負ける気がしない!

田村 でも、なぜ負ける気がしないかとかは、あんまり深く掘り下げないで。まあ、ホイスとはやる機会があればやるだろうし、ホイス自身もう40歳だから、選手としては最終段階というか、いっぱいいっぱいかもしれないし。できたらいいな、ぐらいな感じだね。

――今回、チェ・ホンマンがメディカルチェックを通らなくて欠場になったのをはじめ、複数の選手がアスレチック・コミッションの基準を通過できませんでしたけど、もし、桜庭選手がメディカルチェックを通過できなかった場合、田村さんがホイスと闘った可能性もあったみたいですね?

田村 まあまあ、それは"たら・れば"の話だから。実際、サクは出場できたわけだし、もし欠場したときのことはわからんからね。

――でも、田村さんもメディカルチェック

は受けたんですよね?
田村 受けたよ。胃が痛くて胃潰瘍で通らなかったけど（笑）。
——（無視して）じゃあ、出る準備だけはできてたってことですよね?
田村 出る準備なんていわないでよ、小心者の俺に……。これはね……それこそ「サクがもし出られなくなったら」なんて、重大な事態だからね。それはそのときにならないと、わからん。もしかしたら、俺じゃなくて前田さんが出てたかもしれないし……。
——なんでスーパーバイザーが緊急出場するんですか! 前田vsホイスはメチャクチャ観たいですけど（笑）。
田村 じゃなかったら、船木さんが出たかもしれないし、ワカパイが出たかもしれないし……。
——出ません（冷たく）。
田村 出ないか（笑） まあ、大変でしたよ! 大会前の一週間はもう……
——やっぱり、ギリギリまで緊張感ってありました?
田村 そりゃ緊張感はありますよ もう俺なんか胃が痛くて、胃が痛くて……。
——桜庭さんの最終的なゴーサインが出たのって大会の2~3日前ですよね。
田村 それはよくわからないけど、俺は胃を痛めすぎて、胃潰瘍でメディカルチェック通らなかったから（笑）。
——ま、そんな話は信用しないとして。でも、わざわざ田村さんがロサンゼルスに行く決心をしたのは、対戦相手についての興味ですか、それともこの特殊なシチュエーションについての興味ですか?
田村 そのへんは谷川さんに聞いてよ。なんで俺がわざわざね、日本での予定をキャンセルしてまでロスに行かなきゃいけないのかよくわからん。ホント、気づいたら飛行機に乗ってた感じだから。
——でも、一応飛行機に乗ったというのは、決断したってことですよね?
田村 わかんない。何に対しての決断なのかが……。まあ解説して、ワカパイが見られて、ばんざーいって余裕もなかったし、いっぱい、いっぱいですよ! あとは谷川さんに聞いて。そして「田村潔司は日本のスケジュールをすべてキャンセルしてロスに行きました!」って言っといてよ。
——恩着せますねぇ（笑）
田村 ハハハハハ! でも、それぐらいは言ってもいいかなっていう気持ちはあるよ。
——それにしても田村さん、春からいろいろ凄いことが実現しかけたり、しなかったり。巨大なる実現未遂が続きますね。
田村 確かに未遂だよね。でも、そんなこと言ったら、いままでも未遂ってけっこうあったからね。新日本のリングで藤波（辰爾）さんとやるって話も、実現寸前で未遂に終わったし。それが一番心残りだったな。
——まぁ、藤波戦はともかく、未遂に終わったとはいえ、田村さんに大きな動きの"予兆"があったというのはいいことだと思いますよ。
田村 そう? 自分ではいいとも悪いとも言えないけど、波風は立っているだろうね 俺がロスに行くと決めて、「ありがとう!」って喜ぶ人もいるし、その反対に「なんだよ!」って思ってる人もいっぱいいるから。まあ、一つだけ言えるのは止まってちゃいけないよね、止まった時点で終わるから
——この流れは止めないほうがいいですよ 田村選手が闘うべき相手も桜庭選手をはじめ、ホイス、秋山成勲と、増えてきたし
田村 そう考えると、いっぱいいるねぇ! でも「流れは止めないほうがいい」って簡単に言うけどね、やるほうとしたらなかなか大変なんだよ（笑）。まぁ、その時が来たら、そうなるんじゃないかと思うけど。船木さんが復帰したら、船木さんとやる可能性だって出てくるだろうし。
——そんな話があるんですか?
田村 いや、もし復帰したらっていうだけだよ（笑）。でも、船木さんは引退したあとも身体を維持してるし、まだまだできると思うから、もったいないよね。復帰したとして、格闘技の試合勘とか、プロレスだったらプロレスの勘がどこまで戻るかはわからんけど、復帰するんだったら、俺とやる可能性もあるだろうし、あったらいいとは思うよね。でも、そういうことも含めて、ホントに流れに身を任せるしかないから。
——具体的に次の試合っていうのは、いつ頃になりそうですか?
田村 具体的に決まってるのは……、9月17日にディファ有明でU-FILEの10周年大会をやろうと思ってるんだけど、それぐらいかな。それもまだ、対戦相手が決まってないから、流動的ではあるけど。
——まだ候補も挙がってない状態ですか?
田村 いや、誰とはまだ言えないけど、対戦相手にオファーはかけてる状況ではあるのよ。それが決まらないと、興行の組み立ても変わってくるから、まだわからないね。ロスから帰国したと思ったら、今度は興行のこと考えないといけないから、ホントに胃が痛い日々が続きますよ。
——では、2007年下半期の田村潔司の動きには注目してますんで、胃の調子には気をつけてください!

【07年6月11日／川崎市・U-FILE CAMP登戸にて収録】

勝つイメージができてるというか ホイスには負ける気がしない!

たむら・きよし■69年12月17日、岡山県出身 第2次UWF、Uインター、リンクスを渡り歩いた生粋のU戦士 48 PRIDE 34 では、桜庭和志とともにリングに上がり、近い将来の対戦を期待させた。格闘技ジムU-FILE CAMPを主宰し、9月17日にディファ有明でジム設立10周年記念大会の開催を予定。180cm、86kg

タムタムがついに結婚!

男・田村潔司37歳がついに結婚! 14日、脱力ギャグでおなじみ、田村のブログ上でタレントの桜井悠美子さん(25)と結婚することが発表された。入籍は7月上旬吉日、結婚披露宴は7月28日に都内で行なわれる。大のプロレス&格闘技ファンとして知られ、サムライTVでキャスターを務めていた時期もある桜井さん。良き伴侶を得て、田村のさらなる活躍が期待される。

熱い胸騒ぎ!!

マット界の闇を吹き飛ばせ!
“夜明け”の向こうに俺たちがいる!!

今年に入ってからネカティフな話題か続いているマット界。新生『PRIDE』の情報もなかなか発表されず、多くのファンがやきもきしていることだろう。しかし、心配しないでほしい。どうやら、ようやく明るいきざしが見えてきたようなのだ。それどころか夏以降、思いもよらぬことが次々と起こりそうな予感すらする。所英男と青木真也。『HERO'S』と『PRIDE の次代を担う二人のツーショットの向こうに何があるのか? いま熱い胸騒ぎが起こり始めている!

Dynamiye!! USA ブラット・ピケット戦快勝!!

3度目の正直なるか!?
“逆境ファイター”
HERO'Sミドル級トーナメント
早くも堂々の優勝宣言!

「今年はボクが主役を奪わせてもらいます!」

ついにこの男が表紙を奪うときがやってきた! 『kamipro』誌上では、“愛されキャラ”でおなじみの所英男である!!　リング上では6月2日『Dynamite!! USA』ブラット・ピケット戦をこの上ない一本勝ちで飾り、またリング外でもCM出演など、順調に“スター街道”をひた走る所。7月に開幕する『HERO'S』ミドル級トーナメントは今回で3度目の出場となるが、なんと、今号では表紙ということもあって(?)本インタビューでは堂々の優勝宣言!　いま絶好調のこの男が本気でベルトを奪いにいく本当の理由とは!?

聞き手／松下ミワ　撮影／吉場正和

今日は6月2日に行なわれた『Dynamite!! USA』のお話からうかがっていこうと思います。まずは所さん、ブラット・ピケット戦での勝利、おめでとうございます!!

所　ありがとうございます!

――今回の試合は所さんにとってもアメリカでの初の試合となったわけですよね?

所　そうですね。でもまあ、やっぱり一本勝ちして気持ちよく帰ってこれたっていうのがよかったなって。

――試合タイムも早かったですし、すべて所さんのペースで終わっちゃったなっていう印象でしたけど。

所　そうですか?（ちょっと嬉しそうに）。でも、ボク自身、試合前の心構えがよくなかったなっていうか、じつはかなりバタバタしてしまったんですよねえ。だから地に足がついてないような状態でリングに上がってしまったというか。

――浮き足立った感じだったんですか。

所　はい。大会当日、早い時間にリングチェックがあって、そのあとけっこう時間があったんで一回ホテルに戻ったんですよ。で、ホテルから会場までまたバスで行くんですけど、そしたら大渋滞になってて。だから、会場に着いたのがもうギリギリだったんですよね。

――それは危険ですねえ。情報によると本当にバスが間に合わないから選手たちはバスを降りて歩いたって聞きました。

所　あ、そうそう。ボクも降りて歩きました。で、そのバスの運転手もなんかよくわからない人で、「ここを曲がればすぐ会場に着くから、曲がれ!」って言うんですけど、「警察がいるから」って言って、ぜんぜん曲がらないんですよねえ。

――警察がいても曲がれるところは曲がれ

所 英男
Ameba
by CyberAgent
Cybazu

ますよね、普通。

所 だから、バスの中でみんな焦っちゃって。桜庭（和志）さんも「この運転手、リングに上げましょうか？」みたいなこと言ってて（笑）。

──アハハハ！ さすが桜庭さん。

所 そんな感じでバタバタしてましたね。

──でも、バタバタといえば、出発も急に決まったりしたんですよね？ 確か、所さんは2週間前くらいから現地入りしたんじゃなかったでしたっけ？

所 出発したのが5月22日ですね。

──アスレチック・コミッションのメディカルチェックって、やっぱりそれだけ時間がかかるもんなんですか？

所 いや、ボクの場合は一日で済んだんですよ。

──たったの一日⁉

所 でも、時間がかかる人は凄くかかったみたいで。

──噂レベルだとチェ・ホンマンは出られないっていう情報や、桜庭さんの出場も危ないっていう話まで流れてて、一向にパスしたっていう報道がされなかったんですよ。ようやくFEGから正式に発表されたのが大会の前日とか、そんな感じで。

所 でも、なぜかボクはすぐ終わりましたねえ。あ、桜庭さんにはペースメーカーを見せてもらったりしましたけど。（Tシャツを上げるフリして）こうやって、パッて。

──ああ、桜庭さんは検査のために一日中ペースメーカーを着けさせられてたって話ですからね。でも、所さんのほうはメディカルチェックのあとは試合まで順調にトレーニングしてっていう日々だったんですか。

所 そうですね。あとは、メジャーリーグとかも観に行きました。

──試合前にメジャーリーグ⁉ 何しに行ったんですか、いったい（笑）。

所 向こうでは、午前中に練習してそのあとはのんびりするっていう感じだったんで、夕方くらいから連れてっていただいたんですよ。

──ちなみに、ご観戦された試合というのは……？

所 ええっと、アナハイム・エンジェルスvsシアトル・マリナーズです

──ということは、イチローや城島（健司）とかも？

所 急接近ですよね！ で、その日がちょうど何かのメモリアル・デーだったみたいで、戦闘機が50メートルくらい上をグワーンと飛んでて、しかも、試合後には花火がバンバン上がってたんですよ‼

──かなり満喫してるじゃないですか！

所 いやあ、本当、いいときに行かせてもらったなって（しみじみ）。

──アハハハハ！ でも出発前の会見では「練習できたのかできてないのか、よくわからない」みたいなことを言われてて、ちょっと不安そうにもうかがえたんですけど、そんなこともなかった、と。

所 まあ、奥出（雅之）くんがずっと一緒にいてくれたんで、気がラクでしたね。だから、練習も奥出くんと二人でやる予定にしてたんですけど、運がよかったのか（メルヴィン・）マヌーフ選手に練習を誘っていただいて。それでけっこう追い込めたというか。

──所さんがマヌーフ選手と一緒に練習している模様は、FEGのホームページ上にアップされてましたね。

所 マヌーフ選手はマイクさんっていう凄く上手なコーチもついてたんで、いろんな体力トレーニングだとか、打撃なんかも教えてもらって。かなり勉強になりました。やっぱり世界一を目指してる男はこんなに練習するもんなんだなぁって……。

6月10日『ZST 13』のリング上で『Dynamite!! USA』での勝利を報告した所。ちなみに、ご着用のTシャツは所さんのご実家の「トコロクトレーニング」オリジナルTシャツで、アフイグマのデザインがあしらわれている。

© ZST

メディカルチェック？ ボクは一日で終わったんでメジャーリーグとか観に行ったりもしてました

──あれ？ 所さんは"世界一"を目指して……？

所 ボクも……目指します（ポツリ）。

──ワハハハハ！ 頑張りましょう！（笑）。

所 あとは、ボク、今年2月くらいにバレット（・ヨシダ）さんのところに10日間くらい練習に行ってたことがあったんですよね。そのときに時差ボケだとか、あとは凄く空気が乾燥してて風邪とかひいてしまったんですよ。それのおかげで今回は時差ボケ対策とかもわかってたし、加湿器を持っていったんですよね。

──今回はいろいろ工夫していったわけですね。でも、現地は昼と夜の気温差がめちゃくちゃ激しいって聞きましたけど。

所 凄いですよね。ビックリしました。

──そういう意味では、屋外での大会で試合順が入れ替わるって、かなり大変なことなのかなって思うんですけど。確か、前日は所さんの試合は第1試合として発表されたのが、当日には第8試合になってましたよね。

所 そうですね。大会前日の夜に谷川さんから電話がかかってきて「8試合目になるけど、大丈夫？」って聞かれまして。

──いきなりの試合順変更なのに、所さんは動揺しないんですか？

所 まあ、第8試合からいきなり第1試合になるんだったら「ええ⁉」ってなるんですけど、あとにしてもらえるってことだったんで、反対に「おいしいな」って。

──へえ～。所さん的にはラッキーだった

© FEG Inc

［Dynamite!! USA］
○所英男 vs ブラット・ピケット×
（1R 2分42秒 腕ひしぎ十字固め）

「♪いーけ、いけ、いけ、逆境ファイター!」のテーマに乗っていつものように入場した所。試合開始後、ひとたびテイクダウンを奪うと、もうそこは所ワールド！ あっという間に腕十字の体制になると、ピケットはたまらずタップ!! アメリカ初試合を見事一本勝ちで飾った

んですね。それに、ラッキーといえば、勝利者トロフィーをなんとあの元X JAPANのYOSHIKIさんから渡されてましたけど（笑）。
所 はい（笑）。
　ちなみに、所さんはYOSHIKIさんと面識は……？
所 ないですよ!! このあいだ初めて会いました、リング上で（笑）。
上原ZST広報 でも、YOSHIKIさんって、みんな「キャー！」っていう人なんですよ。だから、所選手ならリング上で握手するとかなんとかやってくれると思ったんですけどねえ。
所 だって、ブラット・ピケットに勝って興奮してるところに、普通にYOSHIKIさんがリング上がってきたら、「うわっ！ YOSHIKIだ!!」って思うじゃないですか。
――ワハハハハ！ そりゃそうですよね（笑）。
所 だから、もう感動するヒマすらなかったですよ
　でも、YOSHIKIさんが会場にいることはあらかじめ知ってたんですよね？
所 知ってたっていうか、事前に谷川さんから「勝ったらYOSHIKIさんからトロフィーもらえるから」って言われてたんですけどね。
――わかっていても、やっぱり驚きましたか（笑）。ちなみに、その直後の試合は桜庭和志vsホイス・グレイシー戦でしたけど、所さんはあの二人と「同じ大会に出させていただけるだけで幸せだ」みたいなこと言われてましたよね。
所 はい。それでやっぱり雰囲気だけでも味わっとこうと思って、尿検査を済ませてすぐ会場に行きました。
　試合にはどんな感想がありますか？
所 やっぱり試合時間が短すぎたっていうのがありますよねえ。
――そういう意見が多いみたいですよね。
所 でもまあ、なんかあのお二人がリングに一緒に立ってるってだけで絵になるというか、もうプロとして凄いことだなって思いますね。試合しなくても入場して向かい合うだけでもお腹いっぱいだなって。そういう選手って凄いなって。あとはユン（・ドンシク）さんもよかったですよねえ。
――FEG公式サイトのファン投票でユン・ドンシクはMVPに輝いてましたもんね。ちなみに『kamipro Hand』のアンケートでも1位でした。
所 ボク、マヌーフ選手と一緒に練習してたんで、「こんな人に勝てる人がいるのかなあ」って思ってたんですけど、凄かった！ やっぱりグラップラーって、粘って勝つっていう姿勢を貫くっていうか、あんなふうにあるべきなのかなって思いました。
　でも、そのユン・ドンシクはテーピング使用禁止の問題で、試合の直前まで欠場する、しないでドタバタしていたみたいですね。
所 そうそう。ユンさんはもう「（試合に）出ない、出ない」って言ってて、ボク、FEGのスタッフの方に説得されてるのを隣で聞いてたんですよ。だから「うわ、気まずいなあ」って（苦笑）。
――ワハハハハ！ それは凄い場面に居合わせましたね。ということは、同じ控室だったんですか？
所 っていうか、一緒のテントでしたね。

控室はまた違うところにあって、開会式が終わったあとはそのテントがアップスペースになってたんですよ。で、みんなアップしてるのにユンさんはずっと座ってるんで、ボク、マットを用意して「どうぞ、ストレッチしてください」って声をかけたんです。でも、ユンさん「試合に出ないから大丈夫だ」とか言ってて……

――舞台裏は凄まじい（笑）

所 それなのにあんな凄い試合をやるんだから、ホント驚きですよねえ。

――なるほど。で、所さん、早くも7月の『HERO'S』ミドル級トーナメントが迫ってきてますよね。

所 頑張ります！

――まだ、（収録日の6月10日の時点では）誰が出るのかまったく発表されてませんが、3度目の出場となる所さんとしては、今回はどんなモチベーションで臨みたいですか？

所 やっぱり、もう最後まで生き残りたいってことだけですよね。

――目指せ！　決勝戦。

所 とりあえず、対戦相手とかはとくにこだわりはないんで。

――谷川さんの発言を追うと「五味（隆典）選手は日本の格闘技界に残ってほしいなあ～」とか、そういうことも言われてましたけど。

所 （五味選手は）今日、いましたよね。『ZST・13』の会場に。かなりデカかったんで「おおっ！」って思いました。

――所さんは五味さんにどういう印象があるんですか？

所 いや、凄い人ですよ（アッサリ）。いまボクがやったら、普通にやられるんじゃないですかね？　もしかしたら、ハウフ・グレイシーの〝6秒KO負け〟（04年5月23日『武士道・其の参』）を超える試合ができるかもしれないです！

――何を言いだしてるんですか！（笑）。

所 でも、ホントに凄い人だと思いますよ。ボク、昨年の『PRIDE男祭り』を観たとき、「桜庭さんと五味さんは凄すぎる！」って、感動しちゃったんですよ。

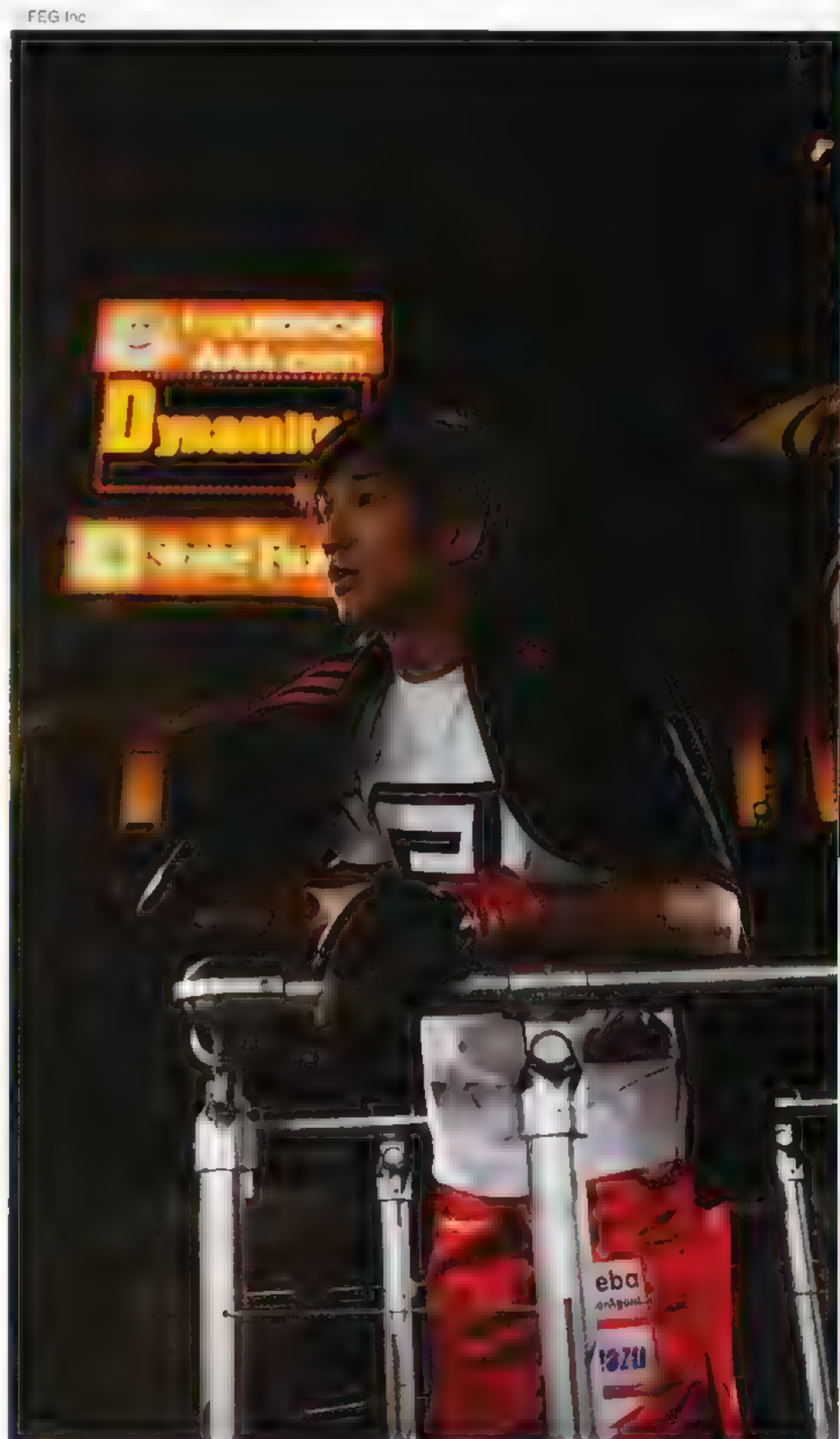
――へえ～。それは、どのへんにですか？

所 だって五味さんは、あのマッハさん（桜井〝マッハ〟速人）をKOしちゃうし、桜庭さんはどんな強い人にも本負けしない美濃輪さん（ミノワマン）に一本勝ちしちゃいましたからね。ボクもああなりたいと思ったんですけど、次の瞬間、やっぱり……無理だなと思ったり（笑）。

――そんなことないですよ（笑）。でも、五味さんみたいな『PRIDE』で活躍する選手がとかが、もし『HERO'S』に上がってきたら選手としてはワクワクしたりしないですか？

所 いやあ、ワクワクはしないですねえ。まあ、大会が盛り上がっていけばいいなと思いますけど、でもボクの居場所はどんどんなくなっていくのかなあって……（しみじみ）。

――そんなことないですって（笑）

所 ただでさえ、いま『HERO'S』ってJZカルバンとか、シャオリン（ビトー・ヒベイロ）とか、とんでもなく強い選手がどんどん出てきてるじゃないですか。ホントに、この中で勝ち上がるって大変なことなんで。

引退された須藤元気さんを超えるには　トーナメントで優勝して実績で超えるしかない

FEG Inc

――でも、昨年大晦日に須藤元気選手が引退して、山本KID（徳郁）選手もレスリング挑戦で総合格闘技を離れているいま、所選手にかかる期待は大きいですよ。

所 はい。元気さんはずっと目標にしてて、実際に闘って超えたいって思ってたんですけど、引退されてしまったんで……実績で超えるしかないな、と。そうなると元気さんができなかった『HERO'S』のミドル級トーナメントで優勝するしかないんで、今年はチャンピオンになれるように頑張ります！

――おおっ！　今年は早くも優勝宣言ですか!!　ようやく景気のいい発言が出ましたね（笑）。

所 今回、『kamipro』さんで表紙にしていただけるって聞いたんで、ちょっと大きなこと言っておいたほうがいいかなって（笑）。

――アハハハ！　お気遣いありがとうございます（笑）。

所 でも実際、ボクも今年で30歳なんで、そろそろちゃんとした結果を出さなきゃいけないとは思ってるんですよ。去年、自分の甘さで勝てなかった宇野さんにも勝ちたいし、ボクが『HERO'S』を引っぱっていけるように頑張ります！

――頑張ってください！　そういえば、『アブダビ』でおなじみの〝神童〟マルセロ・ガッシアが『HERO'S』参戦を発表してますね。アブダビは77キロで出てたので、『HERO'S』では70キロ級のミドル級に

ボクにはZSTっていう故郷があるんで やっぱりHERO'Sで頑張っていきたい

ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県揖斐郡出身。本拠地である『ZST』には旗揚げ戦から参戦し、04.3.7『ZST GT-F』で優勝。05.7.6『HERO'S』ミドル級トーナメント1回戦で地上波デビュー。ここで現修斗ライト王者ペケーニョから劇的な勝利を収め、一躍、時の人に。その後も順調にスター街道をひた走り、今年は『HERO'S』ミドル級トーナメント優勝を目指す。最近は"闘うセレブ"と呼ばれている。170cm、65kg。

するのか、85キロ級のライトヘビー級にするのか、わからないですけど。

所　いや、アメリカにいたときに見かけましたけどデカかったですよ、ガッシアは。

——闘ってみたいと思いますか？

所　闘えるもんなら闘いたいですけど、ボクばっかおいしい思いしても悪いなあって思うんで。

おいしいポジションは自覚済みでしたか（笑）。話は変わりますけど、所さんはいまアメリカで爆発的に盛り上がっているUFCってどう思います？

所　あ、ボク、今回アメリカ行ったときにUFCをレストランで観たんですけど、レストランの中だけでも凄い盛り上がってたんですよ。だから、やっぱり会場だったらどんだけ盛り上がってるんだろうなとは思いましたね！

——アメリカって日本とは違う盛り上がり方ですよね。っていうか、今回の『Dynamite!! USA』で所さんもアメリカの空気感をおもいっきり体感されたんじゃないですか？

所　ああ、そっか。やっぱ気持ちよかったですよねえ。でも、日本もいいですよ。両方いいです。だから……やっぱZSTがいいかなって！

——やっぱり故郷が一番ですか！

所　いやあ、やっぱり今日の大会とか見てても、「ここの人たちと闘って、ボク、勝てるのかなあ」って思ったりしましたし。そんなんだと、正直、外に目を向けてらんないですよね。

要するに、初心に戻れる場でもあるってことですね。

所　そうですね。もしアメリカ進出を考えるんであれば、もうZSTがアメリカ進出すればいいんじゃないかなって（笑）。

——『Dynamite!!』に続け！　ということですね。

所　……いやあ。

——一転して弱気に（笑）。

所　っていうか、正直あんまりアメリカで試合したいとか思わないんですよねえ。ボクはやっぱりZSTっていう帰ってくる場所があるんで、『HERO'S』で頑張っていきたいですね。

——なるほど。ちなみに、今回の『HERO'S』ミドル級トーナメントについては、前田日明さん（『HERO'S』スーパーバイザー）からはお言葉はありましたか？

所　「アホな試合をするなよ！」って言われました（笑）。

——凄くザックリしたアドバイスですね。

所　でもそのとおりだなって。なので、今年はやっぱりそれを肝に命じて、初日で終わらないように、最後まで残って、そしてベルトを巻きたいです！

——わかりました。トーナメント、期待しています！

所　はい！

［07年6月10日／都内・『ZST・13』終了後のディファ有明にて収録］

PRIDE、いまだ不気味な沈黙……。されど、“バカサバイバー”はなおパワー全開！

「新生PRIDE一発目に五味選手とやるしかない！」

DSE体制最後の『PRIDE』が行なわれてから早2ヵ月。いまだにまったく新体制の発表がなされないまま、ファンや関係者のあいだでは「『PRIDE』は消滅してしまうのか!?」というような、さまざまな噂も聞こえてきそうな昨今だが……この男はそんなことにはおかまいなし！　我が道を行く男・青木真也は本インタビューでいつも以上に“バカサバイバー”ぶりを発揮し、なんと新生『PRIDE』一発目で“五味vs青木”を切望する始末。しかし、なぜ青木は自ら五味戦をぶち上げるのか!?　さぁ〜、“心臓に毛が生えた”とはこのことだと言わんばかりの超〜ハイテンション・インタビューからその真意を探れ！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／吉場正和　試合写真／丸山剛史

——聞くところによると、いろんな雑誌から取材のオファーが殺到しているらしいですね。

青木　そうそう。ボクはぜんぜん大変じゃないんですけど、原稿チェックがてんやわんやみたいですよ。

——しかし、『PRIDE』にまったく動きがない中で、他媒体はいったいどんなこ質問をしてくるんですか？

青木　内容が気になるんですか？

——いや、ボクが質問事項におもいきり困ってるから、参考にしようと思ってるんですよ（笑）。

青木　だからぁ、簡単に言えば「おまえは修斗しかやらないとか言ってたのに『PRIDE』に行っただろ。いまは『PRIDE』しかやらないって言ってるけど、今度はいつUFCに行くの？」ってことですよ！　ククク！

——ハハハハハ！　そりゃ大変ですね（笑）。イライラしませんか？

青木　イライラはしないですよ。凄く普通な対応をしてますよ！　顔は真っ赤っかになったり、立ち上がって怒ったりしてますけどねっ!!

——まったく普通じゃないですよ！（笑）。でも、あの「〝生修斗発言〟」にまだこだわってるマスコミって多いんですね。こだわってもいいんですけど、転がし方がヘタな印象があって。

青木　ボクも何回も何回も説明してるんですけどね。それに深い事情までちゃんと知ってる人っていないし、月に〝回は必ず取材で聞かれてますから！

——ハハハハ！　で、UFC出場の話を聞かれたときって、どんなふうに受け答えしてるんですか？

青木　簡単、簡単。「ボクは『PRIDE』

公武堂
KOUBUDO
MACS
公武堂
KOUBUDO
MACS
青木真也

を優先します」って。

――でも、いろいろ噂されてるじゃないですか。じつはここに来る前に「青木真也が『HERO'S』に出る」という話を耳に挟んだんですけど（笑）。

青木 あ！ ボクも聞きました！

――ありえます？ 『HERO'S』参戦は。

青木 ないですねえ。いまのところ『PRIDE』の青木真也以外はありえない！ だって、いまってどれが本物なのかもわからないし、誰が本当のことを言ってるのかもわからない状況でしょ？ だから一年間一緒にやってきた『PRIDE』のスタッフが本物だと思うしかないじゃないですか。

――ということは、『PRIDE』再開のメドが立っていると青木さんは思っている。

青木 冷静によ～～～く考えるとわかるんですけど、最後の『PRIDE』があってからまだ2ヵ月しか経ってないんですよ。こんなの普通の興行だったらあたりまえじゃないですか。そう考えれば、これは単なる〝中休み〟ですよ、〝中休み〟。

――でも、青木さんも『DEEP X』の会見で「『PRIDE』に関してはネガティブな噂がある」みたいなことを言われてましたけど、それって裏を返せば不安があるってことですよね？

青木 ボク、オタクだからネット情報とかオラーッ！ってチェックして、「あー、オレとやったヤツ、いまUFCにいる！」とか「こいつ、ボードッグにいる！」とか「あ、この女の子はカワイイ!!」とか思いながら練習をするわけですよ。

――なるほど。最後の女子ネタはともかく。ええ。

青木 まあ、ネガティブなネタをチェックしながら、前に向かうってのもオツなものですよね。クックックッ。

――タフですねえ。

青木 ぜんぜんタフですよ！ だってボクは去年、警察を辞めてこの業界に戻るって決めたときにホームレスを覚悟して上京したんで。でも、まだホームレスじゃないでしょ？

――しかし、先を案じている人は青木さんの周りにもけっこういるんじゃないですか？

青木 正直なところ、動揺している人は多いでしょうね。まあ、ボクにしても、『PRIDE』がないからっていますぐほかに移るわけにはいかないし、いまさら修斗にも戻るわけにもいかないじゃないですか。

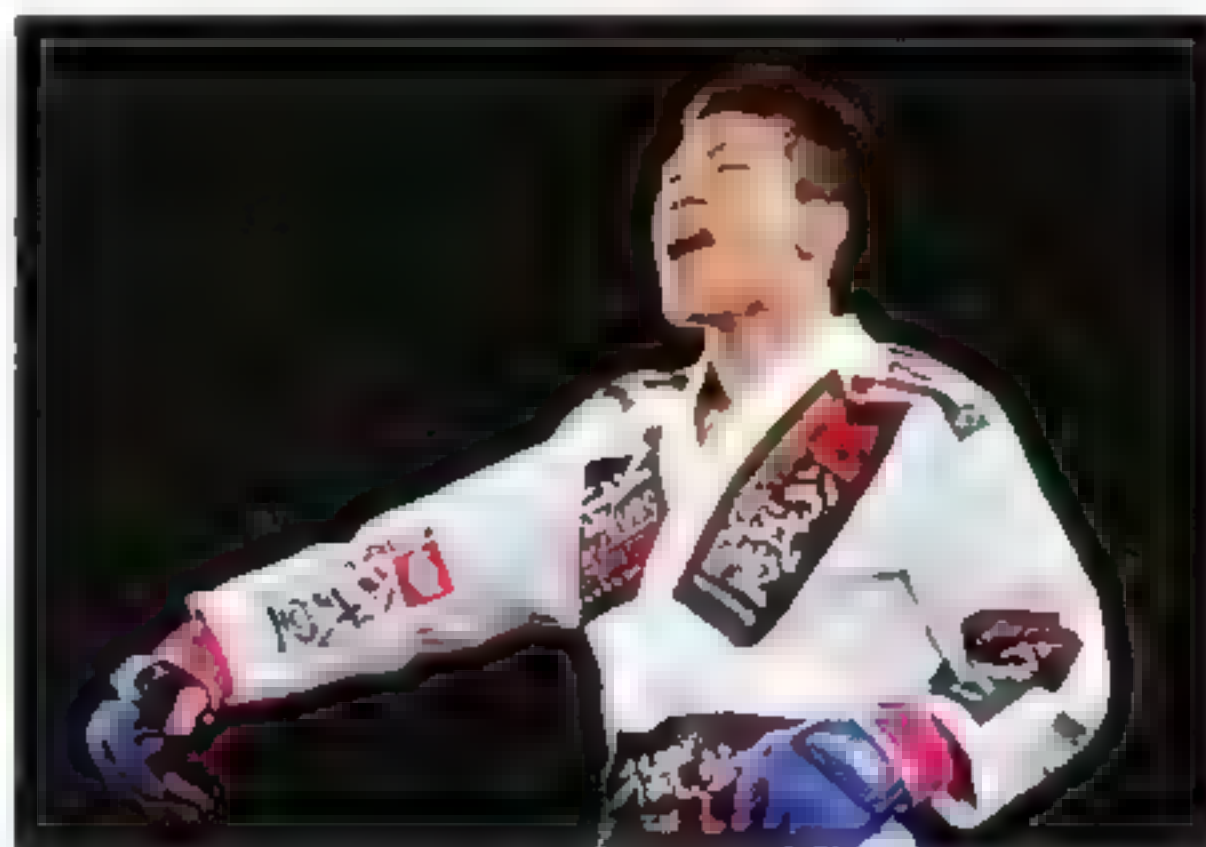
まあ、修斗で誰と闘うの？ってことですよね。最後に修斗に上がったのは、今年2月のミドル級タイトルマッチでしたけど。相手は菊地（昭）選手で。

青木 でも、あのときはベルトを返上してもよかったんですよね。だって、挑戦者になりうる選手って中村K太郎と菊地選手しかいないし。

――それで挑戦者になるはずだった中村選手はUFC出場を選んで、結局菊地選手との再戦になって。

青木 そういう状況で闘ったことがボクなりの〝修斗愛〟だったんですけどね。あのマッチメイクはボクにとってリスクしかない。勝ってあたりまえの状況で、なおかつ相手がメチャクチャ強いっていうね！

あの時点で『PRIDE』ライト級GPが5月に開催予定だったじゃないですか。ずいぶんリスキーな試合をやるなあって思いましたよ。

青木 でしょ？ 凄いでしょ？ 偉いでしょ、ボク！

――ハハハハ！ まあ、青木さんはそうやってプロモーションに殉じる気持ちは強いですよね。

青木 そういう〝修斗愛〟もあるし、いまや数少ない〝PRIDEラブ〟の人間なんですよ！（笑）。みんな背を向けて後ろ足で砂をかけて出ていってるときにね、ボクは砂をかけられながら、じ～～～～っと再開を待ってるみたいなね！

――でも、『PRIDE』に動きがない以上、なかなか〝PRIDEラブ〟を打ち出しづらいと思うんですよ。

青木 そうですね。選手にはそれぞれ立場があるから厳しいとは思いますけど、ボクは『PRIDE』で一年間、本当にお世話になって、何もウソをつかれてないっていう信頼関係があるんです。だから、ボクは『PRIDE』を信じてやらせてもらうしかないですよ。

――ただ、『DEEP X』会見後の囲み取材でUFC出撃の話も挙がってたじゃないですか。

青木 それはUFCに興味があるとかないとかじゃなくて、UFCのヤツらをぶっ倒すことによって『PRIDE』がよくなるんだったら、やりますよ！ そういうことなら喜んでブッ倒してきますね。重要なのは、それが『PRIDE』にとって見返りがあるのか、ないのか!?っていう。

――じゃあ、UFCには特別な感情というのはないと？

青木 というか、みんな、UFCに騒ぎすぎ！ なんかね、いまの日本のマスコミって〝UFC信者〟ばっかになってますよね。UFCってそんなにロマンのある試合ってないんですけどねえ。絶対に『PRIDE』のほうがおもしろいのに。

――それを証明したい気持ちもあるってことですよね。ファンの声はどういうふうに聞こえてきます？

青木 う～ん、いまボクに聞こえてくるファンの声って『『PRIDE』ライト級GPが観たい！』っていうことしか聞こえてこないですよ。だから、できることならライト級GPを実現してもらいたいのがボクの正直な気持ちですね。でも、大人の社会だから、できることとできないことは当然出てくるでしょ？ そこは難しい問題だけど、ボクらが目指してるものはファンの目指してるもの、ファンが目指しているものはボクらが目指しているものでもあるので。で、それはおそらく〝世界最高峰のリング〟を目指す、観たいというものに集約されると思うんですよね。

青木さんの中には『PRIDE』なり、〝世界最高峰のリング〟なり、ファンの目指すものを背負いたいという気持ちがあるってことなんですか？

青木 そうですね。だからもしUFCに出るときは、『PRIDE』の代表として闘うしかないですよ。だって意味ないですよ。向こうに〝ドナドナ〟されるのは。

〝ドナドナ〟？ なんですか、それは。

青木 「♪かわいい子牛、売られてゆ～く～よ～！」ってヤツですよ（笑）。

――はいはい。「♪かなしそうなひとみで見ているよ～！」と（笑）。

青木 だからどうなっても〝ドナドナ〟はイヤ！

――じゃあ、青木さんがどういう立場をとるにせよ『PRIDE』が輝くかたちで。

青木 そう。ボクは〝現代っ子〟なんでね、お気楽なんですよ。「『PRIDE』？ 大丈夫っしょ」みたいなね！ まだスタッフだ

高田PRIDE統括本部長の後ろで真剣な表情を見せる青木真也。この会見から約2カ月、いまだになんの発表もされないが。青木いわく「それが普通っしょ！」と余裕の構え。やっぱりホームレスを覚悟した男は肝が座っている!?

って元気だし。まあ、スタッフのスーツがヨレヨレになって、ネクタイが曲がってきたら、ちょっといろいろ考えますけど（笑）。

——青木さんの周囲では『HERO'S』やUFCに行きたいとか言ってる人もいるわけですよね。

青木 ぶっちゃけ、みんな言ってますよ。誰とは言えないけど。

そういう中で、青木さんが『PRIDE』に殉じたいと思う最大の理由はなんなんですか？

青木 やっぱりそこには信頼関係があるから！『PRIDE』との距離感というのはずっと一緒だし、まだまだ頑張ってる感じがするんで。それに、こんなこと『PRIDE』は絶対に言わないと思ってるけど……「もう『PRIDE』はダメだよ」って言われてから、ボクは動けばいいだけですよ。

——ギブアップするまで動かない！と。

青木 それまで『PRIDE』と一緒に頑張ろうと思います。へんな言い方すると、沈没するまで一緒に！というね。ヘッヘッヘッ！

——たとえば、『PRIDE』が続くとして、青木さんが信頼してる『PRIDE』じゃなくなったらどうします？名前は同じでも中身が変わってしまったら。

青木 それだったら気持ちは変わるかもしれないですね。そこは大事なポイント。極端なことをいえば、K-1が『PRIDE』に名前を変更しても、それは『PRIDE』じゃないでしょ。

——でも、そうやって『PRIDE』の世界観が変わる可能性もなくはないですよね。

青木 そうなると危険！選手どころか、ファンだってみーんないなくなる可能性はある。だって『PRIDE』じゃないんだもん。

——ちょっと話は戻りますけど、青木さんは『HERO'S』という舞台をどう思ってるんですか？

青木 べつに。何も。

——テレビに映りたいとか、そういう欲はないんですか？

青木 テレビねえ〜。あんまり……。

人気出ますし、青木さんが大好きな女の子がうじゃうじゃ群がりますよ。

青木 ………それ、いいねえ。

——ダハハハハハハハ！さっきの″PRIDEラブ″の話はなんだったんだ（笑）。

青木 だって、メディアの力って凄いですからねえ（しみじみと）。でも、テレビはあとでいいっスよ。だって、いまみんなボクのこと持ち上げてくれてるけど、青木真也はファイターとしてまだまだ完成されてないですから。

——まだまだ青木真也は未完成。

青木 だから、浮き足立ってもしょうがないんですよ。いまがピークじゃないんで、ここはちゃんと練習して下積みして、どこでもやっていける技量を身につけたらテレビへGO！って感じで。だって、ボクって下積みしてないんですもん。デビューして約3年。だからまだまだケツが青いんですよ。

——そう考えると、ここまでかなり順調ですよね。

青木 佐伯さんに拾ってもらって、それで修斗で勝ってポンポンってね。そこに『P

PRIDEの代表として闘うしかないですよ ″ドナドナ″されるのは意味ないですもん

RIDE武士道』の話がきたり。だからよくない！

えらく順調すぎる！　と。

青木　まだ若いんだからもっと苦労しないとね。そういう意味でも、いま『PRIDE』から言われてることに「NO！」って言わないスタンスをとってるんですよ。

――つまり、来た球をすべてフルスイングしてるわけですね。

青木　打ってますよ！　去年からのスケジュールなんか、けっこうムチャクチャですよ。『武士道』出て、修斗出て、『武士道』出て、大晦日やって、また修斗やって、『PRIDE』！　これがボクにとっての下積みなんですよ。そこは強くなるポイントだと思ってるんで。だって、ちょっと調子に乗っちゃうと「コイツとは闘いたくない」とか「おいしいヤツとやって、お金ほしい」とか、平気で言うようになっちゃうじゃないですか。

――はいはい。選手がおかしくなるときって、セルフプロデュースしたがるときが多かったりしますからね。

青木　それができない状況にあるってことは、つまり強くなる状況にあるってことなんですよ。だからボクは「NOと言えない日本人」ですよ！

――ところで……。

青木　（さえぎって）いまスルーしましたよね。ボクはねえ、「NOと言えない日本人」なんですよ!!

――いや、凄くおもしろいですよ！　青木さん（笑）。

青木　ククククク！

――たとえば、『PRIDE』とUFC、隔月で闘え！　という話になっても対応できます？

青木　メチャクチャ楽しいと思いますね！　2月の修斗のときも「ちょっと軽く締めてくる？」って言われて「青木、やってきま～～す！」って感じだったんですけど。まあ、「ちょっと金網やってきま～～す！」って感じで。ショーン・シャークだろうが、マット・ヒューズだろうがね。

――で、あさって（6月17日）は『DEEP X』のグラップリングマッチに出ますよね。

青木　期待してくださいよ。絶対おもしろいですから！　とくに、佐伯さんとの控室でのしのぎ合いには。

――控室でのしのぎ合い？

青木　クククク。SACHI選手ですよ、SACHI選手。

――ああ、青木選手お気に入りの美女ファイターですね。SACHI選手が会見に出席するって聞いて、青木さんはわざわざ現場に駆けつけたり、SACHI選手にセクハラまがいの発言を連発しているという。

青木　佐伯さんに「SACHI選手と控室一緒にしといてくださいよ～」って言ったら、「ブヒーッ！　ふざけんな！」って怒ってて。

――会場の新宿FACEは小さいから、あまり控室がないみたいですね。

青木　でも、「ここでSACHIと青木を離したらなあ、オレの器が小さいと思われる！」って悩んでるんですよね。

――なぜそこで悩むんだ（笑）。

青木　いやあ、心理戦だなあ、これって。「くっそー！　悩むなー！」って佐伯さん言ってたもんなあ。

――青木さん、肝心の試合のほうは大丈夫なんですか？

青木　大丈夫、大丈夫。でね、控室がボクと一緒ってことは、今成（正和）さん、長谷川（秀彦）さんとも一緒なんですよね。

ボクがグチャグチャになって失神するか、五味選手がボクに極められるか

青木真也＆DEEP代表・佐伯繁の心をつかんでやまない噂の女子格ファイターSACHIとはこのお方。『DEEP X』での控室は幸か不幸か、青木とは反対側だったようである。

――あ、まだ控室の話は続くんですか（笑）。

青木　いやあ、あの二人は〝変態〟だからなあ。クックック！

――青木さんもたいがいですよ！　でも、SACHIさんの彼氏とか同じジョシカク仲間がいたら、へんなチョッカイもかけられないですよ。

青木　いやあー、そんなレベルだとムリ！

――何が無理なんですか（笑）。

青木　まあ、控室は『kamipro』的にも見どころですよ！

――でも、こんだけいろんなことを言ってると気にしますよね、SACHIさんも。ハッキリ言って、アプローチの仕方としては最悪ですよ!!

青木　諸説ありますね！（なぜか自信満々に）。

――普通にPRIDEファイターとして、おとなしくしていたほうがいいような気がしますよ。

青木　だから、石田（光洋）さんとかは勝ち組なんですよ。帽子を取って「石田で～～す！」ってさわやか挨拶しますから。クククク。

――青木さんは帽子を取って「青木で～～す!!」とはできない？

青木　できないですね!!（キッパリ）。

――はあ（笑）。「この人は冗談でいろいろ言ってるんだな」という雰囲気の選手もいますけど、青木さんの場合はけっこう生々しいですしねえ。

青木　そう！　ボクのキャラ的に本気感が出てるみたいなんですよ！　半分遊びなのに。

――半分遊びなんですか？　でも、〝あわよくば〟という気持ちは当然あるんですよね。

青木　もちろん！（キッパリ）。

――ダハハハハハ！

青木　「今日、ワオワオどうですか？」って冗談で言っても半分本気ですからね。だから、うまい人は〝あわよくば〟を隠せるんですよ。ボクとかはもうガマンできなくて出しちゃってる！

――そこもまだ未完成というか、下積

『D[illegible]EP X』
青[illegible]真[illegible] vs ヘトロ アキー[illegible]X
1R 38秒 チョークス[illegible]パー)

みが必要なんじゃないですか?
青木 あ～………… (無言)。
――しかし、そんなことやってると、そのうちジョシカクの選手と絡みづらくなりますよね。
青木 そんなことはない! たとえば対談企画があったとしても、問題なくできますよ! やりましょう、『kamipro』で!!
――誰と対談できます?
青木 藤井(恵)さんでしょ。それから(塩田)さやかもね。
――今年のアブダビ・コンバットで優勝した塩田さん。
青木 あとは辻(結花)さん。辻さんは感じいいからなあ～、あの人。
――問題は辻さんが青木さんを感じのいい人と思ってるかどうかですよ。
青木 (無視して)で、やっぱりSACHI選手。あとは……政治的にしなしさとこ選手かな～。
――ハハハハハ! 政治的に(笑)。
青木 いやあ、かなわないですよ! しなしさとこ選手には。電話をかけてきて一方的に自分の言い分だけをしゃべりますからね。
――今日の青木さんと同じですよ(笑)。
青木 いやあ、ボク女子格好きだから、『kamipro』でもレポートしましょうか? ちょっと視点が違ったレポートになりますけどね! ククク。
――最近は『kamipro』は女子格を扱ってませんからねえ。
青木 ボクがおもしろいこと書きますから!
――ま、そんなことはいいとして、最後にとりあえず今後の目標でも聞かせていただけますか?
青木 多夫多妻ですね! (即答で)。
――(無視して)『PRIDE』のベルトを獲りたいとか思いません?
青木 ベルトよりもどんだけ強いヤツとやれるかってことですよ。もう、めちゃくちゃ強いヤツとやりたい!
――純粋に誰とやりたいですか?
青木 ここまで来たら、もう五味選手とやるしかないですよ! それ、おもしろいでしょ?
――ですね! ぜひ観たい。
青木 だって、マジメな話、日程が空けば空くほどビッグインパクトがほしいじゃないですか。なおかつ、ずっと『PRIDE』を観ててくれてるファンを満足させつつ、今度は新しいファンを引き寄せないといけない。そうなったらいまの『PRIDE』だと、五味選手とボクが闘うしかないですよね。もし実現したら、いま不安を抱えているファンも気持ちいいし。
――青木さんも気持ちいいですか?
青木 「こりゃいったい、どうなるの?」ってワクワクしますよね～。ボクがグチャグチャになって失神するか、五味選手がボクに極められるのか。
――あと青木さん、試合前に余計なこと絶対に言うでしょ?
青木 ホラ吹きまくりますよ! (佐藤)大輔さんが煽り映像の素材に困らないくらい言うつもりです!! (笑)。
――ガハハハハ! そうなったら、また"ヴル五味"が登場しそうですね。
青木 たぶんね、ファンの中にもボクがグチャグチャにされる姿を観たいって人もいると思うんですよ。「青木、グチャグチャになっちゃえよ!」って。人間ってそういうのあるじゃないですか。勝ち続ける姿を観たいのと、今度は勝ち続けてるヤツが負ける姿を観たいのと。だから、そういう意味でもおもしろい!
――じゃあ、新生『PRIDE』の、一発目はこの対戦で。
青木 そう! もしそうなったら、みんな『PRIDE』やめらんないねえ!! って感じですよ!

【07年6月15日／都内某所の喫茶店にて収録】

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。世界屈指の極めの力を持つ若き天才グラップラー。現・修斗世界ミドル級チャンピオン。『PRIDE』には『武士道－其の十三－』から参戦し、現在4連勝中でいまだに負けなし。開催が延期になっているPRIDEライト級GPでは、現ライト級王者の五味隆典との対戦がファンのあいだで切望されており、本人もノリノリである。180cm、72.5kg。

DEEP代表&PRIDE広報

佐伯繁

「いま言えることは ただ一つ……」

沈黙を続ける『PRIDE』について この男が激白!?

3月27日の重大発表会見、そして榊原体制最後となった4.8『PRIDE.34』さいたま大会が終わると、その後パッタリとその動向が聞かれなくなった『PRIDE』。不気味な沈黙を続ける『PRIDE』の裏側では何が起こっているのか? 延期になっているライト級GPの行方は? 新社長は誰になるの? 誰か教えてくれ～! というわけで、DEEP代表にして、PRIDE広報という肩書きを持つ佐伯繁氏を直撃☆ドキュ～ン!!

聞き手&撮影／松澤チョロ　会見写真／平工幸雄
大会写真／丸山剛史

――今回は日本のダナ・ホワイトかロレンゾ・フェティータと言われる佐伯さんに、沈黙を続けている『PRIDE』について話を聞かせてもらえればと思ってます。

佐伯　いや～、俺はどう見てもロレンゾじゃないっしょ。金も持ってないし、チョイ不良でもないし(笑)。

――ちょっと言いすぎました(笑)。

佐伯　まあでも、ダナとは、3月の会見のときに、ちょっとだけ話したけど、いいキャラしてるよな。

――そうですね。ちらっと聞いたんですけど、ダナとかロレンゾにしてみると佐伯さんが代表のDEEPと『PRIDE』の関係っていうのは、欧米的な考えからすると理解しがたいところがあるみたいで。

佐伯　まあ、そういうのはあるだろうね。UFCも中量級中心のWECとか傘下に収めたりしてるけど、ウチと『PRIDE』の関係はまた違うからな。

――UFCは資金が豊富にあるからなんでしょうけど、選手や団体をコントロールできるように買収しちゃうじゃないですか。その点、『PRIDE』とDEEPっていうのは、いわゆる日本的というか、お互い協力関係を築いてるわけですからね。

佐伯　まあでも、UFCはちっちゃいところとも仲良くしてると思うし、わかんないよなぁ。自分には欧米的な考えは難しくて理解できんから。

――そうですか(笑)。糖尿病の佐伯さんの身体も心配なんですけど、やっぱり格闘技ファンからすると、沈黙を続ける『PRIDE』はどうなるんだろうっていうのが、ここ最近

の一番の心配事だと思うんですよ。

佐伯 まあ、最近マスコミにもファンにも聞かれるのは全部それだからね。あと、選手もそうだし（笑）。

——まあ、そうなるのもしょうがないでしょうね。

佐伯 でもね、僕の意見を言わせてもらうと、「黙って待ってろ！」ってことですよ！

——「黙って待ってろ！」（笑）。

佐伯 っていうのはね、3月に会見やって4月に榊原さん体制の最後の大会があって、それから2カ月しか経ってないんだよ、2カ月！

——まあ、そうなんですけどね。

佐伯 たった2カ月で何ができるって。だって、体制が変わっちゃうわけじゃん！ 会社の名前も変わっちゃうし、代表も変わるわけでしょ。で、どうなるのかわかんない中で、まだ現状2カ月しか経ってないで、グダグダ言ってる場合じゃない……っていうのが僕の最終的な意見。

——グダグダ言ってすみませんでした（笑）。

佐伯 あのね、俺はね、さっきも言ったけど、外国人ってあまり理解できないのよ。『PRIDE』で2回ラスベガス行ったんだけど、その時点じゃ、アメリカ人のやり方は全然見えなかった。

——それはどういうことですか？

佐伯 だって空港行ったときも違うところ教えやがるし、前の飛行機が遅れたときも「一人しか乗れません」とか、考えられない、日本じゃ。

——『PRIDE』云々というより、アメリカ人自体が理解できないと？（笑）。

佐伯 そう！ 差別じゃないけど、日本人として理解できないよ。あんなやり方やってたら日本じゃ殺されてるじゃん！

——さすがに殺されはしないと思いますけど（笑）。

佐伯 （無視して）日本人とアメリカ人って生活習慣とか契約社会って部分も、まぁ～ったく違うと思うからね。向こうは土・日は家族と過ごすから仕事はしないとかあるじゃん？

——それはよく聞きますね。

佐伯 だって、そんなの日本では通用しないじゃん。だから『PRIDE』でも、そういう部分もお互い理解しなきゃいけないと思うし、そんな中で4月の大会から2カ月しか経ってないのに、「なんなの？」っていうのが僕の正直な気持ち。これが半年もやってないとか、一年もやってないってなったら話は別だよ。ウチだって1月に旗揚げして次の大会やったのは8月。7カ月間もやってないけど、誰も何も言ってこなかったよ。

——当時のDEEPと今回の『PRIDE』は、また話が違うんでしょうけど（笑）。

佐伯 まあそうなんだけどね。ただ、今回は体制作りもそうだし、ほかにもやらなきゃいけないことがたくさんあるしね。だから、『PRIDE』として、より明確で良いものを作るにはやっぱり時間も必要だし、お互い理解しないと、マッチメイク・つってもいいものはできないと思うんだよ。いまはみんなで、とにかく見守って待つしかないんじゃないかなって思うよ、正直な話。

それはわかるんですけど、当初『PRIDE』では5月にライト級グランプリをやると発表してて、結局は延期になってるわけじゃないですか。ファンからすれば「準備に時間がかかるのはわかるけど、じゃあ、具体的にいつやるの？」っていうのが本音だと思うんですよ。

佐伯 たとえば、「じゃあ、後楽園でやります」とかだったら、早い時期にできるかもしれないけど、やっぱり、そこは『PRIDE』が『PRIDE』らしくあるためには、後楽園クラスじゃできないでしょ。

3月27日、六本木ヒルズアリーナで行なわれた『PRIDE』の重大発表記者会見で、『PRIDE』の新オーナーに就任したのがロレンゾ・フェティータ。UFC代表のダナ・ホワイトと同級生のロレンゾは現在36歳、二人は佐伯代表よりも年下なのだ。ワ～オ！

マスコミにもファンにも聞かれるのは『PRIDE』のことばっかり！

——まあ、そうですよね。

佐伯 いまはそういう部分で調整してるんだと思いますよ。だから、みんな信じて待ってくれればそのうち答えだって出てくると思うし。

——そうなんでしょうけど、ぶっちゃけた話、佐伯さんも困ってる部分もあるんじゃないですか？（笑）。

佐伯 まあ、困ってる部分っていうか、う～ん……（考え込む）。

——『PRIDE』の日程が決まらないと、DEEP的に会場だったり、マッチメイクだったり影響も出てくるんじゃないですか？

佐伯 それはあるよな。7～8月以降に『PRIDE』をやるってなったら予定がかぶっちゃう可能性もあるし、現実的にはやっぱり会場調整とか難しいし、ホントにどのタイミングで『PRIDE』の新体制が決まるかによって選手の供給とかも変わってくると思うし。まあただ、ここ最近はDEEP関連の大会がメチャクチャ多くて、そこまで考える余裕がなかったっていうのがホントのところだわ（苦笑）。

——確かに、5～6月と怒涛の大会ラッシュですからね。先ほど「待ってくれ！」と言ってましたが佐伯さんはDEEP代表のほかに『PRIDE』広報っていう肩書きもあるわけじゃないですか。現時点でも広報っていう認識でいいんですかね？

佐伯 まあ僕にとって『PRIDE』の広報って仕事は、細かいことで選手とDSEのあいだに入って相談役になったり、DSEの広報に対して自分の経験を教えたりとか、マスコミとのパイプ役とかが仕事だと思ってるんで、それはいまでも続いてる話。

——では、本日6月13日現在も『PRIDE』広報なんですね？

佐伯 う～～ん、難しいこと言うなぁ（苦笑）。まあでも、いろんな選手から『PRIDE』の相談だったり不満とかもそうだし、そういうのを受けてる時点で僕は広報の仕事はしてるんじゃない？

——広報兼相談役というか（笑）。

佐伯 そんな感じだな。

——6・16の『DEEP X』のメインに出場した青木真也選手も『PRIDE』との調整で、なかなかカード発表ができなかったということも会見で言ってましたよね。

佐伯 あくまでもウチは『PRIDE』ありきの話なんでね。やっぱり『PRIDE』がやってない期間でも興行をやっていって、地方とかを活性化させていくのが僕というかDEEPの仕事だと思うんでね。それで、いい選手をドンドン生み出したり発掘していって『PRIDE』に供給していく、と。そういった広報じゃない部分でも『PRIDE』の仕事をしてると思ってますよ。

——とくに『PRIDE』の中でも『武士道』っていうイベントに対しては佐伯さんの重要度も高かったと思

うんですが。
佐伯　やっぱり、日本人とか軽いクラスの選手とかのほうがリンクしてたからね、実際には。
――『武士道』っていう部分でいうと、佐伯さんのパイプもそうですけど、加藤（浩之）さんっていうのが大きな存在でしたよね。
佐伯　まあ加藤さんは『武士道』だけじゃないけどね。現実的に『PRIDE』の会社の細かい作業っていうのは僕はやってるわけじゃないんでね。そういう意味では、いろんな調整とかも含めて、いま加藤さんが一番忙しいんじゃないかな。
――そうなんでしょうね。ここ最近、（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラやダン・ヘンダーソンとか『PRIDE』のチャンピオンクラスのUFC参戦が決まったりしてますけど、そういうのは佐伯さんの立場から見てどう思います？
佐伯　まあ当然じゃないの。
――当然ですか？
佐伯　だって、結局『PRIDE』の大会は決まってないからね。そういう意味ではUFCと『PRIDE』は同じ会社っていうか、同じオーナーって意味では、全然違うところに行ってるわけじゃないんで、それは当然のことだと思うよ。
――UFC以外の大会に出るのとはわけが違うと？
佐伯　そりゃそうでしょう。もし、ボードッグに出るとかなったら話も違ってくるけど、UFCだったら一緒なんで。一緒って言っていいのかわかんないけど（笑）。
――どうなんでしょうね（笑）。
佐伯　そのへんはよくわからんけど、UFCを選択するっていうのは何も不思議なことじゃない。『PRIDE』に出てた外国人選手も生活していかなきゃいけないわけだから、契約とかお金とか問題がなければやりたいって気持ちになるのは当然だし。それに『PRIDE』に限らず日本の大会に出る外国人って1回負けたら使われない場合が多いじゃない？
――それはありますよね。
佐伯　日本人の場合は、負けても出られる可能性は大きいわけだから、正直な話。
――UFCとかは独占契約する場合が多いみたいですけど、DEEPとかでも独占契約って何人かしてるわけですか？
佐伯　外国人とは何人か複数契約したこともある。いまは日本人ばっかりでやってないけど、昔はしてたね。
――それは、DEEPの顔として育てたいとか、ほかの団体に取られたくないっていうのが大きいんですか？
佐伯　まあやっぱり、その時期に必要だったり、魅力もあるんでっていう選手とは何人か契約してた。だけど、契約って難しいのは、なんで契約させたいかって言ったら、一つは選手を安心させたい。あと複数契約だと1試合だけじゃなくてチャンスはあるからおもいきった試合ができるっていうのもあるしね。それと、どっかで取られたくないっていう思いもあるでしょ、当然。
――ここ最近はとくに〝取られたくない〟っていう部分での複数契約が多いみたいですね。
佐伯　ほとんどそれでしょ。でもね、僕はあんまり取られたくないから契約するっていう意識はないんだよ。
――それは昔からですか？
佐伯　一時期はあったけど、正直、僕は契約書なんてどうでもいいって思ってて。失礼な話だけど（苦笑）。
――契約書はどうでもいい!?（笑）。
佐伯　だってさぁ、契約書で揉めるときってお互いうまくいってないからでしょ？
――うまくいってないからこそ、契約書を持ち出すんでしょうしね。

6月16日、昼は「club DEEP」、夜は「おやじDEEP」、翌17日はグラップリング大会「DEEP X」と新宿FACEにて2日間3興行を開催した佐伯さん。写真は青木がメインに登場した「DEEP X」での集合写真。赤ちゃんからメイドまで凄いメンツだ!!

ふさけたヤツと思ってるかもしんないけど、僕は怖いからね!

佐伯　そうそう。そんなんじゃ嫌だもん。だから、どっちかっていとウチでは契約書より人とのつながりを大事にしてるの。
――ちょっと前だと日本では『PRIDE』とK—1で選手の取り合いがありましたけど、最近はUFCやボードッグといった海外の巨大資本を持った団体が相手ですからね。
佐伯　そうなってくると、DEEPレベルじゃ対抗もできないし、するつもりもないんでね。だからこそ、信頼関係なんだよ。やっぱり各団体それぞれにストーリーがあるでしょ。それが、ストーリーの途中で違うところに行きましたってなったら、なんでこのストーリー作ってきたかっていう問題が出てくるから。
――また一から軌道修正しなきゃいけないですからね。
佐伯　だから取った取られたって問題になってくるんだよな。
――まあDEEPに出てる日本人選手は佐伯さんとの信頼関係が強いですよね。青木さんもそうですけど、「佐伯さんに育ててもらった恩がある」っていうことを言ってますし。
佐伯　僕はこういうキャラなんで、みんないつもふざけたヤツと思ってるかもしんないけど、みんなが思ってるより怖いからねー（キッパリ）。
――佐伯さんは怖い？
佐伯　怖いと思うよ。昔は、おっきい会社やってたこともあるし、自分のやってきたポリシーもあるし。ただ、使い分けられるんだよね。もっと目線を下げて付き合うこともできるんで。
――普段は代表と選手って関係に見えないぐらいフランクな感じですからね（笑）。
佐伯　ただ、それはお互い守らなきゃいけないルールもあるんだよ。それが、わかってない選手もいるから。そこだけは、これからも守っていきたい。あんまり近すぎると、言いたいことも言いにくくなるしね。
――そういう関係性だからこそ、ダメな試合をしたら厳しいことを容赦なく言えるんでしょうね。
佐伯　まあ、そういう選手とのやりとりも好きだし、それがやり甲斐になってることもあるんで。
――3月の『PRIDE』の重大発表会見後にも、いろいろな動きがあったわけですけど、『kamipro』の前編集長の山口（日昇）が『ハッスル』の社長になったりとか。
佐伯　そうだよなぁ。山口さんとは『PRIDE』のラスベガス大会とかも一緒に行ったけど、飛行機乗ってるときも映画観てるときも全部『ハッスル』につなげるもん。「これは『ハッスル』に使える」とか。そんなことばっかり。まあでも、山口さんは僕の恩師だと思ってるからね。
――そういう意識があるわけですか？
佐伯　ありますよ。いまの僕があるのは山口さんのおかげでもあるからね。いろんな意味で。

――では、榊原さんはどんな存在になるんですか？

佐伯　もちろん尊敬してますよ。榊原さんに対しては憧れも強いよね。ああなりたいけど、なれない憧れっていうか（笑）。やっぱりカッコいいし、スマートじゃない？

――そうですよね。

佐伯　それと仕事が豪快だからね。凄いなって思うよ。自分を救ってくれた人って思ってるし、加藤さんにしても熱くて信頼できる自分のパートナーだなって思うし。そういう意味では『PRIDE』というかDSEには、いろいろと感謝してる部分が大きいですよ。

――これまでは榊原代表、イコール『PRIDE』という部分もあって、佐伯さんも手伝ってきた部分も大きいと思うんですが、体制が変わっても変わらず協力関係でやっていきたいという考えなんでしょうか？

佐伯　もちろんそう思ってるけど、こればっかりは「もういらない」って言われたらそれまでだし（笑）。

――そう言われる可能性もあるかもしれませんからね（笑）。

佐伯　そうそう。だから、ぶっちゃけ、どうなるかわかんないですよ。ただやっぱり、『PRIDE』っていうのは、みんなの目標だし、内容も素晴らしいし、魅力もある。自分たちもそうだけど、選手にとってもファンにとっても、重要で大切なところだと思うんでね。

――"『PRIDE』ファン"って凄く多いですからね。

佐伯　そうでしょ。ただビジネスとして考えると、自分が生き抜かなきゃいけないっていうのも当然あるけど、結局一番は人間関係だと思ってるんで。そういう意味では、さっき言った榊原社長さんや加藤さんや山口さんとのつながりも、そこだからね。だから、これから榊原さんがどういう動きをしていくのかはわからないけど、できる範囲で協力していきたいっていう気持ちはありますよ。

――前も言ってましたけど、「『PRIDE』も心配だけど、最近はDEEPで手一杯でそれどころじゃない」って（笑）。

佐伯　もう山は越えたけど、ホントしんどかったから（苦笑）。でも、「長いものに巻かれろ」って言うけど、それはやっぱり本音だと思うよ。たとえば子どもができると変わるのと同じで、みんな変わると思うし。今度の『PRIDE』の新体制に関しても、そういう部分があると思うし。

――佐伯さん的には「長いものに巻かれる」つもりですか？（笑）。

佐伯　いやー、いまの段階だと新しい体制はどうなるのかわかんないしなぁ。ホントにどうなるかは誰もわかんないんだよ。結局、ロレンゾにしかわかんないんじゃない？

――ロレンゾに直接聞くわけにもいかないでしょうし（笑）。

佐伯　そうそう。俺のところもいろんな情報が入ってくるけど、嘘ばっかりなんでわかんないしね。

――へんな話ですけど、それこそロレンゾから「DEEPを買収したい」なんて話があったらどうします？

俺が『PRIDE』の新社長？　できるわけないっちゅーの！

さえき・しげる■1969年6月24日、富山県出身。『kamipro Hand』の土曜コラム「DEEPな毎日」も好評なDEEP代表＆PRIDE広報。糖尿病治療のため、ようやく本腰を入れてダイエットに着手。青木真也とともに、最近のマイブームは女子格ファイターのSACHI。

佐伯　アッハッハッ。でも、どうなんだろうね。UFCと『PRIDE』みたいに同じオーナーなら話は早いだろうけど、僕はアメリカ人の考えって、よく理解できないしなぁ。

――でも、まったく可能性がない話でもないですよね？　DEEPには、魅力的な選手も多いですし。

佐伯　そうだよな。まあ、やっぱりねえ、興行をやってると、いまの立場から逃げ出したいって気持ちはいつでもあるんだわ。スポンサーつかなかったとかさ、毎月赤字とか黒字とかホント逃げ出したくなるからね。今週だって3大会だよ！

――ちょっとやりすぎですね（笑）。

佐伯　そんな状態のときに「買いたい」とか言われたら、「はい、お願いします！」って言っちゃうよ（笑）。

――気持ちはわかる気がします（笑）。

佐伯　でも社長とか代表はみんなそうだと思うよ。もう、いい条件だったら買ってほしいもん。それにね、買ってくれたらDEEPはもっと凄くなるよ！

――もっと凄くなりますか!?

佐伯　間違いない！　それだけの選手も揃ってるし、環境だったり、条件が整ったら凄いことになると思うよ。いまは、ぶっちゃけ、いっぱいいっぱいのところがあるからなぁ。

――買収される気満々じゃないですか？（笑）。

佐伯　いやいや、そういうのは現実になってみないとわかんないよ。ただ、いまは大会が控えてるんで、何かと疲れるし、弱ってるし、まともに頭が働かないんだわ。

――お疲れさまです（笑）。どうやら『PRIDE』の新社長はアメリカ人になるみたいですけど、一時期は佐伯さんが社長になるんじゃないかって噂も出てましたからね（笑）。

佐伯　できるわけないっちゅーの！

――失礼しました！（笑）。

［07年6月13日／都内・DEEP事務所にて収録］

PRIDEファンよ、心配するな

私を信じていれば間違いない！

今月も言いたいこと言うゼ!
やりたいことやるゼ!!

9.8『UFC74』でUFC王者vsPRIED王者ついに実現!

この男の“怪物化”は誰にも止められない!

いまや事実上のMMA界の支配者として君臨し、日本マーケットの鍵をも握る男、
ダナ・ホワイトUFC代表。持ち前の毒舌で他団体を「ジョーク」と切り捨て、
大物格闘家は容赦なく引き抜き。まさに、言いたいこと言うゼ!
やりたいことやるゼ! のホタテマン状態に突入している。
そんなダナが今月も過激発言大連発!「もはやどうにも止まらない!!

聞き手/上杉先輩面　撮影/黒田史夫

——前回に引き続き、今回もMMA界全体のお話をうかがおうと思います!

ダナ　OK。なんでも聞いてくれ。

——まずUFCと同一の資本傘下になった『PRIDE』の大会日程が延期になったまま、一切発表されていません。日本のファンは大きな不安を抱えているんですよ。

ダナ　おいおい、私はUFCのプレジデントなんだ。『PRIDE』のことは、PRIDE WORLDWIDEに聞いてくれよ(笑)。まあ、私も『PRIDE』を含めて世界のMMAシーン全体を動かしているがね。

——では、『PRIDE』がいつ再開されるかはご存知ない、と?

ダナ　フフフ。それについては、なんとも答えられないね。とにかく、我々はここまでMMAを育て上げてきたんだ。そして、それを今度は世界レベルで押し上げようとしている。だから日本のファンにはなんの心配もいらないと言いたいね!

——心配するな! と。

ダナ　そうだ。我々は、いままで宣言してきたことは必ず実現してきた。『PRIDE』のことについても心配するな。私を信じていれば間違いない!(キッパリ)。

——あいかわらずパワフルですねえ。しかし、実際にダン・ヘンダーソンなど多くのPRIDEファイターがUFC参戦を表明していますよね。

ダナ　だが、ヘンダーソンにはPRIDE王者として試合に出てもらうことになるよ。

——あくまで、『PRIDE』所属ということですか?

ダナ　そうだ。『PRIDE』が動いてないとはいえ、彼がPRIDEファイター!

UFC人気ナンバーワンのリデルが出場した、5月26日のラスベガス大会は1万4720人の観衆を集め、430万ドルのチケットを売り上げることに。またPPVでもUFC最大級の購入件数を記録。UFCの勢いは止まらない!!

『Dynamite!! USA』は世紀のクソイベント このスポーツの恥さらしだよ!

であることには変わりはない。そして、王者としてもちろん、そのベルトを持ってオクタゴンに上がってきてもらうよ。

――いよいよ、本格的な全面戦争に突入するってことですか？

ダナ そうだ。ついに念願だったUFCと『PRIDE』のチャンピオンによる"スーパーボウル・マッチ"が火ぶたを切って落とさせるんだ。どうだ、これこそが世界が待ち望んだカードだろ？ そして、これをきっかけにUFCと『PRIDE』の階級やルールを統一するつもりだ。

――え？ ルールも統一!? 日本には『PRIDE』を元の姿のまま残してほしいというファンの声が大きいのですが。

ダナ とはいえ、まだ具体的には決めてないがね。もちろん、これまでの『PRIDE』の作り上げてきた世界観やイメージは崩さないさ。その素晴らしさは私も充分にわかっているからね。『PRIDE』はアメリカ、そして世界にも通用するレベルだ。最近、この国に進出してきたほかの日本の団体とは違ってね。フフン！

――『Dynamite!! USA』をご覧になったんですね。いかがでした？

ダナ いったい何を聞きたいんだい？ 君たちも現場にいて、あのイベントが最低だったことはわかっているだろう？ それをわざわざ私の口から言わせようって魂胆だな（ニヤリ）。

――ダハハハハ！ いやいや、我々の取材班は充分楽しんで帰ってきましたよ。

ダナ はぁ!? あの世紀のクソイベントを楽しんだだと？ カンベンしてくれよ。

――まあ、ウチはズンドコが大好きな特殊なマガジンなので。

ダナ 君たちの趣味嗜好はどうでもいいが、ハッキリ言って、あの大会はこのスポーツの恥さらしだよ！

――恥さらし！

ダナ （タメ息をつきながら）カードはひどいし、開催までも含めて運営もメチャクチャ。あれでどうやって10万人もの人間を集めようとしたのか……、まったく理解できないな。

――しかし、FEGサイドは約5万4000人が入場したと発表。これは北米でのこれまでの観客動員をダブルスコアで上回っての記録更新となりますが。

ダナ 記録更新？ ガハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ！

――ちょっと笑いすぎです（笑）。

ダナ なんて、おめでたい連中なんだ！ 心の底から感心するよ！

――感心ですか？

ダナ ああ、とにかくチケットを流して会場を埋めるっていうビジネスモデルを開発したことについてね！

――スポンサーやコリアンタウンに大量購入してもらって、それで7万枚近くが市場に流れたとのことですけどね。

ダナ それで記録を更新したことになるのか？ しかも、そこまでしてわざわざスタジアムを埋めて、肝心の中身がないんだから、あきれ返るね。

――次回大会が開かれるとすれば、今後もK-1はアメリカ・マーケットで競合

団体となるわけですが、どう見ますか？

ダナ　ああ、強力なライバルになるだろう。どっちが、よりひどい大会を開くかを競うことになれば、さすがのUFCも危ういな（笑）。

——言いたい放題ですねえ。

ダナ　そして、そんなK－1とタッグを組んだエリートXCも哀れだな。前にも言ったが、ヤツらもこのビジネスのことはまったくわかってない。プロエリートは所詮、金儲けがしたくて参入してきた連中だからな。今回のようなことが重なれば、金を失なってフェードアウトしていくのがオチだろう。

——MMAマーケットから脱落しますか。

ダナ　しかし、K－1には早く目を覚ましてほしいね。エリートXCみたいなジョーク団体と手を組んだおかげで、弱体化した印象しか受けない。あんなエリートXCとはすぐに手を切って、かつてのエネルギーを取り戻してほしいよな。

——しかし、エリートXCはストライクフォースとも大会を共催するわけですが、そのメインイベントに出場するフィル・バローニに対して、UFCが引き抜き工作をかけているという情報も入ってます。それは、彼ら新興団体を脅威に感じているということでは？

ダナ　まったく違うね。フィルは私の昔からの友人だし、そしてなにより（対戦相手のフランク・）シャムロックのケツを蹴飛ばしてほしいだけだ。シャムロックは大バカだからな。

——フランクはUFCを「ファイターに充分なファイトマネーを支払ってない。金の亡者だ」と批判をしています。

ダナ　フー（ため息をつきながら）。それで、金儲けしか考えてないプロエリートで闘うっていうのかい？（笑）。チャンチャラおかしい話だな！　本当にフィルにはツブしてほしいよ。そのあかつきには、フィルにUFC参戦のオファーを考えている。

——フィルも「エリートXCとは独占契約をしていない」と発言していて、まんざらでもなさそうですもんね。あと、その階級では、『PRIDE』ナンバーワンの実力者として評価の高いパウロ・フィリオが、UFC傘下のWECと契約したんですよね？

ダナ　ああ、彼とは契約を結んだよ。WECもしくは、UFCで闘ってもらうつもりだ。

——ますますUFCの選手層が厚くなっていきますね。チャック・リデルを下して新王者になったクイントン"ランペイジ"ジャクソンにも、ダンヘンが挑戦表明をしてと、次々とストーリーが繰り広げられてますし。

ダナ　おかげさまでビジネスは好調だ。『UFC71』も過去最高レベルのPPVを売り上げた。UFCを買い取ってから、ここまでやってきたことがようやく報われたわけで、私は幸せだよ。

——しかし、ビジネス的には、リデルが負けたことは大きな損失ではないですか？

ダナ　そんなことはないさ。誰だって負けるし、それがMMAだ。チャックとは近い関係だったから、個人的には残念だが、これを転がしていくのが私の仕事。そしてクイントンにはカリスマがある。新王者として活躍してくれるよ。4年間もタイトルを守ってきたチャックを打ち負かしたんだから、その実力は保証済みだろ。

——前王者チャックの相手として、ヴァンダレイ・シウバの名前が挙がってますが、ついにこの二人の試合を組むつもりですか？

ダナ　その試合についてはまだ決定してないが、リデルが負けたことで闘う意味ができたと思う。

——因縁のあった、UFCと『PRIDE』の前王者同士が復帰を懸けて対峙する、と。こうやって、出た目でストーリーが次々と生まれるように、UFCはかつてないほど繁栄を極めてますよね。しかし、やはり、そうなると『PRIDE』はますます……。

ダナ　フッ、いいか。最終的には、『PRIDE』もUFCも関係ない。いま、世界中のベストファイターが集結して最強を決める、我々が待ちこがれていた舞台が実現できようとしているんだ。

——それがUFCと『PRIDE』の合体の理由でもありますよね。

ダナ　そのとおり。そうやって、このスポーツを、このジャンルを発展させるのが私の役目であり、全力を尽くしているんだ。わかるだろう？　そのために準備をしているんだ。日本でのフリーテレビ（地上波）も含めてね。もちろん、大きな成果を求めるほど、入念な準備が必要だ。だから時間はどうしてもかかるが、必ず日本のMMAファンの期待をはるかに超えた、そして彼らが涙を流して喜ぶイベントを開催してみせるよ。

——では、一刻も早い『PRIDE』再開とUFCとの対抗戦を楽しみにしています！

【07年6月12日／国際電話にて収録】

DANA WHITE

この号が出る頃には終わっているが、6.22ストライク・フォース&エリートXC共催大会はフランクvsバローニをメインに盛り上がりを見せている。

UFC、ついに首都ロンドンに侵攻!!

UFC75

BRINGS THE CHAMPIONS

9.8（現地時間）英国・ロンドン

PRIDEvsUFCの頂上対決がついに実現!! ミルコの復帰戦も決定!

ミルコUFC第3戦目が決定!　その相手はフランスのヘビー級ストライカー、チェック・コンゴ。UFCでの戦績は3勝1敗だが、『UFC70』では現パンクラス王者、アスエリオ・シウバにも勝っており、その実力は侮れない。ミルコは復帰戦を白星で飾れるのか? またついにPRIDEvsUFCの頂上対決も実現! 新ライトヘビー級王者になったランペイジとダンヘンが激突する。両者の対戦については、129ページからの特集をチェック!

ミルコ復帰戦の相手となる筋肉隆々のコンゴ。ランペイジ、クロマティに続いて黒人旋風を巻き起こすか!?

[ヘビー級]
ミルコ・クロコップ vs チェック・コンゴ

[UFCライトヘビー級タイトルマッチ]
クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン vs ダン・ヘンダーソン

緊急決定! ダン! ダン!! ダダン!!!
七夕の日、マット界に衝撃が走る!
いまだからこそ
PRIDEの10年を振り返る!!
kamipro presents
スペシャルトークショー開催!
テーマ「PRIDEとは何か?」
ゲスト
榊原信行
ドリームステージエンターテインメント代表取締役
七夕の日に“ボクらのPRIDE”がよみがえる!! 4.8『PRIDE.34』を最後に勇退した榊原信行DSE代表のトークイベントが『kamipro』主催で緊急開催決定!! やれんのか? やりますよ!! このトークイベントは、『PRIDE』の立ち上げの経緯から始まり、フジテレビ・ショックの裏側、そして、ファンに夢を託した桜庭和志と田村潔司の揃い踏みなど、『PRIDE』10年間の舞台裏を榊原代表が激白するもの。ファンのみならず関係者も必見であり、一寸先はボブ・サップな現在のマット界だからこそ、『PRIDE』が築いた10年間はなんだったのかと再確認する必要があるだろう。さあ、「♪ダン! ダン!! ダダン!!!」と天の川を飛び越えて、トークイベントに集合だ!!
7月7日（土）16:00～18:00
[会場] 代官山AIR
東京都渋谷区猿楽町2-11氷川ビルディングB1・B2
TEL.03-5784-3386 http://www.air-tokyo.com/
[料金] 3,000円（税込）
[申し込み・問い合わせ] 株式会社ダブルクロス TEL.03-5368-1797（受付時間13:00～17:00）
※詳細は「kamipro Hand」をチェック!

世紀のアメリカ大進出トラブル連発！
それともサダハルンバは余裕の勝利宣言!?

Dynamite!! USA 大成功だよぉ〜

K-1イベントプロデューサー

谷川貞治

観客動員[illegible]万人（およばず！　されど、観衆約56,000人（アスレチック・コミッション発表）という北米新記録を打ち立てた「Dynamite!! USA」。チェ・ホンマンの欠場や桜庭和志の出場をめぐるドタバタ劇など、ハラハラドキドキのFEG総合初アメリカ進出となったが、それもこれもぜ〜んぶ含めてサダハルンバは「大成功だよぉ！」と豪語！　そんな自信満々のインタビューから「Dynamite!! USA」の全舞台裏を読み解け!!

聞き手／ジャン斉藤

―今日は「Dynamite!! USA」の――。

谷川 （勢いよくさえぎって）本当に大成功だったねえ!!

―ハハハハハハ！ いやあ、谷川さんは本当に気持ちがいいですね。取材を終了してもいいくらいの快楽です（笑）。

谷川 ホントに凄かったでしょぉ？

―それがボクは現地で観てないんです。

谷川 ホントに大成功だったんだよぉ！ パパ（本誌・松林貴のあだ名）は現地観戦だったでしょ。文句なしの成功だったよねえ？

松林 文句なしのだ、だ、大成功？ [illegible]い、[illegible]あ～（苦笑）

谷川 ええ、大成功だよぉ 文句なしの！

―ハハハハハ！ でも、大会直前までいろいろと騒動がありましたよね。

谷川 うん。1週間前まで大会が開けるかどうか不安でしたねえ。だって、プロモーターライセンスは取れてないわ、サクちゃんはメディカルチェックで引っかかるわで。

―谷川さんの予定だと、プロモーターライセンスを[illegible]く取得できていたはずなんですか？

谷川 そうですね。時間がかかりましたね、予定よりは。アスレチック・コミッションが課してくる条件がどんどん高くなっていったんで、そのつど闘ってきたんですけど、最終的には向こうのやり方に沿ったかたちでやっと認めてもらえました。ボクは「開催できないわけはないでしょ」という感じで楽観的だったんだけど、当日まで怖かったところはありますよね。だからおもしろかった。

―いやあ、かなりやりがいがあったと。

谷川 もうかなり頑張りましたね！ やっぱりアスレチック・コミッションは強敵でしたし……（しみじみと）。大会終了後の会見でも言いましたけど、UFCがなんであんなカチカチなイベントになるのか、ようやく意味がわかりましたよ。

―規制をかなり強いられてるんだろうなっていう。

谷川 だから、ボクらの感覚からすると、興行というのは遊び心の"のりしろ"を持っとかなくちゃいけないんだけど、向こうはまったく持たせてくれない感じですね。

―こちらでも大きく報道されていたのは、メディカルチェックの問題なんです。桜庭さんが出場できないんじゃないかと報道されていて。

谷川 いろいろ噂が流れてましたねえ。特にサクちゃんの場合は、要するに「脳にダメージが蓄積されてるんじゃないか」ということで。アスレチック・コミッションが一番気にしていたのはサクちゃんなんですよ。

―桜庭さんのことはアメリカでもいろいろと知られてるんでしょうね。

谷川 そうですね。アスレチック・コミッションの人間は、ボクなんかよりもMMAに詳しいんですよ。たとえば、メルヴィン・マヌーフの相手をユン・ドンシクで申請したら「それはおもしろいな！」だって。

―そんな感想は求めてないのに（笑）。

谷川 それくらいよく知ってますよ。結局、サクちゃんは再検査まで受けたんですけど、祭日の関係もあって5月29日の朝まで結果はわからない。でも、29日の時点で「出場させることはできない」ってなったら大変じゃないですか。

―不測の事態に備えて、桜庭さんの代役は誰か用意してたんですか？

谷川 それはちょっと書けないんだけどなあ。

―もしかして、ゲスト解説席にいた方？

谷川 ……そう！ タムちゃん（田村潔司）がわざわざ日本から来てくれたんですよ！

―それはいい話ですねえ！

谷川 タムちゃんには日本時間の29日に発ってもらって、その日のうちにメディカルを受けてるんです。で、出場できる状態だったんですよ。

―臨戦態勢は充分。

谷川 で、水曜日になってようやく桜庭選手の出場がOKになって、わざわざ来てくれた田村選手にはホントに申し訳なかったんですけど、テレビ中継のゲスト解説というかたちで協力していただいて。

―しかし、凄いですね、田村潔司は。

谷川 ホントに嬉しかったなあ～。タムちゃんって口説くのも大変だって聞いてたのに。まあ、この件に関してはタムちゃんから「内緒にしてくれ」って言われているんで。タムちゃんのほうで問題がなければ載っけてもいいけど……。そうなったらサクちゃんにも言っとかないとね。サクちゃんには何にも知らせてないんですもん。

―でも、桜庭さんは「なんで田村さんが来てるんだろう？」って思っていたはずですよ。ゲスト解説としてわざわざ呼ぶわけはないですし。

谷川 でも、試合前に「じつはこんな代役を用意してたんだよ」って言ったらモチ[illegible]

[illegible]の身体検査で[illegible]あわや出場は無理かとまで噂された桜庭和志[illegible]ーカー装着という24時間体制での検査の末、大会二日前にようやく出場許可が下りたのだ[illegible]谷川さんも冷や汗ものであるが――なんともスペシャルな代役がすでに用意されていたとは!!

UFCがなんでカチカチになるか ようやく意味がわかりましたよ

麻生外務大臣にシュワルツェネッガー FEGの政治力って凄いよなあ～

——ジョシが下がっちゃうかもしれないじゃない。出場が決まった時点でタムちゃんのことを伝えようとも思ったんだけど、まあ、田村選手側のほうがそういう感じだったんで。

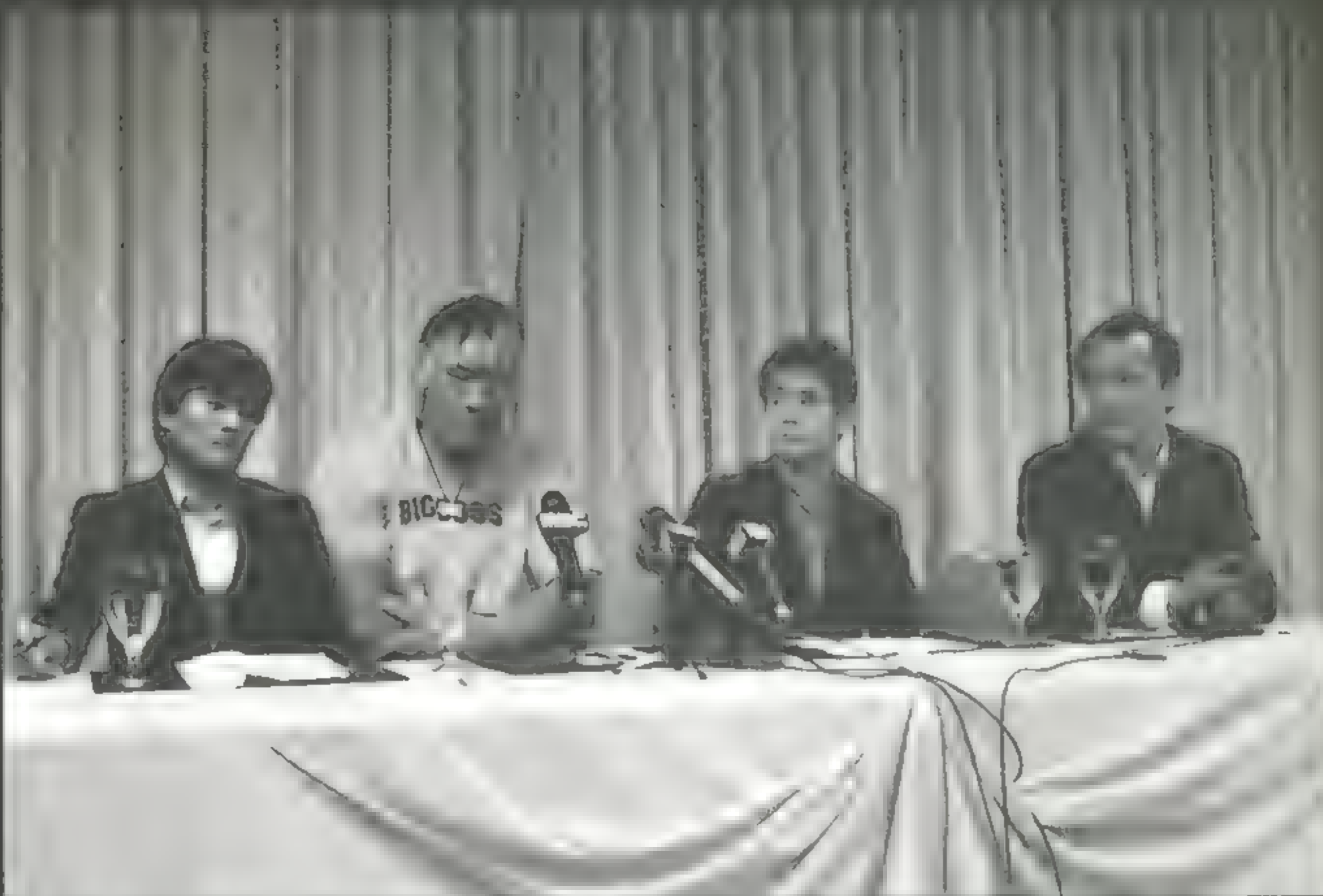
——しかし、いい話だなあ。

谷川 ねえ。船木（誠勝）さんもほめてましたよ、タムちゃんの決断には。で、サクちゃんのほうはそういう感じだったんだけど、ホンマンのほうが……。

——大事な大事なメインイベントだったのに欠場だっていう。

谷川 ボクらもまさかホンマンが引っかかるとは思ってなかったですよ。アスレチック・コミッションが言うには、頭の下垂体っていうところにちっちゃな腫瘍があるという理由なんです。まあ、それは巨人症の人は必ずあるものなんですけど、「脳に出血も見られる」とも言うんですよ。さすがに出血してるんだったらすぐにでも手術しなきゃいけないんですけど、よく話を聞いてみると、アスレチック・コミッションが指定した病院で検査した際、機械にホンマンの頭が入らなかったらしいんですよね。

——んあー、ホンマン幻想が高まるエピソードですね（笑）。

谷川 それなのにどうやって検査したかっていったら、外から機械に頭を合わせたみたいで。

「下垂体に腫瘍がある」というアスレチックコミッションの判断で、結局、欠場を余儀なくされたチェ・ホンマン。4月28日K-1ハワイ大会後から休まずみっちり練習していたホンマンだが、メインをキム・ミンスに奪われてしまうことに……の実情からして、落ち込みようは相当である。

——うまくいくわけないですよ、そんなもん！（笑）。

谷川 だから画像が凄く荒くて、ブレてるんです。それを出血したと判断したのか、そのドクターはアスレチック・コミッションに「ホンマンはダメだ」って言ったらしくて。

——ズバリ言って、非常にいいデタラメですね（笑）。

谷川 いい加減でしょ？ で、翌日に違う病院で検査したら全然問題ない、と。でも、アスレチック・コミッションからすれば、「あなた方の側の医者にOKをもらっても、それは信用できない」と。

——はあ（笑）。

谷川 しょうがないから全米で一番有名な医者のところへ行ったりして、結局4回も検査したんですよ。その4つの診断書を出して「再検討してくれ」って言ったんだけど、アスレチック・コミッションのルールに則ると、一度出した決断を覆すためには公聴会で審議しないといけないみたいで。

——その公聴会はいつあるんですか？

谷川 6月22日!!

——ハハハハ！ 全然間に合わないですね（笑）。

谷川 だから、こっちもなんとかしようと思って、各方面にお願いをかけましたから。韓国の次期大統領から麻生外務大臣まで連絡して！

——あと馳（浩）さんの力も借りたとか。

谷川 そうそう。麻生外務大臣に頼んでダメだったから、馳さんにレターを書いてもらったんですよ。あとあらゆるルートを使ってね、ロス市長とア～ノルド・シュワルツェネッガー知事にアスレチック・コミッションへ電話をしてもらったんです。もう、FEGの政治力は凄いなって思いましたよお！

---

kamiproHand ユーザーに聞く

「Dynamite!! USA」をTHE JUDGE!!

Q.「Dynamite!! USA」で、あなたが選ぶベストバウトは？

1 ユン・ドンシク vs メルヴィン・マヌーフ……124票

2 アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs ボブ・サップ
（02・8・28 Dynamite!! 国立競技場）……

3 所英男 vs ブラット・ピケット……

ベルナール・アッカ vs ジョニー・モートン……13票
ブロック・レスナー vs キム・ミンス……10票
ホイス・グレイシー vs 桜庭和志……7票
マイティ・モー vs ワーパス……2票
永田克彦 vs アイセア・ヒル……1票
JZカルバン vs ナム・ファン……1票

Q.「Dynamite!! USA」で、あなたが選ぶワーストバウトは？

1 ホイス・グレイシー vs 桜庭和志……

2 永田克彦 vs アイセア・ヒル……

3 ブロック・レスナー vs キム・ミンス……43票

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs ボブ・サップ（02・8・28「Dynamite!!」国立競技場）……18票
JZカルバン vs ナム・ファン……16票
マイティ・モー vs ワーパス……8票
所英男 vs ブラット・ピケット……1票
ベルナール・アッカ vs ジョニー・モートン……6票
ユン・ドンシク vs メルヴィン・マヌーフ……1票
シェイク・シールス vs イト・バリエンテ……1票

今回、「Dynamite!! USA」でベストバウトに輝いたのは、「いいカードだねえ～」と、アスレチック・コミッションの人間をも唸らせたユン・ドンシク vs メルヴィン・マヌーフ！ 意外なことに、なんとこの試合がユンのMMA初白星なのだ。そして2位にランクインしたのは、TBSでのテレビ放送でなぜか再放送された国立競技場でのノゲイラ vs サップ戦。確かに解説の宇野薫も驚きのダイナマイッ!! な試合だったのだが……。一方、kamipro No.111掲載のアンケートで「観たいカード1位」だった桜庭 vs ホイスは、まさかのワーストバウトに。う～ん、これは事前の期待が高すぎたせいなのか……!?

（アンケートは kamiproHand にて集計）

レスナーがIGFでMMAをやるっていったらIGFに抗議しますよぉ！

総合初試合にして、驚異のパワーを見せつけたブロック・レスナー。「ホンマンは勝てなかったかもしれないよ」と谷川さんも絶賛するが……とレスナーのIGF参戦に関しては、事と次第によっては"事の大きさ"に谷川さんをしても予断を許さない状況である

――……。本当は体[illegible]ですねえ（としみじみと）。それでも裁定は覆らなかったけど。

谷川　要するにアスレチック・コミッション側から言わせると、一度下した裁定を簡単に覆したらみんながそれ[illegible]いだしちゃう、と。とりあえずルールに則ってくれっていう話だと思うんですよ。ただ、あまりにもボクらが[illegible]から。それからは優しくなりましたけどね。

――シュワルツェネッガーまで出てくるし（笑）。谷川さんからすると、今回の件を通してアスレチック・コミッションという公的機関にはどういう印象を持ちましたか？

谷川　機関としてはあっていいと思いますけど、ちょっと融通が利かないですよねえ。たとえば、向こうでテーピングは禁止ですけど、あれって選手を保護するためには絶対に必要ですよ。控室でスポーツドリンクぐらいなら飲んでもいいと思うし、バナナだって食っていい。あきらかな問題があれば、ボクらも従うけど、なんか基準がよくわからないというのが正直なところ。だいたいホンマンの件みたいないい加減な理由で欠場になっちゃうと、興行に大損害を与えるわけじゃないですか。

――厳正だけならいいんですけど、そこにズーダラさが同居しているから、また厄介ですね。

谷川　体重とかも当日とかなんかに関しては極めて公平にいろいろ便宜を図ってくれたんですけどねえ。

――そういえば、その計量もけっこうデタラメだったという話を聞きましたけど。

谷川　そうなんだよねえ。体重計が壊れちゃって……。それで新しい体重計を運んでいるあいだに選手がメシを食いだすし、散歩に出かけるわで。

――ハハハハ！　あと、ジョニー・モートンとデ[illegible]がお互いにごはんを食べることで合意したとか（笑）。

谷川　要するに体重差があったらダメだけど、規定体重は決まってないんですよ。

――つまり、同体重の選手が同じ量のごはんを食べるんだったら問題はないわけですね（笑）。

谷川　お互い食うんだったらいいんでしょう。だから、タイトルマッチじゃないなら体重に規定はないわけ。ただ、スーパーヘビー級とヘビー級は試合をやっちゃダメ。

――階級に隔たりがあるとNG。

谷川　だから今回のブロック（・レスナー）なんて、前日に体重を計るまで「もしチェ・ホンマンが相手だった場合はスーパーヘビー級で、でもキム（・ミンス）になった場合はヘビー級まで減量してください」っていう話だったんですよ。しかし、ホンマンはやらなくてラッキーでしたよ。強いですよ、ブロック・レスナーは。勝てなかったかもしれない。

――確かにホンマンが勝つのは難しかったかもしれないですね。

谷川　キム・ミンスはレスナーのタックルで脳しんとうを起こしたみたいですから！　あのパワーは凄いですね～。ボク、もうちょっとナメてたんですけど。

――ちなみにレスナーとの契約はどうなってるんですか？

谷川　契約期間は残ってますね。ただ、日本や韓国だったらまだしも、アメリカでの使い道は難しいかもなあ。誰とやらせるの？って話でしょ。

それに"遊び心"を持ったカードは自由に組めないですし。アメリカで組める現実的なカードはアントニオ・シウバ戦とかなんでしょうけど、その試合になんの意味があるだろうって（笑）。

谷川　そうなんだよなあ。まあ、レスナーのこの先のことは何も決めてないです。

――でも、レスナーはIGFの参戦が決まってますよね。

谷川　ああ、ボクらはレスナーとプロレスの試合は契約してないですから、なんの問題はないですね。だから、IGFでプロレ

「テーピングが使えない」という逆境に耐えながらも、見事ベストバウトの座を勝ち取ったユン・ドンシク。舞台裏ではこの一戦が中止になりそうだったなんて……。そういう意味では「大成功だよぉ！」と声を張り上げる谷川さんのセリフもうなずける……のかなあ。

ズをやるのは自由です。だけど、もしIGFのリングで「総合格闘技」をやるみたいなことを言いだしたら、IGFに抗議しますよぉ～

――ダハハハハ！　厳しいですねえ。IGFのことだからやりかねないですけど。

谷川　だって契約違反でしょ。それにヘンな前例になると困るから。プロレスの試合だって言っておきながら、総合格闘技をやられてたら。逆も困るし。

――話を戻しますけど、そのロットマンを迎えた大会当日もドタバタだったみたいで。

谷川　予想以上にドタバタ！　まず会場までの道路が大渋滞で、選手が開会式に間に合わないから途中で車から降りて、歩いて会場に来たりとか。そのあいだにマイティ・モーが行方不明になったりとか！

――ハハハハハハ！　凄いなあ（笑）。

谷川　で、さっきも言ったように選手はテーピングをしちゃダメなんですよ。サクちゃんはちゃんとサポーターを用意してたんだけど、ユン・ドンシクはそのルールを知らなくて。で、彼には足の指が脱臼するクセがあるから、テーピングしなかったら俺はもう試合しない！　って言いだしたんです。それを聞いたアスレチック・コミッションは「わかった。じゃあ、この試合なし」って。大会途中で試合が消滅になりかけてたんだよぉ～

――ガハハハハハハハ！

谷川　しょうがないから解説席から全力疾走して控室まで行って、「ユン、俺の目を見ろ。おまえが試合をしないとFEGは終わってしまう。おまえの人生も終わるぞ」って説得してね。

――いやあ、いい話ですねえ（笑）。

谷川　ホント疲れたよ。

――あとデニス・ロットマンの参戦も衝撃でしたけど。

谷川　あれはYOSHIKIさんがロスに住んでて、彼のプロダクションの社長に今回いろいろとお手伝いをしてもらったんです。で、YOSHIKIさんが「ボクの知り合いでスケートをやってたヤツがK-1をやりたいそうなんです。ものすごく気の荒い男ですぐケンカするんだけど」って。そういう話が始まりで。

――それがなんとロットマンだった、と。それはいつぐらいのことですか？

谷川　大会2週間ぐらい前かなあ。ただ、46歳がアスレチック・コミッションの検査を受けて出られるのかどうかだったねえ～

――まあ、無理ですよね。日本だったら即出場ですか？

谷川　もちろん出してました！　出してました！　文句なしに出してましたよぉ！！

“韓国人キラー”の地位を築きつつあったマイティ・モーなだけに、本大会でもチェ・ムベとの対戦が発表されていたのだが、アスレチック・コミッションの裁定で二人の対決は不可能に。残念！

――ムハハハハハハハ！

谷川　いやあ、出したかったなあ。結局、大会以外のことで協力してもらう話になって。ロットマンは「ホンマンがもし出られないんだったら記者を集めて、『俺の友人のホンマンに何をしやがる！』って騒いでやる」って言うんですよ。彼はホンマンに会ったこともないのに（笑）。

――いいですね、そういうデタラメなテンションは（笑）。

谷川　あと「コリアンタウンを暴動に持ち込もう！」とか言ってましたね（笑）。

――ダハハハ！　何を企んでるんですか！

「F××k you UFC!」って突然叫ぶんだもん。勘弁してほしいよぉ

谷川　まあ、そういう話でいろいろ盛り上がったんですよぉ。でも、アスレチック・コミッションをあんまり刺激しても意味がないんで。とにかく大会を煽ってもらうって話になって。そうしたら、いきなり記者会見で「F××k you UFC!」って吠えだしてましたからね。

――あの挑発はロットマンのアドリブだったんですね（笑）。

谷川　ボクは全然関与してないし、そんなつもりはないんですよぉ！　でも、「MMAWeekly」と「シャードッグ」にボクとロットマンのツーショットが載っててさ。「『F××k you UFC!!』と叫ぶFEGの谷川さんとロットマン」っていう感じで報道されてるし。もう勘弁してよぉ！

――ケンカを売るつもりもなんでもないのに（笑）。

谷川　ホントにねえ。ロレンゾ・フェティータさんとダナ・ホワイトには心よりお詫び申し上げます！　ボクはそんなつもりはありませ～～ん！

――了解しました（笑）。で、ロットマンは機会があればホントにリングへ上げるんですか？

谷川　あの人、本人は「いろいろ手伝ったから」って言ってましたね。試合に出られなくてもいいから、スーパーバイザーになってもいいし……余計なことを言いだす恐怖感はありますけど（苦笑）。

――そうそう。試合中に客を煽っていた謎のDJの存在も谷川さんは聞いてなかったみたいですね？

谷川　……今大会の一番の失敗はあのDJですねえ。ボクはまったく知らないんですよ、あんなヤツは！

　あのDJが煽ったせいで、桜庭vsホイス戦が大ブーイングに包まれて（笑）というと、イベント構成自体にはFEGは直接タッチしたわけじゃないんですか？

谷川　ほとんど向こうに任せちゃってて。最終的にボクらがチェックする予定だったんですけど、チェックする時間がなくてねえ。ボクはやっぱりオーケストラとかオペラを使いたかったですね。

――会場のムードからすれば。

谷川　それなのに「カモン！　ナントカ!!」って始まるから、なんなんだよ！と思って。よくよく事情を聞くと有名なDJらしくて、そいつの番組で1週間くらい「Dynamite!! USA」の宣伝をやってくれてたんですって。「貢献度が高いんだよ」とか言うけど、それとこれとは別の話ですから！　あの演出は本当に失敗だよねぇ。

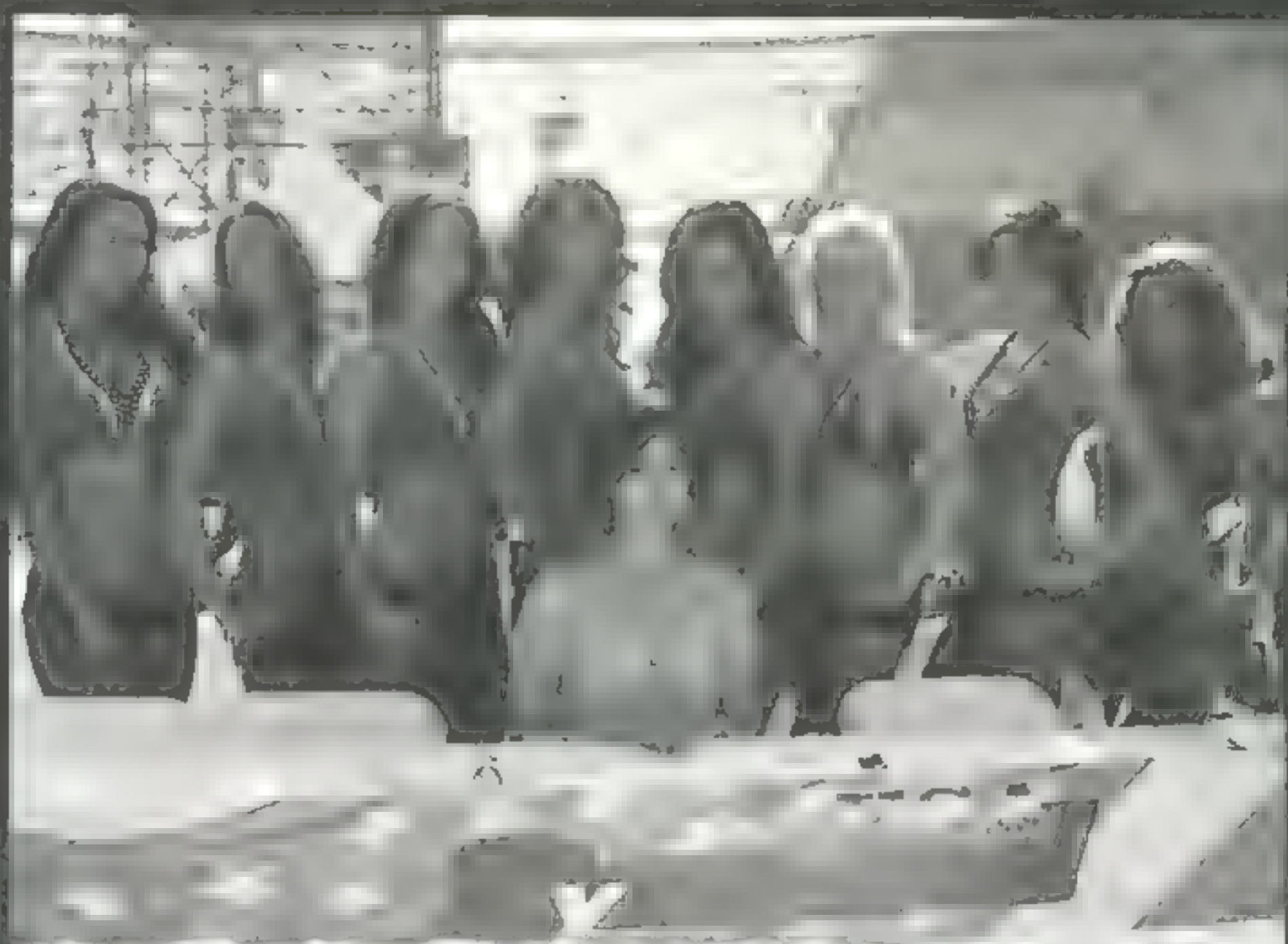
――やっぱりあのDJよりも聖火リレーの模様を見たかったんですよ。TBSでは放送されなくて。

谷川　みたいですね。ロッドマンとか、アスレチック・コミッションのチェックで落ちた人たちの聖火ランナーだったんですけど。もともとは「I♥アスレチック・コミッション」というTシャツを作って、それを着て聖火リレーをやろうとしてたんですよ。

――ハハハハ！　それはイヤミなTシャツですねえ（笑）。

谷川　とことんやってやろうと思ってさあ（笑）。で、そのリレーの直前にまた問題が出てきちゃって。試合当日、ランナー役のホンマンが欠場のショックで会場じゃなくて空港へ向かってたんですよ!!

――それほど落ち込んでたんですか（笑）。

FEGの立ち位置を理解しすぎたスペシャルゲストのデニス・ロッドマンは、大会前の会見でいきなりの「F×××k you UFC！」発言!!　かなり頼もしくもあるが、危険要素のほうが多い予感もする!?

「Dynamite!! USA」で谷川さんがミスティク第2位に挙げたのが、プロエリート側が用意したというラウンドガール。う～ん、この面々ですが、読者の皆さま、いかがでしょう？

今大会の一番の失敗はあのDJ！「カモン！ナントカ!!」ってねえ……

谷川　やっぱり、ロスで1ヵ月近くにわたってじっかり練習してましたからね。で、コリアンタウンの組合がチケットを2万枚も買ってくれたんで、ホンマンはコリアンタウンでプロモーションを毎日やってたんです。

――それじゃショックを受けますよね。コリアンタウンのみんなに申し訳なくて。

谷川　だからコリアンタウンのことを考えたら、チェ・ホンマンの代役はキム・ミンスにするしかなかったんですよ。だって韓国向けのカードが売りだったのに、ホンマンもチェ・ムベも欠場しちゃって、ヘタしたらコリアンタウンから返券される恐れだってありますよ（苦笑）。

――しかし、2万枚も購入するコリアンタウンって凄いですね。

谷川　カリフォルニアには韓国人が180万人近く住んでるみたいですからね。チェ・ホンマンとチェ・ムベの二人が出てたら、また違った反響があったと思うし。

――谷川さんの現地コメントで衝撃的だったのは、市場にチケットが7万枚で回っているっていう話なんですけど。

谷川　今日、正式な数字が出たんですよ。実券が4万2000枚いくらだった。で、招待で来たのが1万3600いくら。だから主催者発表の"約5万4000人"はほぼあってましたね。でも、もうちょっと配ってます。正直、あと2万枚くらいは出てますから、7万枚くらいは市場に出てると思うんですよ。

――はあ。想像もつきませんね（笑）。

谷川　……あ、そういえば、ボブ・サップから電話がありましたよ。

――サップから？

谷川　「ホンマンが出られなくて困ってるだろう？　俺が出てやろうか？」って。

――イヤなヤツですねえ。そしておもしろい（笑）。

谷川　「うるさいよぉ」って。「裁判所で会おう」って言っておきましたけど（笑）。

――肝心の試合内容はどうでした？　再戦となった桜庭vsホイスは日本でも賛否両論ですけど。

谷川　でも、この試合はああなると思ってましたよ。ボクは、ただ、いいオチがついてよかったなって。

――いいオチって？

谷川　いや、ワセリンのヌルヌル。ルールで（顔に）塗らないといけないんだけどね。

――桜庭さんはそれを強硬に主張してたんですか？

谷川　試合中も「まだすべるよぉ」とは言ってましたけど、それを言い訳にはしなかったです。極められなかった自分が悪いって言ってましたね。でも、「負けてましたかねえ」とも言ってましたよ。

――桜庭さんの勝ちでも問題ないですよね。

谷川　ここ1年で一番、動きはよかったですし。試合をコントロールしていたのはサクちゃんですから。だって、1ラウンドにはダウンを奪ってますし。ホイスは一生懸命ディフェンス・ディフェンスって感じだったから。ジャッジはホイスが腕を取られてるのにバックを取ってたとか勘違いして

まあ、五味選手は日本の格闘技界に残ってほしいですよねえ〜

たのかもしれないけど。

――まあ、向こうのジャッジは有効打よりも手数を取るから、この判定はわからなくもないですけど、内容はともかく、あれ、ここで"負け"がついちゃったのがイメージは悪いんじゃないかな、と。谷川さんとしても次のマッチメイクはかなり困るんじゃないですか？

谷川 そうですね――。サクちゃんからすると、アメリカで試合じたくないなってもう言だけだと思いますね。試合自体に関してはべつに不満足ではないと思います。ええ。なんにももらってないし、なんにもやられた感がないし。あの二人は無理ですよ、5分3ラウンドなんて。

――マッチメイクする前に「こうなるんじゃないか？」っていう予測はありましたか？

谷川 3分5ラウンドでも短いと思いました。決着はつかないと思いました。だから逆にサクちゃんもホイスも極められることはないなって思ったんじゃないですか。

――時間的には前回の1ラウンドぶんですもんね。

谷川 そうそうそう。

――そこで谷川さんとしてはこのマッチメイクはやめとこうっていう考えはなかったんですか？

谷川 アメリカの人たちに見せるのはいいなと思ったんですけど、プロモーターとしてもね、あの二人がいい状態でリングに上がってきて、緊張感もあったし、それだけで満足ですよね。

――桜庭さんの次戦は7月の「HERO'S」ですか？

谷川 わからないですけど、7月に間に合えば7月ですし、9月でもいいし。

――今年の「HERO'S」も去年と同じく2階級トーナメントの開催ですか？

谷川 85キロに関してはちょっと考えないといけないですね。桜庭選手や秋山（成勲）選手抜きでやっていいのかっていう問題もあるし、メルヴィンも負けちゃってるから。

――「PRIDE」の動きがない中で、谷川さんは「GONKAKU」のインタビューで「PRIDE」ファイターにメッセージを呼びかけてましたけど。「HERO'S」に出てほしい選手がいるってことですか。

谷川 そんなこと言ってましたっけ？（笑）。いや……あまり選手を知らないんですけど、やっぱり出てもらいたい選手はいますね。

――知らないけど、出てほしい選手がいる？（笑）。要するに、あのインタビューの中で唯一名前を出していた五味（隆典）さんに出てほしいってことですか？

谷川 まあ、五味選手は日本の格闘技界に残ってほしいですよね。契約がどうなってるかわからないし、無理にとは言わないですけど、正直言って「PRIDE」の中では魅力ある選手です。

――なるほど。

谷川 とにかく今年の下半期も頑張りますから！ ほかに何かある？

――ええっと、凄く気になってるんですけど、さっきから机の上に「レスリングシャドー」が3つもあるんですか？（笑）。

谷川 ああ、ある人からもらったんですよ。これ、おもしろいの？

――かなりおもしろいですよ！ プロレスの内側を赤裸々にあぶりだした傑作で、そしてプロモーターは悪いヤツだなあ、というオチが待ってるんですけど（笑）。

谷川 んあ〜！ あの〜、このDVDを作った人はね、いまはサイカンの日本支社長になってるんですよ。

――サイカンといえば、ヒョードルをスポンサードしている韓国企業ですね。

谷川 あとユア・トンックのスポンサーもやってるんだよ。そのサイカンの会長とこないだ会ったんですけど。そうしたら「ヒョードルを使ってくれ」って。

――ハハハハハ！ いいんですか、所（英男）くんが何百人雇えるんだっていう話になりますけど（笑）。

谷川 本当にありがたい話でしたけど、丁重にお断りさせていただきました（笑）。

――しかし、谷川さんも各方面の対応に日々追われて大変ですね。

谷川 ホントだよぉ〜！ あまりに忙しすぎて、たまにすっかり忘れることがあるんだよねえ。最近なんて（ターザン）山本さんをロスに招待するのを忘れてさあ。いや、ホントなら山本さんを呼んで聖火リレーのアンカーにしたかったなあ。

――ダハハハハ！ でも、きっとメディカルチェックで通らなかったと思います（笑）。

【07年6月6日／都内・FEG赤坂分室にて収録】

「今回はみんなにいじめられましたよぉ〜」とかなりお疲れ気味のサダハルンバ。はたして、この"いじめ"に負けることなく第2回「Dynamite!! USA」は開催されるのか!? 負けるな"サダハルンバ谷川"

謎の逃亡事件から一年!!
K-1&ボブ・サップ電撃和解
谷川FEG代表 器のデカさ またまた 発揮!!

クロマティ騒動に紛れて、ボブ・サップがちゃっかり帰ってきたよ!!

すでに報道済みだが、本誌110号で桜庭和志のPRIDE登場にGOサインを出した自称"器のデカさ、無限大"の谷川FEG代表が、今度は揉めに揉めていた**ボブ・サップと電撃和解**するという、またまた器量のデカさを発揮した!! よっ、サダハルンバ! 寿司食いねえ、寿司食いねえ!

そもそも"サップ事件"とは、06年5月13日K-1アムステルダム大会でアーネスト・ホースト戦が目前に迫っていたにも関わらず、サップが**バンデージを巻いたまま周囲の制止を振り切って逃走**するという、他人事だとなんとも愉快な騒ぎが発端となっている。その後、

K-1を通せば PRIDE、UFC、WWEへの参戦もありえます(谷川氏)

サップ側は逃走の真相を明かすべく**大量のFAXを流したり、外国人記者クラブで"真実"を激白**したり、一方、K-1側もサップを正式に訴える姿勢を見せるなど、この一年間、両者の溝は深まるばかりかに見えた。

ところがとっこい! 6月18日の記者会見では、なんと! 突然サップのK-1オランダ大会参戦を発表。その席で、**谷川代表はサップと和解したことを正式に発表**したのだ。

谷川氏によると「この一年間、なんとか和解しようとお互いに努力してまいりまして、最終的にサップ選手と条件がまとまりましたのでこうやって一緒に会見の席に座ることができました。**詳しい話は差し控えさせていただきますが**、その背景にはサップ選手側の弁護士である**マイケル・コネットさん**と、私どもの弁護士事務所の話し合いがあったわけで、両者に心からお礼を申し上げたいと思います」ということで、サップ自身も「**K-1という素晴らしい格闘技の将来を見据えた**ときに、お互いに歩み寄っていかないといけないことをお互いが理解できた」と述べ、「今回、こういう状況で試合をすることをOKしてくれたピーター・アーツには感謝しているありがとうの意味を込めてKOするよ!」とK-1再始動一発目となるピーター・アーツ戦への意気込みも語った

また谷川氏によると、今後はFEGを窓口として、**サップの他団体のMMAイベントおよびプロレス興行参戦に協力**したいと語り、「**サップ選手は才能の塊**。日本だけでなく世界中でのファイト、またプロレスの試合に出る機会も多々あると思いますので、ぜひ応援していただければと思います」と、また太っ腹具合を発揮! またサップも、FEGのイベントについて「今回FEGとあらためて歩み寄れたので、まずオランダ大会でいい試合をして今後につなげていきたい」と**継続参戦の意思を示し**、他団体への参戦については「**FEGの協力の下で、他団体に出たい**」と谷川氏に足並みを揃えた

さらに、今回の和解は「サップ選手側の契約が存続していることに合意した」という谷川氏の発言から、どちらかというと**サップ側が歩み寄った印象**で、「サップ選手が本来あるべき契約を認めたので、**訴えは取り下げますし、(損害)賠償金の請求についても取り下げます**」と、K-1側も完全にわだかまりをなくす方向た

リングから遠のいていたこの一年間、サップは旧知の間柄である**ジョシュ・バーネットやモーリス・スミスらとトレーニングを積んでいた**。そして4・21『ケージ・レージ21』ロンドン大会への出場が予定されていたが、**イベント主催者に25通のメールを残して**大会直前でキャンセル。ズンドコマニアをさらに熱狂させていたのだ。

また格闘技以外の活動としては、**ハリウッドから映画出演のオファーを6本も受け、さらに母校ワシントン大学の分校で獣医の勉強**をするなど、充実した日々を送っていた様子。なお、サップはこの会見の翌日にはさっそく公開練習を開催。あまりの馬鹿馬鹿しさに一世を風靡したあの「毎度お騒がせしま〜〜す!」ムードをK-1に取り戻してくれそうだ。やったね!

何はともあれ、これで一件落着……!? 本誌発売日には、すでにK-1オランダ大会は終わっているが、またもやバンデージを巻いたまま周囲の制止を振り切って逃走してほしい願望もちょっぴりあるのも事実。つまり、サップにはいろいろ騒がせてほしいのだ。

再編が進む日本マット界だが、**この男の復帰はさらなる地殻変動の予兆なのかもしれない。一寸先はボブ・サップ!!**

なんと、サップ側の弁護士マイケル・コネット氏もこの会見に出席! 会見終了後には、谷川氏と笑顔で握手し、言葉を交わすシーンも見られた

K-1vsボブサップヒストリー

06年5月13日 K-1アムステルダム大会で、アーネスト・ホースト戦直前、サップがバンデージを巻いたまま控室から失踪

06年6月[illegible]日 サップがFAXにてマスコミに声明文を発表。試合に出場しなかった理由として、K-1との契約に不備があったと説明。さらに大会中に「リングサイドで凶暴そうな男に囲まれ脅された」と主張

06年6月23日 サップの声明文を受け、今度はK-1側がFAXにて「重大な事実誤認」を指摘し、サップ側の見解を否定

06年7月[illegible]日 K-1側の見解を受け、サップの弁護士であるマイケル・コネット氏がFAXにて「谷川氏の言うことを重大な事実誤認」と主張

06年[illegible]月10日 サップが日本外国特派員協会にて記者会見を敢行。長時間にわたってしゃべりまくるも、なぜかマスコミは一切報道せず。サップも契約問題の核心には触れず

06年10月11日 サップの代理人より「契約違反を理由にK-1との契約を解約した」とする内容のFAXがマスコミへ送られる。同日午後、K-1は会見を行ない、契約解除の無効を訴え「他団体に上がれば契約違反、損害賠償の請求もいく」とサップおよびプロモーターへ警告

07年2月10日 ロンドンで開催された「ケージ・レージ20」でサップが登場。4月大会のメインイベントに起用されることが発表された

07年4月21日 「ケージ・レージ21」の大会直前に、またもやサップ失踪。ケージ・レージ代表デイブ・オーニール氏と交わした計25通の確認メールも空しく、ひさびさのMMA登場ならず

ノブ　え〜、今回は現地観戦した井上さんと俺、そして日本でテレビ観戦だったガンツを交えて『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!! ＵＳＡ』の魅力をたっぷり語ろうかなあ、と

井上　さっそく呼んでもらって申し訳ないんだけどさ、もう全部忘れちゃったよねえ。

ノブ　ああ、同感ですね、それ（まったりと）

ガンツ　何、それ（笑）。それは「早く忘れたい」ってこと？

井上　いやいや、とても素晴らしい大会……だったような記憶はぼんやりとあるんだけど

ノブ　ああ、確かに。イベント自体はかなり〝のどごし〟がよかったからね

井上　そうだよね〜

ガンツ　のどごしがよすぎて、おいしかったかどうかも忘れちゃうぐらいでしたか

ノブ　あ、でも大事件があったんだよ。本誌編集次長の松林さんが会場の付近で黒人にデジカメをひったくられそうになってさ

ガンツ　ええっ!?　そんな危険な目に遭ってたんだ。

ノブ　そう。ごっついヤツがデジカメを引っぱっていこうとするから、あわてて引っぱり返したらヒジをぶつけてアザになっちゃったみたいで。会場周辺のいわゆるタウンタウンと呼ばれる地区は治安が凄く悪いという噂はありましたよね　まあ、幸い会場の中は安全だったからよかったけど

ガンツ　会場の中まで危険だったら大変でしょう！（笑）。

ノブ　いやいや、それぐらい危険だったか

街は凄く緊張感があったけどイベントはほどほどで〝のどごし〟がよかった（ノブ）

開場直後は観客よりスタッフとセキュリティが多かったが、試合が始まるとご覧のように空席以外は超満員に。赤いＴシャツを着たコリアンタウンの応援団が「テーハミングッ！（大韓民国）」と大合唱すると、その迫力はかなり凄かった

ら　俺はフレスツアーで行ったんだけど、泊まってたホテルの窓の外から深夜なのにマリアッチがガンガンに流れてくるし、朝方には銃声も聞こえたし。ヒスパニック系移民の多い危険地帯だったみたいで　タクシーの運転手に言わせると「普通はこんなところには泊まらないぞ　このへんはカンとコカインがトゥー・マッチだ！」って言われたからね（笑）　まあ、そんな感じで街は凄く緊張感があったけど、イベント自体はほどよい緊張感で

ガンツ　試合より街の中に緊張感あった（笑）

井上　（急に）そうだ！　こないだＬＡで思い出したんだけど、俺はいままで『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』を全部生観戦してるんだよ！　極端な話、この皆記録は俺かＴＢＳのスタッフかってぐらいの金字塔だろうね　イエイ！

ノブ　でも、今回は思ったけど、『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』は生観戦しないとあのおもしろさは半分も味わえないね　やっぱり、あの興奮にゴージャスなスケール感は現場で体感しないと

井上　確かに、あの競技場はさすがにオリンピック会場だけあって雰囲気のあるいい

座談会出席者

井上崇宏
有限会社ペールワンズ代表　本誌でもファイター＆編集で活躍中。現地取材でホロホロになりながらも、ハリウッドではオトナの玩具も視察した模様。写真たとアフノのテロリストふうに見えるか　児の父

堀江ガンツ
本誌鬼軍曹。国内残留テレビ観戦組。ＵＷＦ変態座談会では変態ぶりをいかんなく発揮していたが、ＵＦＣダナ・ホワイト代表との握手をきっかけに、今回の座談会ではＫ－１に愛のムチを振るう

坂井ノブ
本誌企画制作部。現地取材でかつてない時差ボケに。２００３年頃のＫ－１モンスター路線こそＦＥＧの真骨頂であると信じて疑わない。写真はコメント中のブロック・レスナーと（？）

会場だったし

ガンツ　「客席がいっぱいになれば」という エクスキューズはつくんでしょうけど、つまり空席以外は超満員だった、と（笑）

ノブ　そうそう

ガンツ　否定しないんだ（笑）

ノブ　だって、空席部分はまったく人がいない状態だったから気にもならなかったし少しでも人がいたら気になるところだけどうまいこと真空状態を作ってた感じだね

ガラガラとかいう人もいるけど、"約"5万1000人という北米のMMA観客動員記録を樹立してるからね

ガンツ　それでいいのかなぁ……

ノブ　でも、松林さんは……

ガンツ　また松林さんの話？　皆さんの感想はないんでしょうか（笑）

ノブ　いやあ、のどごしがよかったなあ～っていうかね

井上　うんうん　そんな感じ　イエイ！

ノブ　でも、松林さんは大会直後に「俺は日本人として悔しいよ!!」ってしみじみ言ってたんだよ

井上　それって、かつて男闘呼組が海外レコーディングをやったっていうニュースを聞いたときに、僕らが抱いた「なんで勝手に日本から出てんだよ！」っていう感覚に近いものだよね？

ノブ　（無視して）やっぱり、K-1の一番いい時期を観てる人ですからね。「こんなもんじゃねえだろう！」って思いなんでしょう。でも、俺は満足だったよ。のどごしもよかったし

ガンツ　またその感想（笑）

ノブ　そういえば、セミの桜庭vsホイスが終わった段階で観客がサーッと帰り始めたんだよ。駐車場が大渋滞するからってことなんだろうけど、メインのレスナーvsキム・ミンスの頃には客席がかなりスカスカになってて

ガンツ　ちょっと待って！　普通、アメリカの観客はメインに向けてだんだんと集まってくるじゃない？　それなのにメインでガラガラって……

ノブ　なんとなく来ちゃった見さんが多かったんじゃないかな（他人事のように）

ガンツ　なんかそれは寂しいなぁ。ボクはPRIDEのラスベガス大会も2回とも取材に行ってるけど、そのときはアメリカのコアなMMAファンが大集結したような感じだったけどね

ノブ　日本もPRIDEはマニアックな人が多くて、『Dynamite!!』は一見さんが多い感じだから、いいんじゃないのぉ？

ガンツ　いや、ちゃんとMMAファンが来ていたからこそ熱気が凄まじかったし。凄く印象的だったのは、昨年10月の第1回大会で、オープニングの煽りVTRに桜庭の映像が流れた瞬間に「ドカ～ン！」と沸いたんだよ。「アメリカのMMAファンは、こんなに桜庭のことが好きなんだ!?　ここで桜庭に試合させたかったなぁ」って思ったんだけどなぁ（しみじみ）

ノブ　ああ、そう。でも、今回の桜庭は試合中に大ブーイングが起こってたよ。試合中なのにDJが「退屈な展開だからブーイングしようぜ～！」って煽ったら、一斉に客席から「BOOO！」って。

ガンツ　「ブーイングしようぜ！」って、昔の全日本の後楽園ホールにいた"百田男"じゃないんだから（笑）ふざけんな！

井上　あんなこと絶対に日本じゃあり得ないよね。しかも、またけっこう軽いノリなんだ。『ハッスル』でやってる応援ボードコンテストのMCみたいな感じで。

ガンツ　このカードはアメリカのMMAファンを動員するために組んだわけでしょ？　でも、結果的に動員された客層はMMAファンじゃないから、退屈な試合に映ってブーイング受けたって……、寂しすぎるよ！

井上　あの場にいたのはどんな客層だったんだろう？　コリアンタウンの人たちは大勢いたけどね

ノブ　真っ赤なTシャツを着た人たちがキム・ミンスとかユン・ドンシクの試合で「テーハミングッ！（大韓民国）」って大合唱してたからね。でも、それ以外の人たちはボクシングを観に来たんだろう？　ジョニー・モートンかな？

ガンツ　曙を目的に来てるかもわからないような人たちだったんだ……

ノブ　イベント自体も、LAの街中ではあまり認知されてなかったね。街中でも『Dynamite!!』の看板は見なかったしホテルからコロシアムへ行こうと思ってタクシーに乗ったら、どのドライバーも『Dynamite!!』が開催されるってことを知らなくて「あんな大きな会場でマーシャルアーツの大会なんかやるわけねえだろう!!　ステープルズセンターの間違いじゃねえのか!?」ってそっちに連れていかれそうになったからね（笑）

井上　でも、地盤もないLAで勝負を挑むという姿勢はいいよね。チェ・ホンマンをブロック・レスナーと対戦させて、コリアンタウンの人を動員しようという狙いはいい。ショータ・チョチョシビリ&アントニオ猪木組をロシアでやるみたいなもんだからね（笑）。世界戦略としては大アリ。

かつてはハルク・ホーガンとともにWCWのリングでnWoの一員として闘ったこともあるテース・ロットマン。巨体を活かしてMMA参戦か!?

押尾学がリングサイドにいたのもいいね
今年下半期の隠し玉になりそう（井上）

ノブ　どうせやるなら谷川さんカラー全開でマッチメイクしたほうがよかったと思うよ。ちなみにYOSHIKIから「僕の友人（ロッドマン）が出たいって言ってるんですよ」って連絡があったのが大会1週間前だったらしいけど、谷川さんは「もし間に合ったらロッドマンを出してた」って言ってたんでしょ？　さすがだよなぁ（笑）。

井上　結局、ロッドマンはゲストみたいな扱いだったけど、今回のイベントにはそれ以外にもセレブが大勢来てたでしょ。ニコラス・ケイジとかトレイシー・ウルマンとか。みんなスタンドを突っ切ってリングサイドに下りていくんだけど、そこで一番の大歓声だったのは誰だと思う？　なんとクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンだったんだよ。みんなスタンディング・オベーションで迎えてるの（笑）　ちょうど1週間前にチャック・リデルをKOしてUFCライトヘビー級王者になってるからね

ガンツ　じゃあ、一応MMAファンも来てはいるってことか　UFCチャンピオンは、それだけ多くの人に知られてるのかもしれないけど

ノブ　ちょうど、そのときは会場の端っこからロッドマンが聖火を持って入場してたんだよね　でも、観客はロッドマンそっちのけでランペイジに大歓声を送ってたからね　あれはかわいそうだった

井上　SWSの東京ドーム大会でメイクのままデーモン小暮閣下が会場に入ってきて、試合そっちのけでお客さんが大盛り上がりになってたのを思い出したよ（笑）。あと押尾学がリングサイドにいたのもいいよねぇ　俺的には今年下半期のFEGの隠し玉になりそうな気がしてるよ　肌ツヤが良かった

ノブ　しかし、やっぱり『Dynamite!!』は日本でやらないとダメなのかなぁ

ガンツ　そうとも限らないよ。今回の『Dynamite!!』は日本でも話題になってなかったし、曙とか芸能人の参戦で盛り上がれたのってもう昔の話でしょう。ファンも視聴者も破壊王調に「いつまでやってんだ、そんなことぉ！」って感じでしょ

ノブ　そう？　俺はいつまでもあの空間に身を委ねていたかったなあ。

ガンツ　（無視して）『Dynamite!!』は今後、見せ方を変えていかなきゃダメでしょ

コリアンタウンの観客動員を見込んでメインにラインナップされていたホンマンだが「巨人症特有の脳腫瘍」がメディカルチェックで引っかかり欠場に。それでも会場にはコリアンタウンのファンが大集結した。応援グッズを手に非常に満足した模様。レスナーとホンマンの試合は、ぜひWWEの人気も高い韓国で実現させてもらいたい！

アスレチック・コミッションとFEGの食い合わせが最悪なんだよ!!（井上）

井上　アメリカのMMAブームを下敷きにしようとしたらダメだろうね。今回でわかったと思うんだけど、カリフォルニア州のアスレチック・コミッションとFEGの食い合わせが最悪なんだよ！　試合後のコメントで谷川さんも「どういうカードを組んでも最終的にUFCみたいになっちゃう」ってボヤいてたもん。せっかくワッパーなカード組んでるのに（笑）。

ガンツ　ベルナール・アッカがジョニー・モートンをKOした試合は、向こうの新聞で批判されてるみたいですね。「モートンみ

『PRIDE』が健在だったら笑ってられるけど、このままじゃホントにやばい（ガンツ）

たいなシロウトを試合に出すからだ」って

ノフ　誰か「アッカもこないだまでシロウトだった芸人だろ」って向こうの新聞に教えてあげたほうがいいよ（適当に）

井上　もうFEGは全米進出にこだわらなくてもいいんじゃないの？　だってさ、アメリカじゃなかったら、アスレチック・コミッションの認可を得る必要もないんでしょ？

ガンツ　実際に谷川さんがホンマンの欠場が確定的になったときに「ルールを変更するかも」って言ってたって聞いて、「これはプロレスルールでやるってことなのかな？」って思ったんだけど（笑）。

井上　いや、それは「この試合はプロレスルールですよ」って看板にしといて、いざリングに上がったらMMAルールでやる腹づもりだったのかもしれないよ（笑）

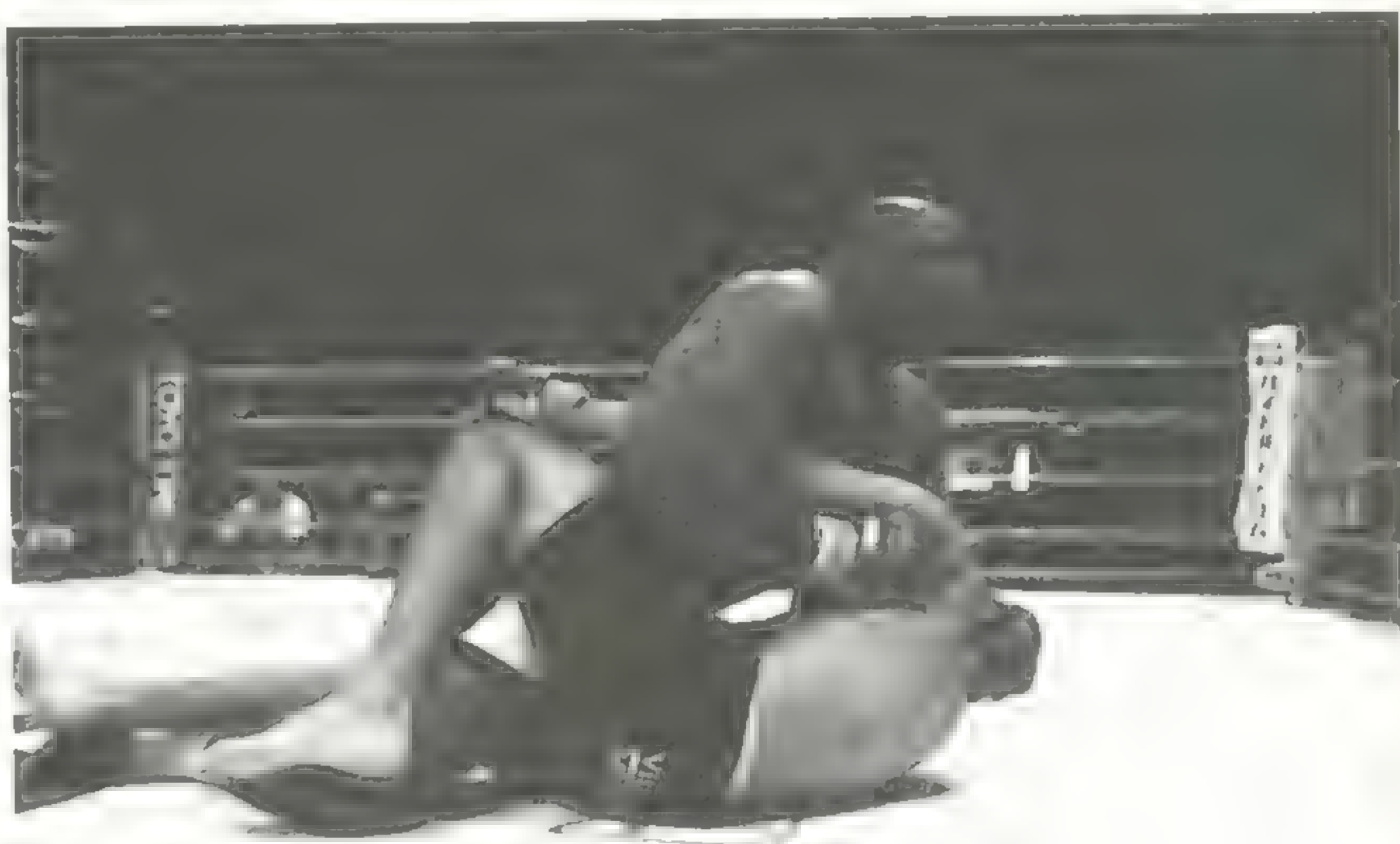
ノフ　そのままホントに二人がプロレスの試合を始めてたら、暴動が起きてたかもしれないよ　第二のロス暴動が（笑）

ガンツ　でも、いまテレビの世界ではねつ造だなんだって騒動になってるから、「ワークでした」なんて言ったら大変なことになるんじゃないの？　その一方では、サップvsノゲイラをまるで今回の『Dynamite!!』でやったかのように見せかけるような番組構成はまかり通ってる　ナメんなっていうんだよ！（怒）

ノフ　俺はべつにサップvsノゲイラの映像が入ってたのはどうでもいいと思うんだよ　というか、アメリカでは『kamipro Hand』で毎日旅日記を書いてたんだけど、試合前の段階から「今回の『Dynamite!!』にはボブ・サップが足りない」って書いてたんだよ　そしたら、中継には見事にサップが入ってたから、そこだけはTBSを評価したい（笑）

井上　我が意を得たり、と（笑）。

ガンツ　でもさぁ、あいかわらずの「このあとすぐ！」で引っぱりまくったり、小手先の視聴率稼ぎばっかり目につくんだよね　だから、桜庭vsホイスの判定が下った瞬間に番組終了　普通、どうしてあの判定になったか、視聴者のためにも解説者に語らせるべきでしょう　ホント、TBSの番組構成は毎度のことながら愛情も情熱も感じられないんだよ！

ノフ　ああ、そう（生返事）。でも、今回はホントに主役がいなかったね　パンフレットの表紙には桜庭、ホイス、レスナー、モートンの顔写真が印刷されてるんだけど、そもそも桜庭は『PRIDE』の顔、ホイスはUFCの顔、レスナーはWWEの顔、モートンはNFLの顔でしょ？『Dynamite!!』の顔がここには一人もいないんだよ　ここに曙がいるだけで全然違うのになぁ　03年の『Dynamite!!』でデビューしたのが曙だからね　生粋の生え抜き『Dynamite!!』戦士といったら、やっぱり曙でしょう！

なぜかボブ・サップvsアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラの試合がTBS中継には組み込まれていた　今回の出場選手では視聴率は狙えないという意味なのか

ガンツ　（冷静に）曙だけでどうにかなる問題じゃないでしょう。言い返すのもバカバカしいけど

ノフ　ただ、今回のFEGはフルスイングしてないよね　FEGのオールスターを揃えて勝負をしてほしかったけど、バントを当てにいって感じがする

井上　そもそもFEGにはバント練習をしたことない人たちばっかり集まってるからね（笑）

ノフ　あと、谷川さんが「アリーナのチケットは全部さばけましたから」とか会見でホームラン予告してたのもよくなかった（笑）

ガンツ　（急に立ち上がり）みんな、今回の『Dynamite!!』を笑い話にしてますけど、笑ってる場合じゃないんですよ！（ドン！と机を叩く）　『PRIDE』が健在だったらこういう状態も笑ってられますけど、いまは『PRIDE』が音沙汰ない状況だから、FEGに頑張ってもらいたいのに、「のどごしがよかった」だけなんで、このままじゃ日本の格闘技界はホントにやばいよ！

井上　おおっ、「非常ベルが鳴ってるのに誰も聞こうとしない」状態ってことか

ガンツ　そうですよ！

ノフ　確かにさ、以前だったら、『Dynamite!!』直後に、「ガラガラだったみたいですね」とか嫌味を言う榊原代表みたいな人がいたけど、いまは誰も何も言わないもんね

ガンツ　ホント、格闘技界に非常ベルが鳴ってますよ！　「Softbank presents」の看板がついてたのに〝予想外〟なことが何もないんだもん　「予想どおりズンドコでした」で済まされるのは、ズバリ言ってIGFだけだよ　その中でも所とか、ユンvsマヌーフとか、希望が持てる試合も中にはあったから、次の7・16『HERO'S』には、なんとか頑張ってもらいたい。そう思わない？

ノフ　……だから、曙も入れようよ！

【07年6月8日／タフルクロスにて収録】

変質したグレイシーの理念
ホイスの判定勝ちで
グレイシー幻想は

グレイシー柔術は崩壊した！

――先生、今日は6・2『Dynamite!! USA』ロサンゼルス大会で行なわれた桜庭vsホイス、7年ぶりの再戦。ここから見えたものを解き明かしていただきたいと思います！

堀辺 わかりました。私もこの試合はテレビで観ましたけれども、率直に言って、ホイスも桜庭もずいぶん様変わりしたなと。7年間という歳月の重さというか……とくにホイスが"変質"してしまったことを強く感じましたね。だから、あの試合を観たとき、ハッキリ言って、寂しさと悲しさ……。そういった感情が残ったんですよ。

――悲しさを感じましたか。先生は93年に初めてUFCが開催されて、グレイシー柔術が世に出たとき、真っ先に評価してましたよね？

堀辺 そうですね。ホイスが初めて出てきて、UFCでグレイシー柔術というものを観たとき、かなりの衝撃を受けました。感動したし、驚きもしたし、勉強もさせてもらった。そのグレイシーが変質してしまったことに、今回、余計寂しさを感じたんですよね。

――具体的に言うと、どういった点が変わりましたか。

堀辺 もちろん、この7年のあいだにホイスの肉体の衰えというものもあったんでしょうけど、それが主体ではありません。一番変質したのは、彼の精神です。価値観と言ってもいい。その精神や価値観がものの見事に変質してしまった。

――どう変質したわけですか。

堀辺 UFCに出てきたばかりの頃のホイスは、明らかに自分個人のことよりグレイシー柔術というものを上位に置いていたんですよ。グレイシー柔術に対する限りない愛着と名誉を持ち、その強さと素晴らしさを世界にアピールするためなら、どんな危険なことでも引き受けていたし、それを守るためには命も懸ける。そういった彼の姿勢が試合からも見て取れたんです。

――確かに初期のホイスは身体を張ってグレイシー柔術の強さを世界にアピールしていたし、「グレイシー柔術のためなら死ねる」という彼の言葉にも説得力がありましたよね。

堀辺 あったんです！ 身命をなげうってでもグレイシー柔術を守るという、ね。そういった姿勢や精神というものは、大東亜戦争のときの若き特攻隊員とか、もっとさかのぼってかつての武士たちの中には見ることができるけれども、いまの格闘家には到底見られないと思っていた。それがまさか異国の、ブラジルの若き格闘家が持っていたということに驚いたし、感動したんですよ！

――確かに。そこがグレイシー柔術が大ブレイクした大きな要因ですよね。

堀辺 ところが今回は、かつてのホイスが持っていた精神やグレイシーの理念というものが、ほとんど見られなかった。たとえば今回、ホイスは7年前と違ってラウンド制の試合に出てきましたよね！

――前回もラウンド制ではありましたけど、無制限ラウンドでした。

堀辺 以前、彼らは「判定では真の決着はありえない。だから、試合は時間制限をなくすべきだ」と言っていたんですよ。これを聞いたとき、「素晴らしいことを言うな。スポーツ

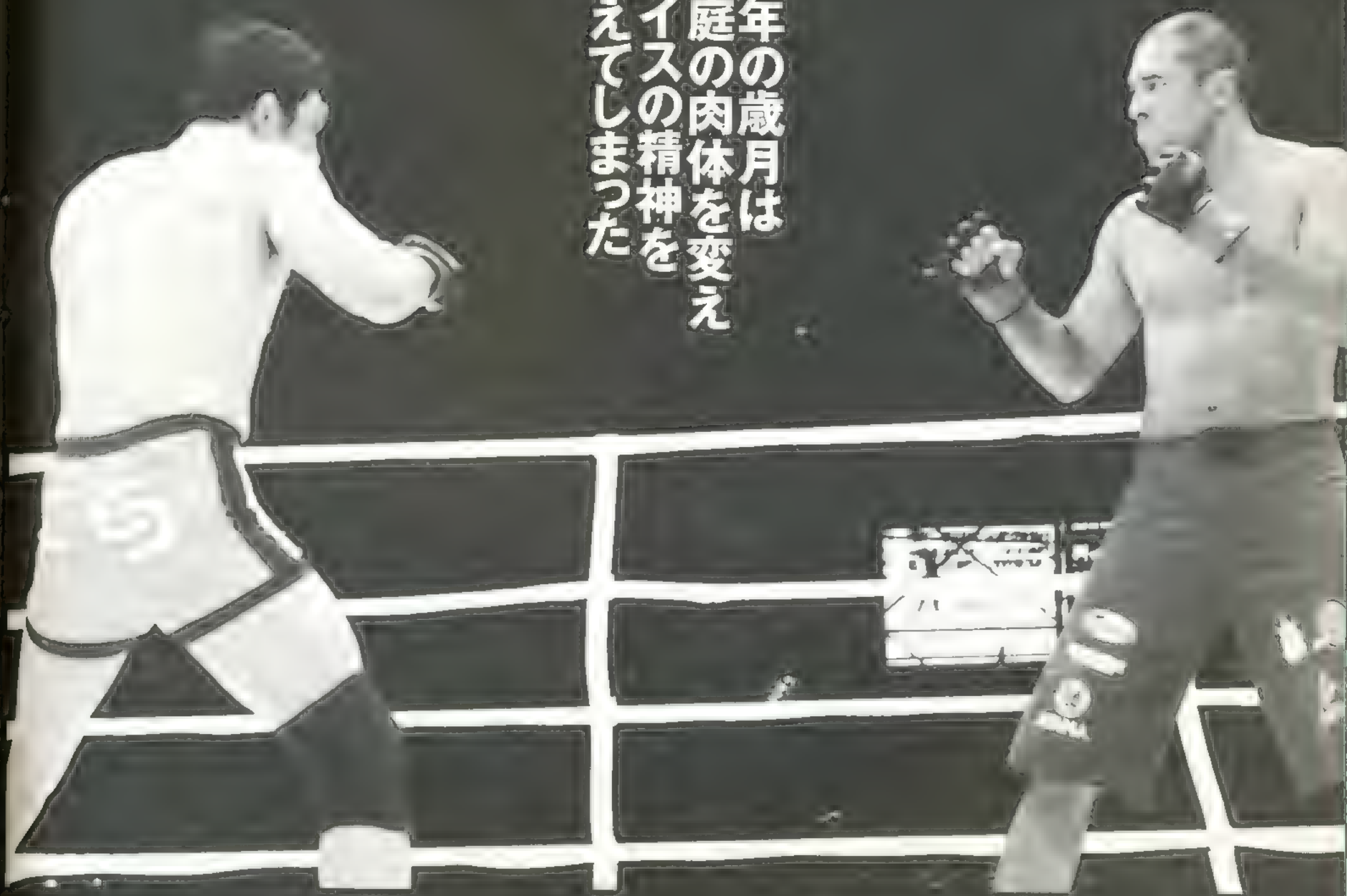
"青春の大発見"の先に見た悲しき現実――

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

伝説の90分間の死闘から7年――場所を「PRIDE」から「Dynamite!! USA」に移し、再び相まみえた桜庭和志とホイス・グレイシー。7年前は10分無制限ラウンド制で行なわれた試合も、今回は5分3ラウンド制。結果はホイスの判定勝ちとなった。かつていち早くグレイシーの精神を評価し、桜庭の非凡さを称えた骨法・堀辺師範はこの一戦をどう見たのか？

聞き手／堀江ガンツ

7年の歳月は
桜庭の肉体を変え
ホイスの精神を
変えてしまった

マンシップというものを超えた、本当の武道の心を日本人に呼び覚ましてくれた」と思ったんです。ところが今回は、「判定あり」の試合に、なんの違和感もないような感じで出てきてしまったんですよ。

――なんか、ホイホイ出てきた感じがしましたよね（笑）。

堀辺　そうなんです。グレイシーの理念もへったくれもなく、スーッと出てきちゃってるんですよ（笑）。そこに価値観の変貌というのがあったんじゃないか。究極に近い勝負をやるという意識が薄れてきて、プロの試合に出て、そしていいお金がもらえればいいんじゃないの？って。そういう価値観に変質してるように見えたんです。

――「グレイシー柔術のためなら死ねる」から「お金のためなら判定ありでもやる」に大きく変わってしまったと。

堀辺　だから雰囲気も、ほかの格闘家とそんなに違わないんですよね。それは道衣を着てなかったからだって言う人たちもいるみたいですけど、もし着ててもあれは同じですよ。

――道衣を着てようが、グレイシートレインを組んでこようが関係ない。

堀辺　関係ないですね。ハートの部分と脳髄の部分が変化しちゃってるわけだから。我々がかつてのホイスたらしめた要素っていうのは、残念ながら彼の中から消失していた。これはグレイシー神話の終焉を意味するんです。なぜなら、グレイシーがグレイシー特有の価値観を捨ててしまったら、グレイシーたる所以ってものがなくなってしまうんですよ。

――あまたの総合格闘家と何が違うの？　ってことになりますよね。

堀辺　なりますよね。それで技術や体力でいえば、いまの若い格闘家のほうがはるかに上なわけですから。単なる40歳の格闘家になっちゃうんですよ。

――どこに価値があるのかってなりますよね（笑）。

堀辺　だから今回、7年ぶりにホイスと桜庭選手が闘ったわけですけど、やっぱり同じ人間が闘うわけだから、同じシーンがいくつか見られたんですよね。桜庭選手がホイスにバックを取らせてアームロックを狙ったりだとか。あのシーンで解説の谷川さんは「7年前と同じですよぉ!!」って興奮してましたけど、私は全然興奮しなかった。逆に観ていて悲しくなっちゃったんですよね。

――試合展開が似ているぶんだけ、本質的な違いが際立っちゃった感はありましたよね。

堀辺　そう。そして一番悲しかったのは、「判定勝ち」を告げられたホイスが簡単に手を挙げられていたことですよォ!!　たとえ「判定あり」の試合形式だとしても、判定を拒否して去っていくか、挙げられた手を振りほどくのがグレイシーではないのか。だから、ホイスが「判定勝ち」というものを受け入れたとき、グレイシーが持っていたある種の幻想を自らブチ壊してしまったんです。

――一応、試合後のコメントでは「判定で勝つのは好きじゃない」とは言ってるんですけどね。

堀辺　確かにそれは聞いていますけど、実際、ああやってリング上で高々

と手を挙げられて「これで勝負がついたわけではない」という強い反発が即座に起きなかったこと自体が、私の言う価値観の変貌なんですよ。それに、試合展開を見れば、ホイスが判定勝ちを狙った試合の組み立てをしていたことは、誰でもわかりますよね。

――ちょこちょこと蹴りを出して、ポイント稼ぎと思われるような攻撃をしてましたよね。実際、ホイスも「今回はルールや時間制限を考慮した作戦を立てた」って言ってますし。

堀辺　判定勝ちを狙うことは、競技者としてべつに悪いことじゃないですよ。でも、かつてのホイスにその考えはなかったはずです。そこにホイスの変質が見て取れたんですよ。

――逆に桜庭選手は最後まで常に一本勝ちを狙って、いける試合をしようとしているように見えました。

堀辺　うん。桜庭選手は判定を考えてませんでしたね。かつてと同じように、一本勝ちだけにこだわっていた。だから、桜庭選手には価値観の変貌はほとんど見られなかったんですよ。ただ、残念ながら桜庭選手は肉体が変わってしまった。

――やはりそう見えましたか。

堀辺　はい。私は桜庭選手の近くにいるわけではないし、特別な情報を持っているわけでもないので、推測でしかないですけれど。整体という医学をやっている人間として言わせてもらうと、やはりこの7年間、過酷な試合を続けてきたことによって、かなり肉体、そして脳へのダメージが蓄積されているんじゃないか、と。

――昨年、そのダメージで「試合欠場もしてますし、確実に衰えはあるんでしょうね。

堀辺　7年前の桜庭選手の素晴らしかったところというのは、挙げたらキリがないんですけど、その一番手に勘の良さと反応の良さというものが挙げられると思うんですよ。ホイスの小さな動きの片鱗にすぐさま対応して、先を読んで、それを未発に終わらせるという場面がいくつもあった。私なんかそれを観て「なんて勘が良くて、反応が素晴らしい選手なんだろう」と感動したんですよ。日本にもこういう選手が現われてくれたのかっていうね。

――発想が自由で、感覚が鋭く冴えまくれ[illegible]かないような動きがどんどん出てきそう[illegible]

堀辺　そうなんです。なんでもありの闘いに精通して[illegible]るはずのホイスが、どうしていいか戸惑っていた。それはホイスだけでなく、セコンドの兄ホリオンやお父さんのエリオもアドバイスできなくなるくらいでしたよね。それほど桜庭選手の想像を超える[illegible]観客だけでなく、グレイシーも驚かされたんですよ。とにかく、今回の桜庭選手からは、[illegible]とするような動きとか、発想というものはついに見ることができなかったんです。

桜庭vsホイスは、残酷なまでに二人の現在の姿をさらけだす〝究極のリアルファイト〟だった

――新しいものは見えませんでしたよね。

堀辺　それはやはり、これまでの肉体的ダメージの蓄積によって、残念ながら判断能力や対応能力を[illegible]のが、衰えてしまったと言わざるを得ない。だから試合のドキドキ感というものが、「何をしでかすかわからない」といういい意味のドキドキではなく、一歩間違うとホイスの打撃で倒れてしまうんじゃないかという危うさ、痛ましさのドキドキなんですよ。

――確かに観ていて心配なんですよね。

堀辺　みんな内心、桜庭選手の身体を心配しながら観てるんですよ。そういった意味で、ホイスとは正反対の意味で、桜庭選手も変質してしまったんですよ。

――ホイスは精神が変質し、サクは肉体が変質してしまった、と。

堀辺　それが今回の真実だと思いますよ。アメリカの元副大統領であるゴアさんのドキュメンタリー映画で『不都合な真実』というのがありましたよね？　私はこのホイスと桜庭の二つの変質というのは、多くのファンや関係者、そして彼ら本人が直視したくない、格闘技界の「不都合な真実」だと思うんです。

――なるほど。

堀辺　かつての二人はあまりに素晴らしく、我々を魅了してくれただけに、その「真実」を目の当たりにして、余計悲しくなったんですね。その意味で、逆に過去の二人は偉大だったと言えますよね。

――そう考えると、その「不都合な真実」をあえて露呈することとなった、今回の再戦というのは罪なものとも言えますよね。

堀辺　やってほしくなかったね。よくプロレスファンや関係者は「プロレスは記憶だ」って言うじゃないですか。それは格闘技にも言えるんですよ。やはり記憶というのは財産なんですよ。それは大切にしてほしかったな。

とくに「桜庭vsホイス戦の記憶」というものは、多くのファンにとって宝物でしたからね。

堀辺　だから、思い入れが強いファンほど、今回の試合は観なければよかったと思ってるはずですよ。やらぬが花というね。

――そういう意味では、2000年に船木誠勝と闘って[illegible]から、7年間も試合をしていないヒクソン・グレイシーは正しいとも言えますが。

堀辺　確かに彼は出ないことで神話を保とうとしているのでしょうけど、それも今回のホイスによって、グレイシー自体の幻想が破壊されたわけですから、ヒクソンだけがイメージを保ち続けるというのは無理ですね。

――無理ですか。

堀辺　だからヒクソンは、今回のホイスの勝利を良くは思ってないんじゃないですか。ホイス自身は大金がもらえて、桜庭選手にリベンジもできたからいいんでしょうけど、ヒクソンは間接的に幻想を壊されたわけですから。

――確かにそういえますね。

堀辺　かつてのグレイシー、とくにヒクソンというのは、リアリズムとファンタジーの両方を持っていたからこそ力を持ったんですよ。世の中を動かすものというのは、いつも、虚と実というものが混在している。どこまでが虚でどこまでが実なのかが非常にわかりにくく、虚と実を切り離せない存在とも言える。そういう人が、いまの言葉でいうとカリスマなんですよ。カリスマってそんなもんなんですよ。

――なるほど。かつてのアントニオ猪木、前田日明、極真の大山倍達総裁なんかもそうですよね。

堀辺　そうです。リアルだけでは生々しくてイヤなものまで見えてしまうんです。だから、今回の桜庭vsホイスっていうのは、彼らが持っていた「虚」の部分を壊して、「実」の姿を露呈させてしまったんだから、これはリアルはリアルですよね。そういった意味では、究極のリアルファイトだったと言えるんじゃないでしょうか。

――なるほど。リアルすぎるほどのリアルファイトだったんですね。わかりました。また次の機会もよろしくお願いします。

［07年6月10日／中野区・骨法武術館にて収録］

このインタビューのあと、ホイスは桜庭戦でのトーピング検査で陽性反応を示したことがカリフォルニア州アスレチック・コミッションから発表された。ホイス自身は筋肉増強剤使用疑惑を否定しているが、やはりホイスの精神は変質してしまったのか……？

『Dynamite!! USA』で大爆発!

なぜか、懐かしい心地いい でもホントは怖い“谷川マジック”の世界

菊地成孔

桜庭のPRIDE離脱、フジテレビショックの巨大クライシスから1年。変貌を遂げたマット界で開催された「Dynamite!! USA」と桜庭vsホイスの再戦から浮かび上がったのは谷川貞治プロデューサーによる世界た[illegible]その功罪と意味を菊地成孔が考える。

——今日は『Dynamite!! USA』のご感想をうかがいたいと思います。

菊地 えー。一切語ることはないんじゃないかな、と（笑）。

——そう言わずに（笑）。というのも、桜庭和志が『PRIDE』を離れ、『PRIDE』のフジテレビショックが起きたのは約1年前なんですね。

菊地 「たった1年でこんなに」って言う人が多いと思いますが、僕はこんなもんじゃないかと思ってました。そこは、『kamipro』のバックナンバーをお読みいただければわかると思いますが。

——桜庭和志を取り巻く状況もだいぶ変わったんですけど、菊地さんはホイス戦をどのようにご覧になったんですか?

菊地 地上派放送を観て一番ホッとしたのは、〝ワセリンですべった〟というアレが強調されなかったことです。活字では、そっちの報道が多かったじゃないですか。

——「ヌルヌル騒動、再び」という。

菊地 アレをアングルにするんだ……と思ったら、もう机に突っ伏しちゃって。ほとんど鬱病ぐらいのね（笑）。僕は、それがトピックになったと思ったから、その負のインパクトたるや。今年は格闘技の本を出すんですけど「もう格闘技批評はやめよう。筆を折ろう」と（笑）。

そこまでの衝撃でしたか!（笑）。

菊地 僕はこういうとこ（新宿歌舞伎町）に好んで住んでますんで、攻撃的で邪悪な感じってのかな。旧リングス・オランダみたいなさ。そういうムードはむしろ好きなんですけ

衝撃!! サダハルンバは〝明るい黒魔術師〟だった!?

武蔵は〝永遠の命〟と引き換えに何かを手放したんじゃないか?

ど、谷川氏のああいう感じは 生気を吸われる」っていうかな(笑)。ホントに、毎回ぐったりさせられるんですよね。

—まるで妖怪扱いですね(笑)。

菊地 谷川氏って、意外にちゃんと選手や興行の雰囲気をコントロールしてると思うんですよ。意識的にではなく、魔法で(笑)。なんていうかな、〝明るい黒魔術〟とでもいうか。

—〝明るい黒魔術〟?

菊地 みんなあの人に接すると、からかったり小バカにするじゃない? 反射的に。それは、あの人の根っこがあまりにも邪悪だからですよ。触るもの皆腐らせるしさ(笑)。

—ハハハハ! どんなプロモーターなんですか!

菊地 曙関だって(ボブ・)サップだって、悪魔の契約書にサインさえ交わさなければ、もうちょっと誇り高く生きられたんじゃないかと思いますよ いくらチキンハートで練習嫌いでもさあ。

— 試合直前にバンデージを巻いたまま逃げるのは相当ですね。

菊地 だから、5年殺し、10年殺しみたいな感じよね(笑)。契約したときは希望に満ちてるんだけど、5年後に腐っていう。いまの日本の社会って、ゆっくりした変化に凄く鈍感だと思うんです。急性の、激しい出来事に大騒ぎして、またすぐ忘れて。

— いまの年金問題もそうですよね。

菊地 まあ、国民性だと思うけど、最近は重傷化してると思いますよ。谷川氏はそういう時代背景にのさばる悪魔というか(笑)

—でも、谷川さんが触った瞬間、「これでうまくいく」と思ってる人間は多いですよ。

菊地 だから悪魔なのよ 朝になって魔法が解けたら、死体や廃墟なのよ。本当は怖いグリム童話(笑)

—曙(ぴあ)っていう本を読むと、どんだけ谷川氏が熱心に曙関を誘ったのか、谷川氏が曙関の心をつかむ過程が手に取るように伝わってくるんです。で、とうとうK-1にサインして「これから頑張るぞ!」ってところで終わるんですけど、その契機になるのがサップ戦でのKO負けというね。あと、僕は武蔵っていう選手は……って、あのー、今日話してることって、全部ミスティックな妄想ですからね。一応、念のため。んであの人は〝永遠の命〟と引き換えに何かをこう、手放したと思うんですよ。まあ、つまりは悪魔との契約でね(笑)。

—ああ、そのイメージはなんとなくわかりますね

菊地 んで、それ以来、あの人は時間も空間も止まったままだと思うんですね。

確かに武蔵はずっと武蔵で。

菊地 いま夜中にK-1が推奨する痩せるサウナスーツの通販番組が流れてて、オールスターなんですよ。須藤元気に、亀田のお兄ちゃん(亀田興毅)。どっちもけっこういい仕事するんですよね。二人ともタレント性あるから そんで最後に出たのが武蔵だったんですが、誰もが思いますよね。「できんのか?」と。とこーろーが「これが武蔵か!」ってくらい素晴らしい仕事をしてるんですよ。須藤と亀田をぶっ飛ばして、メインをきっちり締めてんの。「これだけ才覚やアピール力がある人なんだな。でも、悪魔と契約しちゃったんだな。永遠の命と引き換えに」と思いました(笑)。しかも全然老けないしさあ、あの人。

—それくらい妄想のし甲斐あるんですね。

菊地 とにかく谷川氏は怖いですよ、ホントに もはや石井館長の傀儡政権(※名目上は自立した政権だが、実際は別の支配者のあやつり人形的な役割)には見えないし。谷川氏ってのは、日本の興行史上初めて、活字上がり、つまりレスリング経験のないマッチメイカーとして、長期的な成功を収めている唯一の人ですよね。失礼ながら、最初はでくの坊のリリーフくらいに思われてた。でもいまや、石井館長の存在を忘れてしまうほど、谷川カラーが定着してしまった。まあ、今後いろいろとあるんだろうけどさ。

—確かにそうですね。

菊地 だから勢い、マッチメーカーのスキルとしては幼稚ってかさ、子どもの頃に受けた新日本プロレスや、漫画『空手バカ一代』のインパクトと、『格闘技通信』時代のシリアスな

そういえば……と誰もが納得しそうな、武蔵の〝永遠の命〟論。微妙な判定決着が多いことから、いまだにブレイク前夜というムードの武蔵は、今年でK-1デビュー12年目。このまま武蔵は武蔵であり続けるのか?

記憶をお子様ランチの皿の上に、無秩序に盛ってるだけだと思うんですよ。でもそこに谷川ブラックマジックがあって、今回の大会なんか見ようによっちゃあ、成功したIGFというかね（笑）。
——けっこうズンドコでしたし。
菊地　この大会には、誰もが指摘する笑える部分もいっぱいある。でも、指差してゲラゲラ笑ってるうちに、だんだんと怖くなってくるようなところを谷川氏は持ってる　たとえば、大会前半戦なんて「お客が誰も入ってないんじゃないか？」って思うわけじゃないですか。
　あのビジュアル・インパクトは凄いですよね。
菊地　これでもう"入場者水増し"っていう都市伝説がネット上にバーッと流通して、みんな興奮しますよね。ブラックマジックの真骨頂ね。あとはもうさぁ、カメラが客席を写すアングルが全部一緒で。「これ、新日本プロレスの北朝鮮興行の客席シーンの映像ソースなんじゃないの？」っていう（笑）。
——なんか、見事なカメラスイッチングでしたね
菊地　あんだけ広いところにカメラ置いてんだから、縦横無尽の角度で撮れたはずだけど（笑）　まあそんなのは序の口で、いろんな不思議なことが起こるじゃない　不条理みたいに。だからだんだんと「そもそもこの大会は行なわれてないんじゃないか？」というね　アポロはじつは月に行ってないという話と同じですよスタジオマッチやって、客席の映像ソースと、桜庭vsホイス戦は当然7年前のヤツで修正で、道衣だけ消してさ（笑）。「ちょっと怖いなあ」っていうおもしろさが出てきちゃうわけよ
　まあ、あの田村潔司が実況席にいる時点で、日本収録じゃないかという見方もできますし（笑）。
菊地　怖いなあ&おもしろいなあといえば、"歴史のねつ造"ですね　「グレイシー最強はホイス」とかさ（笑）。まあ、ここまでくると歴史のねつ造というより、不条理感覚だけど　突然流れるサップvs（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラ戦
　ウチの携帯サイトで地上派放送終了後にアンケートをやったんですけど、ベストハウトはユン・ドンシクの試合だったんですけど、第2位がダントツでサップvsノゲイラだった（笑）
菊地　確かに悪い試合じゃない（笑）ただ、ああいう番組を観ていると、誰もが、「人間って、ホントはすんごくバカなんじゃないか？」っていう気持ちを思い出して、イライラしながら、ちょっと救われた気持ちになる（笑）。インフレに苦しんでいたとはいえ、世界一理性的といわれるドイツ民族になぜ、ナチス・ドイツが定着したのか？　とか誰もが不思議に思うわけじゃないですか。最近だと、なぜイラクへ戦争に行くのか？　とか
　結局、イラクに大量破壊兵器はなかったのに
菊地　人類の総合的な動きって相当にトンマで、「こんなマンガみたいなものに誰がダマされるんだ？」ってプロパガンダにたくさんの人が惑わされる。で、結局「あんなもん、あんなもん」って言ってた人が、いつの間にか少数派になってるっていう構図。普通の人なら「グレイシー一族のホイスは最強」だとか「桜庭に復讐心を誓ってる」というTBSの煽りに対して「めちゃくちゃじゃないか」って思うわけですよ。
　普通の格闘技知識を持っていれば、思いますよね。
菊地　でも、抗議の電話を入れさせるような感じじゃないでしょ。ケンカでも相手を立ち上がらせちゃうのはヘタクソで、相手がバカ負けしちゃって何もしない、ってのが強いですよ（笑）「バカ負け」の対語だから「バカ勝ち」ですよ（笑）　文字どおりバカ勝ちがバ勝ちするんですよ。
　『PRIDE』は逆ですね　『PRIDE』はやけに攻撃的で挑発的だったじゃないですか。
菊地　そうそう。まったく正反対。でもFEGやTBSはバカ負けの世界だからこそ怖い　いま小中学生がこの番組を観たら、「ああ、そういうもんか」と勘違いしちゃうよね
　簡単にそうなるでしょうね。
菊地　田村と桜庭は同じ釜の飯を食った仲間　という、ヤケに省略化した説明を聞いたら、田舎の子たちは「ああ、田村と桜庭って仲いいんだ」ってストレートに思うもんねえ　でも、その省略の仕方も、マスメディアを使って巧妙に　こういうかたちで描けば、ここが潰れて、こいつはハズすことができる」とかさ、周到な操作を感じないんですよ。
——一言でいえば、雑なだけなんですよね
菊地　幼稚なわけよ（笑）。だからいまはオモチャみたいな"偽史"が目の前にある状態じゃないですか　で、ある種の誠実さを信じるならば、「こんなもんは伝わるわけがない」と「我々は『PRIDE』の歴史や格闘技の歴史をちゃんと知っている。あんなオモチャが後世に伝わったら終わりだ」と　だけど、そういう意味では終わってるんだよねえ、とっくに。人類史なんて、ずーっとコレ（幼稚な偽史）のバトンだから。で、

もう日本国民全員が谷川氏と契約して"みんなが武蔵にされる"

抜け目ない谷川さんは、アブダビ・コンバット3連覇など、グラップリング界の"怪童"マルセロ・ガッシア獲得にも成功してガッツポーズ！ 9月の「HERO'S」でデビュー予定だが、はたして"怪童"の運命は？

ホイス戦で、あの当時をフラッシュバックさせる動きを見せたサク。ひさびさの"顔の腫れない試合"でファンを安心させたが、ある意味で"永遠の命"を得たように見えなくもない。[illegible]

いっそサクもホイスも打撃主体の試合にすれば新鮮だったかもしれない

もう声高に「ヤバイぞ」って言う気もないから、ぐったりしちゃって、妙に楽しくなってくるんですよね（笑）。

――試合としてホイスvs桜庭はいかがでしたか？

菊地　いっそ、"二人ともブラジル式のトータルファイターになったんだ"と強調して、打撃主体の試合になれば新鮮だったかもしれませんね。

――スタイルが異なれば、当時の印象がよみがえってきますよね。

菊地　あの二人が打撃戦をすれば、かえって、あの頃は「炎のコマ」とか言ってたよな～。無限ラウンドの決闘なんちゃってな～。牧歌的な時代だったな～。でも、そっちのがよかったのかな～みたいなさ。そういうんだったら少しは楽しめたと思うんだけど。単純に抜けの悪い感じでしたね。嫌がらせしない桜庭なんて、空気みたいなもんですよ。ただね。ここまで言っておいてなんだけど、この大会トータルで観た気分は決して悪くないんですよ。凄く懐かしくて、のんびりしてて、いい感じで。そこが怖いし、谷川ブラックマジックなんでしょうけど。

――全体の印象が悪くないということは、みんなが口を揃えて言ってますよね。

菊地　番組のラストに「さあ、判定は？」と言いつつ、ガンガンテロップが流れて（笑）、手を挙げた瞬間に終わるっていうセンスは最悪なんだけど……、なぜか観終わった感じは妙にいい気分なんだよね「センスがいい」ことに、我々は飽きてる。疲れてるというか。だからセンスが悪いのが心地いい。インディープロレスなんかは、そういうのをワザとやる。そんなのはセンスがいいのと同じことです。FEGと谷川氏とTBSは、自然体でセンスが悪い国内最大の団体で、だからとても後味が懐かしく、心地いい（笑）。

――ズバリ、視聴者すら谷川さんと契約をしてしまったって感じなんですかね

菊地　谷川氏が、我々全員と契約を結んだというね。日本国民はみんな谷川氏によって武蔵にされる（笑）。

――日本国民総武蔵化！　それも悪くないですけど（笑）。

菊地　全員が「俺はこんなとこにいる人間じゃない！　来年こそ流れを変えるんだ！」って、永遠にやる気マンマンの顔のままで時間が止まっていて、死んでるから死なないっていう（笑）。まあ、UFCなりが地上波放送をもって反撃に出るまでは、この気分は続くと思うんですよ。UFCはセンスがよく、正史を背負ってる帝国だから。

――ただ、WOWOWも撤退したから、いまUFCも観られないんですよね。遠い国の出来事って感じで。

菊地　一瞬の谷間ってかね。変わった状況ですよね。ただ、そういう時期の気分として、しっかりと記録しとくべきことではあるんじゃないかな、と。

――わかりました。今日はいつの間にか谷川さんと契約してしまっていることに気づきました（笑）。

【07年6月10日／新宿・菊地氏の仕事場で収録】

“ミスター・現場主義”が
緊急入院で生観戦を断念！
獏さんが語った『Dynamite!! USA』

サクvsホイス、よかったねぇ〜（しみじみと）

『よかったねぇ〜（しみじみと）』で毎度おなじみ、世界を駆けめぐる“ロマン派”格闘ファンの獏さん。だが「現場で観なきゃダメ！」がモットーの獏さんも、今回は緊急入院で無念の現地観戦ならず！　そんな獏さんが（自宅で）観て、感じて、考えた桜庭vsホイス戦とは!?

聞き手／真下義之

夢枕 獏

ゆめまくら・ばく■1951年、神奈川県小田原市生まれ。小説家。77年のデビュー以来、キマイラ、陰陽師シリーズなどの話題作を発表。格闘技をテーマにした『餓狼伝』を20年にわたり執筆するなど格闘技への造詣は広く深い。99年『神々の山嶺』で第11回柴田錬三郎賞受賞。代表作に『陰陽師』など。

――今回は『Dynamite!! USA』のことをうかがわせてください！

獏　はいはい。よろしく〜。

――今回は〝いつ何時でも現場主義！〟がモットーの獏さんもさすがに現地には行かれてないようですね。

獏　今回は〝電波観戦〟だったね。でもね、じつは俺は現地観戦しようとしてたんだよ。もうチケットも航空券も買ってたんだから。

――あ、そうだったんですか！　さすが獏さんです！

獏　でも、そのタイミングで急に入院することになっちゃったんだよね。

――ええ〜！　入院!!　いったい何があったんですか？

獏　じつは〝尿管結石〟という、世界で一番痛い病気になってしまってね。『Dynamite!! USA』の裏で、俺は病院で電磁波の衝撃波を当てて、石を砕いていたわけですよ（笑）。

――ある意味、〝ダイナマイト〟な感じでしたか（笑）。

獏　これがもうねぇ……。ミルコ・クロコップのミドルを1秒に1発ずつもらうような痛みでしたから――（非常につらそうに）。

――たとえはよくわからないですけど、ハンパな痛みじゃなさそうですね。

獏　それで地上波放送の当日に退院したんだけど、最悪だったのは、うっかり『東スポ』で結果を見ちゃったことなんだよ〜！

――ハハハハハ！　石を砕く痛みに耐えながら、地上波放送を楽しみにしてたのにですか（笑）。

獏　俺は『東スポ』を心からうらみましたよ。俺も間抜けだから、つい日常生活のクセで、『東スポ』を見ちゃったんだよねえ。思わず「あっ！」と声を出しちゃいましたもん（笑）。

――ワハハハハ！　やっぱり〝現場主義〟が〝一番〟ですかね。

獏　ホントにそうだよ。やっぱり生で観なくちゃダメだねぇ〜！

しかし、チケットまで手配してたんですから、現地観戦のモチベーションは高かったわけですか？

獏　いや、それがモチベーションは微妙に低かったんだよ（笑）。日本ならば、必ず行くところなんだけどさ、今回は「観とかなきゃいけないかな〜」という使命感や義務感のほうが強かったかな。

――義務感でチケットを押さえるのも凄いですけどね（笑）。

獏　しかも、この大会はちょっと異常だったしねぇ。

――異常というと？

獏　会場が大きいこともあったんだろうけ

ど、あまりにガラガラだったじゃない。想像はしていたけど、あの光景のインパクトってやっぱり凄いねぇ。

――あの絵はドキッとしますよね。

獏　ただし！　試合のほうは、どれもよかったねぇ――（しみじみと）。だって素晴らしい試合ばっかりだったじゃない？　それで桜庭（和志）とホイス・グレイシーとの試合だって、いい試合だったのにさぁ、アメリカの観客がブーイングしていたのを観て、おまえら、バカだなぁ――と思いましたよ（笑）。

――アメリカの観客はバカでしたか（笑）。

獏　そこは桜庭の"極め"を楽しむところじゃないか！と。だから桜庭も負けた印象はなかったし、アメリカの見た目判定では、仕方のない部分はあるけど、俺が思うにはドローか、逆の判定でもいいと思いますね。

――ああ、そういう声も多いですね。

獏　ただ、ホイスが寝ているときに、昔の桜庭だったら、もっと攻めてたな、とか前回と比べて慎重すぎる部分はあったよね。まあ、観ているほうはそういう違いもおもしろいわけじゃない？　ただ、あの当時と違って、ホイスは実力的にもはやトップ中のトップとは言えないでしょ。

――マット・ヒューズに何もできず完敗してますし。

獏　でも、UFCの1回目なんて、ホイスは誰も知らない"柔術"という新兵器を持ってたわけだから。スペイン人がインカ帝国なんかを続々と滅ぼしていったみたいにさ（笑）。ただ、みんなが平等に武器を使えるようになったいま、もしかしたらホイスはトップグループの中にいるかもしれないけど、トップ中のトップではない。そんなホイスを相手に桜庭がどこまでやれるのかっ

ど、だって桜庭のいまのホイスの実力って誰もが知りたいじゃない？

――それに最近、不透明な試合が多すぎましたからね。桜庭らしい試合をやってほしいという意識はファンの中に高いです。

獏　もう微妙な試合ばかりでねぇ……。桜庭はもう弱くなっちゃったんだろうなぁ…と思わざるを得なかったし、確かに年齢的な衰えもあるんだけど、客観的な桜庭の状態を知りたいという意味で、ホイスはじつにいい相手だったんですよ。

――ある種、リトマス試験紙みたいな感じで。

獏　うん。それにホイスと桜庭って微妙に手が合うんだよ。だから、結果はともあれ「桜庭は、まだ引退しなくてもいいんじゃないか」っていう光明が見えたのが、俺にとっては勝ち負けよりもずっと大きかったね。

――その一方で、グレイシーらしさという点はいかがでしたか？

獏　う～ん。今回は1ラウンド5分でしょ。やっぱり持ち味を出すのは厳しいし、仰向けになって"猪木vsアリ状態"になって、どういうふうに引き込むか……っていう部分がホイスの見せ場ですから。だから寝技の攻防はもっと観たかった！

――そこは獏さん的にはもの足りなかったわけですね。

獏　うん。ただ、試合が終わったあと、すかさず桜庭が"いい顔"をして、ホイス側に挨拶に行ったじゃない？　あの場面はよかったねぇ～（しみじみと）。表面的にはもう因縁みたいなものはないんだなって思ったし。まあ、それだって相当、昔の話なんだけど（笑）。

――かれこれ、7年前の話ですからね。

獏　それに、両方とも勝ち続けてあの試合にたどり着いたわけじゃないし、ホイスも桜庭以外の人に負けてるじゃない。だからいまさら"グレイシー不敗神話"を持ち出すテレビ局は、どうなんでしょうね（笑）。

――そういう煽りVTRがガンガン流れてましたけど。

獏　結果的に両選手とも、ほどよく負けていたことが、ああいう特別なムードを引き出したし、あの試合で"グレイシー・ハンター"としての桜庭は完結した。そういう意味では格闘家・桜庭にとっての"締め"の試合の第一弾だったんじゃないの？

――ファイターとして総括的な意味合いも感じましたか。

獏　ただし！　名勝負という点では、最初の試合にはかなわないよねぇ。今回は、同窓会……と言ったら言い過ぎかもしれないけど（笑）。「どっちが勝つんだろう」っていうワクワク感はなかった。カードが決まったのが遅かったのも原因だろうけど。

――当初、ホイスの相手はマット・ヒューズという話もありました。

獏　谷川（貞治）さんは「マット・ヒューズ、貸してくれないかなぁ」なんてのん気に言ってたけど――まあ、UFCが貸すわけないよね、そんなもの（笑）。

――それで桜庭の今後に関してはいかがですか？

獏　う～ん、今回も体調を考えると、ホイスは試合に出ないほうがよかったんじゃない？　俺的には、もっと試合の数を絞って年に2回くらいでいいからキッチリ、コンディションを整えてほしいよ。

――今後は、ムチャしないペースでやってほしい、と。

獏　そうだねぇ。そしてアメリカ人には絶対にわからない、UWFから見続けてきた我々だけがわかる待望の試合――田村（潔司）戦を最後の最後に設定して、そこへ試合をこなしながら、ゆっくりゴールに向かって進んでほしいなぁ～。

――獏さんは、長らく桜庭vs田村戦を熱望してますもんね。

獏　そりゃあ観たいですよ！　世間がなんと言っても俺は観たい！「もう観たくない」とか「実現するのが遅い」とか、いろいろと言う人はいるだろうけど、俺は観たいんだから、いいの！（笑）。

――なるほど（笑）。

獏　そして！　一番言いたいのは……。

――一番言いたいのは？

獏　早く「PRIDE」が再開してくれないかねぇ――。いったいどうなってるの？

――ボクらも獏さんと同じ心境です（笑）。

（07年1月7日／電話取材にて収録）

獏さんも「もう因縁はないんだろうねぇ～」と語るとおり、『Dynamite!! USA』の前日会見の席では、ホイス、桜庭ともに笑顔を見せて、お互いに握手もするなど、7年前の決戦時のピリピリムードは感じられず。だが、試合後のホイスにはステロイドの陽性反応が出るなど、やはり簡単には終わらせてくれない"何か"がこの一戦には潜んでいるようだ。

破壊王三回忌追善特別企画

橋本真也入場テーマ曲

『爆勝宣言』を作った男が語る橋本真也

"ミスター・プロレステーマ曲"

鈴木修（音作家）

早いもので破壊王が亡くなってから、この7月11日で丸2年が経つ。そこで本誌は破壊王三回忌追善の意味をこめて、あの名曲『爆勝宣言』（橋本真也の入場テーマ曲）の作曲者である鈴木修さんにインタビュー。数多くのプロレステーマ曲を作曲し、"ミスター・プロレステーマ曲"と呼ばれる鈴木さんに、『爆勝宣言』の誕生秘話、そして、知られざる破壊王とのプライベートでの交流について語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ

今日は7月11日の破壊王三回忌を前に、名曲『爆勝宣言』の作曲者である鈴木さんに制作秘話や、さまざまなエピソードを語っていただきたいと思います！

鈴木　ボクも橋本さんとの思い出やエピソードはたくさんあるんですけど、プロレスラーとしてのイメージを考えると、それは決して公にしてはならないものだと思ってたんですよ。でも、『kamipro』さんで、天山（広吉）選手や西村（修）選手のインタビュー読んだら「あ、言っちゃっていいんだ」って思って（笑）。

――まぁ、そういったぶっ飛んだエピソードも込みで破壊王の魅力ですからね（笑）。そのエピソードはおいおい聞いていくとして。鈴木さんは破壊王をはじめ、数多くのプロレスラーのテーマ曲を作曲してますけど、プロレスのテーマ曲を作るようになったきっかけっていうのはなんだったんですか？

鈴木　ボクはもともといろんなテレビ番組の音響効果を担当していたんですけど、その流れで80年代後半から『ワールドプロレスリング』の音響効果も担当していたんです。それで番組で使ういろんな曲を選曲したり、東京近郊のテレビマッチだと、会場で入場テーマ曲の音出しとかもしていたんですね。

――元はテレビ番組のスタッフだったわけですか

鈴木　その中で、リングアナの田中（秀和）さんから、「今度、ビッグバン・ベイダーっていう選手が出るので、そのテーマ曲を選んでください」って言われて、ベイダーのテーマ曲を決めたりして。

――あのテーマ曲は鈴木さんが選んだんですかー

鈴木　あと、ベイダー初登場と同じ日に馳（浩）さんの日本デビュー戦もあったんで、馳さんの曲も選んで編集したりしましたね。大会当日は、「たけしプロレス軍団（TPG）」が出てきて、大暴動になっちゃって大変だったんですけど（笑）。

――モノが飛んだり、「（試合）やめろ」コールが起こったり（笑）。でも、ベイダーも馳さんもイメージにピッタリの曲で、凄く定着しましたよね

鈴木　そうやって、その選手に合った曲を選んで流すということをやってたんですけど、しばらくして橋本選手と蝶野（正洋）選手が海外から帰国することになって、彼らのテーマ曲も選ぶことになったんですよ。ところが、橋本さんはテーマ曲にえらいこだわりを持っていましてねぇ（笑）。

――ガハハハハ！　昔からやっぱり音楽にはこだわっていましたか。

鈴木　海外から帰ってきたばかりの若手なのに、やたらと音楽のことに口を出してくるんですよ。そして、ボクが最初に選んだ曲が、確か（89年4月24日の）東京ドームの試合で流れたのかな？　そしたら試合後、その曲がどうもお気に召さない、と。ボクは「合ってると思うんだけどな」って言ったんですけど、「イメージが違うんや！」ってムキになって怒ってね。

――ガハハハハ！　そんなクレームが来ましたか（笑）。

鈴木　彼が言うには「自分は将来、プロレス界を背負って立つ金の卵だ」と。「最強のトップスターには、ふさわしい曲というものがある」ってことらしいんですよ。

――いやぁ、気持ちがいいほど自意識過剰ですね（笑）。

鈴木　のちにホントにトップに立ったから凄いと思いますけどね。でも、そのときはボクと橋本さんは同い年ということもあって、二人とも意地になって「イメージが違う！」、「いや、この曲は合ってる！」って平行線をたどってしまってね。「じゃあ、越権行為だけど自分で選ばせてもらう！」って橋本さんが言うんで、ボクも「いいよ。そこまで言うなら自分で選べばいいじゃない」って言ってね。

――売り言葉、買い言葉のように。

鈴木　で、「どうやって選ぶんだ？」って言うから、「テレビ朝日のレコード室に4万枚ぐらい（当時）レコードがあるから、みんな聴いて、いいと思ったヤツを自分で選べば？　それを入場でかけるから」みたいなことを言ったら、新日本のスタッフの女性とレコード室にこもってね。何時間かしたら出てきて「これこそが俺のイメージだ！」

「これこそ俺のテーマ曲にふさわしい！」って橋本さん自身が最初に選んできた曲は映画『フットルース』のサントラでした（笑）

まさに"ミスター・プロレステーマ曲"！鈴木修作曲の主な作品

『RISING』
藤波辰爾のテーマ

『爆勝宣言』
橋本真也のテーマ

『HOLD OUT』
武藤敬司の旧テーマ

『MUTA』
グレート・ムタの旧テーマ

『FANTASTIC CITY』
蝶野正洋の旧テーマ

『POWER』
佐々木健介の旧テーマ
（現・中嶋勝彦のテーマ）

『SAMURAI』
越中詩郎のテーマ

『Mr.B.D.』
後藤達俊のテーマ

『TERRIBLE GIFT』
エル・サムライのテーマ

『GRAND SWORD』
小橋建太のテーマ

『THRUSTER』
田上明の旧テーマ

『STYLUS』
小島聡のテーマ

『MUTA2006』
グレート・ムタのテーマ

89年に凱旋帰国した破壊王。当時はパンタロンだけでなく、ときたまショートタイツで登場することもあった。この頃から音楽へのこだわりは尋常じゃなかったのだ

ってレコードを持ってきたんです。それが『フットルース』っていう映画のサントラなんですよ。

――ダハハハハ！　ベタすぎるぐらいベタな映画サントラですね（笑）。

鈴木　まぁ、選曲をやる人間からすると、有名な映画のサントラなんて、一番安易な選曲で、それこそトップに立つ男が使うようなもんじゃないと思うんですけどね……。しかも、そのアルバムの中の『ネバー』っていう曲で。元ピンクレディーの未唯がカヴァーしてたあの曲ですよ（笑）。

――ドラマ『不良少女と呼ばれて』のテーマソングだったあれですね（笑）。全然、イメージに合わないじゃないですか！

鈴木　でも、本人は「これこそ俺のイメージにピッタリだ！」って言うんで、テレビ中継のあった戸田市民体育館の試合で使ったんです。でも、案の定、会場は微妙な空気になるわけですよ。

――破壊王が「♪ネバ、ネバ、ネバ、ネバ、ネバ～～」なんて曲で入場してきたら、そりゃ微妙な空気にもなりますよね（笑）。

鈴木　本人もその空気を敏感に察知したのか、試合後すぐに、汗も拭かずにボクが音出ししていた体育館の2階に上がってきて、開口一番、「すいませんでしたぁ！　言うこと聞きますから、俺に合った曲を選んでください！」って頭下げるんですよ（笑）。

――ダハハハハ！　これまた気持ちいいぐらいの全面降伏ですね（笑）。

鈴木　それで仲直りみたいな感じになって。ボクのほうから「じつは、いまモチベーションが高まるようなフレーズを自分の中で温めてるんだけど、それを一つの曲にしてテーマ曲を作ったら、使ってくれる？」みたいな話になって、そうやって生まれたのが『爆勝宣言』だったんですよ。

――なるほど。橋本さんと鈴木さん、双方のこだわりから生まれた曲だったんですね。

鈴木　そうですね。この『爆勝宣言』と藤波（辰爾）さん、蝶野（正洋）さんのテーマ曲なんかを収録したミニアルバムが、初めて出たボクのCDでもあったんで、自分でも凄く思い入れがありますね。

――『爆勝宣言』ができあがったときの橋本さんの感想っていうのは？

鈴木　嬉しいことに、「これはいいよ」って喜んでもらえて　ボクも「気持ちを高めるフレーズが入ってる曲だから、絶対にこの曲、ずっと使ってよ」なんて言ってね。

――実際、橋本さんは亡くなるまでずっと、『爆勝宣言』を使い続けましたもんね

鈴木　それで、『爆勝宣言』を作ってから、ちょうど1年ぐらいして武藤さんが凱旋帰国してきて。武藤さんのイメージで『HOLD OUT』を作って、そのあと佐々木健介選手の『POWER』を作って、そのあたりから音響効果の仕事より作曲の比重が大きくなってきて、新日本の選手のテーマ曲を作曲させていただくようになったんですね。

――ということは、橋本さんのテーマ曲への異常なこだわりが、〝ミスター・プロレステーマ曲〟鈴木修を生んだようなところもあるんですね。

鈴木　結果的にそうですね。だからホントに橋本さんとの出会いで自分の人生が大きく変わったんですよ。ボクは『ワールドプロレスリング』の音響効果として、テレビ中継がある会場には全国どこでも一緒につい

ていって、会場で音出ししたりしてましたけど、自分が作った曲を流すっていうのは、気持ちいいものでしたしね。あとツアーで回ると、橋本選手もああいう性格ですから、悪乗りしていろいろ遊んだりね(笑)。

　まぁ、毎日か修学旅行みたいな人ですからね(笑)。

鈴木　それからツアーが終わって東京に帰ったあとも、ボクは早朝番組とか『ニュースステーション』などの音響効果をやっていたんですけど、空いた時間に新日本の道場に顔を出すと、だいたい橋本選手とライガーがいるんですよ。

　その二人が道場で例によって遊んでるわけですね(笑)。

鈴木　そうなんです(笑)。それで自分が行くといつも歓迎してくれて、ちゃんこ食べさせてもらったり。あと橋本さんは必ず「風呂入ろう」って言うんで、道場の風呂に一緒に入ったりしてましたね。

　じゃあ、道場での橋本さんのイラズラなんかも目撃されてたんですか?

鈴木　毎回目撃してましたよ。空気銃とか(笑)。

　あのスズメとかを撃っていた空気銃ですね。

鈴木　ボクはあんまり被害に遭わなかったけど、若い選手はよく撃たれてましたねぇ。ボクは当時、1500ccの大きなバイクに乗ってたんですけど、橋本選手が小原(道由)選手に「おまえ、ちょっと鈴木さんの後ろに乗せてもらえよ」って言うんで、小原選手を乗せて道場の周りを走ってたんですよ。そしたら小原選手が急に「いてぇ! ぎゃあ!」とか悲鳴をあげたんで、なんだろうと思ってバックミラーを見たら、物陰から大きな男がヒザをついて、ライフルを向けているのが見えたんですよ。

――ダハハハハー　太ったスナイパーがいましたか(笑)。

鈴木「やっぱりおまえの仕業か!」みたいな。しかも、ご存知のとおり改造してるから、スズメとか撃つと死んじゃうぐらいの威力がある銃ですからね。

　殺傷能力があるモデルガンですからね(笑)。

鈴木「捕まるぞ、おい」って言いましたよ(笑)。あのライフルにはいろんな選手が被害に遭ってましたねぇ。あとは、よく多摩川で、網を使って魚を獲る習性があってね。

　橋本さんの投網も有名ですよね。

鈴木　このときも「法に触れてるぞ!」、「漁師じゃないんだぞ!」って言いましたよ。でも、ボクも一緒になって網の投げ方を教わって……。

　結局、一緒にやってましたか(笑)。

鈴木　ホント楽しいんだけどね、子どもに返ったような感じで。でも、これも被害者が多くて。ある日、天山選手を連れて投網に行ったとき、ナマズが獲れたんですよ。橋本選手は「ほら、獲れた」なんて喜んでたんですけど、その大きなナマズがスルスルッて網のあいだから逃げちゃって、川の窪みに隠れちゃったんです。それで手を伸ばしても届かないから「おい、山本!(天山の本名)タモ買ってこい!」って言って。

――突然、「タモ買ってこい」ですか(笑)。

鈴木　それで天山選手が「タッ、タモッスか? どこで売ってるんですか?」って聞いたら、「バカ野郎! 探せよ!」とか怒られて、天山選手は大急ぎで駅前を探し回ったらしいんですけど、1時間ぐらいして「すいません! タモ売ってませんでした!」って戻ってきたら、「バカ野郎~!」って凄い剣幕で怒られてね。

橋本さんが作った替え歌のせいで、武藤さんはボクが作ったテーマ曲を変えてしまったんです!

90年代半ば、IWGP王者時代の破壊王の自宅を訪ねたときのショット。このとき鈴木さんは破壊王から「俺はずっと『爆勝宣言』を使い続けるからな」と言われたという

長髪に甘いマスク、赤のショートタイツに白のリングシューズ姿で、女性ファンに大人気だった90年代前半の武藤。唯一の悩みは徐々に薄くなっていく頭頂部だったが……。破壊王はおかまいなしに「♪む～と～ちゃんはハゲる～」とのんきに歌っていたのだ。

　自分で無理難題を吹っかけておいて(笑)。

鈴木　だからボクも「もうそれぐらいにしてやんなよ」って言ったら、「バカ! こっちはナマズが獲れるかどうかの瀬戸際なんだよ!」って怒鳴られてね。なんの瀬戸際なんだって話ですけど(笑)。それで延々、説教したあと、時代劇みたいに「今日のところはこれで勘弁してやる」って吠えて帰りましたからね。

――ガハハハハー　破壊王の遊びへのこだわりは凄まじいですね。

鈴木　ホント凄まじいですよ。西村(修)選手と3人で川で遊んでるときも、橋本選手は体重も力もあるから、増水した川の中をどんどん進んでいくんですよ。ボクは岩にしがみつきながら、なんとか橋本さんが

ボクが新日本のテーマ曲制作から外れたとき「ほかの連中が曲を変えても、俺は『爆勝宣言』を使い続けるからな」って言ってくれたんですよ

いるところまで行ったんですけど、西村選手は岩のないところだったんで水に流されちゃったんです。そしたら「バッカ野郎！　プロレスラーがこんな水ごときに流されやがって！　鈴木さんは素人なのにここまで来てるんだぞー！」って、ボコボコにして怒ってね。もうかわいそうったらありゃしない。

——西村さんは、そんなことで食らわされてましたか（笑）。

鈴木　いい被害者ですよ。あとは、橋本選手が替え歌をよく歌ってたのは知ってますよね？

——はい。各選手のテーマ曲に勝手に歌詞をつけて歌ってたんですよね（笑）。

鈴木　あれはホントにテーマ曲を作った人間にとっては迷惑でね、カッコイイ曲を作っても、橋本さんのとんでもない歌詞のおかげで、曲のイメージが変わっちゃうんですよ（笑）。

——ダハハハハ！　武藤さんのテーマ曲に合わせて「♪む〜と〜ちゃんはハゲる〜〜」とか歌ってたわけですからね（笑）。

鈴木　だから武藤さんは、あの橋本さんが歌ってる歌詞が頭から離れないってことで、結局テーマ曲を変えてしまったと認識しています!!

——えぇ〜〜〜っ!!　そんな理由であの名曲『HOLD OUT』は変えられちゃったんですか!?

鈴木　そのはずです。プロレスラーっていうのは、自分の入場テーマ曲を聞いて気持ちを高ぶらせてリングに向かっていくわけじゃないですか。でも、武藤さんはその大事な気持ちを高ぶらせるときに、橋本さんの歌詞がどうしても頭に浮かんじゃうってことで「申し訳ないけど、テーマ曲変えさせてもらうから」ってことになってしまったと信じてますよ。もう、ボクからしたら、悔しくて悔しくて。

——まぁ、武藤さんにとっては、試合のたびに「♪む〜と〜ちゃんはハゲる〜〜」って思い浮かんだら、やってられないでしょうけどね（笑）。

鈴木　だから橋本選手に「あんたのせいだ！」って言ったら、さすがに「申し訳ない」とは言ってましたけどね。でも、橋本さんが亡くなったあと、武藤さんはまた『HOLD OUT』をいろんな機会で使うようになったんですよね。それでボクのところに「2007年バージョンを作ってくれ」っていう依頼が来たんですけど、その理由っていうのが「あの曲を聴くと、橋本のことを思い出すんだよ」って言ってたんですよね。

——それはいい話ですねぇ！

鈴木　だから天国の橋本さんも喜んでくれてるんじゃないかな。この2007年バージョンは、ギターでフレーズを弾いてるんですけど……まあ、自画自賛ですけどね、これはいい曲できたなって思ってます（笑）。

——鈴木さんは、90年代後半くらいから、新日本ではなく全日本プロレスの入場テーマ曲を作るようになりましたけど、そのきっかけはなんだったんですか？

鈴木　あれはですね、いまのウッド・ベルの鈴木敏さんという方が新日本の音楽をやることになって、ボクは必然と新日本から離れていったんですよ。ちょうど橋本さんがIWGPのチャンピオンだった頃なんですけど、橋本さんの自宅に遊びに行ったとき「残念だけど、もう俺は新日本の音楽をやる機会がなくなっちゃったんだよ」って伝えたら、「ほかの連中が（テーマ曲を）変えても、俺はずっと変えずに頑張るからな」って言ってくれてね。

実際、ほとんどの選手がウッド・ベル

制作の新テーマに変わる中、橋本さんは最後まで『爆勝宣言』を使い続けましたよね

鈴木　あれは嬉しかったですね　それだけじゃなくて、橋本選手は「鈴木修のほうから新日本を裏切ったわけじゃないんだから、いいじゃん。これからは全日本の曲を作んなよ」って言うんですよ。

——へ〜。橋本さんの進言だったんですか。

鈴木　ボクはもともと全日本の木原（リングアナ）さんとは、音楽を通じて付き合いがあったんですけど、木原さんのほうも「新日本の曲を作ってる鈴木さんに、全日本のテーマを頼むのは新日本さんに対して不義理になるから、お願いは控える」って言ってたんですよ。それが橋本さんの助言もあって、木原さんにお話ししてみたら、「そういうことならお願いします」っていうことで、全日本の選手のテーマ曲を作ることになったんです。それで橋本さんに「誰の曲を作ったらいいかな?」って話したら、「もちろんあれしかないだろ、小橋（建太）だよ。小橋の曲やんなよ」って言って、そういった経緯があって、小橋選手と田上（明）選手の曲をまず作ったんですよ

——そうだったんですか。小橋さんもそれまでは、なかなかイメージに合ったテーマ曲が定着しませんでしたけど、鈴木さんが作った『GRAND SWORD』は定着しましたよね。

鈴木　ちょうど小橋さんが全日本の三冠チャンピオンとして、真のトップレスラーになったときでしたからね。ただ、それだけに小橋さんもまた、オリジナルテーマ曲作成に際しては、相当なこだわりがあって……（苦笑）。

——橋本さんに続き、小橋さんもこだわり派でしたか（笑）。

鈴木　最初の曲は、即ダメ出しされたし。ホントに必死で作りましたよ。小橋さんもね、早く体調戻して復帰して頑張ってくれるといいんですけどね。橋本さんが亡くなってしまったいま、いつか武藤さんと小橋さんの試合が実現して、『HOLD OUT』と『GRANDSWORD』が一緒にメインイベントで流れるのがボクの夢ですから。

——作曲した人間にとっては、たまらないシチュエーションでしょうね。『爆勝宣言』もこれまで大一番で幾度となく流されてきましたけど、鈴木さんが一番印象に残っている『爆勝宣言』というと、どの試合ですか?

鈴木　う〜ん、感動した入場はたくさんあって、なかなか選べないんですけど。たくさん流れた後楽園ホールが一番覚えていますが、IWGPのベルトが武藤さんから高田（延彦）のもとに移って、それを橋本さんが取り返した試合（96年4月29日、東京ドーム）。それと小川直也選手と二度目にやった試合（97年5月3日、大阪ドーム）。あとは……、あー一番印象に残ってるのはあれだ。橋本&蝶野vs猪木&坂口の東京ドームの試合ですね。

——90年2月10日ですね。

鈴木　そうです。ゴールデンタイムで特番が組まれて、視聴率が20パーセントを超えてね。あのとき、橋本選手と蝶野選手の曲をつなぎ合わせて作ったんですよ。

——二人の合体テーマ曲でしたけど、あのアレンジも鈴木さんがされたんですか?

鈴木　どちらもボクが作曲した曲ですからね。あんな大きな会場のメインイベントで流れて、気持ちよかったですね。ボクはあの日を境にプロレス界が変わったと思うんですよ。ホントの意味で、世代交代というか。橋本選手なんか、それこそ猪木さんと坂口さんをぶっ壊すぐらいにガツンガツン攻めて。あれ見て「やっぱり橋本は天下を獲る男だ。いや、もう獲ってるんじゃないか?」って思いましたね。試合前の控室でのインタビューも傑作だったし（笑）。

——破壊王が「時は来たぁ!」って叫んだやつですね。あれも伝説ですよね（笑）。

鈴木　あのときね、普通だったら緊張して

90年2月10日、東京ドーム。[illegible]全日本プロレス勢が参戦し、異常な盛り上がりを見せ[illegible]の大会のメインで、若い破壊王&蝶野が大健闘[illegible]猪木&坂口の[illegible]破壊王は雲の上の存在であるはずの猪木&坂口に容赦ない攻撃を加え大物ぶりを見せつけた。このとき入場で流れたのが鈴木修さん作曲の破壊王と蝶野の合体テーマ曲[illegible]

ガチガチなはずなのに、橋本選手は余裕しゃくしゃくで、「時は来たぁ！　それだけだ」って言ったあと、「こんなもんでよかったかな？」って話しかけてきたりしてね（笑）。肝が据わってるなって思いましたね。

――そういえば、『爆勝宣言』を作る際、鈴木さんは橋本さんから「『（イノキ）ボンバイエ』を超えるもん作ってみろ！」って言われたという話を聞いたことがあるんですけど。

鈴木　ああ、確かに言われましたね（笑）。まぁ、『ボンバイエ』は素晴らしい曲ですし、超えたかどうかはわかりませんけど、この曲を聴くとい橋本選手をすぐに思い出すような曲ができて、それに携われたのは良かったなとは思いますね。

――ホント、あの曲と橋本さんは切っても切れない曲になりましたよ！

鈴木　ありがとうございます。そう言っていただけると嬉しいですけどね。そういう関係もあって、橋本さんはボクが言うことをね、わりと聞く耳を持ってくれて。「時は来たぁ！」の頃は、髪型がオカッパで金太郎みたいな感じだったんですけど、「横と後ろはウエーブをかけて、ボリューム持たせたほうがいいんじゃない？」って言ったら、髪型を変えたりね。

――あのヘアスタイル変更は鈴木さんのアドバイスだったんですか。

鈴木　そう。橋本さんはホントは直毛なんですよ。それを「頂点目指すんならそのキャラクターは違うんじゃない？」みたいなことを言って、帯の長さとかハチマキの長さとか、いろんなアドバイスを聞いてくれましたね。

橋本さんの家に遊びに行ったとき、沢田研二の魅力について一晩中語りあったこともあったなぁ

橋本さんの家に遊びに行ったときは、「世界最強の動物は何か？」とか「沢田研二の魅力について」一晩中語り合ったことも、よくありましたよ（笑）。

――橋本さんはジュリーが大好きですからね（笑）

鈴木　ボクらは同い年ですから、やっぱり沢田研二に憧れた世代なんですよ。「『カサブランカ・ダンディ』はカッコいいよね」とか「やっぱり『勝手にしやがれ』は最高の名曲だよね」とか、とりとめもない話で夜通し語り合いましたねぇ（しみじみ）。ただね、いま思うと橋本さんはね、慢性的に睡眠時間が短かったんじゃないかな。いつも寝るのは外が明るくなってからだから。それが結局命を縮めて……。睡眠時間が少ないのは当時からホントに心配してましたよ。

――寝る間も惜しんで遊んでたわけですよね（笑）。

鈴木　だからそのぶん、他人の何倍も人生を楽しんだのかもしれないけど。もうちょっと身体を気つかってほしかったな。ZERO-ONEを旗揚げしたあとは、会うといつも脂汗をかいていて顔色悪かったから。橋本さんとは、晩年は一緒に遊ぶ機会も少なくなってたんですけど、「もうちょっと歳をとって時間ができたら、また一緒に遊ぼう」って話してたんですよ。でも、結局それは実現しないまま亡くなっちゃって……、もの凄く悲しかったですね。

――……。

鈴木　お通夜のときには、変わり果てた姿になっちゃってて。もう冷静な判断ができなかったですね………、ホントに友だちが亡くなるってこんなに気持ちの整理がつかないことかと思ってね。いまでも信じられないというか、ファンの人でも、いまだに亡くなった感覚がない人って多いんじゃないかな

――そうですね。

鈴木　またどっかで生きてるっていうかね。だからいまでも多摩川とかに行くとね、いるような気がしますよ。

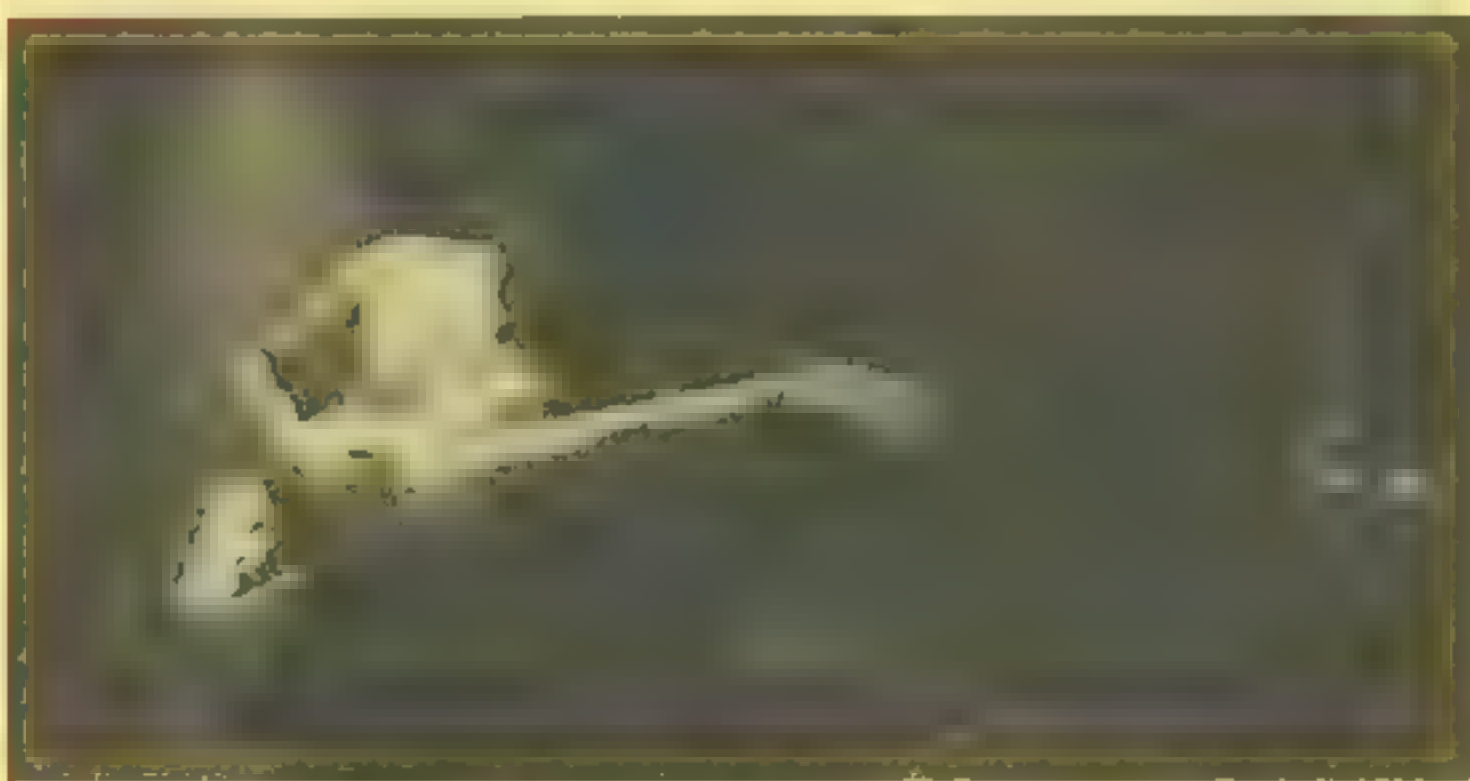
――遊んでるような気が。

鈴木　そう、昔と同じように遊んでるんじゃないかって。橋本さんの魂はあのへんにいるかのかもしれない（笑）。

――まだ成仏できずに川で遊び続けていますか（笑）。

鈴木　もしくは、あっちの世界に行っても、いろんな人を巻き込んで遊んでて、いろいろ迷惑かけてるんじゃないかな（笑）。そんな気がして仕方がないですよ。

【07年5月26日／静岡県・沼津産業プラザにて収録】

05年12月31日、吉田秀彦との世紀の一戦で、小川直也はこの年に亡くなった盟友・破壊王を背負い、白いハチマキ姿で入場　PRIDEの会場に『爆勝宣言』が鳴り響いた　このとき「『爆勝宣言』は『ボンバイエ』を超えた」という人も多い

すずき・おさむ■1965年、静岡県出身。作曲、演奏、音響効果を生業とし「音作家」を名乗る。86年、10.9『INOKI闘魂LIVE』よりテレビ朝日『ワールドプロレスリング』の音響効果を担当。テーマ曲選曲にも携わり、ビッグバン・ベイダー、馳浩、ソ連レッドブル軍団（イゴール・ボブチャンチンも使用）などのテーマ曲は、彼の選曲・編曲によるものである　90年代には闘魂三銃士をはじめ、数多くのテーマ曲を作曲。90年代後半からは全日本プロレス、プロレスリング・ノアの選手入場テーマも手がけ、ファンからは"ミスター・プロレステーマ曲"と呼ばれている

大人越
大注目!
IGF情報も完全網羅!!
kamipro

PANCRASE 2007 RISING TOUR

7.27(金)後楽園ホール

NOW ON SALE OPEN 18:00 START 19:00

ウェルター級キング・オブ・パンクラス タイトルマッチ

第13回ネオブラッド・トーナメント決勝戦

ミドル級決勝戦
(和術慧舟會RJW) **藤井陸平** [2R] **岩見谷智義** (高田道場)

ウェルター級決勝戦
(和術慧舟會A-3) **ヨシロックT** [2R] **高田谷悟** (格闘技吉田道場／予選優勝)

ライト級決勝戦
(パンクラスP's LAB東京) **五十里祐一** [2R] **松本晃市郎** (今田道場／予選優勝)

フェザー級決勝戦
(P's REAL) **宮城友一** [2R] **吉本光志** (AJジム)

特別試合

ライト級戦
(K.I.B.A.) **昇侍** [3R] **ホゼ・アルド** (ノヴァ・ウニオン／bodog／初参戦)

フェザー級戦
(パンクラスP's LAB東京／2位) **志田幹** [2R] **ジョン・ジンソク** (ジョンソク柔道道場／初参戦)

他に、坂口征夫(TEAM坂口道場) 出場予定!

9.5(水)後楽園ホール

6.30 ON SALE OPEN 18:00 START 18:30

ミドル級王座 次期挑戦者決定戦

(SKアブソリュート／1位) **竹内出** [3R] **ブライアン・ラフィーク** (ジュカオ・アシル・チーム／bodog／2位)

出場予定選手：佐藤光留、金井一朗、川村亮(以上パンクラスism)、**松田恵理也**(TEAM坂口道場)

9.30(日)梅田ステラホール

7.7 ON SALE OPEN 15:00 START 16:00

●チケット料金(当日券は一律500円増しとなります) ●お問い合せ：パンクラス (03)5792-0815
後楽園ホール：SS･¥12,000 A･¥8,000 B･¥6,500 C･¥5,000 D･¥4,000
梅田ステラホール：SS･¥8,500 A･¥6,500 B･¥5,000

パンクラス アマチュアジム「ピーズ・ラボ」
東京／横浜／大阪で会員募集中! お問い合わせ：(03)5792-7079
東京と横浜では開設10周年記念キャンペーン中(8月31日まで)につき、入会金0円&先着20名様にオープンフィンガーグローブプレゼント!

●主催：(株)ワールドパンクラスクリエイト ●後援：インデックス、スカイ・A、ドン・キホーテ、STC GROUP ●特別協賛：bodogFIGHT ●お問い合せ：パンクラス 03-5792-0815 http://www.pancrase.co.jp/

パンクラス、テレビ観戦は スカイ・A sports+で! 全大会をどこよりも早く!

※都合により、放送日時は変更となる場合があります。

7月 1日(日)24:00～26:00	▶ 02.08.25	梅田ステラホール大会
7月 8日(日)21:30～23:30	▶ 02.09.29	横浜文化体育館大会
7月 9日(月)24:20～26:20	▶ 02.10.29	後楽園ホール大会
7月10日(火)24:20～26:20	▶ 07.03.18	後楽園ホール大会
7月12日(木)20:00～22:00	▶ 07.04.27	後楽園ホール大会
7月22日(日)24:30～26:30	▶ 07.05.30	後楽園ホール大会

スカイ・A sports+をご覧いただくには

お近くのケーブルテレビ

e2 byスカパー！

スカパー！ スカパー！えらべる15
「よくばりパック(3500円)」から15ch選べる「えらべる15(2800円)」がお得です！

最新情報は www.sky-a.co.jp

するクワ⚡レスラー
面、見参!

UからMへ!!

あの垣原賢人が大変身! カッキーいったいどうしちゃったんだ!?

昨年5月、頚椎の怪我で現役を引退したカッキーこと垣原賢人が大変身!! なんと現在、ミヤマ☆仮面に変身し、本物のクワガタ同士を闘わせる『クワレス』を主宰。クワガタを通じて、子どもたちに自然保護を訴えていたのだ。現役時代から大のクワガタ好きで知られていたカッキーだが、まさか"クワレスラー"に変身していたとは……。本誌前号の『虫王』新堂冬樹インタビューを見て「虫といえば僕でしょう!」と、敢然と名乗りを挙げたミヤマ☆仮面のすべてを大公開します!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／戸成嘉則

森とクワガタを愛す

ミヤマ☆仮

—今日は神奈川県下にクワガタの化身が現われると聞いて、さがみ湖ピクニックランドまでやってきたわけですけど、あなたが噂のミヤマ☆仮面ですか？

ミヤマ☆仮面（以下、ミヤマ） はい。森とクワガタを愛するクワレスラー、垣原賢人あらため、ミヤマ☆仮面です。クワクワ。

—く、クワレスラーですか……。

ミヤマ 元UWFインターの垣原が、なぜマスクマン、しかもクワガタなんだ？って、皆さん疑問に思われるでしょうね。

—ええ、垣原選手がクワガタ好きというのは、現役時代から知られてましたけど。

ミヤマ じつは私、昨日今日ミヤマ☆仮面になったわけでなく、7年前からずっとミヤマ☆仮面なんですよ！

—どういうことですか!?

ミヤマ じつはクワガタ専門誌、その名も「KUWATA」という雑誌がありまして（笑）。その雑誌でミヤマ☆仮面はいろんなところにクワガタを捕りに行く連載を2000年からやっているんです。そこでは正体は明かさず、あくまで正体不明のマスクマンという設定だったんですけどね。

—じゃあ、新日本プロレスのリングに上がりながら、シリーズオフはミヤマ☆仮面としても活動していた、と。

ミヤマ ええ。全日本プロレスにいた頃（90年代後半）からですね。

—そんなに前から！ じゃあ、ミヤマ☆仮面のかたわらに、プロレスやってるぐらいの勢いですね（笑）。

ミヤマ まぁ、僕の身体はどこを切ってもプロレスかクワガタしか出てきませんから（キッパリ）。

—プロレスとクワガタだけで構成されてる（笑）。

ミヤマ　だから、去年の5月に頚椎ヘルニアでプロレス引退になって、「これからの人生どうしよう？」というときも、もう必然的な感じでクワタガの仕事をしよう、と。

――つあった片方がなくなったわけですしね（笑）。

ミヤマ　ええ。それにボクはマスクマンも好きで、スーパーストロングマシンさんの大ファンでしたから、マスクマンになるのは昔からの夢だったんですよ。だから、ミヤマ☆仮面以外にもこんな活動もしていたんです（と資料を出す）。

――うわ！　なんですか、これ!?

ミヤマ　じつはプロレスラーと並行して福祉活動もしていたんです。そして、この広報紙に載ってる"ポッポ君"というキャラ。これも僕なんですよ！

――ポッポ君……。こんなファンシーなキャラにもなってましたか。

ミヤマ　これはミヤマ☆仮面よりさらに古くて、98年からですね。（獣神サンダー・）ライガーさんばりの全身コスチュームで、神奈川県下の児童養護施設とかを回る活動をしてました。

――それ、リアル・タイガーマスクの世界じゃないですか！

ミヤマ　そうかもしれないですね。あくまで自発的に、いろんな施設を回るうちに「こういう活動、向いてるなぁ」って思ってたんですよ。これは本邦初公開です。

――いや～。驚きましたね。

ミヤマ　だからUWFのイメージが残っているファンからすると、ミヤマ☆仮面を見て、「カッキーどうしちゃったの？」って思うでしょうけど、じつは昔からこういうことをやってたんです。むしろリング上こそ、仮の姿だったんじゃないかって（笑）。

――ミヤマ☆仮面こそ、真の姿（笑）。

ミヤマ　だって、安生（洋二）さんたちがゴールデン・カップスで、バラエティ番組に出たりしていた頃、あれを観て、「俺もやりたい！」って言ってたのが、僕と髙田（延彦）さんですから！

――ダハハハハ！　髙田さんはゴールデン・カップス入りを希望していた!!

ミヤマ　だから、皆さん髙田総統が最初に『ハッスル』に登場したときに驚かれたでしょうけど、ボクは驚かなかったですね。あ

衝撃スクープ！　これがカッキーのもう一つの"真の姿"ポッポ君だ！　かわいいマスクに不釣り合いな鍛え上げられた肉体。この姿でカッキーは保育園や養護施設を訪れ、福祉活動を続けていたのだ

れはホントに素の髙田さん、まさに"六本木の髙田さん"そのものですし。それと同じ意味で、ミヤマ☆仮面も素の垣原賢人そのものなんですよ！

――いやぁ、知られざるUの真実ですねぇ（笑）。そういえば、新日本での引退試合でも、試合後に周囲がしんみりしてる中、主役の垣原さんだけは、挨拶もそこそこに、クワレスのリングを持ちだしてましたね。

ミヤマ　挨拶よりも「これを見ろ！」って感じで（笑）。というのは、僕はプロレスラー時代に首のケガでさんざん悩んでたんですね。もう引退する2年前から主治医に試合は止められてたんです。でも、言うことを聞かずにやり続けてたんですけど……。日に日に手のシビレが激しくなったり、首の痛みも激しくて、巡業中は夜も寝られなくなって。

――そんなに追い詰められてたんですか。

ミヤマ　首がずっと張ってるから、薬を飲んで筋肉を柔らかくしないと眠れない。そんな状態でリングに上がってたんです。だから、ボクの中ではその2年間、体調とケガに苦しんで、涙もたっぷり流して悩み抜いてきたんで、引退を決めた時点で、完全に吹っきれてたんですよ。

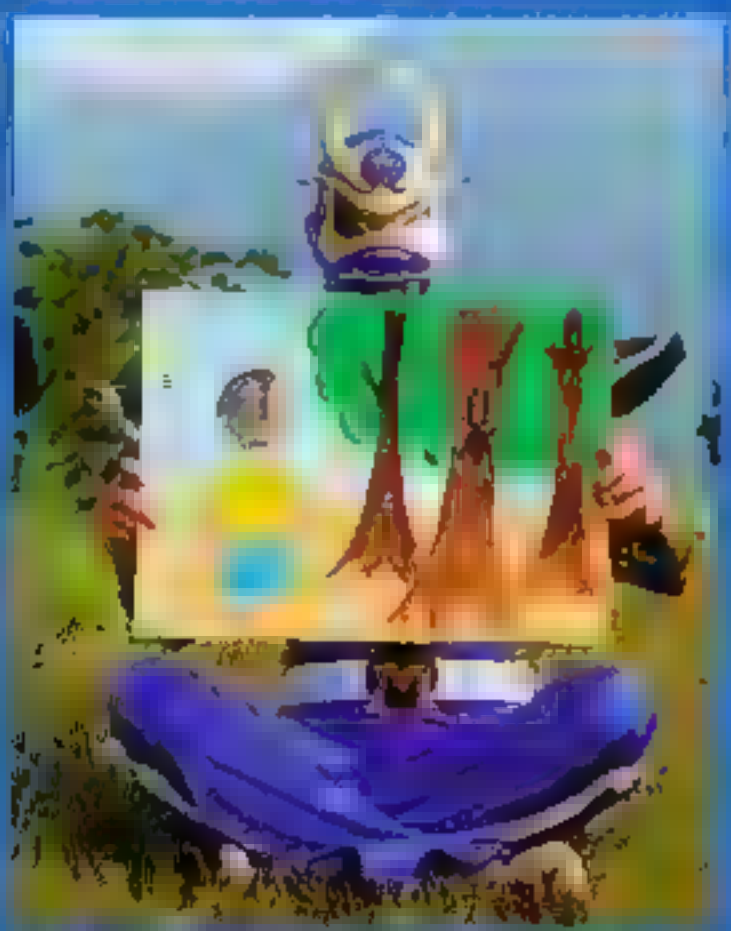
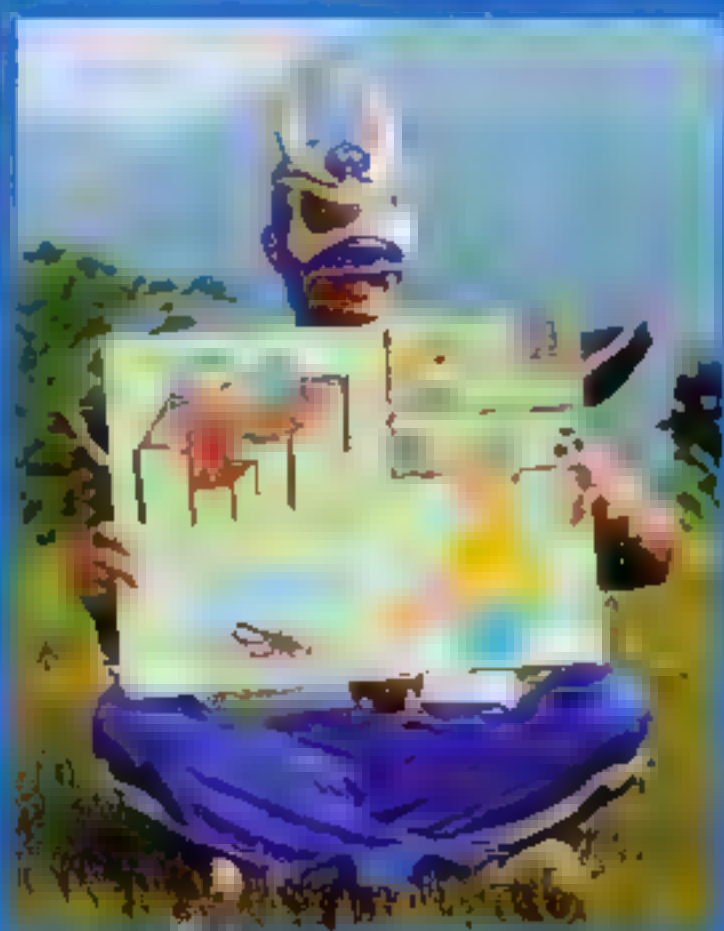
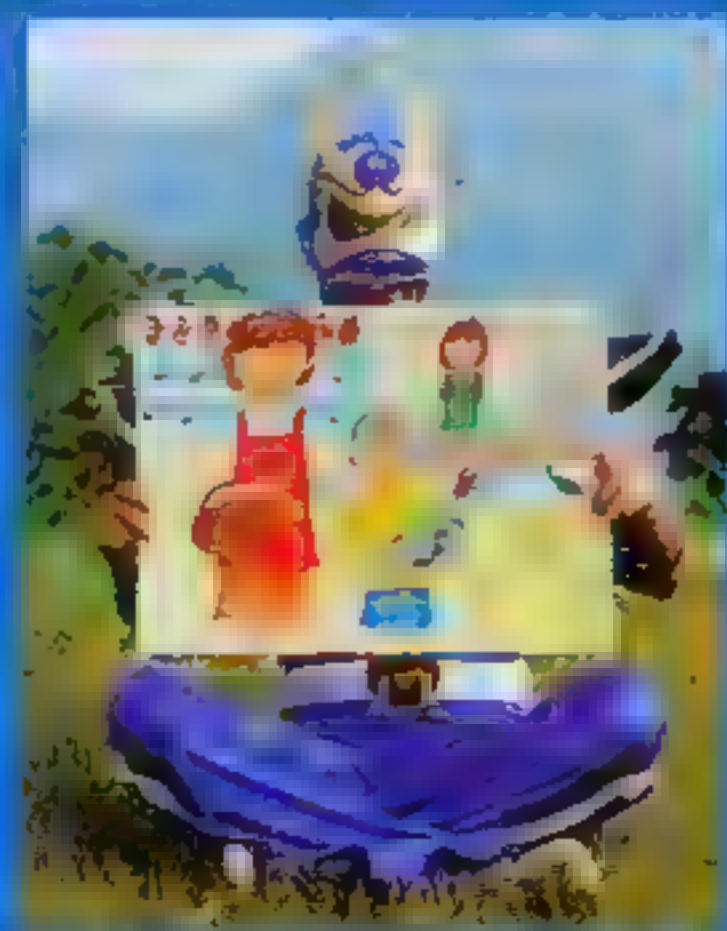
――それで引退試合の時点では、すでに次のミヤマ☆仮面での活躍に向けて、ヤル気マンマンだったと。

ミヤマ　そうですね。「よし、クワレスやるぞ～！　ミヤマ☆仮面になれるぞ～!!」ってくらいの勢いでしたから。

――そもそも、どういう経緯でクワガタ好きになったんですか？

ミヤマ　僕は子どもの頃、愛媛県の新居浜に住んでまして、八幡浜という田舎に連れていってもらったとき、木をバーンッて蹴ったらクワガタがボトッと落ちてきてたんですね。

――それが、運命の出会い。

ミヤマ　そのときに木から落ちてきたのが、いまも一番好きなミヤマクワガタだったんです。それから、一気にハマっちゃいましたね。じつは、スポーツライターの二宮清純さんも八幡浜出身なんですけど、二宮さんとお会いしたとき「木を蹴ったら、ボトボト落ちてきた」って話をしたんです。そしたら二宮さんと「俺も、クワガタ捕って

カッキーの手作り
よいこのクワレスかみしばい

闘わせてたなぁ〜」って二人で盛り上がって、「じゃあ、競技化しようか！」と提案されたのが、クワレスの始まりですね。そこから競技化のアイデアを出して、引退の1年前にはプレ旗上げ戦的な大会もやってるんですよ。

――クワレスは、どんな競技なんですか？

ミヤマ　簡単に言えば、クワガタのプロレスです。そして厳密なルールもあります。

――UWFばりの厳密なルールが設定されてますか。

ミヤマ　はい。木の上から落とされたら負け、ハサんで投げられたら負け。持ち上げられたら3カウント数えるんです。

――あ、持ち上げたらフォールなんですか？

ミヤマ　プロレスは肩をついたら負けですけど、クワガタの場合は木から身体が離れたら負け。あと子どもたちがクワガタのセコンドについて、自分のクワガタがピンチになったらタオルを投げたり。戦意がないクワガタにイエローカードを出したりね。

――「アグレッシブファイト！」が基本なんですね。

ミヤマ　ええ。試合時間は3分1本勝負なんですけど……そこはプロレスっぽく、適当なタイムですね（笑）。

――だいたい3分くらい（笑）。

ミヤマ　名勝負のときは10分以上闘わせちゃう場合もあるし、しょっぱいときは1分くらいのときもある。ま、プロレス的な曖昧さも取り入れて、楽しくやろうと。ただ試合は、完全にガチなんですけど（笑）。

――まあ、虫ですからね（笑）。

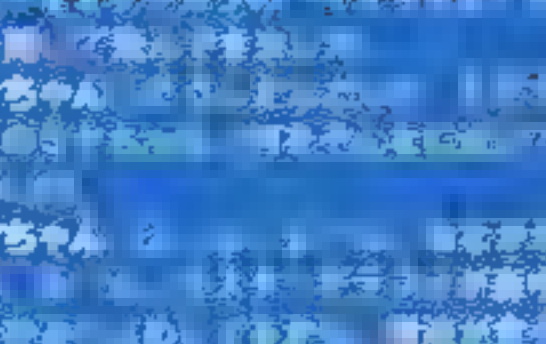
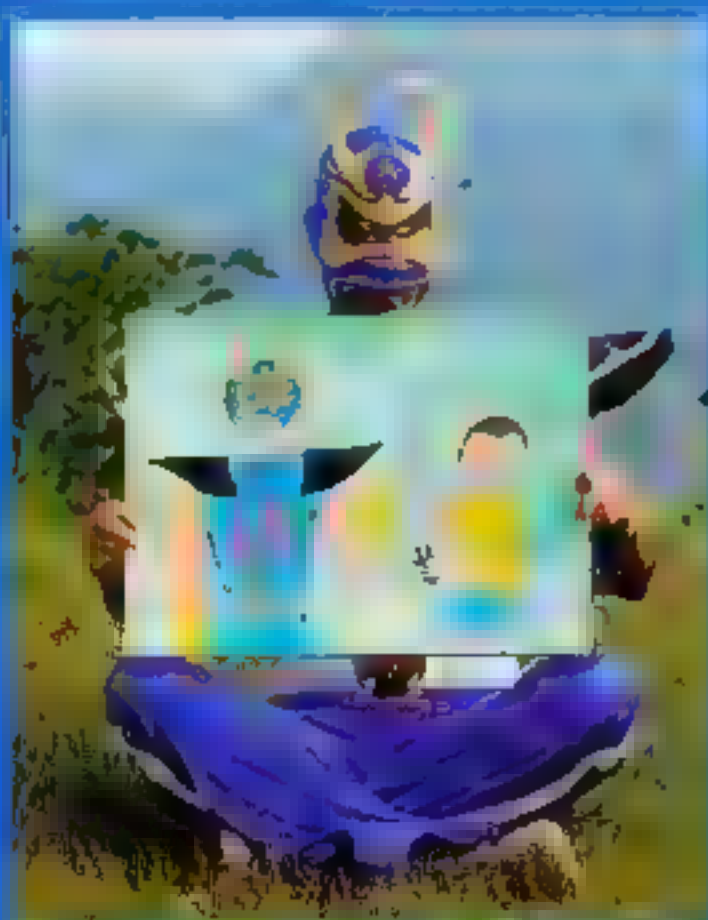
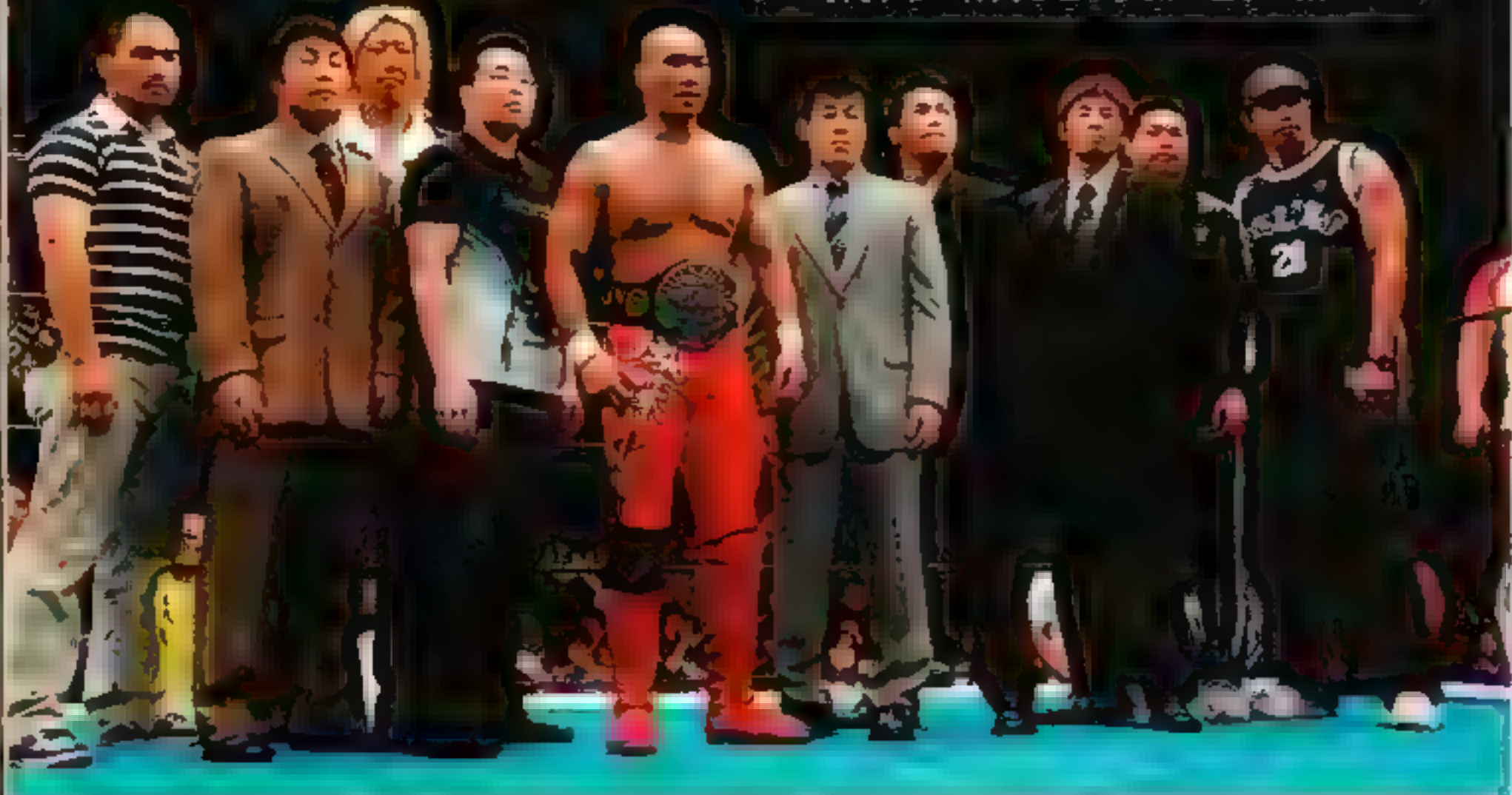
ミヤマ　で、優勝するとベルトを巻けたり、トロフィーや賞状があったり。優勝したお子さんにはたまらない感じになってます。それに、クワレスのイベントは基本的に土・日ですから、平日は相模原で"掌底ビクス"を教えるキッズ教室もやってるんですよ。

――掌底ビクス!?　なんですか、それは？

ミヤマ　掌底を取り入れた全身運動ですね。途中にヒザ蹴りやスクワットや、基礎体力的なものも入れつつ、ベースは掌底のボクササイズみたいな。

――その教室の先生も、ミヤマ☆仮面で？

ミヤマ　ええ、ミヤマ☆仮面が教えてます。子どもがみんなシュッシュッやってますから、見たらビックリしますよ。マスクマンが子どもに掌底を教えてるのは、日本でここだけでしょう（笑）。

――そりゃそうでしょうね。

昨年5月28日、後楽園ホールで金本浩二を相手に引退試合を行なったカッキー。会場にはUWFインター時代からの仲間など、多数の選手が集まった。

髙田総統こそ素の髙田さんの姿。同じ意味で ミヤマ☆仮面こそ素の垣原そのものなんです

ミヤマ　だいたい5〜8歳の、クワレスと同じ年代のお子さんが多いんですけど。しかも僕は"ゴッチ式"のトランプをめくる方式で、運動を教えてますから。

――幼児の頃からゴッチ式！（笑）。

ミヤマ　子どもたちにとっては、トランプをめくってメニューをやるっていうのが楽しいんですよ。そのためにでっかいトランプ作ったりしてます。

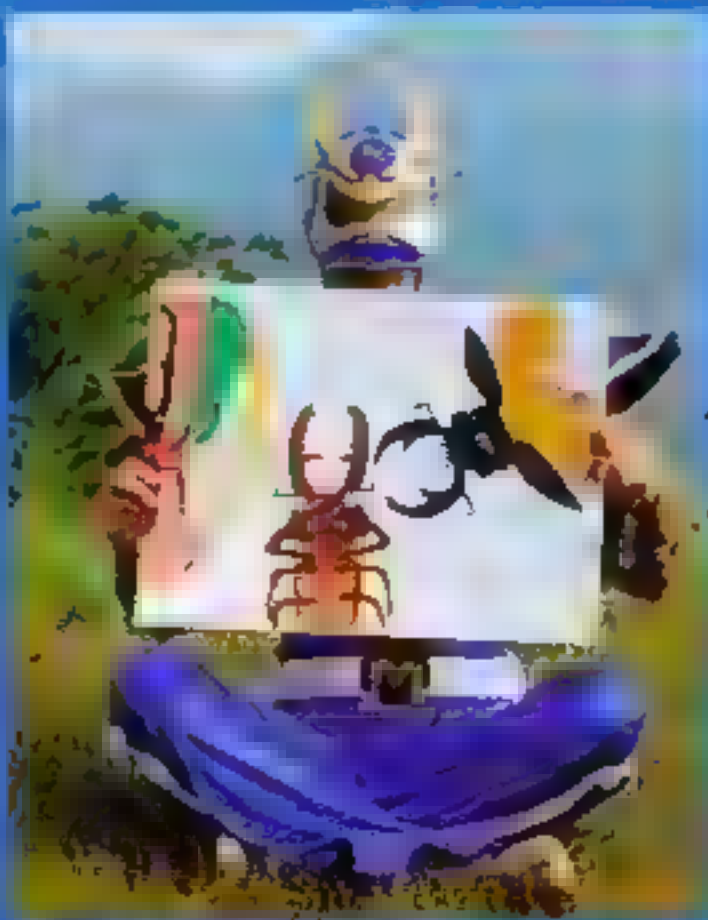
――あと、ミヤマ☆仮面は自然保護も訴えているんですよね？

ミヤマ　ええ。そのきっかけは、忘れもしない02年の10月に、猪木さんとブラジルのアマゾンに『ジャングル・ファイト』に行ってからですね。

――垣原さんは、『ジャングル・ファイト』に行きたくて、以前から志願してたらしいですね。試合に出たいというより、アマゾンのクワガタのためでしょうけど（笑）。

ミヤマ　100パーセント、クワガタ目的ですね（笑）。アマゾンに行くのはホントに夢でしたから！

――じつはボク、以前ブラジルに総合格闘技の取材に行ったときについてくれた通訳さんが、たまたま『ジャングル・ファイト』のときに通訳した方だったんですけど、その人が「以前、日本からプロレスラーの方が来たんですが、その人はクワガタのことばっかり聞いてくるんですよ！」って言ってました（笑）。

ミヤマ　ハハハハ！　それ、間違いなくボクですね（笑）。普通は海外から来たら、「いいお店ないですか？」とか聞くんでしょ

うけど。ボクは「アマゾンのどのへんに虫がいますか?」とか「このへんに入れる森ありますか?」とかばっかりでしたから。

——実際、捕りには行けたんですか?

ミヤマ いや、スケジュールが凄く詰まってたんですね。記者会見とか、植樹祭とかで、なかなかジャングルに入れないから、もうもどかしくって。

——ジャングルは目の前なのに、いつ行けるんだ! と。

ミヤマ で、唯一空きがあったのが試合の日! その日は自由時間があったんです。

——よりによって試合の日ですか!

ミヤマ ただ試合は夜10時からなんです。それまで時間が空いてるってことだったから……。「これは早朝から行くしかない!」と(笑)。それで、ボートでアマゾン川をパーッと渡って、ジャングルに向かったんですよ。で、「いまからジャングルに入るぞ!」ってときに、ガイドさんから、「アマゾン全土は保護区になってるから、昆虫は捕まえちゃダメよ!」って。それ聞いて、ぶっ倒れそうになりましたね(笑)。

——ダハハハ!

ミヤマ なんで〜って。もうガックリきちゃいました。俺は飛行機で36時間もかけて何しに来たんだって。

——ホントは試合をするためですけどね(笑)。

ミヤマ でもタランチュラやサソリも目撃しましたし。昆虫も見たことのない種類がいたし、ホントに行けてよかったです。

——一匹くらい、コッソリとポケットに入れて持って帰ろうとは思いませんでした?

ミヤマ 正直、ちょっと心によぎったんですけど……(笑)。ガイドさんに「万一、昆虫が空港で見つかったら、言い訳きかないですよ!」って。「3ヵ月間は収監させられるし、間違ってポケットに入っちゃったなんて、通じないですから!」って厳しく言われまして。

——そこまで言われたら、できないですね。

ミヤマ 空港で捕まったら、『東スポ』1面になっちゃいますから。

——「垣原、クワガタで逮捕!」って(笑)。

写真・上 [illegible] の掌底を体操にアレンジした掌底ピクス。夏を前にみんな掌底ピクスでダイエットだ!

ミヤマ 自然を大切にするのが目的のイベントなのに、「何やってんだ?」って。

——ちなみに、そのときに"自然保護"に目覚めたらしいですね?

ミヤマ 矛盾してますけど、そこで虫を捕らなかったのが、きっかけですね。帰りの飛行機の中で「ボクは昆虫を捕るばっかりで、自然には何も還元してない。自然に何かしなきゃ、バチが当たる!」って考えてね。それに、猪木さんは自然保護とかは飽きるだろうなって思ってましたし(笑)。

——実際、いまはサンゴの養殖のほうに興味は移ったようですからね(笑)。では、そろそろ夏本番で、クワガタのシーズンですけど、今年はどんな活動を?

ミヤマ 今年は"クワレス"を、夏休みのあいだはず〜っとやりますね。すでに7月、8月のスケジュールは全部埋まりました。もう夏休み期間中は、1日も休みなしですから。

——早くも予定ビッチリ! もしかして一日2公演とかも?

ミヤマ ありますねぇ。だから移動も大変なんですよ。姫路のイベントもありますから。あと平日はここ、さがみ湖ピクニックランドの自然の中でクワガタ講座とか、カブトムシ採集体験とか、冒険ツアー的なこともやりますし。

——それはいいですねぇ。自然体験をやるにも、普通のお兄さんより、ミヤマ☆仮面のほうが絶対に楽しいですよ。

ミヤマ だから、この夏はさがみ湖ピクニックランドでミヤマ☆仮面に会えるぞ! と。これは書いていただければ。

——「ピクニックランドで僕と握手!」って感じで(笑)。

ミヤマ でも、ありがたいですよねぇ……(しみじみと)。正直、ミヤマ☆仮面で飯なんか食えるのかと、自分でも半信半疑だったんですけど、いろんなオファーをいただけていますから。

——引退後のレスラーの進路としては、完全に新境地ですよね(笑)。しかし、奥さまはご主人がプロレスラーを辞めて「ミヤマ☆仮面になる」って言いだしたときは、反対されなかったんですか?

ミヤマ☆仮面夫人 私は賛成でしたね。だって、主人はクワガタに関わってるときが一番イキイキしてますから(笑)。

ミヤマ 彼女はわかってたんですよ。ボク自身は引退前、ウジウジ悩んでたし、プロレスにしがみついて生きていったほうがいいとも思っていたんです。子どもも二人いますから、「家族を養っていくのに、プロレス以外で何ができるんだ?」って。正直、新日本からも「裏方でやってくれないか」と誘われてたんですけど……。

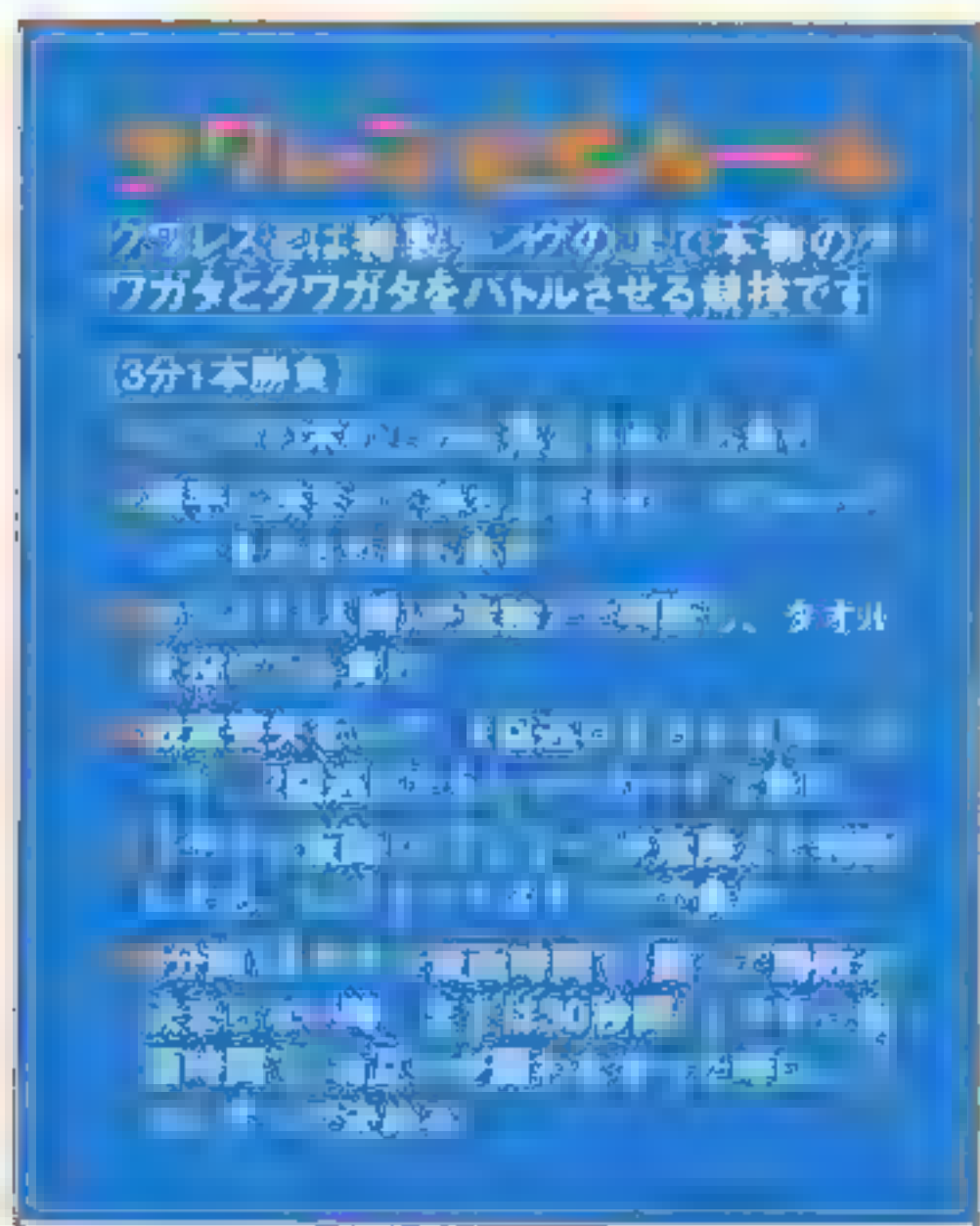
——あ、そうだったんですか?

ミヤマ☆仮面夫人 でも、そっちより、クワガタの仕事のほうが絶対に向いてるだろうなって。

——ミヤマ☆仮面のほうが向いてる! と。やっぱり一番近くにいる奥さんはよくわかるんでしょうね。

ミヤマ ただ、「夏はいいけど、冬はどうするんだ!」っていう根本的な問題もあるわけですけど(笑)。

——クワガタ同様、冬眠するわけにいかないですからね(笑)。

ミヤマ それで急遽、キッズ教室を始めたんですよ。でも、最初の冬は仕事がなくて大変でしたね。でも、なんとか1年、野垂れ死にすることなくやってこられたし、今後は、これを「どう定着させるか?」と考えないと。あと、さらにちっちゃい子向け

みやま　かめん■本名・垣原賢人　1972年4月29日、愛媛県新居浜市出身。90年8月に新生UWFでデビュー。その後、UWFインター、キングダム、全日本プロレスを渡り歩き、02年に新日本プロレス入団。03年には「ベスト・オブ・スーパージュニアX」で優勝を飾るが、頸椎の怪我で06年5月に引退。ミヤマ☆仮面に変身し、「クワレス」の普及に努めると同時に、環境保護を訴えている

には〝クワクワ体操〟もありますから。

—クワクワ体操！

ミヤマ　クワクワ〜！　って某アニメの主題歌に合わせて、体操をやってるんです。2〜3歳児もできる簡単なものですね。僕が、そういう体操を教えてるってことで、『UWAI STATION』の上井（文彦）さんに「じゃあ、やってくれないか？」とプチシルマ体操に誘われたんですよ。

—それで4・30『UWAI STATION』（後楽園ホール）に出てたんですか！　じつは、ミヤマ☆仮面のあの大会での異常なハジケっぷりを見て、「取材しよう！」と決めたんです。

ミヤマ☆仮面夫人　クワレスのイベントでは、さらにハジケてますけどね（笑）。もう、クワガタが大好きだから、テンションが凄い上がっちゃって。

ミヤマ　ボクが一番興奮してますね（笑）。現役レスラーのときはマイクはしなかったんで、しゃべりは苦手だったんですけど、この商売はまず営業から始まるじゃないですか？　「こんなことやってます」と担当の方に、クワレスの説明から始めなきゃいけない。

—そのためにもしゃべりは大事だ、と。

ミヤマ　芸人さんが出るトークライブのトーナメントで、優勝もしてるんですよ。

—そんなに上達してましたか（笑）。肉体のほうも、いまバッチリ筋肉がついてますね。

ミヤマ　トレーニングは欠かさずやってます。腕を露出するから、筋肉落ちちゃうとダメだし、最近は腹筋も割れてきてるから、どんどん露出したくなってきましたね。HGじゃないですけど（笑）。

ムシキング・テリーは〝プロレス界の昆虫〟〝昆虫界〟のボクとはもう業界が違いますから

—そういえば、古巣のノアにも虫レスラーがいますよね？

ミヤマ　あ〜、〇〇！　いや、ムシキング・テリーですか（笑）。ただ、彼は昆虫の格好でプロレスラーをやってる人ですし。ボクはプロレス界じゃなく、昆虫界ですから。業界そのものが違うからあまり意識しないですけど。

—〝プロレス界の昆虫〟と〝昆虫界のプロレスラー〟ですから正反対ですね（笑）。これからはどういったプランが？

ミヤマ　やっぱりクワレスの定着に力を入れて、「夏といえばTUBE」みたいに、「夏といえばクワレス！　夏といえばミヤマ☆仮面！」ってぐらいにしたいですね。

—ちなみに、お住まいもこの近所（相模湖）らしいですけど、住むところもクワガタ優先で決めたって聞いたんですけど（笑）。

ミヤマ　住み始めて8年目ですけど、ボクはミヤマクワガタが飛んでくる家に住みたいっていうのが、ずっと夢だったんですよ！

—夢はミヤマクワガタが飛んでくる家！

ミヤマ　ええ。ミヤマクワガタって、ホントに自然環境が整ってるところにしかいないんです。だから、東京から一番近い、ミヤマクワガタがいる場所を探したら、結局ここに行き着いたんですよ（笑）。

—首都圏最短の〝ミヤマスポット〟が相模湖でしたか（笑）。

ミヤマ　でも、その代償が「最寄駅まで車で50分」ですからね。一回、駅から歩こうとしたら2時間ぐらい歩いても、まだ半分でしたから（笑）。でもね！　朝なんか、ホントにミヤマクワガタが飛んできたりするんですよ！

—引っ越した甲斐がありましたか。

ミヤマ　そうなんですよ〜！　そこまでしないと一人前に語れないんじゃないかなって。同じ〝好き〟でも、コンクリートジャングルの都会にいて「クワガタが……」とか言ってても、説得力ないじゃないですか？　ホント、ウチは玄関開けたら、すぐ山！　もう最高ですからね。

—ダハハハ！　いや、今日は素晴らしいお話をありがとうございました。垣原さんのファンってちょうど子どももいる世代が多いと思うんで、今年の夏は親子でミヤマ☆仮面に会いにきてもらいたいですね。

ミヤマ　ぜひ、来てください！　一緒に「クワクワ」ポーズをやりましょう！

—垣原さんの真の姿を目撃しろ！　と。今日はありがとうございました！

ミヤマ　またよろしくお願いします〜。クワクワ！

【07年5月24日／神奈川県・さがみ湖ピクニックランドにて収録】

天才は天才を知る!?

“ふたりのビッグショー”で幕開け!!

ハッスル・エイド2007♪

6.17さいたまスーパーアリーナ　大会徹底レポート

『ハッスル』の“歌謡曲プロレス”ついに完成へ――。

年に一回しかない『ハッスル』年間最大イベントの一つ『ハッスル・エイド』が6月17日、さいたまスーパーアリーナで開催された。この写真をご覧いただければ、いかにやってるほうが気持ちよくなってるかがおわかりいただけるだろう。プロレス界最高の高揚感と陶酔感が詰まったイベントを徹底分析!

文／坂井ノブ[illegible]　写真／平工幸雄、山口比佐夫、平専英
写真提供／ハッスルエンターテインメント

ムタをダウンさせるとインリン様はM字固めでフォール。しかし、ムタはそれをひっくり返すと…なんと局部に毒霧を噴射！（捶塞）股間を緑色に染めたインリン様は絶叫とともに意識を失なって倒れてしまった。PPVではゲストの眞鍋かをりが「デリケートな部分ですからねぇ」とコメント。すべてが絶妙すぎる

めまいがしそうなマッチアップとなったセミハッスルはインリン様＆TAJIRI vs RG＆グレート・ムタ。インリン様がムチを使ったキャメルクラッチでムタを攻めあげる!! プロレス界の頂点を極めたトップヒールと、セクシーさを極めたM字女王の絡みは写真で観ても映像で観ても刺激的だ

ひょうたんからムタ。一寸先はクロマティ！

プロレスの敷居を画期的に低くした『ハッスル』による歌謡曲プロレスとは？

「『ハッスル』とは歌謡曲である」とは本誌前編集長であり、現在はハッスルエンターテインメントの社長を務める山口日昇氏の持論である。もう何度も誌面で語られているお言葉なので、読者の皆さま方はすでに"耳にタコ"、あるいは"ミミにタコ"状態かもしれないが、要するに歌謡曲とは「世界中の音楽をわかりやすく変換して大衆に届かせてきた」ものである、ということらしい。さらに大衆にとって敷居が高い既存のプロレスをわかりやすく変換して見せていくのが『ハッスル』である、と。しつこく言い続けているので、筆者を含め多くの方が読み飛ばしてると思うが、山口社長はとにかくそんなようなことを言っている。

そんな、歌謡曲であることへの決意表明がいきなり『ハッスル・エイド』のオープニングで行なわれた。『ハッスル』のビッグマッチのオープニングは小川直也による『ドリフ』の歌とダンスが定番だったが、今回は残念ながら小川直也がいない。ここ…人のモンスターがオープニングを乗っとり、この上なく気持ちよさそう

…なんとファーストコンタクトでいきなりインリン様の指をペロペロ〜。TAJIRI以上の変態だったことが発覚!! あまりのショックにインリン様の表情も恐…

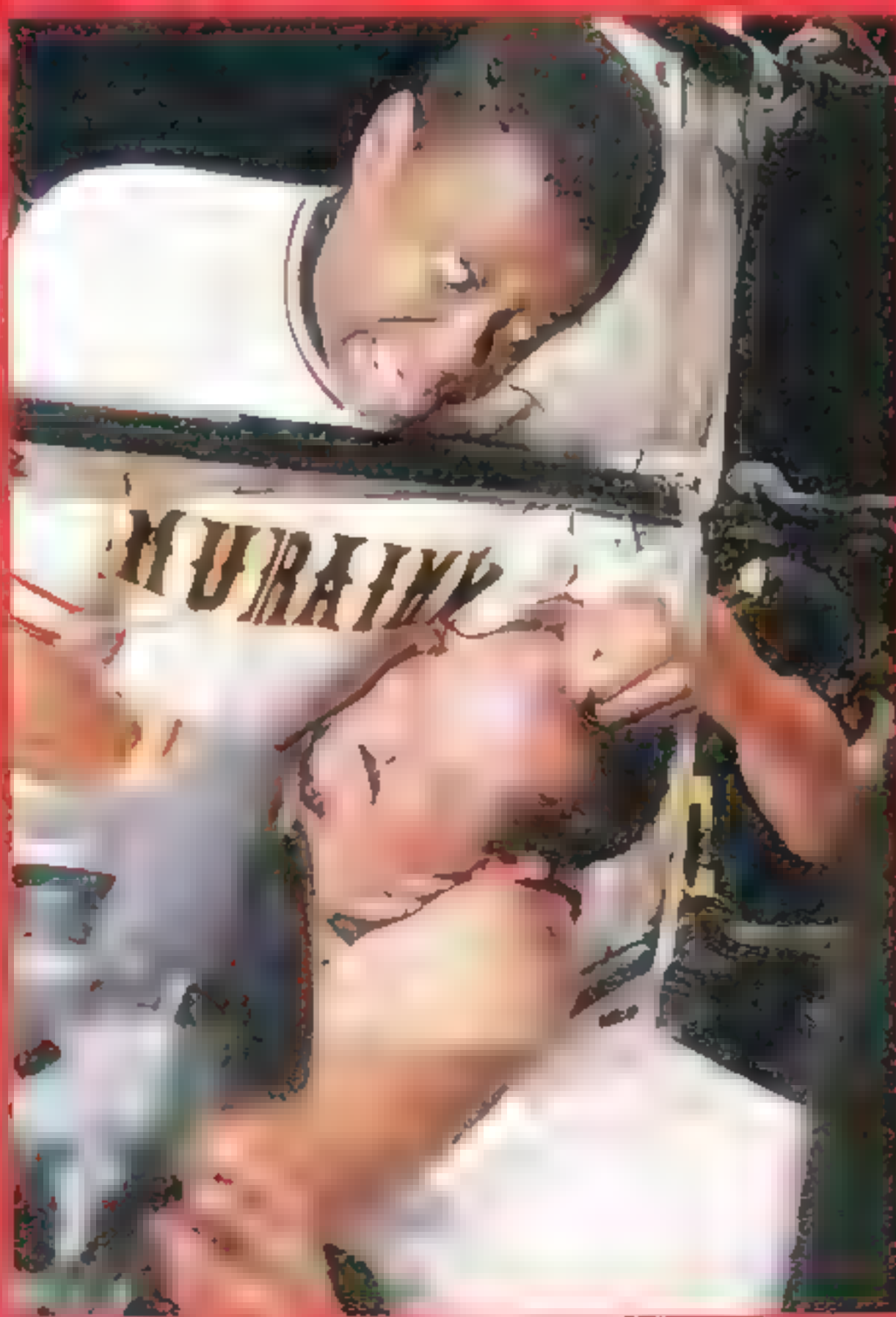
ムタの攻撃は一切容赦なし。…への蹴り、…ちの意味ではな…スリー…フラッシング・エルボー（未遂）などを繰り出し…インリン様のM字をくの字に歪めたこのシーン…常に悶えるインリン様もやはり最高だ

王者は王者を知る!?

試合前からしきりに予告していたホームラン・チョップ。ファンだったというワフー・マクダニエルのトマホーク・チョップと自分のバックボーンである野球にインスパイアされたこの技は左のバッターボックスでお尻を突き出したおなじみのフォームから繰り出された。

元読売巨人軍の"史上最強の助っ人"ウォーレン・クロマティがついにデビュー。デビュー戦で勝利を呼んだのは、スライディングキックだった。現役時代さながらのハッスルプレーで場内のファンを熱狂させた。53歳という年齢をまったく感じさせない身体能力だ。

とにかく明るくて元気なクロマティがファンと喜びを分かち合う儀式、それが「バンザーイ!」。現役時代から日本のファンに愛されたクロマティの十八番だ。さいたまスーパーアリーナの約1万5000人が一斉に両手を挙げた絵は壮観。クロマティのスター性は本物だ。

目をひんむいてシンの首にクロー攻撃を繰り出すクロウ。このほかにもヘッドバットや現役時代の乱闘を思い起こさせる右のナックルなど、さまざまな攻撃を繰り出した。しかし、この表情はまるで"魔人"ヌールだね。

イスをブン投げ、サーベルで殴りかかって、客席になだれ込んできたシンは、頭に巻いたターバンで絞首刑。史上最悪のヒールと史上最強の助っ人が取っ組み合ってこの状態に。野球時代には見せなかったクロマティの潜在能力がここにはある。

にチャケ&飛鳥の「Y\H Y\H」を執引した」と文字どおり「ハッスル、イコール歌謡曲」に[illegible]である。

もちろん、そんなものはただの深読みにすぎなくて、川田はただ気持ちよく歌いたいから歌っているだけかもしれないし、高田総統も川田より目立ちたいから歌っているだけかもしれない。歌謡曲を熱唱する気持ちよさ、バカバカしさの前では、「ハッスル、イコール歌謡曲」なんてただのお題目にすぎない。とにかく、70～80年代を席巻した『ドリフ』よりも、93年の大ヒット曲をチョイスしたことで、より多くの人が身近に感じたことだろう。

華々しく幕を開けたこの日の「ハッスル・エイド」で非常に評価が高いのはセミのグレート・ムタ＆RG VS インリン様＆TAJIRIの一戦だ。とくに、4の字固めや毒霧を受けて悶絶するインリン様の表現力とムタのえげつない攻撃性は最高のマッチングだった。あの真鍋かをりもPPVの解説で「できる子ですねえ」と絶賛したRGの受け身も素晴らしいし、インリン様をサポートしながらムタの魅力を引き出しつつキャラの気持ち悪さも発揮したTAJIRIも抜群だ。インリン様とムタ、RGとムタという禁断の組合わせには背中がゾクゾクするようなプロレスでしか味わえない興奮があった。

一方では、天龍がHGに敗れるという波乱も発生している。こちらは勝負に重きが置かれた、「マスカラ・コントラ・ハトゲラ」マッチ。普通に予想すればHGが大善戦して天龍が勝つものだと思われていた。しかし、天龍は一瞬の丸め込みで3カウントを喫してしまう。長年のプロレスファンにしてみれば、〝ミスタープロレス〟とまで称される天龍源一郎がお笑い芸人に3カウントを奪われるのは相当ショックだったに違いない。しかも、高田総統には「老いぼれ」呼ばわりされて、モンスター軍を追放されてしまったのだ。格や序列を重んじる通常のプロ

「マスカラ・コントラ・ハドゲラ」と題して、HGが負けたらマスクを脱ぎ、天龍が負けたら身も心もハードゲイになるという過酷な条件で行なわれたこの試合。天龍の厳しい猛攻で胸を真っ赤に腫らしたHGが一瞬の[illegible]

天龍の重すぎるラリアットを喉元に食らってダウンしたHG[illegible]関係者は非常に多い[illegible]

[illegible]らないほどドス黒く染まった

男らしくHGからハードゲイの衣装を受け取った天龍だったが、高田総統は平手打ち一発で一撃。さらには花道から凱旋として天龍のモンスター軍追放を宣言。結局、無言で去っていった天龍の後ろ姿に哀愁を感じないヤツは男ではない。いつかハードゲイ姿になるんだ!?

『ハッスル』を完全に支配してしまったモンスター軍にようやく一矢報いたハッスル軍は、レジスタンスの狼煙をあげるように「ハッスル、ハッスル」の「フォーッ!」で締めた。坂田、RG、HGと勝つべき人が勝つとハッピーエンドになるんです!

レスだったら、まずこんなことは起こらないと断言できる。しかし、それを起こすだけの魅力や色気や技術がHGにはあるし、猪木と川田がオープニングでチャゲアスを熱唱したのと同じように天龍も〝ハッスル〟の深い部分に踏み込んだ。

初めて〝ハッスル〟の世界に飛び込んできたクロマティも想像以上の活躍ぶりだった。じつはクロマティの参戦が決まったのはかなりギリギリで、〝ハッスル・エイト〟は一時はハプニングなケノム状態に陥る寸前だった。しかし、クロマティの参戦が正式に決まり「一寸先はクロマティ」となってからは、状況が一変した。来日してからもクロマティは連日スポーツ新聞を賑わせ、プロモーションに大活躍! 試合でも高見盛ピストルを足して2で割ったような大暴れで、タイガー・ジェット・シンを相手に最高のパフォーマンスを繰り広げたのだった。〝ハッスル〟にさらなる明るさをもたらした功績は大きい。しかも、そのデビュー戦の模様はアメリカのスポーツ専門テレビ局ESPNのサイトでも紹介されている。さすが〝史上最強の助っ人〟、抜群の波及効果である。

最初にも書いたが、〝ハッスル〟は歌謡曲を目指すらしい。「歌謡曲? 意味わかんねえよ!」とおっしゃる方もたぶん大勢いると思う。その気持ちはよくわかる。大事なのはお題目ではなく、イベントで何が行なわれたかだ。今回の〝ハッスル・エイト〟は既存のプロレスラーと、タレントやクロマティを融合させることで誰もが楽しめる画期的な敷居の低さを実現してみせた。この大会を目撃した人には、〝ハッスル〟が何を見せたくて、何をやりたいのかが伝わったのではないかと思う。

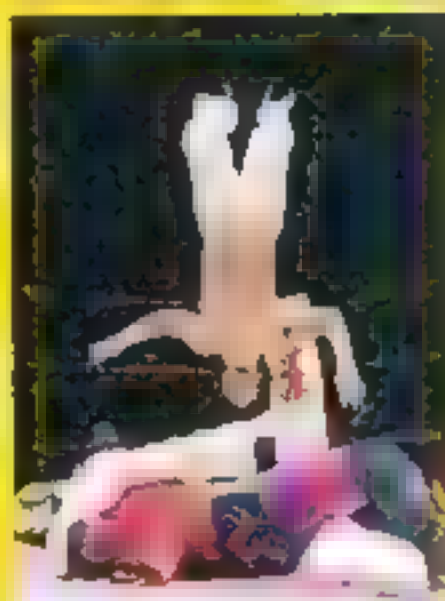
さあ、あとはテレビに乗せて大衆に届けるだけだ。

（坂井ノブ）

天才は天才を知る!?

"モンスターセレブ"小川直也不在、しかしIGFが師弟で登場!?

『ハッスル・エイド2007』ダイジェスト

オープニングマッチという大会の出来を左右する重要な試合でハッチャケた闘いぶりを披露するハッスル生え抜きプロレスラーのKUSHIDA&バンサイ・チエ。表情もイキイキしているKUSHIDAはとにかく飛行姿勢が美しすぎる。

39回目の誕生日ということで「バースデーパーティをやる」と宣言して乗り込んできた鈴木みのると、パートナーの高山。モンスター軍の川田&ACHICHIを抜群のコンビネーションで撃破！ 今後、高田モンスター軍との抗争に突入するのか!?

キンターマン、クロダーマン、ランデルマン、コールマンという自称・正体不明、誰が観ても正体バレバレのマスクマンが4人揃い踏み。しかし、あと一歩のところで鬼蜘蛛の蜘蛛の糸を受けて身動きがとれなくなったところでフォール負け

全米アームレスリング大会を3度制したスコット・ノートン肉体は危険な分厚さを誇る。坂田は苦戦を強いられたが、終盤に袈裟斬りチョップと重爆キックを繰り出した。もちろん、"破壊王"の必殺技だ。凄まじい音が館内に響き渡る

6／17(日)
『KYORAKU presents ハッスル・エイド2007』

埼玉・さいたまスーパーアリーナ
観衆 14,617人(満員)

[第1ハッスル]
○KUSHIDA&＼(^o^)／チエ vs スーパー・フライング・ヴァンパイア1世&2世×
(7分32秒 ムーンサルト)

[第2ハッスル]
○ザ・モンスター℃&佐藤耕平&ジャイアント・バボ&鬼蜘蛛 vs クロダーマン&コールマン&ランデルマン&キンターマン×
(6分21秒 スモールパッケージホールド)

[第3ハッスル]
○高山善廣&鈴木みのる vs "モンスターK"川田利明&"ファイアーモンスター"ACHICHI×
(10分28秒 エベレストジャーマンスープレックスホールド)

[第4ハッスル]
○ウォーレン・クロマティ&崔領二 vs タイガー・ジェット・シン&アン・ジョー之助×
(4分50秒 ヒバ!! ジャイアンツ)

[第5ハッスル]
○坂田亘 vs スコット・ノートン×
(11分26秒 スーパーキック)

[セミハッスル]
○グレート・ムタ&RG vs インリン様&TAJIRI×
(8分56秒 シャイニングウィザード)

[メインハッスル]
○HG vs "モンスター大将"天龍源一郎×
(11分55秒 ケイ道(ト)リラー)

クロマティの右ストレートを食らった元中日ドラゴンズの宮下投手がリングサイドで観戦！ 煽りVTRで「次はタッグを組みましょう」とクロマティに共闘を呼びかけた。目がマジだった

ハッスル・エイド直前に熱愛発覚の眞鍋かをりが中継の解説。ワイドショーの取材班に追いかけられたりしながらも、的確かつ冷静なコメントで今回もプロレスファンの心を鷲づかみに

会場前では骨髄バンクのドナー登録を呼びかけるチャリティイベントも。ハッスルを旅立ったセレブ小川が師匠とともに出現!? と思ったらアントキの猪木とくまだったスコット

なんとプロレス界では史上初の試みとしてエプロンにネットLEDを導入！ 高田総統からのメッセージや「ハッスル」のロゴなどが次から次へと登場する斬新な使い方だった

の助っ人"がハッスルで再絶頂!!

て暴れるエンターテイナー
ン・クロマティ

バンザーイ！　バンザーイ！　バンザーイ！　と『ハッスル・エイド2007』に上陸した"史上最強の助っ人"、それが元読売ジャイアンツのクロマティ！　野球でつちかった天性のパフォーマンス能力で、各会場でクロマティ人気が爆発！　そのポテンシャルはまさに『ハッスル』向きなクロマティの素顔に迫った！

聞き手／坂井ノブ　構成／山本宗忠（THE PEHLWANS）、真下義之
大会写真／平工幸雄　写真協力／ハッスルエンターテインメント

——今日は、読売巨人軍〝史上最強の助っ人〟と呼ばれたクロマティ選手にお会いできて光栄です！

クロウ　ドウモ、アリガトネ！

——6月7日に来日してからかなりの時間が経ちますが、身体は疲れていませんか？

クロウ　ノー。モンダイナイ！　ダイジョウブヨ～

——それはよかったです（笑）。まず、クロマティさんが『ハッスル』に参戦することになったきっかけから聞きたいんですけど。『ハッスル』がどういうものなのかすぐに理解できましたか？

クロウ　イヤ～！　ハッスル、ハッスル！（と元気よく腰を振って）。最初はセックスのこと？　って思ったけどネ（笑）。

——ハハハハ。ある意味、正解というか（笑）。じゃあ、よくわかってなかった？

クロウ　わかってるよ～。イッツ・プロレスリング、デショ！　ただ、英語の「HUSTLE」には「すべてを出しきる！」っていう意味もある。だから『ハッスル』では自分の100パーセント以上を出さなきゃダメなんデショ？

——おお、100点満点の回答じゃないですか（笑）。

クロウ　ノー・ナマケモノ！（笑）。ナマケモノは『ハッスル』のリングに上がるべカラズネ。大事なのはパッションとアクション！　そこからミーもファンと新しいサムシングに向かっていきたいネ。

力強い返答ですねえ。

クロウ　それから、『ハッスル』は骨髄バンクに賛同していて、それも大きかったネ～（しみじみと）。

——ああ。確か、クロマティさんはお友だちを白血病で亡くされているんですよね。

クロウ　イエス。彼は若くしてこの世を去ってしまった（とうつむきながら）まだニジュウニだったネ！

——22歳の若者だったんですか。そのお友だちの死に相当なショックを受けたと聞きました

クロウ　もうドンドン痩せてしまって……。顔も凄く痩せこけちゃってネ（と首を振りながら）。それで、ミーに何ができるか考えて、白血病の人たちを助けるには、マネーも必要。だけど、骨髄バンクへの登録者も必要！　そこで貢献できるなら、『ハッスル』に出ようと決めたんだヨ。

素晴らしい心構えです！　それから、クロマティ選手は子どもの頃にプロレス好きで、とくにワフー・マクダニエル選手のファンだったと聞いているんですが。

クロウ　イエス！　最初の憧れの選手がワフーだったネ。会場に観にも行ったし、そのワフーの〝トマホーク・チョップ〟から、〝ホームラン・チョップ〟を使おうと思ったんだヨ（笑）

——〝狼酋長〟のゲノムを継承した、と（笑）。

クロウ　イヤ～。あとは（ハルク・）ホーガンに、それからランディ・サベージ！　アイ・ライク・マッチョマン！（と筋肉ポーズで）。

ハハハ！　サベージもお気に入り（笑）。クロマティさんはジャイアンツ時代から常々「オレはエンターテイナーだ！」と言っていましたよね

天才は天才を知る!?

クロマティ騒動記

6月5日

「ハッスル」参戦の来日会見を行なったクロマティ（以下、クロウ）は最初こそ神妙な顔つきだったが、撮影タイムでガラリと豹変。目をひんむき、球に噛みつき、バンザイポーズと過剰なサービス精神を発揮してクロウ幻想を膨らませた。

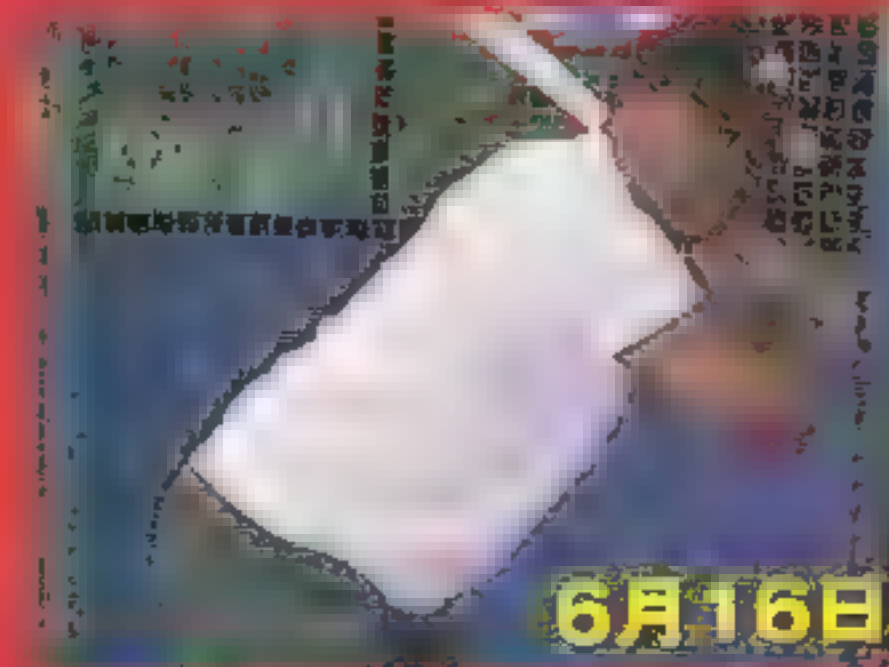
6月10日

「ハッスル蹴」■■大会に緊急■。■■■に上機嫌のクロウは「みんなにソックネ！」とカラーボールを乱打。そこにシンが乱入し、バットとサーベルが交錯する異常事態。クロウは憤怒の表情で「タイガーサン、バッカヤロー！」と宣戦布告。

6月12日

「ハッスル・エイ■」■■の■■■■■■■■大乱闘。この乱闘で、「記者が病院送り」との報道に一時は本誌・坂井ノブの安否も心配された。

6月14日

「コウラクエ〜ン！　ヒサシブリネ！」と巨人時代のホーム、後楽園に戻ってきたクロウ。自らシンの試合後に奇襲をかけ、スルリとリングインして電光石火のヘッドバット一閃！「マカセナサ〜イ！」と元気一杯で3日後の大会に弾みをつけた。

6月16日

大会前日、都内のバッティングセンターに現われたクロウ。自慢のバッティングのあと、ピッチングマシンからの速球を恐れもせず、両手打ちの"ホームラン・チョップ"を堂々披露。「これでフィニッシュネ！」と一足早い勝利宣言。

見てみ、このツラ！　突き抜けまくったテンションでシンに猛反撃するクロマティの勇姿。シンのお株を奪うジャイアンツクローでグイグイ絞め上げるその表情は、あのズール親子を彷彿させるような野人ぶり

クロウ　オフコース。でもミーだけじゃなく、ジャイアンツのチームメイトもネ。もちろん、一番大事なのは、全力プレーで成績と実績を残すこと！　そういう実績を残した上で、自分のパーソナリティでファンを楽しませることができる。ソウオモワナイ？

──ええ。まずは「成績ありき！」だ、と。クロマティさんは日本での通算打率が3割2分1厘という凄まじい成績！　一時は、日本プロ野球界史上初の"4割打者"になるのでは？　とささやかれたほどでしたしね。

クロウ　サイコー！　巨人軍時代はサイコーに楽しかったネ〜。きっとマイスタイルをジャパニーズ・ベースボールスタイルに調整したから、グッドな成績を残すことができたんだよネ

──しかもジャイアンツでは7年間もプレーしましたね。

クロウ　イエス。しかもジャイアンツの外国人打者としては、一番ロングプレーしたんだから。

──ボクも子どもの頃、クロマティさんの大活躍を観てましたけど、今回、日本に来て「子どものときから観てました！」ってファンが多くないですか？

クロウ　ホ〜ントニネ！　覚えてくれてビックリしてるヨ。（突然に）ヘイ！　一つ聞いていい？　ミーのプレーで、一番思い出に残っているのはなんだい？

──あ〜　やっぱり一番に思い出すのは"乱闘"ですね。

クロウ　オ〜！　ミヤシタサ〜ン！（87年6月11日、熊本・藤崎台球場で行なわれた中日ドラゴンズ戦で、宮下昌己投手から死球を受けたクロマティは激怒。マウンドに駆け寄り宮下投手に強烈な右ストレートをヒットさせた）。ハッスルシマシタネェ〜！（笑）。

──あと、一塁打を打ったときに見せる豪快すぎるヘッドスライディング！

クロウ　イヤ〜！　ヘッドファーストネ！　あれでチームメイトも士気

"史上最強の助っ

帰ってきた、打って暴

ウォーレン

ハッスル・エイド』終了後、囲み会見に応したクロマティはここでも報道陣とバンザイ三唱！　かつての同僚、原監督には「明日、朝イチで電話したいネ」と語るなど、終始ゴキゲンだった。本人は「考え中ネ」とのことだが、もしかして再登場の可能性も？

がアップネ

—あと、ライトスタンドにぶち込むホームラン！

クロウ　オ〜！　コウラクエンのライトスタンドへ放り込むホームランはサイコー！　そのあとみんなと一緒に「バンザ〜イ!!」ネ！

—それから、敬遠球をサヨナラヒットにしたり（90年6月2日の広島カープ戦）、あとは入院先の病院から抜け出して、代打で出場してホームランを打ったこともありました（86年10月2日のヤクルトスワローズ戦）。

クロウ　ガッツガッツ！　全部気持ちで打ちましたから。ガッツを見せた結果ダヨ！

—それにヒットを打ったあと、相手投手に向かって自分の側頭部を叩いて「ココ（頭）が違うんだよ！」というパフォーマンスも凄く印象深いなぁ。

クロウ　サンキュー！　ミーのプレーを覚えていてくれて、ホントに嬉しいデス（笑）。

—それで、このインタビューは残念ながら『ハッスル・エイド』前の収録なんですけど、"狂虎"タイガー・ジェット・シンと大乱闘になって、シンと向かい合ったときはどんな心境でしたか？

クロウ　タイガーさんに恐れを感じたかって？　ノー！　何も感じないヨ！（とホッペをふくらませて）あ、何も感じなかった。

クロウ　イエス。自分の出身地はとてもとても貧しい地域で、黒人だらけでとっても危険なところ。タイガーさんと闘うより、もっと危険なことに出くわしたこともあるヨ。拳銃、ナイフでのトラブルは日常茶飯事。ベリー・デンジャラスネ！

—出身はフロリダでしたよね？

クロウ　映画『マイアミバイス』の舞台となったところ。フロリダ州マイアミのサウスビーチ。マイアミにはもの凄いハリケーンが来て、大惨事になったこともあるしネ。そんな場所でサバイバルするために、ミーはガッツで立ち向かうことを覚えたんだよネ。

—シンにももの怖じしない根性が身についた、と。それから、『ハッスル23』青森大会では日本語で挨拶をしましたね。

クロウ　アァ〜……（と頭を抱えて）。モウスコシ、レンシュウネ！　日本語はムズカシイけど、ゆっくり話せばOK。でも、もっともっとベンキョウネ！

—ジャイアンツ時代も日本語で話していたんですか？

クロウ　イエス！　できる限りは。ハラサ〜ン（原辰徳）、シノヅカサ〜ン（篠塚和典）と。とくにシノヅカサンは、マイ・ナンバーワン・センパイ！

—篠塚さんがナンバーワン！　あの当時のジャイアンツといえば、原さんに篠塚さん、あとは中畑（清）さん……。

クロウ　オ〜ウ!!　キヨシ！　キヨシとは友だち以上の仲なんだヨ！　ゼッコーチョー!!

—ハハハ！　ホームランを打ったあと、中畑さんからキスされたこともありましたよね（笑）。

クロウ　イエス。キヨシもガッツあ

PLAY BACK 狂虎vs巨人!!

[illegible]をしてもクロウ〜クロウ〜[illegible]とクロウの[illegible]とラッパがたまアリに鳴り響く[illegible]スクリー[illegible]当日は少数精鋭でのパフォーマンスで[illegible]クロウの心の導火線に着火！

試合前の煽りVで20年前[illegible]ドボールを直撃させ[illegible]クロウの伝説の右ストレートを食らった生き証人[illegible]元中日の宮下昌己元投手が登場！[illegible]と拳銃までアピール[illegible]リングサイドでも観戦した

おまえが打たなきゃ明日は雨〜[illegible]の応援テーマに乗って[illegible]巨人チックなユニフォーム姿（背番号は当然49）のクロウがバット片手に入場[illegible]一方[illegible]

[illegible]スライディングキックを爆発させ[illegible]ピンフォールを奪取[illegible]ヤッタネ

[illegible]と勝利のマイクを握ったクロウ[illegible]からも[illegible]アンタはやっぱり史上最強の助っ人[illegible]と[illegible]クロウは[illegible]三唱[illegible]クロウ劇場を見事に締めくくった

る男ネ。あとは、サイト〜サ〜ン（斎藤雅樹）、エガワサ〜ン（江川卓）、サダオカサ〜ン（定岡正二）、ス〜ミ（角盈男）、ミヤモ〜ト（宮本和知）、カト〜リサン（鹿取義隆）。みんな、みんなベストチームメイト。

ジャイアンツ史に残る錚々たるメンバーですよ！ そういえば、クロマティ選手の『ハッスル』参戦にあたって、当時クロマティ選手を指導した王貞治監督（現・福岡ソフトバンクホークス監督）がコメントを出しましたね

クロウ マイ・センセイ！

「頑張れ！ クロマティ！ "バンザイ" コールの連発を期待しています」というステキなコメントでしたけど、このコメントを聞いたときはどう思いました？

クロウ （神妙な顔つきで）マイセンセイからのメッセージ……きっちりと心に刻んだヨ

クロマティさんは王監督の巨人軍監督就任1年目のときに、巨人軍入りしたんですから、思い入れもかなりあるでしょうね。

クロウ イエス オーサンがいなければ、自分は成功していなかったと言いきれる！ 恩人だよネ

王監督から指導を受けた部分というのは？

クロウ サイコロジカルな部分に、体力、技術……もうゼンブ！ オーサンは日本の野球のスタイルを教えてくれたし、オーサンの言うことは、とてもなんでもよく吸収できましたから。

——王さんからの教えで一番記憶に残っているのは何ですか？

クロウ 「急がずに待て」ということネ。最初、ミーは凄くせっかちだったから「待つ」ということができなかった。でもオーサンは「急がずにちょっとずつちょっとずつ、自分のスタイルに日本の野球をフィットさせていけば、必ず君は成功する」と言ってくれたんだヨ。

クロマティさんは息子さんのミドルネームに「オー」という名前をつけているくらい心酔してるんですよね。

クロウ オフコース。そのくらい大切な人。オーサンには感謝してもしきれないネ

——それから、一昨日は原監督とも再会したんですよね。

クロウ イエス。でもミーは野球のことを話したかったのに、ハラサンはプロレスのことばかり話すんだから（笑）。ホントーニ、モウ！

——ハハハハハ！「ホームラン・チョップってどうやるんだ？」ってしきりに聞いてきたらしいですね。

クロウ ソ〜ウ！ ハラサンはミーよりプロレス大好きネ。

——原監督は記者と「マイティ・モーは強くなった」とか「ブロック・レスナーは凄い身体をしているね」なんて話をするほどのプロレス・格闘技好きですから。

クロウ 『ハッスル・エイド』にも凄〜く来たがってたヨ。でも、その日は福岡でオーサンとハラサンが対決（ジャイアンツvsソフトバンク）するから。またの機会があったらぜひ観てほしいネ。

しかし、もしリングサイドに、往年のジャイアンツの選手たちが勢揃いでクロマティさんを見守ったら、震えますね。

クロウ ハハハハハー そうなったら本当にスゴイ（笑）。

——見てみたいなぁ。次の参戦時にはぜひ期待したいです！ 『ハッスル・エイド』のあと、また『ハッスル』からオファーがあったらどうしますか？

クロウ う〜ん……、まだワカラナイ。というのも、自分がプロレスをやっていることが信じられない（笑）。『ハッスル・エイド』でファイトしてみてから考えてみるヨ。いまは日本での日々、そして『ハッスル・エイド』を楽しみたいと思ってるネ。

なるほど。今回はひさびさの日本ですが、「ここには行っておきたい！」って場所はありますか？

クロウ まずは、ミーの日本の友だちと会いたいネ〜。あとサッポロ、センダイ、フクオカには行ってみたい。とくにサッポロのファンはクレイジーネ

あ、すべてジャイアンツが遠征で行っていた球場がある場所ですね。ちなみに宮崎はいかがですか？

クロウ オ〜！ ミヤザ〜キ！……フゥ〜（とため息をついて）。あそこはキャンプした思い出しかないからネ。

やっぱりクロマティさんもあの"地獄の宮崎キャンプ"を強烈に思い出しますか（笑）

クロウ ベリー、ベリー、ハード・トレーニングだったネェ…… モ〜ウ ウンザ〜リ！（笑）。

『ハッスル・エイド』のほうでは、「ウンザ〜リ！」ではなく、勝利の「バンザ〜イ！」を期待しています（笑）

クロウ OK！（笑） じゃあ、最後にアナタと一緒にバンザーイしましょうか！

——もちろんですよ。いやぁ〜。感激だなぁ

クロウ セーノ、バンザーイ！ バンザーイ！

—バンザーイ！ 今日はどうもありがとうございました！

【07年8月13日／東京・PRIDE道場にて収録】

Warren Livingston Cromartie■1953年9月29日、米国フロリダ州出身。1984年に読売巨人軍の外野手として来日して、7年間の通算打率が3割2分1厘という大活躍。"史上最強の助っ人"と呼ばれ、バンザイパフォーマンスや明るい性格で人気者となる。90年に巨人を退団したあとは、アメリカの独立リーグで活動していたが、07年6月に電撃的に『ハッスル』参戦

小川直也 一時離脱 座談会

オレたちはどーすればいいんだ〜あ!!（後楽園ホールのヤジ調）

ハッスルをチャオ! ズンドコーGFへ!!

原タコヤキ君（以下、タコ） え〜、本日はまたしても花の金曜日の夜だというのに、小川直也を語ろう！ ということで、小川直也にはうるさい皆さんに集まっていただきました。

堀江ガンツ（以下、ガンツ） いやぁ、前号のNo.111でも、花の金曜日なのにUWFをおおいに語りましたけど、今夜も周りはカップルばかりですねえ（笑）

金沢克彦（以下、GK） ちなみに、ボクはテレビ朝日で『ワールドプロレスリング』の収録帰りですよ。

ジャン斉藤（以下、ジャン） とにかく花の金曜日感は皆無、と。

タコ でも、マット界からしたら大事件でしょ？ 小川直也の『ハッスル』一時離脱は。

ジャン う〜ん。それがビックリするほど話題になってないですよね。この座談会は6・17『ハッスル・エイド』前の収録なので、まだなんとも言えませんけど。

タコ ああ、微妙なんや。

ガンツ そもそも"一時離脱"というフレーズ自体が、いまの小川直也の微妙なスタンスをよく表わしてますね。

タコ でも、どういうことなんですかね、"一時離脱"って。なんで"一時"ってつけないとアカンの？

ジャン どういうことなんでしょうね。そこは今日の座談会のポイントの一つでもありますけど。

タコ その"一時"っていうとこにポイントをおくと、ボクは、一時離脱はアングルであって、じつは単なるIGFへのレンタル移籍かなと思ったんですよ。

ガンツ まあ、実際には「5月いっぱいで『ハッスル』との契約が切れて更新はしませんでした。でもケンカ別れじゃなく、また『ハッスル』に上がるかもしれませんよ」ということですよね。

GK でも、それを世間一般では離脱と言うんですよ（笑）。問題は"一時"をつけたいのは、小川直也の希望なのか、『ハッスル』の要望なのかということですね。

ジャン まあ、6月8日の現時点では、『ハッスル』関係者のコメントもやけに微妙なんですよね。一部スポーツ紙では「小川さんは必ず戻ってきてくれます」ということで。そしてオーちゃんは"一時離脱"の第一報を伝えた『東スポ』で、破壊王のお墓参りに行って、「旅に出てくる」と報告して。こういうときって普通は大ゲンカするか、まったく触れないかのどっちかじゃないですか。そのどっちでもないっていうのが、逆に興味深いですね。

タコ "一時"っていうのは、オーちゃんサイドも『ハッスル』サイドも、両方の意向なんやろなあ。オレは金で揉めたのかなって思ったけど、でもちょっとまともに考えたら、IGFより『ハッスル』のほうが継続性があるやんか。

ガンツ ですよね。それに小川直也という人は本当に『ハッスル』を愛して『ハッスル』に懸けていた人なんですよ。それなのになぜ"一時離脱"を図ったのかといえば、ズバリ言って、いまの"セレブ小川"キャラがイヤだった。いろんな理由はあるにしても、大きな理由はただ単にそれだけなんじゃないかって思うんですよ。

タコ ガンツのその推測からすると、それはオーちゃんがキャラクタープロレスを嫌がったってことでしょ？

04年4月8日『ハッスル8』で行なわれた小川直也vs川田利明の観客ジャッジメントマッチ。試合の勝敗、試合内容の勝者をインターネット投票、そして会場の観客がジャッジするという3本勝負で実施された。試合は小川が制したが、ネット投票＆観客ジャッジは川田が奪取し、勝利。詳しくは本文を読んでほしいが、この結果が今回の一時離脱に少なからず影響を与えたと推測される。

ガンツ いや、違います。キャラクタープロレスがイヤなんじゃなくて、単にヒールや嫌われ者がイヤなんですよ。ヒールや小バカにされるキャラクターが割りきれない人なんじゃないかな。だから、セレブ小川の恒例になっている、観客からの「しょっぱいのはオマエだ!!」コールを浴びるたびに目が泳ぎまくってるんですよね。

GK でも、ファンに「しょっぱい！」と言われ続けて、その果てに"セレブ小川"というキャラが生まれたわけじゃないですか。プロレスラーを名乗るなら、このまま転がし続けるべきですけどね。

ガンツ でも、そういう選手っていますよ。K−1 MAXがスタートしたとき、日本人最強トーナメントをやって魔裟斗が優勝したじゃないですか。そのとき全試合、魔裟斗の対戦相手に声援が集中して魔裟斗にはブーイングだったんですよね。それを観てボクらは「北の湖とリック・フレアーを合わせたような、凄いヒール王者が誕生したなぁ」って感動してたんですけど、当の魔裟斗は控室で「嫌われ者になりたくない……」って語ってたんですよね（笑）。それぐらい、普通のスポーツ選手にとって野次とかブーイングって傷つくもんなんですよね。

ジャン まあ、優勝した魔裟斗ですらそれですから、セレブ小川キャラをこなすのは、かなりキツそうですよ。もし自分をチャオしたらと想像しただけでもゾッとする（笑）。

GK 確かにね（笑）。よくよく振り返ってみると、小川直也に対し

座談会出席者

金沢克彦（インリン・オブ・ジョイトイ）
元「週刊ゴング」の名物編集長にして、現在はフリーライター。「ワールドプロレスリング」の解説や、「kamipro探検隊」の隊長も務める"プロレス冒険家"。「週刊ゴング」時代には、"1.4事変"を発端とする小川の暴走を糾弾し、話題に。それを機に「週刊ゴング」は小川直也と対立を深める。愛称はGK。45歳

原タコヤキ君（中川敬）
元・小さい版型だった頃の「紙プロ」編集者。カリスマ司会者としてたびたび座談会に登場するが、前号のUWF変態座談会プロフィールで「UWFにはたいしたこだわりはない」などと書かれ、そのうえソウル・フラワーの中川敬氏とのツーショット写真の紹介も省かれる始末。本当に申し訳ありません！ なお、小川へのこだわりについては不明。37歳

堀江ガンツ（とにかく凄いメンノ）
本誌編集部。小学生の頃からUWFの変態的なファンであり、UWF研究家の第一人者。選手本人に成り代わって心中を勝手に代弁する"イタコ評論"でおなじみ。前・本誌編集長の山口日昇から小川直也番を受け継ぎ、精力的にインタビュー取材を重ねていた。いまのところの小川直也最後のインタビューは、05年12月の吉田秀彦戦直前時。33歳

ジャン斉藤（谷川貞治"黒魔術師"）
本誌編集統括本部長、略して編集長。永久電機、麻雀、そしてシュートボクシング・オーの評論にはとにかくうるさい。初期『ハッスル』の企画担当者だけあって、第一次『ハッスル』ブーム時に発売された「ハッスル音頭」（小川直也さん熱唱）の振りつけを完全マスターしているという、まったくうらやましくない特技を持つ32歳

てはファンもレスラーもみんなシュートじゃないですか。"言葉の暴力"とも言っていいぐらい。
ガンツ だから人一倍、傷ついていたんだと思うんですよ。なぜ、そう思うかと言うと、かつて『kamipro』は毎号のように小川直也を取材させていただきまして、ボク自身、非常に仲良くもさせていただいたんですけど、でも、その関係にちょっとヒビが入ったのが、04年3月の"観客ジャッジメントマッチ"だったんですよね。
ジャン 両国国技館でやった川田利明戦。
ガンツ 試合に勝ったあとに、川田を支持するボードだらけの会場を見て、試合後、オーちゃんは本気で落ち込んだんですよね。
GK ちなみにオレは客席で観てたけどね。あまりにも川田のボードが多いんで、「何言ってんだ！そんなの勝ったほうが偉いに決まってんじゃないか！」って(笑)。
ガンツ それくらい川田ボードが会場を埋め尽くした。ボクらは試合前「そんな試合形式でやったらボードは川田だらけになるのに、どうするんだろう？」って思ってましたけど、小川本人だけはかたくなに、自分がカッコよく勝って、ボードも「小川」だらけになると思っていたんですよ。
タコ でも、現実は……。
ガンツ 「川田」だらけ(笑)。それで『ハッスル』もファンも信じられない、というような感じになって。「もう東京で試合しない」とか言いだして(笑)。それから『kamipro』の取材も応じてくれる回数が減ってきたんですよ。
タコ ……小川直也はオレや!!
ガンツ はい？ だ、大丈夫ですか、タコ兄さん。
タコ オーちゃんはオリンピックのときも日本中から叩かれて落ち込んだときもあったやろうけど、ほめられてきた人って意外とそんなもんちゃう？ オレだって何年か前の会社の忘年会の出し物でさ、ウチの社長が「ウチの会社で宝くじが当たっても黙ってそうなヤツ」っていうのを想像して、ボードに名前を書くってのがあったのよ。オレは「誰の名前を書くんやろ？ ○○かな？ それとも意外と△△やったりして」って思ってたら、「原！」ってオレの名前を出したんや。
ガンツ ガハハハハ！
タコ そのときみんなが「ワーッ！」と盛り上がったことにオレはビックリしてね。だけど、みんなは「あたりまえじゃないですか」って言うわけですよ!!
ガンツ ガハハハ！ だから、オーちゃんの気持ちはわかる、と(笑)。
タコ 俺とオーちゃんは一緒や！「オレってこんなふうに思われてたん!?」っていう。
ジャン でも、それって小川直也が特別じゃなくて、人間誰しもが持ってる一面ですよね。

「ハッスル」開始までの小川といえば、格闘技を基本とした暴走王スタイル。橋本、川田らと名勝負を展開 強者をおおいにイメージさせたものだった MMA全盛の時代性に埋もれた点では、"遅すぎた前田日明"という感もあるが……

小川直也のプロレス人生に欠かすことのできなかった存在、それが破壊王だ。"1・4事変"という壮絶な修羅場を経て意気投合 ZERO-ONEではOH砲を結成。プロレスの楽しさを知った小川にとって、ハッスル・スタートの原点になった

ZERO-ONEの選手が"別人"に扮するお祭り企画「01World」。早すぎた「ハッスル」カラーのイベントで、オーちゃんが変身したのは、ハルク・オーガン!! ホーガンムーブを完コピし、本誌にもオーガンとしてノリノリで登場するほど大満足！ YOU!!

暴走王スタイルを封印!! 「ハッスル」の世界観を構築すべく、新たなる試みに次々とチャレンジ。『PRIDE・GP』での奮闘ばかりが語られがちだが、髙田総統とともにファイティング・オペラの道を切り開いた姿も忘れちゃいけない。

タコ うんうん！ 少なくてもオレはそう！
ジャン なんか、『ハッスル』でのオーちゃんを見てると、ボクは胸が締めつけられるんですよねえ。良くも悪くも人間らしさがモロに出ちゃってるところがあって。たとえば、こないだの破壊王の墓参りにしても。
タコ 言い方は難しいけど、破壊王を利用している感じもしたよね。
ジャン やっぱり、動機としては感動的だった吉田秀彦戦のときと比べると"後ろ向き"じゃないですか。でも、そこにオーちゃんの人間性がむき出しになっていて、そこは自分にも思い当たるふしがあって。だから、"心の中の小川直也"が騒ぎだすんですよねえ。
タコ そうや！ 誰の心にも小川直也は住んでるんですよ。ああ、オーちゃんは人間らしさをリング上でさらけ出してるんやなあ……(しみじみと)。
ガンツ どーでもいいですけど、もの凄く失礼な共感の仕方ですね、世界の柔道王に対して(笑)。
GK しかし、なんでこんなに話題になってないんですかね？
タコ そうですよね。髙田総統がなんかのトラブルで『ハッスル』を離脱したっていうたら、おそらくビッグニュースになりますね。
ガンツ 要するに、小川直也、イコール『ハッスル』という図式が、いつからか、もう完全になくなったということですよね。
タコ いつからなくなったんやろうね。まず、『ハッスル』を背負って『PRIDE』に出るっていう、連の試合、それから最近でいうと吉田秀彦戦。やっぱりオーちゃんは『PRIDE』が絡んだときに初めて『ハッスル』を背負ってる気がすんねんけどなあ。
ガンツ そうですね。それにオーちゃんの『PRIDE・GP』参戦がなかったら、『ハッスル』はここまで続かなかったと思うし、言うまでもなく、『ハッスル』を世間に広めるために小川直也は必要不可欠だったんですよね。
GK うん。『PRIDE・GP』に出たことは本当に凄いですよ！ だって同じレスラー仲間が「ウソだろ!? 出るわけねえだろ!?」って絶対に信じなかったぐらいですから。で、1回戦でステファン・レコに勝ったときも「アレでしょ？」って疑ってる関係者やレスラーもいましたしね。
GK あと、決勝ラウンドに進んだのに「これで勝ったと思うなよ！」って見出しをつけた某週刊誌もあったしね(笑)。
ジャン 『週刊プロレス』なんか、ワークを匂わせる試合レポートで大ヒンシュクを買いましたし。
ジャン ああ、オーちゃんとものすご凄〜〜〜〜く仲がよかった『週刊ゴング』という雑誌ですね(笑)。
GK きっとイヤなヤツが編集長だったんでしょう(笑)。だけどそれは、逆に言えば愛情なんですよ。

「こんなもんじゃないだろ？　ヒョードルとやらないでどうするんだよ!?」というね。

タコ　オーちゃんをそれだけ評価してるってことですね。

ガンツ　それくらいあの頃の小川は充実してたというか、あれだけのファンが応援してくれるっていうのが、もうたまらなくホントに嬉しかったと思うんですよ。で、じつはですね、小川がプロレスラーとして一番楽しかったのは、ZERO　ONEのOH砲時代だと思うんですけど。それはなぜかというと、地方のどこへ行っても大歓声で大人気で。

GK　ああ、確かに地方はどこへ行っても満員でしたね。

ガンツ　「これをもっと続けたい。大きくしたい」っていうその思いが『ハッスル』につながっている。だから「みんなに応援してもらいたい！　大歓声に包まれたい」というのが小川直也なんですよ。

GK　そのモチベーションがあったから、『ハッスル』でも器が広がったというかね。あんなに険悪だった長州力に『ハッスル』ポーズをやってもらうためにいろいろ呼びかけたりさ。

ガンツ　小川にとってはそれぐらい『ハッスル』は思い入れ深い舞台だったんですよ。そんな小川直也に「しょっぱいのはオマエだ!!」って言われる役どころを与えてるのは、ヒドイ話ですよ（笑）。

タコ　そうやなあ。きっとオーちゃんも「このしょっぱい役を飲まないと器が小さいと思われるんやろなあ……」っていうのがあって受けたけど、内心は「かなわんな～！」っていう気持ちもあったはずで。そこも人間らしいなあ。

GK　気になるのは、小川本人は自分のプロレスがしょっぱいっていうのを自覚してるんですか？

ガンツ　自覚というか、あれだけ言われたら誰だって気にしますよね。でも、問題は小川自身だけにあるわけじゃないと思いますよ。

タコ　というと？

ガンツ　やっぱりプロレスラーはイメージというか幻想が大事じゃないですか。小川直也は強い、危険、怖い！　っていうイメージだったのに、『ハッスル』では「しょっぱい」だけのイメージなんですよ。そこは「しょっぱい」と言わせることを解禁した『ハッスル』の最大の失敗というか、それはみんなが心の中で思っていてもいいけど、声に出して言っちゃいけなかったんじゃないかな、と。

GK　もしくは、それを小川に言っていいのは髙田総統だけだったのかもしれないね。

ガンツ　そうですね。ファンが小川を「しょっぱい！」って言ったら、小川がファンより下になっちゃったじゃない。ファンに見下されるようになったら、ちょっとヤバイですよね。

ジャン　そうなったそもそもの発端は、"1・4事変"に集約されていた暴走王のスタイルから、エンタメに移行したことですね。

世間に「ハッスル」の名を知らしめた「PRIDE・GP」出場!!　決勝ラウンドのあまりの注目度にチケットは早々に完売、当日券を求めるファンが大会48時間前から待機するほど!!　「ハッスル」は年末の流行語大賞にエントリーした

PRIDEでの活躍で「ハッスル」の知名度は大きくアップしたが、小川直也のプロレスラーとしての技量が厳しく問われる一面も生じてきた。プロレスを概念だけでとらえず、スポーツないしは競技的に計ろうとする時代性の要求でもある

ますます速度が上がる『ハッスル』。インリン様の登場をきっかけに、"非レスラー"の主役化がマット界に浸透していった。そうして柔道世界選手権覇者がインリン様のM字固めで悶えるシーンが違和感なく受け入れられたのだ

「PRIDE男祭り2006」吉田秀彦戦では、その年に急逝した破壊王を背負って闘いに挑んだ。柔道時代の遺恨がクローズアップされた究極の一戦だったが、小川はプロレスラーであることを選んだともいえる。入場時には「ハッシモトー!!」コール!

ガンツ　オーちゃんは"暴走王"スタイルが一番似合っていたし、"暴走王"としては一流だったわけですよ。そんなオーちゃんに、本人が望んだとはいえ、純プロレスをやらせたらダメだったんですよ。

タコ　まあ言うたら、ロード・ウォリアーズやもんね。

ガンツ　そうなんです。ロード・ウォリアーズって、3分ぐらいで圧勝するからいいのであって、鶴田&天龍あたりとロングマッチやったら、途端にしょっぱかったじゃないですか（笑）。小川直也はウォリアーズであり、アルティメット・ウォリアーであり、レックス・ルガーなんだから！

ジャン　要はしょっぱいけどスター性のある選手。

ガンツ　そう！　そんな人にリック・フレアーみたいなものを求めたってダメでしょうって！

タコ　そりゃ「しょっぱい！」って言われるわなあ。でも、『ハッスル』という舞台は、格闘技とは違う意味でのガチンコ性もあるっていうことを証明したわけやん。オーちゃんですら特別扱いされないっていうか、"己の存在を懸けたエンターテインメントというね。

ガンツ　だから、髙田総統との闘いに、ガチンコで突き落とされちゃったということなんですよね。

タコ　『PRIDE』でガチンコで負け、『ハッスル』でも違う意味でのガチンコで蹴り落とされて……。

GK　それで心が折れて、原点回帰で猪木さんのもとに帰っていくというのはある意味で自然ですよね。でも、しつこいようですけど、あの"セレブ小川"キャラはもったいないですよ！

ガンツ　そんなにお気に入り（笑）。

GK　だってセレブが出てくると、あの後楽園ホールのファンが静まり返るんですよ（笑）。そうやってシーンとしてる中、「オレたちは、どうすればいいんだーぁ!!」っていうヤジでようやくドッと沸く。で、小川の「フー！」の掛け声に合わせて、なんとく観客も「フー！」「フー！」叫びだすでしょ。アレはこの先のブレイクを予感したね～。いや、マジメな話。

ガンツ　まあ、誰も観たことがないプロレスですからね（笑）。

GK　あの「オレたちはどーすればいいんだ～ぁ!!」に続くヤジが生まれれば、大爆発する可能性があるわけですよ。だから、小川には、もうちょっとガマンしてほしかったな、という。

ガンツ　似たような例でいえば、90年代頭にジャンボ鶴田がブレイクしたのって、鶴田の試合がつまらなすぎるからみんなが勝手にブーイング飛ばしたり、「オー！」とか言ってからかってたら、鶴田がノリだしてのことですもんね（笑）。

タコ　ホンマそうやんなあ。おもしろくないレスラーの代表やったもんな、鶴田は。

GK あと一歩でしたよ、セレブ小川は。セレブの魅力を伝える媒体が少なかったのも問題かもしれないですね。
タコ 『kamipro』でもっと煽らなきゃ！
ジャン いやあ、ボクはあのジュードー・オーを昔から評価している貴重な人間なんですよ。「あの氷点下具合がシビれる！」っていう感じで。けど、それってもの凄く失礼な話じゃないですか。とても真っ当な評価じゃないんですから。
タコ 失礼やな、確かに（笑）。
ジャン そこで『kamipro』なりの着地点が、"いかりや長介"的ポジションだったわけですよね。
ガンツ やっぱり、『ハッスル・マニア』のオープニングでタキシードを着て進行役を務めるのは、オーちゃんしかいないと思うよね。
タコ そうやなあ。だからドリフターズだって、みんなは志村けんとかカトちゃん（加藤茶）を見たかっただけで、長さんなんかどうでもいいと思っていたぐらいやけど、やっぱりハッピ着て締めるのは長さんでないとな。
GK 一番ギャラが高い長さんをコントの中でほかのメンバーがシュートでいたぶるという（笑）。
タコ ということは、オーちゃんはいずれシブい性格俳優になるかもしれへんな（笑）。
ガンツ そのいかりや長介がいないドリフがありえないように、小川直也がいない『ハッスル』がどうなるのかは見ものですよね。
タコ もの凄くもの足りないかもしれないね。だからこうなる前にさ、総統みたいに試合に出えへんスタンスになってもよかったんかなあ。それか、『ハッスル』を広めるために外の舞台で闘う。「『ハッスル』を広めるために」っていう大義名分で『PRIDE』に出たのは、やっぱり美しかったもん。
ジャン そうですよね。ボクが思うに小川直也は"決断のレスラー"なんですよ。その時々の決断が商売になるというか、大きな波紋を起こしていく。あくまで決断が大事なのであって、極端なことをいえば、そのあとのリング上はしょっぱかろうがなんだろうが、どうでもいいんですよね。ただ、今回の決断は……。
GK ちっちゃい決断なんだよね。そして何をやりたいのか全然、ファンに伝わらないというか。
ジャン そうなんですよ。小川の決断って、ホント凄かったんですけど、"1・4事変"の決断から始まって、PRIDEに出る、出ないで、業界内外の錚々たる実力者たちと一歩も引かなかったし。"出ない"という決断だけで、どれだけ波紋を呼んだことか。
GK 『猪木祭り』のバンナ戦なんてさ、ギャラは5000万から8000万に上がって、それでも小川が断ったんですよ。5000万プラス、石井館長がポケットマネーから3000万を出そうと言ってるのに「ノー」。ということは「1億円必要なのか」ということで、『ゴング』の表紙で「1億円要求！」って打ちましたけど（笑）。

♪エンヤ～コ～ラヤ！ と、『ハッスル』ビッグイベントのオープニングでは欠かせない存在感を持っていたオーちゃん。しかし、IGF参戦会見では「いま『ハッスル』ではストーリー上、俺がいなくても差し支えないというか」と、寂しいコメント……。

ガンツ いまでこそUFCやボードッグ界隈で億単位の話が飛び交ってますけど、あの当時の億なんていったら……。
GK もう、対戦相手がヒョードルだって、ミルコだって、RGだって……俺でも試合するよ！（笑）。
ガンツ ガハハハ！ 世の中のプロレスラー全員が「やります！」って言いきると思いますよ。
タコ またタイプはちゃうけど、ちょっと田村潔司的ですね、オーちゃんは。他人とは違うところに価値観を置いているという。
ジャン 『PRIDE・GP』に出たときも「『ハッスル』を広めるため」という大義名分を掲げたわけじゃないですか。
ガンツ いや、それがなかったら出なかったでしょう 絶対に。
ジャン そこは、一人のプロレスラーとして動機が必要だっていう美しい信念ですよね。金じゃない。俺はこのために闘うんだ！ っていう。それがちゃんとファンに届いていたんですよ。
GK 『ハッスル』立ち上げのときだって、専門誌の人間を本気にさせてくれたし、だから本も売れたし。あらためてありがとう！ と言いたいですよ、オレは（笑）
ジャン 『ゴング』は小川直也で商売してきた、と（笑）
GK うん。まさに自分が編集者を辞めるときに書いたとおり、自分が編集者だった5年9カ月間、誰で食ってたかといえば、小川直也と大仁田厚。この二人ですよ。
ジャン そういう意味で、オーちゃんはスキャンダルレスラーですよね。その行動なり、動機なり、決断が評価されるという。
タコ そのポイントでいえば、IGFへの参戦がスキャンダルに見えへんかったんですよ。
ジャン そこが一番、残念なんですよね。
タコ そもそも猪木さんとの師弟物語にしてもさ、前田にしろ長州にしろ、猪木さんと愛憎渦巻く複雑な心境でくっついたり離れたりしながら、それが壮大なドラマになっていたわけじゃないですか。
ガンツ 前田と猪木さんはいまもガンガンやり合ってますからね。原因はいまだに旧UWFの件なんですけど（笑）。
タコ でも、オーちゃんと猪木さんの関係って全然、ドラマチックじゃないんやもん。『ハッスル』に対しても"一時"みたいなことを言うてるから、今後、戻ったり関わったりするときもドラマにならへんと思うよ。
ガンツ ホント、そのとおりなんですよ。ボクが今回の消化不良ぶりを見て頭をよぎったのは、I編集長が生前に言っていた「プロレスのケンカはプロモーションビデオ」ってことなんですけど。要は「プロレスでケンカしているっていうのは、すべて興行を盛り上げるため もっとケンカしろ！」っていう話なんですよ。
タコ やっぱりプロレスってさ、リング外のトラブルですら商売にしてきたわけやからなあ。
ガンツ だから、小川が『ハッスル』にボロクソ文句を言って、猪木さんと電撃的に合体して「本物のプロレスをやる！ 『ハッスル』がプロレスをダメにした！」って煽ったら、6・17『ハッスル・エイ

天才は天才を知る!?

ド』も6・29IGFも相乗効果で盛り上がるんですけどねえ。

GK もしくは、小川が猪木さんを殴っちゃうとか。

ガンツ それぐらいやってくれたらおもしろいですよね。だから、当日、小川直也は試合に出なくてもいいと思うんですよ。エンディングで「ダー！」をしようとしてるところに、突然現われて猪木さんにSTO決めちゃうとか（笑）。

タコ それはいいねえ！ でも、やらへんやろな。あとさ、オレ自身ね、オーちゃんに対して「ヘタ、ヘタ」って言いながら、「オレってうまいプロレスを観たいわけじゃないよなあ」って思うのよ。

ジャン それはボクもそうなんですよね。プロレスにその要素だけを求めたら、大きな広がりは持てないですし。

タコ そこのモノサシだけで計られたら、プロレスというジャンルそのものに入りにくくなるよ。

ガンツ だから小川直也って、プロレスが世間から遠ざかっている状況からすると、あまり活きない人なのかなって。マニアはどうしてもそこを注視しますし。

GK 職人が集まる全日本プロレス的な世界には似合わないですよね。だから小川直也の火がつく可能性があるのは、新日本だけのような気がするんですよ。ノアの敷居はちょっと高すぎると思うし。逆に、新日本だと、小川に対して選手がへんにムキになるっていうね。なんか凄く、また小川直也が引き立つような気がして。

ガンツ それはよくわかりますね。小川直也 vs 中邑真輔とかやったら、中邑真輔もブレイクするきっかけになるんじゃないかと思いますよね。じゃあ、まず12月の大阪府立体育会館で小川 vs 越中をやりましょうか（笑）。

GK で、そのあとのドームで永田とIWGP戦をやってね（笑）。なんかおもしろい歪みが生まれるような気がするね。

ジャン 要するに、オーちゃんにはイレギュラー感があるってことですよね。

タコ あるよねえ、イレギュラー感。なんか、凄くひっかかってくる。

ジャン 仮にプロレスがうまくても、絶対にイレギュラー感ってあるように気がしないですか？

タコ あ～、たまにおるよね、そういう人ね。だって、いまのレスラーって他団体に出ても、絶対にレンタルにしか見えへんけど、オーちゃんにはそんなもん感じないもん。

ガンツ いついなくなるかわかんないし（笑）。たとえばIGFにセレブ・スタイルで出てきたら、その異物感は凄いですよ！

タコ それは爆発する！（笑）。それはある種、猪木さんをど突くぐらいのシュート行為やわ。

ジャン せめて「IGFでハッスルしてくる！」の一言だけで印象は違うのになあ。

GK そういえば、猪木さん、こないだのプロレス懇親会でこんなことを言ってましたからね。「プロレスって何か？って聞かれたら、いまのレスラーは答えられねえだろ。プロレスは闘いだよ！」って。まあ、それは正解なんですよ。まさに、ゴージャス松野にも闘いはあるんですから。もうヘトヘトになって、あの人ホントに救急車で運ばれちゃって（笑）。で、猪木さんが一番言いたいのは、闘いというよりも、どれだけのめり込んで本気のプロレスができるかだと思うんですよね。たぶん。

ガンツ どれだけ狂えるのか？

GK うん。だから武藤に「猪木さんに似てるよね？」って言ったら、「オレは怒りとかそういうのは必要としてねえから」って否定したけど、武藤が悶絶してるところなんかまさに迫真じゃないですか。「イッテー！」っていう顔とかさ。そこはプロレスへの本気度だと思うんですよね。小川も『ハッスル』星へ行くときに「オレはまだまだだから」って言ったらさ、観客に「いま頃、気づいたのか！」って言われてね。でも、「いいじゃねえか、いま気づいたって！」って言い返したら、ちょっと拍手が起きたじゃないですか。あの拍手は本気度に対してですよね。

タコ オーちゃんは『ハッスル』に対しては本気やったと思うんやけど、今度、いわゆるプロレスになったときにオーちゃんがどういう姿勢で臨めるかやわなあ。

ガンツ あとは『ハッスル』次第でしょう。『ハッスル』がどのタイミングで小川を戻すかどうか。ファンの潜在意識の中で「小川が観たい！」って思ってるときに、突然現われるっていう。WWEの何がうまいって、そのタイミングがうますぎるんですよ。ファンから声が出るんじゃなくて、潜在意識で思ってることになんとなく勘づくかどうかっていう。小川が出てきて泣いちゃうようなシチュエーションって作れると思うんですよね。

GK 小川直也 vs 藤井軍鶏侍とか？（笑）。

タコ ズッコケるなあ。

ガンツ いやあ、それは髙田総統の価値が揺らいだときなんじゃないかって思うんですけどね。

タコ でも、しばらくしたら、みんな気づくと思うわ。「今日の『ハッスル』、おもしろかってんけどなんか足りない」っていう。

ジャン じゃあ、まずは『ハッスル・エイド』で確かめましょう！

【07年6月8日／都内・新宿某所にて収録】

小川直也不在の「ハッスル・エイド」 もの足りなさを感じる人、違和感なく受けとめる人……反応は人それぞれだが、今後のオーちゃんの活躍次第で印象は変化していくことだろう

小川ヌキ

ハッスル・エイド」感想

金沢克彦 小川の扱いは過去の登場人物で、喪失感なとまるで感じさせなかった「ハッスル・エイト 本来その穴を埋めるべく投入されたG・ムタは観客のハートを鷲づかみ。RGのリアクションときたらもう達人の域に入ってきた今大会のベストマッチだ しか～し、エンディングでハタと気がついた もはやセレブ云々ではなく、HGが「キャプテ～ン！」と呼びかけなきゃなんとも締まりが悪いのだそう、小川直也は偉大なる締めくくり名人であったのだ

原タコヤキ君 ハッスルエイド」のポイントは、オーちゃんの不在を感じたのか、感じなかったのかだったと思。オープ・ングの総統＆川田のチャゲアスからメインに至るまでの試合の流れでは、オーちゃんの不在は感じなかったけど、髙田総統劇場が終わったあと、リング上に残されたハッスル軍の小粒感はかなりのもんでした。オーちゃんがいれば、また違った印象になったと思います。『エイド』全体としては、かなりまとまっていておもしろかったです！

堀江ガンツ 各レスラーの頑張りにより、イベントではオーちゃん不在を感こさせなかった今回の「ハッスル・エイト しかし、一つだけオーちゃんが気になって仕方がないことがあった。当日の「けやき広場」のイベントでオークションに出品されていたというジュードー・オーやキャプテン・ハッスルのコスチュームいったいいくらで落札されたのか!? あ～、気になって仕方がない！ というか、俺が競り落としたかった！ やっぱり小川直也は気になる存在なのだ

ジャン斉藤 小川直也の「お」の字も出なかった ハッスル・エイト これ、ハッスル」サイドがわざと無視しているわけではなかろうが、オーちゃんにとって屈辱的なことだと思う だって、結果的にいてもいなくてもいいってことでしょ。ジュードー・オー親派の俺は悔しいよ!!（松林貴調）。不在感を感じたかった自分がいることをおおいに感じた次第であります。そして、この小川の不在感をムリヤリ求める感覚は、しばらくボンヤリと続くことでしょう

あれから早2年——。

"破壊王""ハッスル・キング"橋本真也さん メモリアル・イベント、今年も開催決定!

「ハッスル・キング・フォーエバー2007」

あの豪快なる男の偉大な魂を語り継げ!

今年もこの季節がやってきた。2年前の2005年7月11日、"破壊王""ハッスル・キング"の愛称でファンに親しまれた橋本真也が急逝。あまりに突然のことで多くのファンはとてつもないショックを受けた。こうしてあれから二度目の夏がやってきても、まだ橋本さんが帰ってくるような気がしている人も多いのではないだろうか。橋本さんが生み出した「ハッスル」のリングでは、今年も橋本さんの命日にメモリアル・イベントを開催する。会場には献花台を設置、コスチュームの展示も行なう。7月11日、東京・後楽園ホールであの男の魂に触れよう!

構成/坂井ノブ

ハッスル・ハウスvol.26
ハッスル・キング フォーエバー2007

7月11日(水)
後楽園ホール
開場18:00/開演19:00

[入場料金 全席指定・消費税込]
ハッスルVIP、ハッスル・ヒップ 10,000円/
スタンドS 7,000円/
スタンドA 5,000円/スタンドB 3,000円

ハッスル24
ファイティング・オペラ

7月14日(土)
アクトシティ浜松 展示イベントホール
開場17:00/開演18:00

[入場料金 全席指定・消費税込]
ハッスルVIP(ハッスル・ヒップ ハッスルグッズ付)12,000円/
RRS(ロイヤルリングサイト)8,000円/
S席 6,000円/A席 4,000円
A席のみ小学生以下 2,000円

[お問い合わせ]
ハッスルエンターテインメント
TEL.03-5464-1731
www.hustlehustle.com/

ハッスルしまくり名場面ダイジェスト

"ハッスル"で最もハッスルしていたのはあなたでした

04年7月、ハッスルにエルヴィス・プレスリーのようなガウンをまとって登場した橋本は、カマ大王に勝利。そして、いきなりオリジナルの新ポーズ「トルネード・ハッスル」を披露した

04年3月、「ハッスル2」でボコボコにされていた小川直也を救出。後味の悪い終わり方にファンの野次も多かったが、橋本は一喝、全身全霊を込めたハッスルポーズで大会を締めた

04年1月、いまや伝説となった「ハッスル1」さいたまSAでヘイターと激突。両者ともコンディションは最悪で苦しい闘いとなったが、三角絞めでヘイターに勝利

03年12月、「ハッスル」開催発表記者会見での一幕。「プロレスをナメんじゃねえぞ!」と榊原DSE代表に殴りかかる小川をなだめ、代表にはプロレスラーの魂を説いた

天才は天才を知る!?

知る人ぞ知るマッスル理解者の武藤が語る“プロレスの向こう側”!!

プロレス界“天才”対談

プロレスの新たな可能性を探究するアフロの天才
マッスル坂井（マッスル主宰&DDT）

自他ともに認めるプロレスの天才
武藤敬司（全日本プロレス社長）

キミは知っているか？ 何かというとあの自他ともに認める“プロレス界の天才”武藤敬司が、“プロレスの向こう側”のキャッチフレーズで話題沸騰中の『マッスル』を絶賛しているらしいのです。真偽のほども確かめないまま、『マッスル』主宰のマッスル坂井に、そのことを告げると「その噂は耳にしてます」という。そうとわかれば話は早い!! 早速、全日本プロレスの社長室に突撃だ〜ッ!

聞き手／松澤チョロ　撮影／平工幸雄

――知らない人から見たら異色の顔合わせだと思うんですが、なんでも武藤さんは『マッスル』を評価していると聞きまして、今回はプロレス界の〝天才〟お二方にいろいろと語ってもらおうかと思っております！
武藤　うぃ〜し！
――ちなみに、お互い社長という立場でもあるんですけど。
武藤　えっ、社長なの？
坂井　僕、社長です。DDTテックという、DDTがトンネル会社を持ってるんですよ。いわゆる節税のための。
武藤　へぇ〜。DDTってそんなに儲かってんの？
坂井　いや、儲かってないからこそ、儲けるために節税をするんです。グッズと映像制作を主にやってます。
武藤　でもさぁ、はたして『マッスル』の人間と対談っていうとさ、これはプロレスの対談と言えるかどうかだよな。
坂井　うっ……（苦笑）。
いきなり核心を突いてきましたが、武藤さん的には『マッスル』はプロレスではない感じですかね？
武藤　う〜ん、どうだろうなぁ？　まあ、リングでエンターテインメントとして成り立ってるし、ちゃんと集客してるわけだからいいと思うけど。たぶん『PRIDE』とか総合系の対極だよな、『マッスル』は。SとMっていうか。
坂井　え、SとM!?
武藤　だって対極と対極じゃん、総合と『マッスル』というものは。『ハッスル』がそうかっていうと、『ハッスル』より『マッスル』のほうが対極という意味では言えるよな。そのあいだにあらゆるプロレスが入ってることは事実で。
――武藤さん的には全日本プロレスっていうのは、どのあたりに位置づけされているわけですか？
武藤　俺の考えてるプロレスの中ではね、『PRIDE』みたいなのばっかりだったら、レスラーにエンターテインメントをやらせるし、逆ばっかりだったら肉体系を対抗させる。そのいいバランスを作り出せるのは全日本プロレスかなって思ってる。その状況によってうまくやっていけたらなという。
坂井　僕らは『PRIDE』みたいなことができないから、対極しかできないんですけど、いま武藤さんがおっしゃられたみたいに、その要素要素で切り替えていくという、柔軟に対応するということが、じつは全然できないんです。なぜならば僕らはアスリートとして勝負しろって言われても、それはできないですから。
――「できない」と断言した上で始まったのが『マッスル』とも言えますからね。
坂井　そうですね。だって入れるもんなら、そりゃみんな全日本プロレスとか新日本プロレスに入るわけですもん。みんな、一応プロレスラーを目指す以上は。
武藤　そうなんだ。ただ さぁ、俺から見ると『マッスル』っていうのは、隙間産業でうまく泳いでていいよな。
坂井　………は、はい（笑）。
武藤　たぶん、一昔前の猪木さん、馬場さんが仕切ってる頃だったら、おそらく力で潰されてる世界だよ。
坂井　つ、潰されますかね？
武藤　潰されてるでしょ、きっと。馬場さん、猪木さんの時代は権力強かったよ。マスコミさえもコントロールしてたんだから。「そこを扱うんだったらウチは出さない」とかさ、たぶんそれぐらいの……〝プロレス〟っていうのを名乗れないというか。それがいまはメジャーの力が落ちたっていうのが、『マッスル』みたいな隙間産業がうまく食い込めたっていうところじゃない？
坂井　一昔前のプロレス界は隙間がなかったですよね、おもしろかったから。ビジネスとしても完全に成り立ってて、新日本プロレスや全日本プロレスを観るだけで全然満足できてたと思うんで、やる側も観る側も。ということですよね？
武藤　そうそうそうそう。
――プロレス界の隙間産業で成功しているという坂井さんは、いまやマット界だけじゃなく一般マスコミからも、かなり注目されてる存在なんですよ。
武藤　どこで注目されてんの？
――かつて武藤さんも連載してた『SPA！』とかでロングインタビューを受けたり、さまざまな一般誌とかで取り上げられてるんですよ。
武藤　ホントかよ！　俺、『SPA！』の連載終わっちまったよ（苦笑）。
坂井　す、すいません、僕『SPA！』の増刊号で連載が始まるかもしれないです……（気まずそうに）。ちなみに昨日の『東スポ』でもインタビューをデカデカと載せてもらいました（といって新聞を取り出す）。
武藤　あ、それ、俺も出てるよ。
坂井　えっ……（パラパラと新聞をめくって）。「ムタ、『ハッスル』初参戦」って……これどういうことですか!?
武藤　ああ、次の『ハッスル』に出稼ぎに行くんだよ。
坂井　で、出稼ぎ！（笑）。
武藤　やっぱ、馬場さん、猪木さんの時代のプロレスとは違ってさ、プロレスのニートになったら困るからさ。少しでも外の空気を吸いに行かないと。
坂井　プロレスのニートって……武藤さん、社長じゃないですか！（笑）。
武藤　だから、頭が固くなっちゃわないようにしねえといけないんだよ。
坂井　誰よりも柔らかいと思いますよ（笑）。僕らも、非公式に何度か武藤さんにオファーしたことがあると思うんですけど。
武藤　あ〜、でも条件面が合わねえからな（キッパリ）。
坂井　条件面って〇〇〇万円ですよ！
――それは『マッスル』のネタとしても使われてましたよね。
坂井　はい。いや、でもネタじゃなく払

『マッスル』って、猪木さん、馬場さんの時代なら力で潰されてるよ！

全日本の事務所に初めて足を踏み入れた坂井は、「うわ、ちゃんとした会社だ」と驚きの表情。酒の席では数回同席しているという人だが、武藤は坂井に「なんて『マッスル』ってつけたの？『マッスルなヤツ、一人もいねえじゃん！』」と、もっともなツッコミ

いそうじゃないですか、「ハッスル」は。だって小川（直也）さんとかも今回の「ハッスル・エイド」は出ないわけですからね、資金的には充分に余裕あるんじゃないですかね。

武藤 そのへんは知らねえ。ただね、歴史をたどったらね、「ハッスル」っていうのも、3〜4年前に「WRESTLE−1」っていうのをやってね、そのときは、「PRIDE」とK−1はまだよかったからさ、その中で「WRESTLE−1」っていうのを立ち上げることができて。で、途中で仲悪くなって分裂したんだけど、その生き残りでもあるからな、「ハッスル」って。

――武藤さんだったり、ボブ・サップであったりっていうところから始まったわけですからね。

武藤 そうそう。だけどさぁ、俺が思うに「ハッスル」は「マッスル」の存在が怖いだろうな。

坂井 え、それはどのへんがですか？

武藤 「ハッスル」って芸人使っちゃったりしてんじゃん。そういう意味で「ハッスル」の立場からしたら「マッスル」の存在っていうのは気にならねえのかな。知らねえけど。

『ハッスル』は芸人をリングに上げる 僕らは、自分たちが芸人になろうと

坂井 ただ、アプローチが違いますよね。僕らは、向こうは芸人をリングに上げる。僕らは、僕らが芸人になろうっていう、全然考え方が違うんです。僕らが芸人になって人気者になってしまえばいいんじゃないかっていう、それぐらい遠回りなことを考えて気長にやってるんで。

――武藤さんは何度か『マッスル』をご覧になったことがあるみたいですけど、いかがですか？

武藤 昨日も対談やるってことでスタッフに見せられたよ。でも、そんな全部通しては観てない。あとはサムライTVで流れてるのをちょっと観たりとか。鈴木みのるとやったヤツとか。

坂井 それは5月の後楽園大会ですね。鈴木さんとは次の日も名古屋でシングルマッチをやらせてもらいました。

武藤 あ、二日連続でやったの？

坂井 はい。偶然ですけど、ほぼ同じような内容になりました。

武藤 あの試合、ちょっとお笑い抜きっぽくやってたよな？

坂井 笑いの余地も一切なく、ボコボコにされました。

武藤 あれ以上まとまらなかったんだ？

坂井 …………（無言で固まる）。

武藤 もう一歩踏み出してくれなかったの？

坂井 …………（またしても固まる）。

武藤 あれを求めてたの？

坂井 いや、自分としてはそういうほうがいいかなと思ったんですけど。

武藤 逃げたな（ニヤリ）。それが一番簡単な方法だよ。

――武藤さん的には、みのるさんから坂井さんが逃げたと判断したと？

武藤 うん、逃げた。だって、向こうの領域というか、向こうを崩してないじゃん。……っていうふうに客観的に思ったけど、違うの？

坂井 う〜〜ん……（アフロをボリボリと掻く）。ただ、二日目の大会では、それまでの内容はほとんど同じだったんですけど、鈴木さんとの試合は4割増しぐらいにボコボコにやられました。

――武藤さん的には同じマッチメイクで二日連続やるっていうのはどう思います？　『マッスル』では追加公演というかたちで、すでに二度ほどやってるんですが。

武藤 わかんねぇ。俺たちだって今年は「チャンピオンカーニバル」で同じ場所（後楽園ホール）で5日間やったんだけど、内容は全部違うからな。……そりゃそうだよ、リーグ戦だから。

坂井 ノリツッコミだ（笑）。

武藤 『マッスル』のプロデュースとかすべて関係してるんだよね？

坂井 はい。

武藤 俺もプロデュースにちょっとは関わってるけど、ウチなんかは、選手の潜在能力っていうか、そういうのを期待してるからね。そういう意味では『マッスル』と違って、そいつらのプロデュース力っていうのを信頼して活かしたいというかさ。そこでは指図もしたくないし。たまにとんちんかんな試合やることもあるけど、俺たちが考えてる以上の試合をやってくれることも多いからね。

　いまの全日本は「パッケージプロレス」というふうに言われて、武藤さんとかの試合以外にも、たとえばAHHーが悪モノと闘ったり……。

武藤 あれは商売ですよ。ビジネス！

坂井 「パッケージプロレス」って言いきっていいんじゃないですかね、そこは（笑）。ビジネスとか言わないほうがいいんじゃ……。

武藤 （さえぎって）いや、だってビジネスの中にはいろんなケースがあるから。さっき言ったAHHーっていうのは、やっぱり子どものターゲットというかさ。

坂井 ああ、なるほど。

武藤 でもさぁ、おそらく『マッスル』っていうのは俺らと同じプロレスじゃないんだよ。形態が違うもんな。だって3カ月に一回かそれぐらいしかやらないんでしょ？

坂井 だいたい、そんな感じですね。

武藤 俺らは日々ライブでやってるからさ。「ハッスル」なんかとも若干違って、「ハッスル」なんかはそこに雪が必要だったら雪降らせるけど、俺らはそこにあるものを利用したりしながらやってるわけで。そういう柔軟性もそうだけど、やっぱりレスラーたちを信じてるから。

坂井 そこの部分は、やっぱり違いますよね。

武藤 ただ、お互いね、共通点があるんだよ。ウチらだって全日本プロレスって、まだ俺の名前に頼ってるところが多くて、やっぱり新しい時代のスターというものを作るのにすげえ躍起になってるんだよ。躍起になってるけどできない。「コイツみてえになりてえ！」って思わせられるヤツがいないとマズいんだよ。ただ、俺

たちが育ったときのヒーローと、いまのガキンチョのヒーローって違うからな。
坂井 どんな違いがあるんですか？
武藤 いまはね、ちょっとお笑いができるヤツのほうがヒーロー像に近いらしいんだよ。俺らの世代は梶原一騎の世界で育ってるからな。でもいまのガキンチョ違うらしいね、リサーチしたら。
坂井 闘魂三銃士はちょっとそういうファニーな部分というか、お客さんが観て楽しめるキャラクターでしたよね。
武藤 そうだね。
坂井 天真爛漫なキャラクターですとか、そういう部分で3人ともそれぞれの役割を担ってたから、みんな自分のキャラクターを極端に持ってこれたと思うんですよ。蝶野さんがいなかったら、武藤さんがちょっと不良っぽい部分とかアウトローな部分を見せなきゃいけないと思ったかもしれないですし、橋本さんがいなかったら、ハードヒットな攻撃とかをやらなきゃいけないと思ったかもしれないですし。うまく3人揃ってたから、逆にそれがちょっとアメリカンなかたちでうまくいったんじゃないかと。
武藤 いまのガキはマッスル坂井に憧れてるの？「あの人みたいになりたい」って。
坂井 いや〜、たぶん思わないんじゃないですかね（苦笑）。
武藤 じゃあ、ダメじゃん！
坂井 『マッスル』は、まずちっちゃい子が観に来てないですもん。いまは大人というかオッサンしか来ないんで。
武藤 いまのプロレス界はさぁ、だんだんアングラな世界になってきてるだろ。
坂井 おぉっ！ プロレス界はアングラですか!?
武藤 アングラじゃん。その中で『マッスル』みたいなものが出てきて……、要はアングラを対象にやってんじゃん。
坂井 はい、やってます。
武藤 だからマーケットとして考えればデカいことやられてるよな。
坂井 えっ、そうですか？
武藤 だってプロレス界っていま地盤沈下して、少ないパイの奪い合いだろ。そんなところに、『マッスル』はモロそこだけに向けてやってんじゃん。俺らはさ、世間にちょっとでも多く届けようというふうにやってるわけだからさ。だから……、ズルいな。
坂井 す、すみません！
武藤 ウチは新規開拓を頑張ってるからさ。やっぱ、ズルいよ。
坂井 ウチはプロレスに飽きたっていう人を対象にしてるんで。ただ、『マッスル』を観て、またプロレス熱が高まって、違う団体のプロレスも観るようになったって話もよく聞きますよ。
武藤 それで、こっち戻ってくりゃいいけどさ。でもさぁ、おもいきってさ、『マッスル』はプロレスじゃなくてサッカーか野球でやりゃいいじゃん！
坂井 サッカーか野球！ ぶっちゃけ、野球のエンターテイメント化っていうのは考えたことがあるんですけど、なかなかルールがうまくまとまらないというか。サッカーも『少林サッカー』とか、そういうものになってしまうと思うんで。映像作品でしかできないんですよね、CGを使ってボールから火が出るとか、高く飛んで蹴るとか、結局そういうアクションを使ってやるようなことになっちゃうんですけど。でも、それってバラエティ番組の視点じゃないですか。
武藤 そしたら相手はプロレス界だけじゃないから、もっとデカくなる可能性あるよ。そっちのほうがいいよ。同じメンバーで、今度は野球やって、次はサッカ

6.10『武藤祭』後楽園大会

ドキッ！武藤だらけの『武藤祭』は大爆笑で大成功!!

ーやって。最終的に国立競技場とかでサッカーやりゃいいじゃん!

坂井　おおぉぉ〜!　武道館でプロレスをやりたい、みたいなことがずっと頭の中にあったんですけど、いまの武藤さんの発言には奮い立たされました。国立競技場でサッカーをやるっていうことはプロレスを武道館でやるのと同じぐらい凄いことですよね。

武藤　そうなったときはホントにメジャーだよな。本気でサッカーやれよ!

坂井　ええ、サッカーやります(あっさりと)。

武藤　サッカーのほうが簡単だろ。野球って宙に浮いてるボール打たなきゃいけないから、難しいよな。

坂井　ゴルフのエンターテインメント化だったらできるかなと考えたことがあるんですよ。

武藤　ああ、ゴルフもいいねえ。でもゴルフだと登場人物が少ないでしょ。

坂井　だいたい上位3〜4人だけしかスポットは当てられないですけど、でもゴルフとかのほうが人間ドラマとかそういうのが描きやすいんじゃないですかね。葛藤とか。わりと自分との闘いみたいなところがあるんで、おもしろいかなと思います。あと、相撲のエンターテインメントもちょっと興味あるんですけどね。

武藤　あ、いいじゃん、相撲!　ボクシングもいいんじゃない?

坂井　えっ!　ボクシングは『ロッキー』がありますよ。

武藤　『あしたのジョー』みたいにすればいいじゃん。

坂井　それ、梶原一騎の世界そのまんまじゃないですか(笑)。

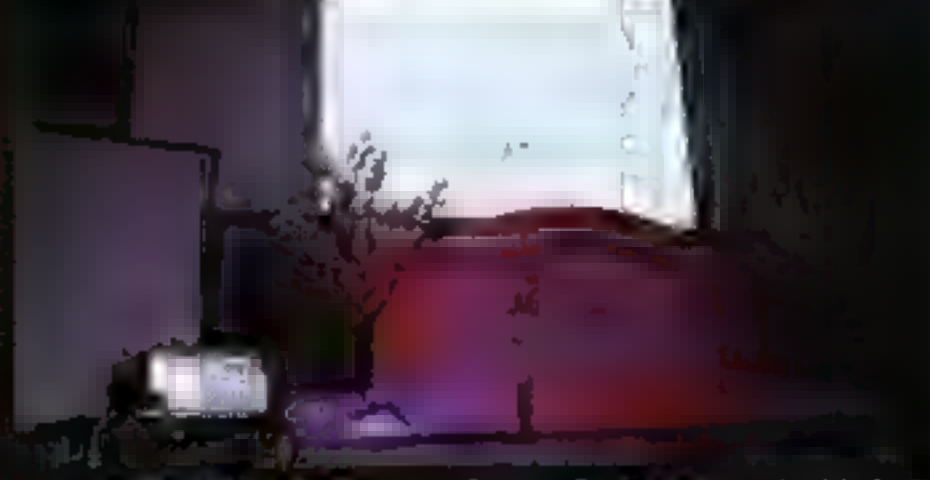
武藤　だって、あれ、アニメーションなのに、一発パンチ打つまでに『マッスル』のスローモーションより長いよ。

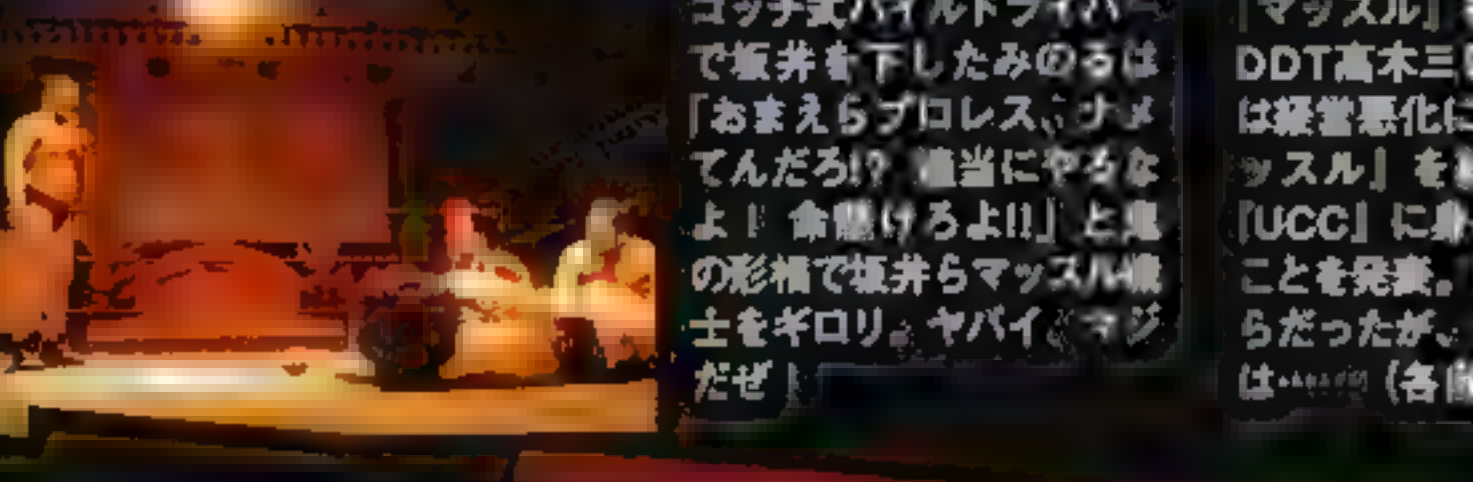
5.5「マッスルハウス」後楽園大会

フィギュアプロレスで坂井が三冠王者と激突!

「世界フィギュアプロレス」ということで「世界がつくならウチも参戦したい」と割り込んできたのが全日本プロレスの内田取締役(二度目の出演)。連れてきたのはやっぱり諭外と菊タロー。

前代未聞のフィギュアプロレス、最初に登場したのはディーノと飯伏幸太ペア。しっかりメイクを施した二人は「白鳥の湖」に乗り、優雅なプロレスを披露し、高得点をゲット!

マッスル総合演出家の鶴見亜門はリングに上がるなり『マッスル』にねつ造があるとして大会を中止に。その後、いろいろあり今大会では前代未聞のフィギュアプロレスが開催されることに。

1月の後楽園大会での『笑点』のセットに続き、この日は世界フィギュアでおなじみのキス・アンド・クライが北側ステージに設置された。この舞台美術には軽くウン十万かかっているという。

5・5後楽園、5・6名古屋と、現三冠王者の鈴木みのると2日連続で闘ったマッスル坂井。みのるは『マッスル』名物のスローモーションも徹底拒否、坂井もならばと真っ向勝負を挑むも、やはりボコボコに……。三冠奪取ならず!!

ゴッチ式パイルドライバーで坂井を下したみのるは「おまえらプロレス、ナメてんだろ!?　適当にやるなよ!　命懸けろよ!!」と鬼の形相で坂井らマッスル戦士をギロリ。ヤバイ、マジだぜ!

『マッスル』初登場のDDT高木三四郎社長は経営悪化により『マッスル』を総合団体『UCC』に身売りすることを発表。驚く坂井らだったが、その裏には……(各自調査)。

『マッスル』戦士はもちろん、観客までビビってたじろがせた、みのる。怒りの表情で控室へと足を進めるも、突如ステージ場へ駆け上がると坂井を呼び込み採点を待つ。結果はブッチギリの一位で世界フィギュア選手権優勝!

メイン後、リング上で感極まり涙を流した坂井だったが、気を取り直しマッスルポーズでフィナーレ。大満足の観客をよそに、マッスル戦士は翌日、名古屋での追加公演のためバス移動!

これまではバルコニーから誰よりも楽しそうに『マッスル』を観ていた三四郎。直前に鼻を骨折するというアクシデントがありながらも見事なスローモーションを決めてみせた。

坂井　そうなんですよ。『キン肉マン』とかも凄いですからね。でも考えようによっては、『あしたのジョー』も『キン肉マン』も地上波で全試合中継してたようなもんじゃないですか。大相撲は2週間、毎日、両国で全試合中継が入ってますからね。

武藤　まあ、そうだよな。

坂井　で、一応そこそこ満員になるじゃないですか。格闘技として、国営放送で2週間全試合中継して、ほぼフルハウスにしてるっていうのは格闘技として凄いと思うんですけど、そんなにおもしろいと思います?

武藤　俺はあんまり観ねえけどな。

坂井　だから、その枠を取りたいです、相撲の番組枠を。

武藤　相撲なら『マッスル』でできそうだよな。でもさぁ、俺なんかからすると『マッスル』って、すげぇ映画っぽい感じがするんだよな。

――映画といえば、坂井さんは映画監督を目指してた時期もあるんですよね?

武藤　え、そうなの?

坂井　はい。だから、僕なんかは、どちらかというと武藤さんは映画スターとしての認識のほうが強いんですよ。

武藤　何言ってんだよ!(笑)。

坂井　武藤さんが主演の『光る女』とか凄かったですからね。とくにメイキングが。当時は失礼ながらプロレスラー・武藤敬司は知らなかったんですけど、映画を観たら、凄い異彩を放ってたんですよ。佐藤浩市の60倍アクがあったんですよ。

武藤　ホントかよ!(笑)。まあでも、俺、映画の世界ってあれが最初じゃん。とにかくリハーサルって何十回、何百回ってやってたんだよね。だから、セリフなんかはリハーサルで覚えるもんだって思って。そのあとテレビドラマとか呼ば

れて出たことあるんだけど、そういう認識があったから、セリフを覚えていかなかったんだよ。そしたら、すげぇ恥かいて、すげぇ怒られたことあるよ。

坂井　監督によっても、やり方が全然違いますからね。

武藤　でも、そう考えると、いまの映画界はもっと『マッスル』的だよな。

坂井　それは、どういう意味ですか？

武藤　最近参加した映画は『マッスル』みたいだったよ。『光る女』のときの相米（慎二）監督の映画のほうがもっとプロレス的っていうか。自発的にやらせてた。いまの映画なんて『マッスル』と一緒で、台本ありきな感じだったから。

坂井　武藤さん、『マッスル』はちょっとしか観てないって嘘ですよね（笑）。

武藤　いや、部分部分しか観てないよ。

坂井　それにしては、やけに詳しいような気がするんですけど（笑）。

武藤　（無視して）映画の現場行ったらね、一つの作品作るためにさ、照明だ、カメラマンだ、怒鳴り合いだからな。だけど、それってチームワークなんだよ。怒鳴り合いしながら、みんなで一つの作品を作り上げていくっていうか。あのチームワークにね、映画に参加してるヤツらは感動しちゃってるんだよな。その点、プロレスラーってアウトローみたいのが多いからさ、個人主義みたいなのが。

坂井　基本的に「俺が俺が」な人ばっかりですからね。

武藤　本来違うんだけどな。まあでも、そういうのを映画界から勉強したよね。だから、俺からすると『マッスル』なんかはチームワークが勝負の映画に似てると感じるんだよ。

坂井　確かに、そうかもしれませんね。自分らは2時間の作品を作ろうとしてやってて。武藤さんは自分の試合を「作

むとう・けいじ■1962年12月23日、山梨県富士吉田市出身。84年に■日本プロレスへ入門、同年10月の蝶野正洋戦でデビュー。海外遠征から帰国後は、橋本真也、蝶野らとともに闘魂三銃士として新日本で一大ムーブメントを起こす。02年2月に全日本プロレスへ移籍し、社長に就任。7.1横浜大会では鈴木みのるが持つ三冠ヘビー級王座への挑戦が決定している。武藤が代理人を務めるグレート・ムタは先日の「ハッスル・エイド」で「ハッスル」初登場。188cm、110kg。

まっする・さかい■本名・坂井良宏（よしひろ）。1977年11月5日、新潟県新潟市出身。早稲田大学在学中に映像班としてDDTに関わり、気がつけば練習生に。練習生名義で200試合以上こなしたのち、高木三四郎命名のマッスル坂井とのリングネームでカムバック。現在もDDTマットで活躍しながら『マッスル』を主宰し、一部で熱狂的な支持を受けている。先日、大喜利トーナメントの「ダイナマイト関西R」に出場し準優勝に輝く。186cm、1[illegible]0kg。

武道館で『マッスル』をやるときは武藤さんしかいないと思ってます（坂井）

品」って呼んでらっしゃいますけど、僕らは興行全部で一つのストーリーができればいいかなと思ってるんで。しいて言うなら演劇の作品、2時間のテレビ番組としてプロレス中継の枠を借りた作品を作ろうとしてるんで、それをたまたまサムライTVとかで観てしまった武藤さんが「これは作品を作ろうとしてる」って思って、何かしら共感を得てくれて、ちょっとでも感じるものがあったとしたら、僕らとしてはもの凄く嬉しいです。

武藤　おもしろいことやってんなって思ってたけど、だけどさぁ、さっき言ったコアなファンをターゲットにしてるって意味ではライバルというか、鬱陶しい存在だよな（笑）。

坂井　鬱陶しい！（笑）。武藤さんに言われるなら、いつでもやめて、相撲やります！（キッパリ）。

武藤　やめるんだ（笑）。さっきも言ったように『マッスル』はプロレス界を通り越して、新たな世界に行ったほうがいいと思うよ。

坂井　わかりました、じゃあ相撲の世界に（笑）。土俵には女も金も埋まってるっていうんで、それを取りに行きます！

武藤　（両国）国技館とか借りちゃいなよ。国技館は安いよ、1000万ぐらいか。

坂井　1000万は高いですよ！

――でも、『マッスル』で相撲をやったら、また控室で星の売り買いとか余計なことしそうですけど（笑）。

武藤　あ～、そうだよな。相撲をけなしたらスポンサーはつきづらいな。

坂井　じゃあ、インディー相撲をやります（笑）。相撲はメジャーしかないですからね。前にちょっとやったことあるんですけど、スモウ・リブレっていうのを。要は〝自由なる相撲〟ですね。

武藤　日本の相撲人気っていうのはわかんないけど、世界の相撲人気って凄いらしいからな。MSGなんてアマチュア相撲でフルハウスらしいよ。横綱（曙）が言ってたけど。

坂井　MSGでアマチュア相撲？　マジですか!?

武藤　それに相撲ってオリンピックにも出そうなんでしょ。

坂井　じゃあ、やっぱり相撲はきますね！　嘘ついて「日本の相撲だ」って言って世界で巡業してもいいわけだし（笑）。テレ東の深夜とかで相撲やってみたいですね、30分番組とかで。

武藤　デブタレントみんな使っちゃえばいいじゃん。

坂井　いや、そこはまた逆転の発想なんですけど、逆にドラゴンゲートみたいな感じで、ビジュアル系の相撲ファイターを作ろうかと思って。要は『K－1 MAX』とか修斗とかと一緒で。花田〝K－ID〟勝みたいな（笑）。

武藤　それはいいな（笑）。意外とビジュアル系のヤツらのフンドシってカッコいいかもしれない。

坂井　それはたぶん腐女子層にも凄く届くというか……ボーイズラブの世界にもつながりますし。なんならジャニーズ事務所と全面的に提携して。

武藤　芸能人水泳大会で女がポロッて

出すみたいにさ……。
坂井　下がボロッと（笑）。ジャニー喜多川さんは一番好きだと思いますね。真っ先に食いついて行司とかを買って出る可能性もありますし。
――でも、プロレスファンとしても有名な横綱審議委員会の内館（牧子）さんに怒られるんじゃないですか？
坂井　いや、こっちは内舘さんもお気に入りのタッキー（滝沢秀明）とかでいこうと思ってるんで。それは武藤さんのラインでお願いできればと（笑）。
武藤　俺は知らねえよ（笑）。
――『マッスル』には学生プロレス出身のレスラーがたくさん出てますけど、いまは『マッスル』以外にも棚橋（弘至）さんだったり、HGであったり学プロ上がりの選手がプロレス界で活躍されてますが、武藤さん的にはどう思われます？
武藤　もうね、なんでもありの世界だから、こだわりもクソもないよ。要は集客力があるかどうか。
坂井　おぉ～っ！
武藤　そういうこと考えたら、HGなんかおそらくウチのうまいレスラーより集客力あるかもしれないよな。知名度もあるしさ。ただ、プロレスラーにしても、一回観たら「もういいや」って思われるレスラーっていうのは最低だよ。リピーターにさせられないから。やっぱり『マッスル』の世界じゃないけど、いかにしてリピーターを作っていくかが大事だから。
坂井　確かに、そう思います。
武藤　そこの部分のクオリティがしっかりしてないとな。猪木さん的にワイドショー、ワイドショー、ワイドショーでいって話題を集めるだけ集めて、クオリティはしょっぱかったら、もう通用しねえよ。
坂井　噂のIGFですね（笑）。
武藤　やっぱり、いまのプロレス界がやらなきゃいけないのは、口コミのラーメン屋みたいな感じで、そこからジワジワ広げていって、チャンスがあったらバーンといくことだよ。
坂井　コンビニと契約してカップラーメンを作ればいいわけですね。
武藤　まあ、ビジネスとしては、それもありだけどな（笑）。
坂井　まだ「マッスル」というラーメン屋は口コミで広がってるところはあると思うんですけど、いかんせん、店がちっちゃすぎますからね。
武藤　いや、それ以上デカくするなよ。
坂井　じゃあ、相撲で（笑）。迷惑かけないんで。逆に、いまだったらプロレスより相撲のほうがテレビとかも取れやすいかもしれないですね。
武藤　その可能性はあるよな。
坂井　（恐る恐る）武藤さん、『マッスル』に出てもらえませんか？
武藤　さっきも言ったけどギャラ次第だよな。テレビになったら予算ってものが生まれるし（笑）。それにテレビになるとまたさ、こっちのメリットもあるじゃん、いい媒体だからさ。
坂井　やっぱり金ですかぁ。……ここだけの話ですけど、もし相撲でテレビの枠が取れたら、最初はふんどしの美少年たちが相撲をしていって、だんだんそこにベビーとヒールが出てきたり、そこに遺恨が出てきたり、ストーリーが生まれてきたりして、ベルトを賭けて闘ったりして、結果的にプロレスに戻るんですよ。だから地上波にプロレスの枠が一個生まれる、と。じつはプロレスだった、出てるのもプロレスラーだった、みたいな。
武藤　それはいいアイデアだな！
坂井　ちょっと申し訳ないですけど、いいヒントをもらってしまいました（笑）。
最初はシャレだと思ったんですけど、考えれば考えるほど合点がいくことが多いというか。日本のプロレスは相撲から始まったというのが、事実として歴史としてそうだったわけですからね。もう一回そこから振り返っていこうかと。
武藤　で、逆に最終的に相撲関係者が喜ぶような作業をすればいいだろうな。
坂井　最終的には相撲に還元できるように。だから最初は若い子が観てますけど、最終的には「やっぱこっちのほうが本物だ」とか、「もっとハードヒットな相撲が観たい」ってなったら大相撲を観ればいいわけですからね。
武藤　さすがに、相撲はできねえけど、俺も『マッスル』に呼ばれるように頑張りますよ。
坂井　ホントですか!?　でも、ギャラ次第なんですよねぇ……（頭を抱える）。
武藤　そうそうそう（笑）。
坂井　後楽園ホールとかだと呼べないんで、武道館でやるときは武藤さんしかいないと思ってるんですよ。
武藤　武道館、本気で考えてるんだ？
坂井　はい。僕らは武藤さんの身体の中に入りますから。
武藤　は？　どういうこと？
坂井　やっと武藤さんに『マッスル』に出てもらえることになったにも関わらず、武藤さんの体調が悪いと。調べてみたら、長年吐き続けてきた毒霧がこびりついてて、それを除去しなきゃいけない。で、身体の中に我々が小さくなって、試合をしながら身体の中の悪い菌たちと闘っていくという2時間の「キン肉マン」的な世界でやろうと思ってまして。
『キン肉マン』的って、そのまんまじゃないですか？（笑）。
武藤　じゃあ、何？　俺は闘わなくてもいいの？
坂井　時と場合によりますけど。会場も日本武道館ならぬ、そのとき限定で日本〝武藤〟館になる予定です！
武藤　そうなんだ（笑）。
坂井　なんとか○○万かき集めますんで、よろしくお願いします。事務所中から為替やシワクチャの千円札集めて持って、またこの社長室まで来ますんで（笑）。
武藤　ホントかよ！（笑）。まあ、楽しみに待ってるよ。
【07年6月5日／都内・全日本プロレス社長室にて収録】

さっきも言ったけど『マッスル』に出るのはギャラ次第だな（武藤）

全日本プロレス今後の日程

CROSS OVER 2007
6月27日（水）18:30～ 山形・米沢市営体育館
6月28日（木）18:30～ 山形・酒田市営体育館
6月29日（金）18:30～ 新潟・新潟市体育館
7月1日（日）16:00～神奈川・横浜文化体育館【最終戦】
三冠ヘビー級選手権試合
（王者）鈴木みのる vs 武藤敬司（挑戦者）
7月6日（金）19:30～ 東京・新木場1st RING
『NOSAWA BOM-BA-YE 4』
［主な対戦カード］
NGF世界ヘビー級（仮称）王座決定戦
菊・アングル vs マッスル・レスナー
キラー・菊 vs 魔界の住人"M"
「SUMMER ACTION SERIES 2007」
7月15日（日）12:00～ 東京・後楽園ホール【開幕戦】
7月16日（月）18:30～ 新潟・サンピレッジしばた
7月19日（木）18:30～ 北海道・旭川地場産業振興センター
7月21日（土）18:00～ 北海道・テイセンホール
7月22日（日）18:00～ 北海道・テイセンホール
7月25日（水）18:30～ 岩手・宮古シーアリーナ
7月27日（金）18:30～ 福島・ビッグパレットふくしま
7月29日（日）17:00～ 金沢・石川県産業展示館3号館【最終戦】
『プロレスLOVE for 能登半島震災復興支援チャリティー大会』
【8・26両国国技館大会の開催が決定!!】
8月26日（日）16:00～ 東京・両国国技館
『2007 プロレスLOVE in 両国 Vol.3』
問い合わせ■ 全日本プロレス TEL.03-3288-0610
http://www.all-japan.co.jp/

DDT関連＆マッスル今後の日程

7月1日（日）12:00～ 東京・後楽園ホール
DDT『Audience 2007』
7月4日（水）19:30～ 東京・新木場1st RING
ユニオン『ユニオン独立記念日シリーズ』
7月7日（土）15:43頃～ 東京・京王閣競輪場
DDT『京王閣競輪場イベントプロレス』
7月9日（月）19:30～ 東京・新木場1st RING
DDT『Monday Night Wow』
7月14日（土）18:00～ 岡山・水島サロン
DDT『Go Go West Tour 2007 in Okayama』
7月15日（日）14:00～ 愛知・名古屋市中スポーツセンター
DDT『Go Go West Tour 2007 in Nagoya』
7月16日（月）14:00～ 静岡・清水マリンビル
DDT『Go Go West Tour 2007 in Shizuoka』
7月25日（水）19:30～ 東京・新木場1st RING
DDT『NON-FIX 7.25』
【マッスルが初の3連戦を開催! 詳細は未定!!】
9月5日（水）時間未定 東京・北沢タウンホール
9月6日（木）時間未定 東京・北沢タウンホール
9月7日（金）時間未定 東京・北沢タウンホール
『kamipro Hand』にて毎週木曜、
マッスル坂井コラム『ザッツ・エンターテインメント』
絶賛連載中! 詳細は56ページをチェック!!
問い合わせ■ DDTプロレスリング TEL.03-5360-6653
http://www.ddtpro.com/

新日本プロレス総合格闘技部門

『NEW JAPAN FACTORY』始動!

あの剛竜馬が映画出演!!
担ぎ出したのはこの男だ!!

映画制作から
FMW時代まですべてを語る

杉作J太郎

男の墓場プロダクション

聞き手／坂井ノブ

剛さんと松崎さんの出演は決定！でも話せることは何もないんです

最近の本誌読者には、杉作J太郎氏に対して「パンティやブラジャーのことばかり話している人」というイメージを持っている人が多いだろうか。確かに、それは間違ってはいない。しかし、かつて暴露本化する前の『別冊宝島』プロレス特集で哀愁あふれる名文を書いたり、本誌でコラムを連載したり、日本のエンターテインメント・プロレスの礎を築いた人だということを忘れてはならない。

現在、プロレス界では『ハッスル』や『マッスル』といった「プロレスの向こう側」に行ってしまったエンターテインメント・プロレスが業界の枠を越えて注目を集めているが、すでに90年代にプロレスのエンターテインメント化に取り組んでいた団体が存在した。“涙のカリスマ”大仁田厚（現・参議院議員）が1989年に旗揚けしたFMWは、過激なデスマッチで一時代を築いた大仁田の引退後、ハヤブサや田中将斗をエースとして新たな方向性を模索していた。そこにいまは亡き冬木弘道がFMWに合流してプロデューサーに就任する。

「プロレスはエンターテインメントだから！」という当時の冬木の言葉は、またミスター高橋本の発売前だった当時のプロレス業界ではかなり風当たりがキツかった。しかし、そんな中て冬木を中心に、旗揚けからFMWに心血を注いできた荒井社長（故人）、当時FMWのビデオを発売していた東芝EMIのプロデューサー・K氏、そしてディレクTVのFMW中継で解説を務めていた杉作J太郎氏か週3～5日、ときには24時間にもおよぶ超ロング会議を重ねてストーリーや演出を考案していたのだ

ディレクTVて放送され、東芝EMIからビデオか発売されていたFMW中継の番組。放送席にはいつも杉作J太郎氏か座っていた

この頃のFMWはイケイケ状態で、当時エースだったH（エイチ＝ハヤブサ）が爆薬で肛門を爆破されたり、AV嬢が試合をしたりとハレンチなことを繰り広ける一方て、横浜アリーナでビッグマッチを開催し、WWF（現WWE）から“HBK”ショーン・マイケルスを招聘するなどとスケールの大きな活動を繰り広げていた

しかし、FMWを毎月放送していたディレクTVの日本撤退か大きなダメージを与えることになる 大幅に予算を削減されたFMWは規模縮小を余儀なくされてしまった。こうなると団体内部でもさまざまな軋轢が生じてくる。このへんのドロドロした内容は冬木弘道の著書と荒井社長の著書に詳しく書いてあるのでここでは触れない。

そんなゴタゴタの中で杉作氏はFMWの仕事を離れ、“モーニング娘。”の追っかけ、いわゆる“モーヲタ”としての活動を先鋭化させていったのだった。

しばらくは仕事で杉作氏と接する機会もなかったのだが一昨年、ひさしぶりに杉作氏から連絡かあった なんと、「いま作っている映画に出てくれないか？」というきなりのオファーだった。『任侠秘録人間狩り』という映画で本誌でもおなじみのライターさんなとが多数出演している本格的な映画だ。もちろん、セリフもないチョイ役だったのでわりと気軽に出させていただいた。この頃から「男の墓場プロダクション」を立ち上げた杉作氏の活動は、映画が軸となっていく。そして5月、愛読している『映画秘宝』に、なんと杉作氏と剛竜馬と松崎和彦の3ショットがドーンと掲載されていた しかも、杉作氏の次回作に出演が決定したという。ひさしぶりの本誌登場となる杉作氏にますはその衝撃的な事実について語ってもらおうと思ったのたが……

（坂井ノフ）

男の墓場プロダクションとは熱い男の魂を映画化するプロダクションである!!

杉作J太郎率いる男の墓場プロダクションからは『任侠秘録人間狩り』『怪奇！ 幽霊スナック殴り込み』の二作品が劇場公開され、DVDもキングレコードより発売されている。掟ポルシェ、吉田豪など本誌とゆかりの深い皆さんも出演している。男の魂がほとばしる熱い作品に仕上がっている。

―ひさしぶりに杉作さんにご登場いただいたのは、じつは『映画秘宝』7月号の「男の墓場新聞」に載っていた写真があまりに衝撃的だったからなんですよ。

杉作 ああ、剛（竜馬）さんと松崎（和彦）さんと写ってるやつですね。

―そうです、そうです。あの記事を読むと、二人は杉作さんか主宰する映画プロダクション「男の墓場プロダクション」の次回作『ママ、俺も男だ！』に出演されるんですよね。

杉作 そうなんですけとね……こうしてインタビューを受けるような話は何一つないんですよ（苦笑）。

―え？ そうなんですか（笑）。

杉作 とりあえずお話しすると、墓場プロの映画で今回初めて警察が出てくるんで、刑事（デカ）全員をプロレスラーでやりたいなっていう話をスタッフとしてたんですよ。でも、まだ全然オファーはしてないんですけとね

あ、まだキャスティングは固まってないんですか。

杉作 ……コホン 皆さんの表情か一斉に硬くなりましたねえ。だから何も話すことはないんですよ！

―ダハハハハ！ でも、この『映画秘宝』には剛さんと松崎さんの出演は決定って書いてありますけど。

杉作 ええ！ 剛さんと松崎さんは決定しております。一番最初の企画会議では国際プロレスの鶴見（五郎）さんと高杉（正彦）さんがいいんじゃないかという話はしてたんですよ。

―それはゲキシブですね～（笑）。

杉作 で、デカ長は三沢（光晴）さん（笑）。

―それも似合いますねえ（笑）。

杉作 そうでしょ？ 三沢さんが石原裕次郎みたいに座っていたらシブいですよ。それがなぜ剛さんと松崎さんになったのかというと、ある日、ちょうど新宿を歩いてたら、「杉作さんッ」って声をかけられて、ぱっと見たら松崎さんだったんですよ。で、「ちょうどよかった！ 刑事の役、どうですか？」って聞いたら、「やります！」って。

もう二つ返事で、というか、そんな出会いがあったんですか（笑）。

杉作 しかも新宿ですよ！ もうね、ツイてると思いました 「次回作、成功たわ こりゃ」と思って そのときはちょうと主演の松本（さゆき）さんの取材に行く途中だったんですけど。で、あまりにも嬉しくて、松本さんと松本さんのマネージャーに「次回作、ついに剛竜馬と松崎和彦の出演か決まりました！」って報告してね。まったくチンプンカンプンな顔でしたけど（笑）。

―ダハハハハ！ しかし、刑事事件で逮捕された剛さんに刑事役をオファーするってのはおもしろいですね。

杉作 ちょうどその数日前に知人から、剛さんが出てたテレビドラマ『警視庁殺人課』のビデオを貸してもらってたんですよ。「剛さん、こういうのやってたんだよな～」って言ってた矢先の話でしたからね。だから、ボク的には『警視庁殺人課』のほうの印象か強くって（笑）。

―映画ではどんな刑事役を考えてるんですか？

杉作 刑事部屋での乱闘をやりたいって言ったら、「ええ、やりますよ！」って二人て背中を叩き合ってて。まあ、へんな話ですけどね、「刑事の役をお願いします！」ってオファーしてるのに、二人が闘うのも（笑）。「どういうシチュエーションなんだ？」っていう（笑）。

杉作 最初は鶴見さんと高杉さんが刑事部屋で闘う構想だったんですけ

新日本プロレス総合格闘技部門

『NEW JAPAN FACTORY』始動!

(ニュージャパン・ファクトリー)

墓場プロの次回作に初めて刑事が出るので全員プロレスラーにしたいと思ってるんです!

とね。鶴見さんと高杉さんって、二人が試合したあとで、売店で並んでビデオの即売してたじゃないですか。

やってましたね（笑）。

杉作 つまりですね、仲間同士でも殴り合いはできるんです。最近はねえ、ドラマも映画も軟弱な刑事役か多いじゃないですか？

——イケメンなだけで配役されてますよね。

杉作 だから渋くてごっついレスラーで固めて、"プロレス署"みたいのを作ろうかな、と……それたけの話なんですよ。『kami pro』の皆さんがボクに何を期待しているのか、わからないですけど（笑）。

——ダハハハ！ でも、その"プロレス署"はえらくおもしろそうですよ！

杉作 そうですか？ もし好評だったらね、スピンオフ（番外編）もやろうかと思ってますけど。

——もうスピンオフ！（笑）。

杉作 ……と、思ってるだけですけどね（笑）。でも、テレビは狙えると思うんですよ。『プロレス刑事』なんて番組があったら観たいじゃないですか

それは渋い番組になりそうですね～!! 40～50代でシブ味のある人間はゴロゴロしてますからね、プロレスラーは（笑）。

杉作 それにプロレスラーは『太陽にほえろ！』並みにキャラクターがハッキリしてるから。リッキー（フジ）さんなんかにも、ぜひ出ていただきたいですよね。

——リッキーさんはいいなあ（笑）。

杉作 ………あー 思い出した そういえば、次回作はターザン（山本！）さんの出演も決定しております

——ターザンは最近、とんでもないことになってるんですよ

杉作 え？ そうなんですか？

所持金35円状態がザラらしくて、周囲の物資援助を受けてやっと生活できてることをウェブの日記で綴ってるんですよ。

杉作 ……大変なことになってますねぇ。でも、ちょうどピッタリじゃないですか！ ターザンさんの役はホームレスなんですよ。まだ本人には言ってないですけど（笑）。

——ダハハハハ！ 本人が聞いたら怒りそうだなぁ。

杉作 でも、前向きなホームレスですから。それにターザンさんみたいな"大物"をホームレス軍団で固めてみようかなと思って。映画監督の内藤誠さんとかね、前に後藤真希さんの映画（『青春ばかちん料理塾』）で堀内孝雄さんとかがホームレスやってたでしょ。あれに負けてるわけにはいかないですから……と、構想しているだけですけど（笑）。

——でも、杉作さんはちょっと前に「時代はプロレスた」ってことで、プロレスの興行をやろうとしてましたよね

杉作 ……ああ。みんな早く忘れてくれないかなあ（ポツリと）。

タハハハハ！ 忘れたい過去（笑）

杉作 そういえばねえ、じつは"プロレス署"の青写真でプロレス興行をやる予定だったんですよ。その理由は映画制作費をプロレスで稼ごう、と て、去年の大晦日に名古屋

どうですか、この奇跡的な3ショット!! 06年にDDTのリングに上がって以来、表舞台から遠ざかっていた剛竜馬。ひさびさの表舞台だ。

でカウントダウン・イベントをやったんですけど、そのとき試しにプロレスをやったんですよ。素人同士で場外乱闘だけでしたけど。そうしたらね、思ったより観客は怒ってなかったんですよ　ただ、素人同士だったんですぐにスタミナをが切れちゃって、あらためてプロレスラーは凄いなと思いました。

そんなグダグダでも観客は怒ってなかった、と。

杉作　怒ってなかった、さほど。だから本格的にプロレスをやろうと動いていたんですよ。「覆面レスラーを作ろう」とか……いま思い出しましたけど、選手のスカウト活動もやってましたねえ。

ずいぶん本格的じゃないですか！　それを忘れているなんて（笑）。

杉作　下北沢で映画を上映してたとき、ガタイのいい客が来ると連絡先を聞いてたの。「来年からプロレスやるんだけど、やってみないか？」って。……これも忘れてましたけど、じつは女子がエースのプロレス団体だったんですよ。

次から次に重要なことを思い出しますね（笑）。

杉作　これがもう、もの凄い体格のいい女子がいたんですよ。下北沢の駅前で（映画の）サンドイッチマンをやってるときにスカウトして。体格がよくてね、もともと肉体派のお仕事をされてたんですよ。ほんで、現在は大手下着会社に勤務されてますけどね。

その本人はまだやる気なんですかね？

杉作　だと思いますよ。ボクが忘れているだけで。いまでも連絡はとってますし。「なんでこの人と連絡してるんだろう？」って不思議だったですけど、ようやく理由がわかりました。あ～、思い出した（笑）。

ダハハハ！　自分でスカウトしたのに（笑）。

杉作　向こうから「今度、引越しました」とかメールがきてたんですけど、「律儀な人だな～」ぐらいの感覚でしたねえ。あの人はプロレスのエースだったんだ。そうか、そうか……。

――あと電車でスカウトしたガイジンもいるって聞いてますけど。

杉作　そう。いなじ。当時、NOVAの教師をやってたブロンクス生まれの黒人。「来年からプロレスをやる」って言いましたらね、本人が本気になっちゃいましてね。最近だったか、格闘技の試合があるんですよね。ボクがすっかり忘れているあいだに

――ダハハハハ！　プロレスではなくて格闘技なんですか？

杉作　確かキックかなあ。もう、すっかりその気でね、いつでも試合いけるみたいな。まあ、こうして思い出したことですし、単発興行でやっていけたらおもしろいと思うんだけどね。

――しかし、凄くボンヤリとした団体構想ですね。

杉作　やっぱりシロウトだけではどうにもなりませんから、先生役のプロレスラーを一人呼ぼう、と。その先生を誰にしようか？　っていうところで構想は止まってましたねえ。

で、それがいま"プロレス署"につながっているわけですね。

杉作　やりたいですねえ、"プロレス署"。やっぱりね、いまのプロレスラーは絶対、芸能界に進出不足だと思うんですよ。

最近はメディアへの露出が足りないですよね。

杉作　もちろん武藤（敬司）さんや蝶野（正洋）さんも映画には出てらっしゃいますけど、プロレスラーの映画出演といえば、東映映画の悪役ですよ！

そうですよねえ（笑）。

映画の宣伝で何かやろうとなって「下北沢で暴力沙汰をやろう！」と

06年2月の映画公開に合わせて上映劇場のある下北沢駅前でサンドイッチマン作戦を敢行した墓場プロ　若者がたむろする駅前で凄まじい大乱闘(?)を繰り広げたのだった　凄すぎる!

杉作　マンモス鈴木さんなんか、地獄の鬼の役とかで出てるわけですよ（笑）。ああいう感じで、プロレスラーにしかできない役っていうのがあると思うんでね。だって表現力は画期的に豊かなわけですから。顔も画期的なわけでしょ？

ほかでは得られない個性です。

杉作　主人公の松本さゆきさんは、子どもの頃にお父さんが亡くなっている設定で、「ウチのお父さんはステキな人だった」って思い出すシーンがあるんです。周りの人は普通のお父さんをイメージするんですが、彼女の頭の中の回想シーンでは鶴見さんが出てくるっていうのをやりたかったんだけど、鶴見さんに会う前に末井（昭）さんに会っちゃったんで。

ダハハ！　末井さんも凄いモンスターですからね。

杉作　でも、鶴見さんにどうしても出演してほしいんで。じゃあ、何をやるかってことでたどりついたのが刑事で。取り調べシーンとかやりたいんだよね。本編には関係ないけど、取調室で犯人がボコボコにされてるとか。て、容疑者をプロレスにゆかりのある人にしたい。

たとえば誰ですか？

杉作　……あなたみたいな人ですよ。

ボクですか!?　勘弁してくださいよ！（笑）。

杉作　やっぱりプロレス記者がやられてるのがおもしろいから。須山（浩継）さんとかね、パンティー泥棒の役にピッタリでしょう（笑）。

――ダハハハハ！　しかし、いいんですか、そんなキャスティングで。

杉作　いいんですよ、それで！　どうせボクらの映画は全国ロードショーじゃないですから。次も単館ですからね。で、まずボクらのいろいろな事情をよく知った人が観に来ますから、わざわざ来てくれる人たちにね、それなりにサービスしてあげないと。それが通りいっぺんの普通な内容だったら、「なんだよ!?」ってことになるじゃないですか。

内容が普通だと問題がある（笑）。

杉作　だから「観た人だけがニヤリ！」みたいなものがちょっとはない、と。それを悪い言葉で言うと、楽屋オチや内輪ウケになるんですけど、いやいや、そんなことはありませんよ！　映画を作るってのは、もう大変な作業なんですから、まずはこっちが楽しませてもらわないと！　映画の編集なんて、もの凄く大変な作業なわけじゃないですか。観てるお客さんより、絶対、作ってるほうが大変ですよ。

まあ、そうですけど（笑）。

杉作　出演してる人たちのほうが大変なんですから。その人たちがおもしろいほうがいいじゃないですか。おかしいことはたぶん言ってないと思うんですよ。

シロウト同士のプロレスとは!?　リングもマットもロープもない中で取っ組み合いの大乱闘か……!?

昨年末に名古屋で行なわれたイベントで、墓場プロ関係者が裸になって大乱闘!!　劇場の隅から隅まで暴れまくった。意外にも客席の温かいリアクションがキッカケだった。なお、シロウトゆえに約1分で息切れしたという。

―はい（笑）。杉作さんは全然、間違ってないです！

杉作　だから一般客からすれば、映画に鶴見五郎さんが出てきたら「あの人、誰？」ってことになるかもしれませんけど、事情を知ってたら笑えますよね。で、それがちゃんとした映画館で上映されて、ビデオも全国のレンタル店に並ぶなんて痛快な話です。一種のテロリズムですよ!!（笑）。

だからこそ、鶴見五郎さんが必要だったりするんですね。

杉作　だいたいね、大手の映画会社だったら、剛さんと松崎さんが刑事役たって時点でアウトですよ。絶対に認められない。仮に通ったとしても刑事が同僚同士で闘うというシナリオなんてNGです。意味がわからないもん！

ダハハハハ！　確かにそうですね。

杉作　でも、それが可能なのは墓場プロだけなんですよ！　刑事役が全員プロレスラーなんて、ほかではできっこないんだから、あと来月クランクインが1本あるんですけど、そこにもプロレスラーを出そうと思ってるんですよ。それは他社作品なんですが、ボクが実写版『やる気まんまん』の監督をやるんですよ。

横山まさみち先生の名作アダルトコミックを！

杉作　でね、たいたいロケ場所がKAIENTAI DOJOなんですよ。

――それは『やる気まんまん』の定番シーン〝オットセイvs貝〟のバトルでリングを使って表現するってことですか？

杉作　そうです、そうです！　で、『やる気まんまん』のプロデューサーとこないだお会いしていま打ち合わせ中なんですけど、プロデューサーがFMWの客だったんですよ（笑）。2〜3日前に打ち合わせしたときも、打ち合わせ時間の8割がプロレスの話でした。「FMWにショーン・マイケルズが来たときも、ボクたちファンは最後まで信用してなかった」とかね。

――新生FMWが一番よかった頃の話ですね（笑）。

先が読めちゃう芝居はつまらない　プロレスラーはまったく読めない！

“狂犬”とおそれられるロマン優光か、プロレスラー・新宿鮫とあわや大乱闘!?　杉作監督の作品の強烈さは、危険な匂いのする俳優が個性を発揮しまくるところにこそある。なお、『任侠秘録人間狩り』におけるロマン優光の演技は、とにかく必見だ！

杉作　で、これから何人かレスラーにオファーすると思うんですけど、もう何人かは〝やる気まんまん〟でいてくれてます。

肝心の『ママ、俺も男だ！』の撮影には、いつごろ入られるんですか？

杉作　『やる気まんまん』が夏には終わりますから、もう秋には撮りたいですけど。それまでになんとか制作資金を集めないと。

ちなみに、杉作さんかやってるエアセックスも各地でイベントを開催してますよすね。

杉作　なんかね、あれじゃあもの足りないんでプロレスになったんですよ。やっぱりエアセックスは一人でやることですから、どうしても動きに限界があるんですよ。

まあ、確かに（笑）。

杉作　やっぱ相手がいて組み手になったほうが……あっ！　プロレスをやるきっかけをいま思い出しました。

え？　映画制作の資金集めたったんじゃないですか？

杉作　いやいや、その理由もあるんですが、当時の墓場プロで暴力沙汰か相次いだんですよ。ボクらが聞きわけのない若手をボッコボコにしてたんですけどね、下北沢の駅前で。

――し、下北の駅前で!?

杉作　うん　あとファミレスとかてやってましたね　もうこれは時効っていうか、訴える人がいないから立件されないと思うけど……、ファミレスで頭をフォークで突いて血まみれになったまま30時間近く居座ったりね。

――血まみれのまま30時間!?

杉作　ええ、朝を二回も迎えましたから。しかし、よくあのファミレスの店員か110番しなかったなと思ってね、当然、ほかのお客さんはゼロですよ！

どんなファミレスなんだ（笑）。

杉作　店員さんも柱の陰に隠れて出てこない。そいつは血まみれでフォークが刺さっているのに元気なんですよ。次に会ったらまた殴って、もうフルチンにしたりね。

――はあ（笑）。

杉作　ほんで、下北の駅前でとにかく映画の宣伝しなきゃということで、普通にやってても人が注目しないんでね、「じゃあ暴力沙汰にしようこ」ということになったんですよ。

――は？　暴力沙汰？（笑）。

杉作　だから駅前でボッコボコに殴ったり、引きずり回したり、木の植え込みに突っ込んだりとかね　そうすれば、人が集まるわけじゃないですか。

……それは合意の上でやってるんですか？

杉作　やっぱりその場合はプロレスですね。でも、そんな〝見世物〟をやってもね、1円も取ってないわけじゃないですか。

まあ、杉作さんたちが率先してやってることですから。

杉作　いやいや、それがまたいいプロレスなんですよ。そいつもそこまで怒られるくらいたから、全然普段は使いものにならないんですけど、バンプだけはちゃんと取れるんです。やられ役は凄く上手なんです！　やられた絶叫の表情とかを見てると「これはひょっとしたら、プロレスができるんじゃないか……」って。

――それがきっかけでしたか（笑）。

杉作　で、そういう暴力沙汰を経て、彼はマジメになりましたから。もの凄い使える男になりました！　かつては「立ち仕事がイヤだ」って言ってたんですよ。ロフトで働かせようと思ったら、「ボクは立ち仕事はやらんです！」って言ったヤツなんですよ。そんな腐りきった男がシゴキに耐えてるあいだにエアセックスの世界チャンピオンにまでなりましたからねえ……（しみじみと）。

――それは素晴らしい（笑）。

杉作　もう素晴らしい出世物語ですよ！　彼がエアセックスしている模様はイギリス国営放送の正月番組で放送されたわけですからね。もう世界のエンターテイナーです。おそらくイギリスでは人気者だと思うし、『やる気まんまん』は彼が助監督になると思いますけどね。映画の中でエアセックサーとして登場するかもしれないですけど。

――話を強引にまとめると、その彼はプロレスによって救われた、と。

杉作　やっぱりね、普段の生活に〝プロレス〟は必要ですよ。最近はプロレス界のことをあんまり知らないんだけど、いまはもうプロレスは〝作りもの〟ってことになっちゃってんの？

まあ、ミスター高橋本以降は、ほぼそうなってますね。

次回作『ママ、俺も男だ!!』の主演はアイドル・松本さゆき！

『ママ、俺も男だ！』のママ役はグラビア等で活躍する松本さゆき。杉J監督の描くハードボイルドな男の物語では、女性か常に重要なポジションを占めているのだが、はたして今回はどんな役なのか？作品の詳細は墓場プロHPへ!!　http://www.otokonohakaba.com/

もともと墓場プロを作ったのはFMWがきっかけなんですよね

杉作　そうですか　たったら話しますけど、新生FMWにキャプテン・シャックってカイシンが来てたでしょ？

――オーストラリア出身のラッパーですね。

杉作　最近売れてますね、あの人。歌が街とかで流れてますし　て、あの人は海兵隊にいたんだけど、プロレスはやったことがなくて、試合はおそらくガチンコのつもりで相手に向かっていったと思うんですよ。

―あ、そうだったんですか!?

杉作　うん。でも、やっぱり相手が冬木（弘道）さんだったから、試合として成立しちゃうんですよね　たから、極端なことを言えば、プロレスというのは〝片プロレス〟でもプロレスになるんだ、と（笑）。

よっぽと受け止めるほうに実力があればそうなんでしょうね。

杉作　キャプテン・ジャックが本気で向かっていったって、冬木さんには絶対に勝てない。そのうえ冬木さんが試合を組み立ててくれるでしょ。そう考えれば、プロレスラー一人いれば団体はできるんじゃないか、と。

ミニマムなかたちではそうかもしれないですね。

杉作　うん。だってその人にみんながアタックしていけばいいわけだから。見せる感じにできなくはないでしょ。その話のつながりで、部外者が言うのもあれですけど、プロレスってておもいきってね、やっぱ（裏側を）出さないと熱くならないですよ。だって、ミック・フォーリーが熱い物語になったのも出したからでしょ？

――裏側を追ったドキュメンタリー映画『ビヨンド・ザ・マット』ですね。

杉作　ねえ？　ホントはああやって裏側を全部出すとね、けっこう感動的なんですよ。鶴見さんと高杉さんたって普段は並んでビデオを売ってるけど、「さっきまでチェーンつけて殺し合いしてたよな……」って思うとね、これで感動しなかったら男じゃないですよ!!

男の背中を感じますよね。

杉作　そのドラマ性をプロレスは本来、持ってるわけじゃないですか。プロレスっていうのは、そういうものなわけでしょ？　たとえば格闘技の世界で「世界で誰が一番強いんだろう!?」っていうのも、もちろんおもしろいですけど、仲のいい人同士がね、殺し合わなきゃいけないという不条理さ　そこはね、もの凄く出してっていいとこだと思うんだ、ホントは。だから今回の映画でね、ぜひその要素を出したいんですよ。……って、いま話してるうちに思い出しましたけど（笑）。

――いや、いい話ですよ!

杉作　しかもプロレスラーが出ると、やっぱり現場もピリッとしますからね。新宿鮫さんを出したときも、いま思えば「なんでそんな危険な人を最初に呼んだんだろう」って思ったんですけど。

鮫さんはいろいろ凄いですよね。あまり公にできないエピソードは豊富ですし。

杉作　やっぱプロレスラーは侮れないですよね。だから最初の作品のときもね、鮫さんとロマン優光が乱闘寸前になったんですよ。ロマン優光も当時は狂犬も狂犬ですよ!

それは緊張感ありますねえ。

杉作　うん。ロマン優光は「映画のためだったら、手の1本ぐらい切り落とす」って言ったんですよ。そうしたら鮫さんが「じゃあ包丁を持ってこい!　いま、ここで落としてやる!!」って。鮫さんの場合っていうか、プロレスラーが怖いのは、ホントに怒ってるのかどうなのかわかんないんですよ。プロレスラーは卑怯ですよね、ホント。

――どこでブレーキ踏むんだろう？　っていう（笑）。

杉作　それはFMWで仕事してたときから思ってましたけど、プロレスラーの機嫌って読めないんですよ。オレはハヤブサですらわかりませんでしたから。そういう意味でいうと、ボクらの映画に凄く向いてるんですよね　たってプロの役者を使うと先が読めちゃうんですよ。だからボクはシロウトを使うんです。よく一般のお客さんから「なんで素人がいっぱい出てるんだ　とうせ知り合いを集めたんだろう」って文句を言われますけど、そりゃあ知り合いじゃないとボクの映画になんか出てくれませんよ!

ダハハハハ!

杉作　それはともかく、役者かあんまり出ると、表情とか仕草で話か読めちゃうんですよ。この先どうなるかの演技をしちゃいますから。今日の昼間、ボクは映画を観てたんですけど、『スパイダーマン3』とか観ててもね、「途中は悪者をやってるけど、最後は良い者になるな」とかわかっちゃうんです。でも、シロウト以上に読めないのがプロレスラーですから。もう、鮫さんのウソとか冗談はまったくわからない。

――そんなにわからないもんですか？

杉作　ほんでね、ウソがウソとしてまかり通っちゃうんですよね　去年のお花見に鮫さんが一人の女性を連れてきたんですよ。で、「奥さんだ」って紹介されたから、ボクはずっと奥さんだと思って、もの凄い丁寧にしてた。まあ、誰が来ても丁寧にしなきゃいけないんでしょうけど（笑）。でも、鮫さんの奥さんだと思ってたから、ホントに丁寧にしてたんですよ　て、帰るときに「奥さん、お気をつけて」って言ったら、その女の人が「まだ言ってるんですか？」って呆れて言うから、よ～く見たらね、手塚眞さんの事務所の人だったんです。しかも面識がある（笑）。

ダハハハハ!

杉作　でね、ホクも何回か会ったこともあるんですよ　何回も会ったことあるんたけと、鮫さんの演技か完璧だから。これも〝片プロレス〟として成立するんですよ　その女性は〝鮫さんの奥さん〟を演じてる素振りは一切なかったんてす　たから完全に鮫さんたけの〝片プロレス〟なんてすけと、ホクは3～4時間ずっと奥さんだと思って、「奥さん、ありがとうございました!」なんて言ったら、向こうが逆に怒ってましたけどね。「何、言ってんですか!?」「なんで私がこんな人の!」って。

前にも会ったことがあるのに（笑）。

杉作　たから、剛さんと松崎さんに出演をオファーしたときも、なんで二人に「ホントに出てくれるんですか？」って聞いたかといったら、真意か読めないからなんですよ（笑）。

出演する気があるのか、どうかけと（笑）。

杉作　剛さんの場合はとくに話が伝わってないような感じがあるんでね。いまは「出てくれる」って言ってるけと（笑）。

――しかし、新生FMWのファンからすれば、こうしてひさびさに杉作さんがプロレスに帰ってきたのは嬉しい話ですよ。

杉作　……そういえば、この墓場プロはもともとFMWがきっかけなんですよねえ……。

――また凄いことを思い出しましたね（笑）。

バンド「漁港」の森田釣竿も次回作「ママ、俺も男だ!」に出演!　撮影は快調に進む、のか!?　このほかにも末井昭、久住昌之も出演が決定している。首を長くして待て!

新日本プロレス総合格闘技部門

「NEW JAPAN FACTORY（ニュージャパン・ファクトリー）」始動！

みんな先に逝って待っていてくれ 俺も〝男の墓場〟で死にます……

杉作　これね、もともとの話は……時間は大丈夫ですか？　さんざんしゃべったあとに（笑）。

――問題ありません（笑）。

杉作　あの～、なぜ〝男の墓場〟かっていったら、これはFMWのことなんですよ。

――FMW、イコール〝男の墓場〟！

杉作　もう荒井さんの本にも出てるから、いまは話していいと思うんだけど。FMWの方向性って、荒井さんと冬木さん、ボクともう一人のプロデューサーの4人が話し合って決めてたんです。

――毎回、凄い会議だったみたいですね

杉作　それで荒井さんと冬木さんはお亡くなりになられて、プロデューサーも地元に帰ってしまったじゃないですか。元気で東京に残ってるのがボクだけになっちゃいましたからボクだけがあいかわらず、女のパンティーがどうしたこうしたって言ってる。そうやって、なんとか毎日元気で遊んだり食ったりしてるわけですよ。で、もうね、ホント生きていけないぐらい鬱病みたいになっちゃいましてね、FMWがなくなったあと、みんながいなくなったあと、直接会わなくてもみんなの声が聞こえてくるような気がするわけですよ「おまえだけ元気で何やってんだ」「おまえがもっとちゃんとやってたら、こんなことになってなかったんじゃないか」みたいなね……。

――う～～ん……。

杉作　そんな声が聞こえてきて、とてもじゃないけど人前に顔を出すのがイヤだった。もう仕事もできない状態。FMWをやめてから、やることないからモーニング娘。の応援してましたけど。やっぱり荒井さんが亡くなったのはショックでしたからねえ……。荒井さんだけでもショックだったのに冬木さんでしょ。これはのうのうとやってるわけにいかない。この世に生きてるだけでも申し訳ないっていうか、「オレは絶対に生涯幸せになってはいけないんだ」みたいな雰囲気になってたんですよ。それはいまでもそうなんですけど、貞本（義行）さんのマンガ版「エヴァンゲリオン」でいえば、加持リョウジみたいになってた……って、これ意味わかんないよね（笑）。

――説明をお願いいたします。

杉作　加持っていうのはね、貞本さんのマンガだと昔の仲間が全部死んでるわけですよ。「ボクは幸せになることはできないから、ミサトとは一緒になれない」っていう話なんですけど。もう、まったくそれと同じ話。もう、すんごいつらくてですね、仕事するのも100パーセント、イヤで。いままで二十数年間、もの書きをやって売れてないから、これからも絶対に売れることはないんだけど、もしもこの先に何かの間違いでですよ、凄く売れたり家が建ったとかしたら、「なんでおまえだけ幸せになってるんだ！」って話じゃないですか。図々しい話ですけど、オレに成功は許されない。そうすると、すべての仕事はできないわけ。だって、宝くじだって当たる場合もあるんですよ。仕事する時点でひょっとしたら、当たるかもしれないんです。どんなちっちゃい仕事でさえも、当たる可能性はある……。そこで選んだ仕事が映画だったんです。

――映画は当たらないんですか？

杉作　映画は絶対に成功しないですから!!（キッパリ）。

――そ、そうなんですか？（笑）。

杉作　まあ、いままでも映画はホントにやりたかったんですけど、映画をやりたくて上京してきたわけですからね、ボクは。ただ、失敗がとにかく怖かったてんすよ。絶対にまともなことにはならないと思っていたからね。たとえば、有名な映画監督さんでもつい最近までホントに食うや食わずだったとかいう話を聞くとね……映画は恐ろしいと思うわけじゃないですか（しみじみと）。

――そうですねえ

杉作　いまの映画は回収できないって言われてるわけですからね。石井輝夫さんが困ってるのも見てきているし、映画だけはやるもんじゃないと思ってたんですけど。ボクはもう普通の仕事はできないし、どんなに小さな仕事をやっても当たる可能性はあるわけですから。

――マンガを描くのをやめたのもその頃なんですか？

杉作　そうかもしんない。んで、困ったなあと思ったときに映画かあったんですよ。これは絶対に失敗する、幸せにはますなれないと思った。やっぱり映画ってお金に際限がないですから　お金はあったら、いくらでも使うわけですよ。それでたいてい失敗するんですよ。大きくなったら大きくなったて、大倒産か待ってるんですよ!!

――とにかく映画は不幸になると杉作さんは思ってるんですね。

杉作　うん　ボク、45歳になりましたけど、中高生の頃にはね、大きくなったらろくな職業に就いてないんじゃないかと思う一方でね、心のどこかには奥さんもいて子どももいて、幸せな家庭を築けるんじゃないかという選択肢はどこかにあると思ってここまできたけれど、最後の最後にFMWか待ってましたからね　死んでもそっちにシフトすることは許されない。それで〝男の墓場〟を作ったんですよ　みんな、先に逝って待っていてくれ。俺もここで死にます。緩やかな自殺ということですよ……!!

――す、凄い話ですよー

杉作　それまでは夜中に事務所とかで寝てると、「荒井さんか訪ねてきたらどうしよう」とか、いろんな考えが頭を悩ましたんだけど、墓場プロをやり始めてから全然怖くなくなりましたね　死ぬ覚悟を決めたら元気になりましたよー（笑）

――いやあ、いい話だなあ。剛さんと松崎さんの写真からスタートして、こんなところにたどり着くとは（笑）。

杉作　ワッハッハッハッ！　もうね、荒井さんが生きててくれたらね、いい役あるんですけどね……。あと、冬木さん、生きててくれたら、三沢さんが映画に出てくれたかもしれない……

――文字どおりボスですよね。

杉作　ホントね、冬木さんは顔が広いからオファーがすっごい楽ですよ。まあでも、これも不思議なもんて、FMWかあったら墓場プロは作れてないですからね。厳しい話ですね、これはどうも……

――FMW枠として、ハヤブサさんのオファーはしないですか？

杉作　苦労を増やしちゃいますよ！　そんなの。ちゃんとしたギャラをあげられるようになってからじゃないと。……だからって、剛さんがノーギャラってわけじゃないですけど。

――わかりました。今後の『墓場プロ』の活躍を期待してます！

杉作　頑張りますよ　墓場へ、墓場へねえ………ハハハハハ！　最初からそのつもりですから大丈夫ですよ！　「あとは野となれ山となれ」って言いますけどね、ホンット、毎日そういう心境です。ハハハハハ！　ホントに困ったら、沖縄で映画資金を集めますから

――沖縄？

杉作　いま沖縄はバブルなんですよ。基地移転問題で公的資金がバンバン投入されていて。適当なことをしゃべれば、簡単にお金が集まるみたいなんで。ある出版社の社長も倒産して沖縄に逃げたんですけど、こないだ渋谷で偶然会ったらもう成金状態。時代は沖縄なんですよ!!

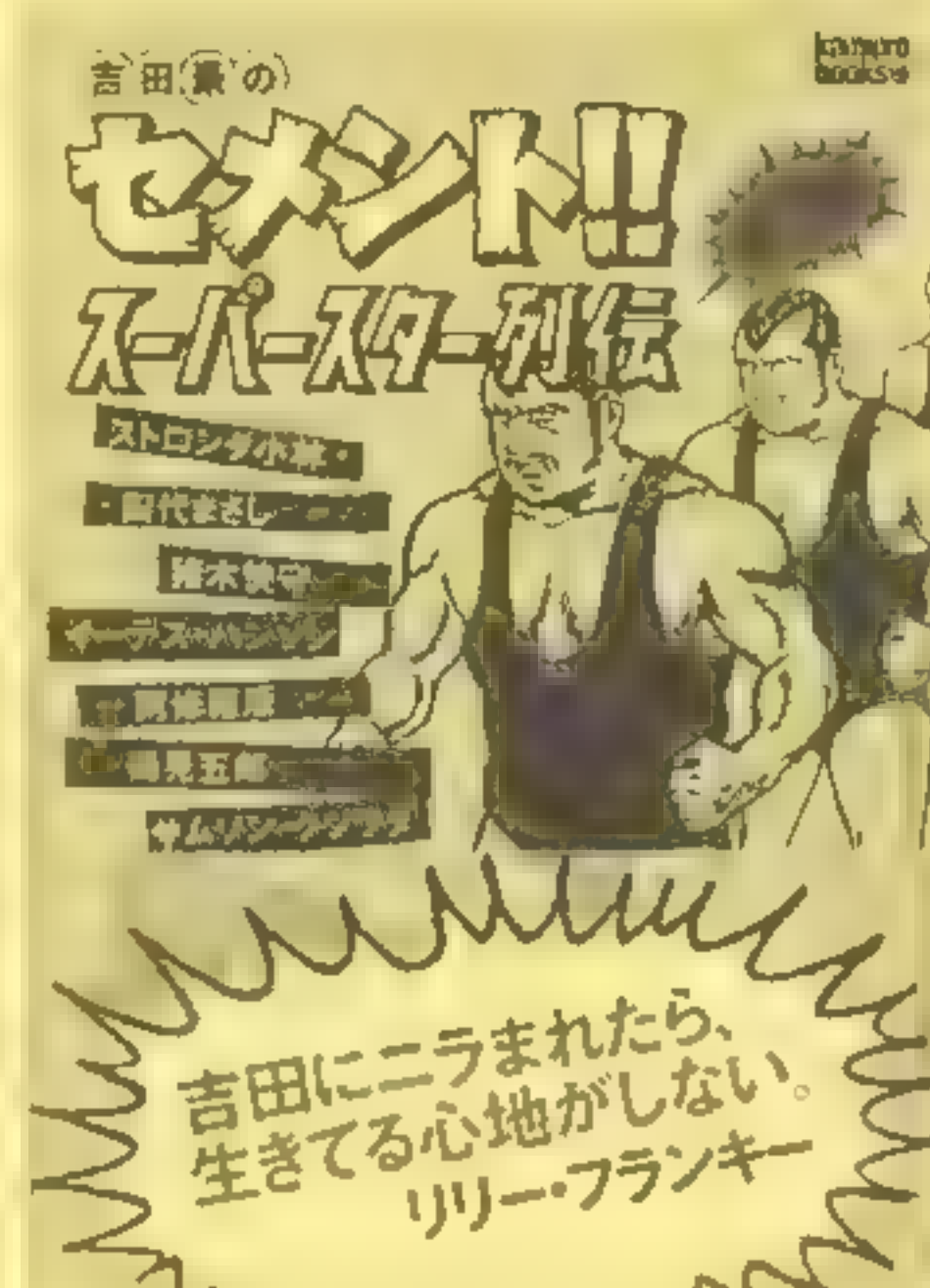
――へえ～！　そういえば、島田裕二さんは沖縄の北谷町の名誉町民（自称）になったそうですよ。どういうわけか（笑）

杉作　……さすが島田裕二ですねえ　あの男は死んでも墓場には引きよせられないでしょう（笑）。

【07年5月25日／ダブルクロスにて収録】

すぎさく・じぇいたろう■1961年9月26日、愛媛県出身。漫画雑誌『ガロ』でデビュー。漫画家、コラムニスト、タレントなどマルチに活躍する一方、03年から男の墓場プロダクションを設立して映画製作を行なう。

kamipro books

驚ガク！ 衝ゲキ!!
kamipro booksシリーズ！
死闘インタビューの
歴史的目撃者になれ!!

吉田豪セメント
インタビュー11連発!!
プロレスインタビュー本の
最濃傑作！

★ストロング小林★田代まさし★猪木快守★イーデス・ハンソン★阿修羅原★鶴見五郎★サムソン・クツワダ★康芳夫★倉持隆夫★田中健一★小川宏

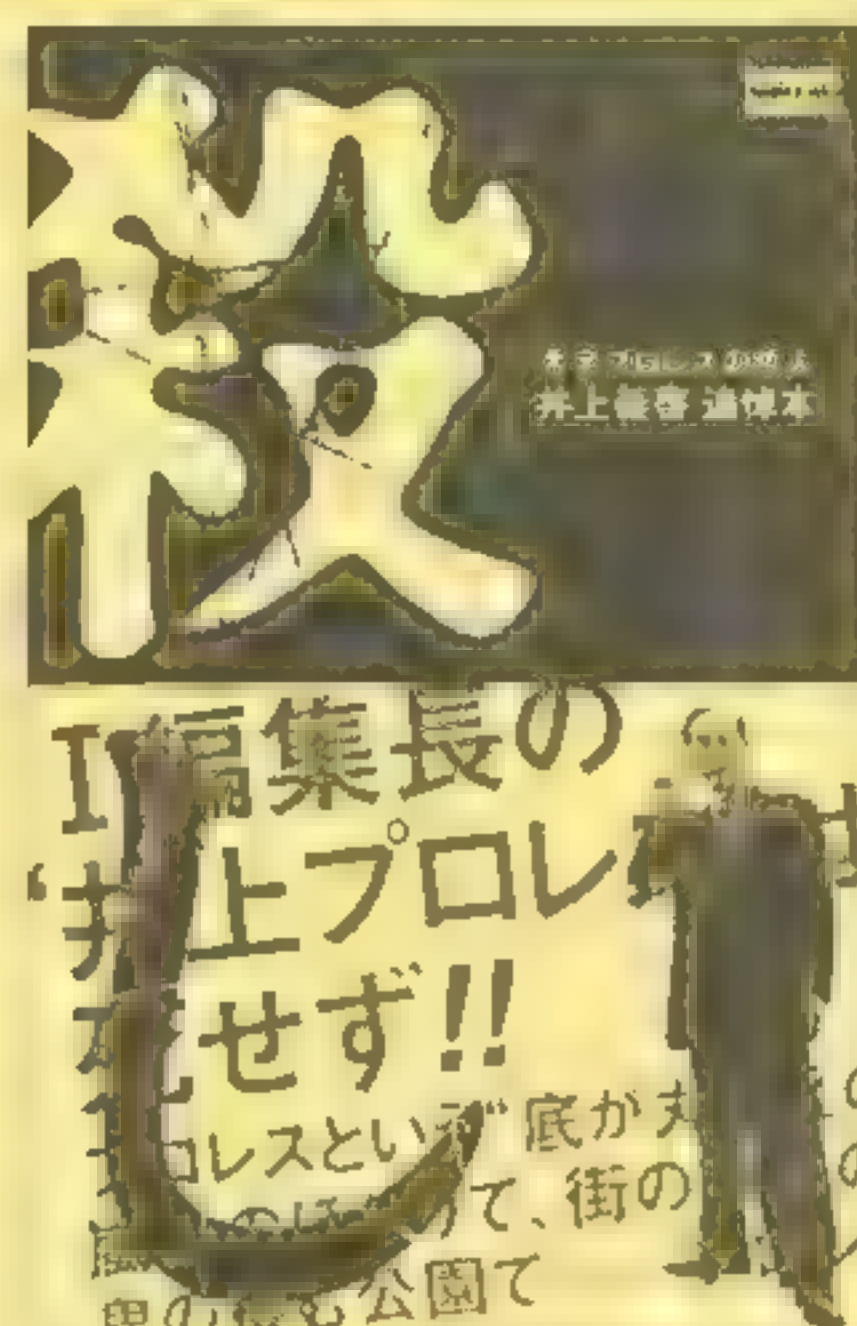
プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー——数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは"下調べの鬼"が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ！

B6変型判　344ページ
定価＝1,890円（本体1,800＋税）

夕焼けがよく似合う
人生のガチンコ勝負!!
プロレス狂がシビれる
凄玉たちの
壮絶インタビュー集！

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武志★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる——!! プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、『kamipro』誌上にて掲載されてきた、濃厚インタビューから特別厳選収録！

B6変型判　304ページ
定価＝1,890円（本体1,800＋税）

"殺し"文句が
プロレス心を熱く打つ！
"活字プロレスの哲人"
井上義啓 追悼本!!

★喫茶店トーク傑作選★井上小説傑作選★殺しのI語録★アントニオ猪木★水道橋博士★金沢克彦★井上義啓・姪★モンターニャ・シウバ

多くの"プロレス者"に影響を与えた"I編集長"こと井上義啓氏の追悼本!! 幻の喫茶店トークから、涙なくしては読めない病床のエピソードまで……。プロレスという"底が丸見えの底なし沼"に浸かり続いた男の凄味を感じろ!!

B6変型判　304ページ
定価＝1,680円（本体1,600円＋税）

eb! enterbrain 株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL 0570-060-555 代表 「通信販売のお問い合わせ先」http://www.enterbrain.co.jp/

新日本プロレス総合格闘技部門

『NEW JAPAN FACTORY』始動!

NEW JAPAN FACTORY ■ NEW JAPAN FACTORY ■

米国名門ジム AKAと提携!

もうこれはプロレスの"片手間"じゃない!!

ついに新日本プロレスが総合格闘家育成に本気になった!!

――今日は装いも新たにリスタートした新日本プロレスの総合格闘技部門〝NEW JAPAN FACTORY（以下NJF）』の〝工場長〟である武田さんにお話をうかがいたいと思います！

武田　ちょっと、工場長はやめてくださいよ！『UWF STATION』の工場長ばりに、武田工場長とお呼びしようと思ったんですけど（笑）

――それはやめてください（笑）。マネージャーぐらいにしといてください！

――では工場長……、じゃなくて武田マネージャーに、まずはどういったいきさつで『NJF』が設立されたのかお聞きしたいのですが

武田　これはですね、もともと（永田）克彦選手が新日本プロレス所属の総合格闘家としてデビューしたじゃないですか。そのとき最初にマネージメントしていたのが、青木さんだったんですよ。

――かの有名なチーム・キングスの〝キング〟こと青木良さんですね（笑）。

武田　はい。なぜか新日本に所属していながら、チーム・キングスとして青木さんがやられてたんですけど、その青木さんが辞められて、新日本の廣瀬さんという方が克彦選手のマネージメントをするようになったんですね。ところが、その廣瀬さんも新日本を辞めてIGFに行かれて（笑）。

――そんなケノムな展開がありましたか（笑）。

武田　それでボクがやることになったんですけど、その当時、ボクは新日本の広報とライセンスの仕事をやりながら、自分の会社で河野（真幸）選手のマネージメントもしてたんですよ。それで、菅林社長が、一緒にやろう、と言ってくれたんで、ボクが克彦選手と河野選手のマネージャーをやることになったんです

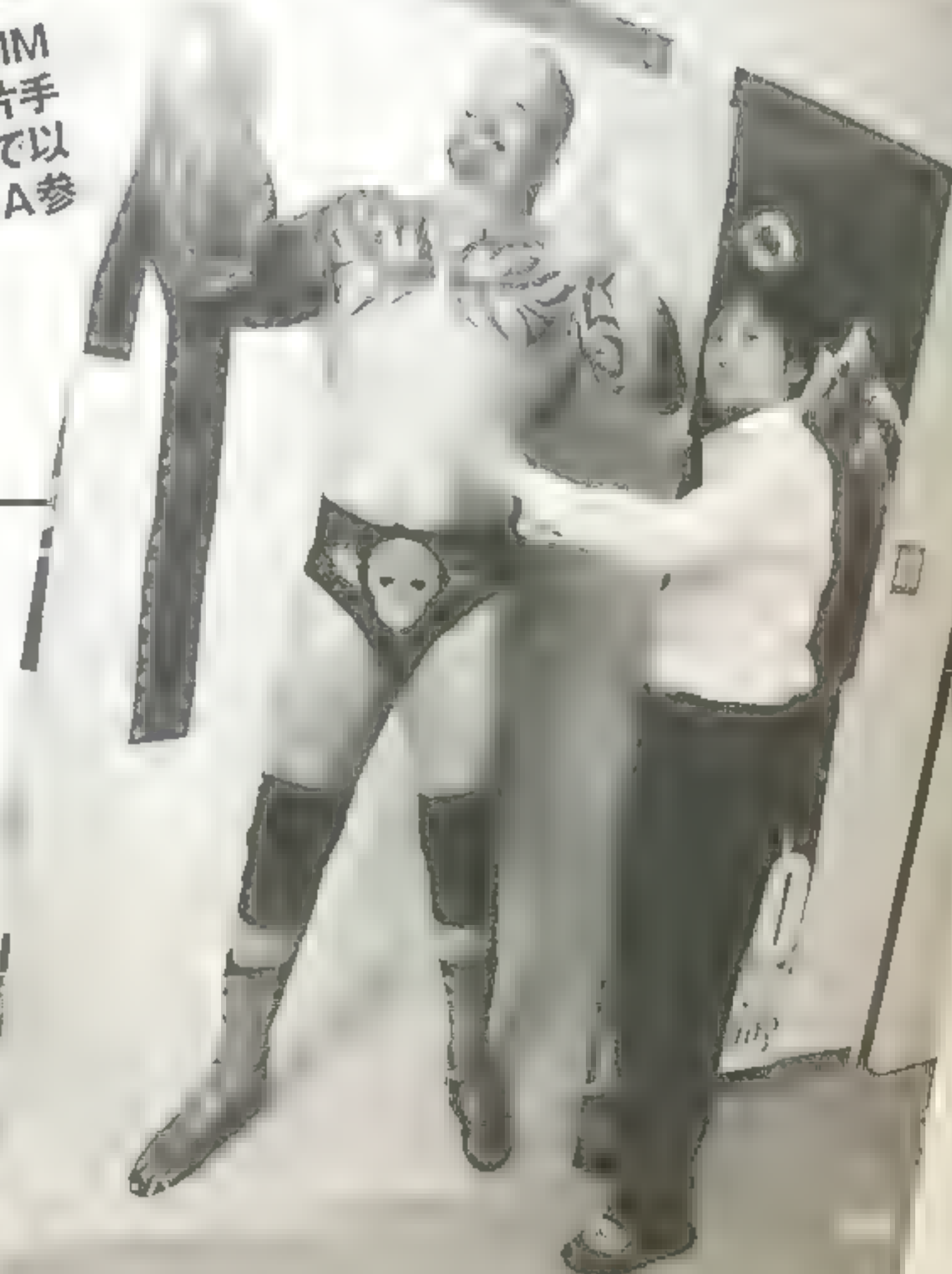
ファイトマネーは年俸プラス出来高
海外修行斡旋！

『ニュージャパン・ファクトリー』はプロレス団体のいい部分を残し、格闘家を育成します！

あの新日本プロレスがついに総合格闘家育成に本格着手！　米国MMAの王手ジムAKAと提携し、これまでのような〝プロレスの片手間〟ではなく、〝NEW JAPAN FACTORY〟として、これまで以上に力を入れていくこととなった。プロレス団体最大手のMMA参画は、格闘技界にどんなうねりを起こすか!?

『NEW JAPAN FACTORY』マネージャー
新日本プロレス　ライセンス事業部

武田有弘

たけだ・なりひろ■1971年11月13日、大分県出身。95年、新日本プロレス入社。02年に武藤敬司らとともに新日本を退社し、全日本プロレス入社。その後、レッグロックの立ち上げに携わり、06年4月に外部ブレーンとして新日本に復帰した

いままで新日本プロレスは本格的に総合格闘家の育成であったり、会社として総合格闘技という部署として作って力を入れたりというのは、じつは初めてですよね？

武田　そうですね。ボクがやるからには白い目で見られるのはイヤだったんですよ。新日本ってそういうプロレス以外のことやってると、なんか居心地の悪さを感じる会社なんですけど。

そうなんですか（笑）

武田　まあ堂々と新日本の会社の総意でやってるんだってことをアピールするためにも、ちゃんとしたものを作ろうって

それが『NJF』だと

武田　そうですね　だから名称は「新日本プロレス総合格闘技部」でもいいんですけど、いま『HERO'S』とかに出てる選手ってオシャレなチーム名の選手が多いじゃないですか　それで『レッスルランド』のプロデューサーもやっていただいている、フリーライターの阿部タケシさんに「何かいい名前をつけてください」ってお願いしたら、「ボクは『モンスター・ファクトリー』が好きだったんで、『ニュージャパン・ファクトリー』でどうでしょう?」ってことで決まったんです。

『NJF』のルネタは、あのバンバン・ビガロを輩出したプロレススクール『モンスター・ファクトリー』でしたか（笑）

武田　そしてチームのロゴマークも、ボクの知り合いに頼んだら、カッコイイのができてきたんで、ロゴも響きもいいんで、これでいこう！と。まぁ、昔、新日本にあったアマレス部門、『闘魂クラブ』の総合格闘技版と考えていただけたら、わかりやすいと思います。

かつて中西学選手や石澤常光（ケンドー・カシン）選手がプロレスラーになる前に所属していたチームですね。あれは確か、新日本プロレスの社員として『闘魂クラブ』に所属して、アマレスの大会に出ていたんですよね？

武田　そうですね。やっぱりアマチュアスポーツなんてとくにそうですけど、ちゃんと生活を保障してあげないと、なかなかスポーツに打ち込むことって難しいんですよね。

どんなスポーツの選手もみんなどこかの企業に所属してますよね。

武田　それはプロとはいえ、総合格闘技の選手も一緒だと思うんですよ。みんなアルバイトしながら練習してるじゃないですか。坂口道場の坂口（征二）会長も「総合格闘家はみんな苦労してるぞ。プロレスラーは恵まれてる　新日本は財力もあって、練習環境を整える力があるんだから、しっかりやってやれ」って言ってましたからね　じゃあ、しっかり練習環境を整えて、最低限生活の保証もして、会社としてしっかりマネージメントしていこうかな、と

――では、『NJF』は給料制で支払われるんですか？

武田　給料制プラス出来高制ですけど、給料は低いです　年俸はあくまで最低保証であって、あとはファイトマネーで稼いでもらう、と

でも、そのシステムは総合格闘家にってありがたいですよね。みんなベースとなる給料なんてないから、バイトするか、ジムの指導員しながら自分の練習をやるしかないですからね。だから、いまはなくなってしまったリングスやUWFインターって、凄く恵まれていた環境だったんだな、と思うんですよ。しっかり給料がもらえて、練習し放題、メシも食い放題、それは強くもなるだろうという。

武田　そして闘う場所もあるわけですからね　選手としては最高のかたちですよね　だから『NJF』では、そういうプロレス界が持っているいい部分というのを総合格闘家育成に活かしていきたいと思っているんです。本当に強くなるためには、フィジカルのトレーナーも必要だし、打撃のジムにも通ったりとか、けっこうお金がかかるんですよね。でも、そういうお金を出せない選手だっているじゃないですか

無名の選手や若手選手には出せませんよね

武田　そういったお金の面だったり、練習環境だったりをバックアップしたら、もっと強くなれる選手っていっぱいいるわけでしょ。『NJF』では、そこをしっかりバックアップしていこうとしているんです

それだと、アマチュアのアスリートが転向しやすいですよね。やっぱりアマレスの学生王者とかが、大学卒業して、バイトしながらイチから総合格闘技の練習するなんて難しいですもんね。

武田　ちゃんと金銭面、練習環境が揃っていれば、第二の克彦選手みたいな、アマチュアのトップアスリートも入ってきやすいと

NJF．のエースである“永田さん弟”こと永田克彦　現IWGP王者の兄・裕志にはりの、“キラー永田”ぶりを　HERO'S．のリングでも見せてほしい！

本誌No.109で特集を組んだ、米国ベイエリアにある名門ジムAKA　いまやMMAの本場であるアメリカのジムと提携したところに、NJF．の本気度がうかがえる

克彦選手はちゃんと体系的な練習をしたら、いまの10倍は強くなれますよ

思うんです。それはやっていきたいですね
　そして、練習環境を整えることの一環として、UFCファイターを多数輩出しているアメリカの名門ジム、AKA（アメリカン・キックボクシング・アカデミー）と提携もしているんですよね
武田　そうですね。これは『kamipro』さんのおかげで（笑）。
—なんかそうみたいですね（笑）。どういった過程で提携に至ったのか、ちょっと説明してもらえますか？
武田　これはですね、克彦選手が『kamipro』のAKA特集の記事（No.109）を読んで、「ここに練習へ行けませんか？」って言ってきたんですよ。それで、新日本プロレスの中で『kamipro』といえばボクじゃないですか（笑）
　そうですね。新日本のフロントで唯一、『kamipro』と交流のある「出島」のような感じでしたもんね（笑）
武田　そう、みんなが「kamipro』には付き合うな」って言ってる中で、ボクだけ付き合っててね（笑）。それで堀江（ガンツ）さんに電話して、AKAの関係者を紹介してもらったら、トントン拍子で話が進んで、克彦選手が練習に行くだけでなく、「提携しましょう」ってところまでいっちゃったんですよ
　それはまた話が早いですね（笑）
武田　ホント、克彦選手が『kamipro』を立ち読みしてから、2週間ぐらいで提携までいっちゃったんです（笑）。まぁ、こちらとしては、凄くラッキーで『kamipro』さんに感謝してますけど。

—AKAみたいな、アメリカMMAの最先端をいっているジムと提携することは、『NJF』にとっても、凄くいいことですよね
武田　そうですね　克彦選手も言ってましたけど、練習環境が凄くいいんですって。AKAは寝技、打撃、筋トレ、すべて一カ所でしかも体系的にできるじゃないですか
日本にいると、寝技は柔術の道場、打撃はキックボクシングのジムという感じで、バラバラの技術になるけど、あっちはMMAがワンセットになった技術が覚えられるから、日本では経験できない充実した練習ができてるみたいです。
　逆に言うと、これまではMMAの体系的な練習をしないまま、いきなり『HERO'S』や『Dynamite!! USA』に出ていたっていうことですよね（笑）
武田　そうなんですよ　それで勝ってましたからね　やっぱりオリンピック銀メダリストですから、地力があるというか　ボクはこの前、『Dynamite!! USA』に行ったとき、AKAの指導者の方ともお話をさせてもらったんですよ　そしたら、やっぱりMMAのベーシックな技術がバラバラみたいですね　「でも、ポテンシャルは凄いものを持ってるから、しっかり体系的に練習したら、いまの10倍以上強くなる」って言ってましたから　これからの克彦選手に期待してもらえたら、と思います
—河野選手はいかがですか？
武田　河野も『Dynamite!! USA』が終わったあとから、AKAに行かせてます　彼はなぜかK－1トライアウトに受かったじゃないですか　だから、キックボクシングの練習を集中的にやらせてます　立ち技なんてやったことないのに、なんでK－1トライアウトを受けたかよくわからないんですけど、とにかく立ち技を教えてもらってこいって

（写真・上）新日本の菅林社長と「Dynamite!! USA」視察に訪れた武田氏。菅林社長も「NJF」には大きな期待をかけているという（写真・下）現在、AKAで特訓中の河野真幸（中央）、右は永田のセコンドについたイーフス・エドワーズ、左は同じくAKAで特訓中のKILLER BEEの福田力た

　そういえば、K－1ファイターのタマゴだったんですね（笑）
武田　AKAの会長に「おまえ、クレイジーだ」って言われてるらしいですよ。打撃が全然できないから「そんな打撃でホントにK－1に出るの？」って（笑）。
　いずれにしても、AKAとの提携はK－1進出にも一応役に立ってる、と（笑）。では、今後の新日本プロレスは、プロレスはプロレスで本体がしっかりとやって、総合は『NJF』でしっかりやる感じですか？
武田　そうですね　ただ、プロレス部門に関しては新日本プロレスはプロモーターであり、所属選手も抱えるというダブルの仕組みじゃないですか。でも、総合格闘技に関しては、我々はプロモーターは一切やりません　あくまで、K－1さんなどに選手を送り込むかたちをとりたいと思ってます。
　では、『アルティメット・クラッシュ』のようなことを開催する気はない、と（笑）。
武田　やりません　我々が総合の興行やっても、儲かりませんから　そこは外に選手を出して、外貨を稼ぐのが一番ですからね　そのためには、克彦選手をはじめ、所属選手がよいファイトマネーをもらえるようにしないといけませんから。やっぱり新日本プロレスがせっかくやるんだから、強いだけでなく、プロとしてお客さんが呼べる選手をどんどん育てていきたいですね
—わかりました。では新日本の新たな試み、期待していきたいと思います！
武田　『kamipro』派のボクがやることなんで、応援してください（笑）。

【07年6月8日　渋谷区・新日本プロレス事務所にて収録】

7.16『HERO'S』で宇野薫戦決定!!
『NEW JAPAN FACTORY』のエースを直撃!

永田克彦

聞き手／上杉先輩面

「きっかけは『kamipro』の立ち読みです(笑)」

『NJF』のエース、永田さん弟こと永田克彦。レスリング銀メダリストという抜群のポテンシャルを持った男が、AKAで本格的なMMAトレーニングをスタートし、大化けが期待されている。6・2『Dynamite!! USA』では、対戦相手が二転三転しながら、イザリア・ヒルに判定勝ち。7・16『HERO'S』で宇野薫戦が決定した克彦に、『NJF』の展望を聞いてみた。

──永田さんがAKAでトレーニングすることになったのって、光栄なことに『kamipro』の記事がきっかけだったらしいですね？

永田 ハイ、そうなんですよ。もともと自分自身、海外で合宿したいなって希望があって、「いいとこないかな？」って思っていたんですけど、たまたま『kamipro』を本屋で立ち読みして。

──『kamipro』は立ち読みでしたか（笑）。

永田 ええ、確か（笑）。で、AKAの記事が載っていたのを読んで、「ここだ！」って思ったんですよね。

──ピンとくるものがあった。それは、「ここ」が世界最先端[illegible]と銘打って、ベイエリア大特集[illegible]

永田 いやぁ、実際に最先端でしたよ。まず日[illegible]に取り組んでいますよね。コーチとかトレーナーが何人もジムにいて、彼らが練習メニューを決めて、しっかり技術指導をしているんです。日本[illegible]だと、けっこう同好会的なノリがあって、好きな人が集まってやっているというか。

──そういうところも多いですよね。

永田 その集まりの中で、好きな人たちはトコトンのめり込むっていう感じじゃないですか。でも、僕たちがレスリングでやってきた"競技"というのは、コーチがいて、合宿をしてと、しっかりとした選手の強化システムがあるんです。AKAは[illegible]

──なるほど。システムとして、MMAファイターを育成する環境が整っているわけですね。

永田 それが、[illegible]ある[illegible]っちへ行ったり、今度は寝技習いにこっちへ行ったことをせずにMMAに取り組めましたね。

──AKAではどれくらいの期間、トレーニン[illegible]

永田 3週間ぐらいです。近くのモーテルに宿泊して、車でジムに通ってました。サンノゼは日本人も多い地域なんで、日本食もあって、食[illegible]よかったです[illegible]

──文化的なギャップは感じましたか？

永田 とくには感じなかったですね。ただアメリカの選手は、「わざわざ日本から来たんだから」ということで、けっこうシゴいてくれましたよ（笑）。

──かわいがられましたか（笑）。

永田 あと日本から[illegible]半年前からKILLER BEEの福田（力）選手が来ていて練習していましたね。僕がいたときは、ちょうど福田選手がフィル・バローニの試合のセコンドとして出かけていて会いませんでしたけど。[illegible]天候もよくて、ホント、いいところなんですよ。

──ところで、前回のAKAでのトレーニングは『Dynamite!! USA』に向けてのものだったんですよね。

永田 ええ。でも、せっかくAKAで練習したのに、試合ではパンチもタックルも出せませんでしたから（笑）。観ているほうもフラストレーション溜まったでしょうね。

──[illegible]直前で対戦相手が変わった（ハビエル・バスケスからイザイア・ヒルに変更）と、バタバタしていましたが。

永田 もう大変でしたよ！ ヒルのパンチが強いので、打撃に付き合うなって言われたので、タックルにいったんですけど、相手の身体がヌルヌルしてるし（笑）。

──永田選手もすっごいすべりましたか（笑）。

永田 それでも、一本取れるようにならないといけないですけどね。判定勝ちでしたけど、やっぱり、個人的にはプロとしての輝きを出せな[illegible]は、お客さんにどう伝わるかを意識してやっていかないと、と思いましたね。

──河野真幸とともに『ニュージャパン・ファクトリー』初の所属選手として期待も高いと[illegible]

永田 本隊に負けないように頑張りたいですね。いい意味でのライバル意識を持っていきたいというか。僕は新日本で7年目なんですけど、[illegible]よ（笑）。「新日本所属なの？」って思っている人もいると思うので、僕らは総合部門で強さをアピールして、存在感を出していきたいですね。

（07年6月15日／都内ホテルにて収録）

7.16『HERO'S』では宇野薫との対戦が決定した永田さん（弟）。[illegible]の試合に向けて現在二度目のAKA特訓に旅立っている。はたして金星は奪えるか？

イン　サイド　コリア

인 사이드 코리아

韓国格闘技ノンフィクション劇場

文・大川"隊長"義之

第16回

現地ブッカー&エージェントが語る

韓国格闘技界を動かす日本人のキーマンとは？

日本と韓国の格闘技界のことを知っている者ならば、日韓の格闘技界の発展に最も貢献しているのがCMA代表を務める諸岡秀克会長であることに同意するだろう。

今回はそのCMAの韓国側のブッキング&エージェントを務めるチョン・チャンウク氏にインタビューを試みた。チョン氏はCMAのブッカー以外にも、韓国のテレビで「PRIDE」やパンクラスなどの解説者としても活動している。あの「グラジエーターFC」の驚愕の真実を含めて、韓国格闘技界の現実を赤裸々に語ってもらった（取材協力／長谷川永哲）。

——まずはチョンさんがどんな仕事をしているのかを簡単に説明してください。

チョン　私は現在、韓国のテレビ局で格闘技の解説者を務めています。それからCMAコリアのブッカーとしても活動しています。具体的にはCMAやDEEP系列の大会をはじめとして、「PRIDE」や「アージャ・フォース」などの大会に韓国人選手を送る仕事をしています。

——CMAコリアのブッカーとして活動しているとのことですが、CMAの諸岡秀克会長とはどのようにして知り合ったんでしょうか？

チョン　2003年に韓国で総合格闘技大会「スピリットMC」（以下スピリット）という大会が始まったんですが、私もこのスピリットの立ち上げにコンサルティングという立場で協力していました。この大会運営には[illegible]日本留学経験のある[illegible]氏（当時レフェリー）や、近藤有己とも対戦経験のある[illegible]氏（当時[illegible]日本部長）が大会運営に関わっていたのですが、それで諸岡会長は[illegible]氏に頼まれて、女子プロレスの試合を提供するためにこのスピリットに訪れていたんです。日本語のできる者がほかにいなかったので、私が諸岡会長の通訳をすることになりました。それが会長との出会いですね。

——あの大会にはパンクラスに参戦していたキム・ジョンワン（金宗王）選手も出場していましたね。

チョン　そうです。彼の試合もそうでしたが、スピリットの第1回大会はレフェリングの面でさまざまな問題がありました。それで諸岡会長がレフェリーの技術向上のためにCMAでレフェリー養成セミナーをやったり、美濃輪育久（現ミノワマン）の技術セミナーなども開いていたんですよ。

——なるほど。あらゆる面から韓国格闘技界の発展に寄与してきたんですね。そういえば、現在CMAはスピリットとあまり関係がよくないと聞いていますが、意外にもチョンさんは初期のスピリットのコンサルティングを担当していたんですね。

チョン　彼らとは第6回大会まで一緒に仕事をしていました。スピリットは一番最初の総合格闘技団体でしたから旗揚げ当時から内部でいろいろな問題があったんです。第1回大会が終わった後に、すでに分裂して「ネオファイト」という大会ができましたし、その後[illegible]氏と[illegible]氏も離脱しました。私も彼らとは旧知の仲だったので「一緒にやろう」と思ったんですが、スピリットとは最初の立ち上げから関わっていたので、地盤が固まるまでは協力を続けようと思ったんですよ。

——では、どうしてスピリットと別れることになったんですか？

チョン　これは言えないことも多いんですが——当時私はスピリットの仕事以外にCMAのブッカーとしての仕事もありました。それで[illegible]を「PRIDE」に上げたりしていたんですが、スピリット側からの要求があってデニス・カーンを「PRIDE」に送る橋渡しをしたんです。そ

チョン・チャンウク
1970年生まれ。小学生の頃から日本のマンガやプロレスなどに興味を持ち、それを契機に独学で日本語を学ぶ。94年からは漫画雑誌編集記者として活躍。プロレス格闘技への造詣の深さを買われて、98年からWCWの解説者としてテレビでの活動も開始。現在は[illegible]としてさまざまなテレビ局でK-1、「PRIDE」などの総合格闘技の解説者を務める。また解説者のみならず初期のスピリットMCではコンサルティングにも関わり、現在はCMAのブッカーとしても活動する韓国格闘技界のキーマン。

の業界でもそうですが、仕事をする上で窓口がいくつもあると混乱しますよね。韓国人選手が『PRIDE』で試合をするときの窓口は、ずっと諸岡会長だったんですが、スピリット側はブッカーを通さず、団体と団体との関係を要求したんです。それで『PRIDE』とスピリット、諸岡会長や現在ディースカーンのブッキングをしている内田さんたちを交えて会談もしたんですが、『PRIDE』側からは従来どおり諸岡会長を通してほしいと要望がありました。でもスピリット側はそれを守ろうとしなかった。それが問題になったのです。

――しかし、国内メジャー団体のスピリットとの関係が悪いとなると、CMAは韓国で誤解されている部分もあるようですね。

チョン　はい。諸岡会長が日本人なので『PRIDE』で韓国人が日本人の噛ませ犬として使われていると批判されたりします。また、どうしてもスピリットの選手を出さないで、韓国で名前も知らない選手ばかり『PRIDE』に出すんだとも言われます。

――なぜ、そういうファンはCMAがこれほど韓国格闘技界に貢献しているか知らないんでしょうか？　たとえばCMAを通して日本の団体に出場しているオ・ウォンジン、キム・デウォン、キム・ドンヒョンらは、長期間日本に滞在して練習していますが、彼らは自分で滞在費を払っているわけではないでしょう？

チョン　はい。選手の食費、マンションの家賃、生活に必要なものはすべて諸岡会長が出しています。多いときは6人の生活の面倒を見ていました。

――批判するファンはそういうことを知らないんでしょうね。生活の面倒を見て、練習させて、試合のチャンスも与え、実績を残せばメジャー団体にも上がれる道を整備しているのに……。

チョン　最初は試合直前に日本に呼んでいましたが、それで結果がよくなかったので修正が必要だったんです。韓国人選手の素質は高いですよ。身体も大きいし体力もある。でも、以前の韓国の格闘技界には選手を育てる方向性がなくて、指導者がいないんです。だから彼らを日本に滞在させてグラウンドなどの技術を学ばせて、試合もさせるようにしたんです。大会ごとにいちいち韓国から呼ぶよりも、日本にずっと滞在していれば、試合も組みやすいですしね。

諸岡会長の場合は"愛情"というより格闘技界への"責任感"だと思います

――でも、どうして諸岡会長はそこまで韓国に愛情を持たれているんでしょう。とても金儲けになるとは思えませんが。

チョン　愛情というよりは、個人的には責任感なんじゃないかと思います。会長は韓国にまだ総合格闘技という言葉がない時代から、ずっと韓国格闘技界に関わってきたんです。10年以上前にパンクラスが韓国で選手を発掘するオーディションを行なったんですが、そこに諸岡会長もいて、合格したキム・ジョンワンを日本のジムで面倒を見て、パンクラスで試合をさせました。その後も『PRIDE』や『キングオブ・ザ・ケージ』などに出場させたのも諸岡会長なんですよ。だから、最初から韓国格闘技界の成長と発展を見守り続けた人間としての責任感なんでしょうね。

――なるほど。あの……非常に聞きにくいんですが、大会前日にキャンセルになった幻のイベント『グラディエーターFC』のことも聞いてもいいでしょうか？　諸岡会長も関わっていましたけど。

チョン　もちろんいいですよ！　あれは諸岡会長のほうが被害者なんで、事実を伝えてほしいです。もともとグラディエーターの前に、諸岡会長は『KO King FC』という大会で、メインでキム・ジョンワンの試合をブッキングしていたんですよ。でも、それが主催者がお金を出すことを渋ったので中止になって。それでブッカーとしての会長の信頼が落ちてしまったので、ア

チョンさんをして"格闘技バカ"と言わしめる韓国格闘技界のキーマン。GMA代表諸岡秀克。美濃輪育久（ミノワマン）の後見人、MMAにおける韓国と日本のパイプ役など、活躍は幅広い

ラジエーター』の話があったときに協力することにしたんですよ。

――『グラジエーター』の第1回大会は、2日連続興行でしたね。

チョン　そうです。あれは失敗でしたね。会場も準備のために3日前から借りていましたし、韓国人は見栄っぱりですから、試合以外のところにお金をかけてしまって、選手のギャラが払えなくなってしまったんです。それで前日にキャンセルしようと言いだして……。でも諸岡会長は、当時自分の息子のように考えていたキム・ジョンワン、美濃輪、チェ・ムベの試合が組まれていたので、どうしても試合をさせてあげたかったんです。これは誰も知らないことでしょうが、諸岡会長は自分の家を銀行の担保に入れて700万円を工面して大会をなんとか開催させたんです。

――金額まで書いて大丈夫なんですか？

チョン　全然かまいませんよ。むしろ書いてください。諸岡会長はブッカーであり、被害者として主催者に損害賠償を求めてもよかったのに、そうはしなかったんです。

――『グラジエーター』は第1回からそんな状態だったにも関わらず、第2回大会も計画されましたよね？

チョン　第2回大会のときは、もっといいスポンサーがついたと聞いていたんですよ。でも結局、資金的な面で問題になるんですが（苦笑）、それ以外に選手のビザ問題もあったんです。じつは『グラジエーター』の試合の前にいろいろとトラブルがあったらしく、『グラジエーター』は、入管で厳しく捜査されることになったんです。時間に追われていた主催者はビザなしで選手を呼んでいて、それが問題で大会は前日に中止になってしまいました。

グラジエーターの第2回大会は中止になったが、韓国を出られずに3日間ほど足止めを食らった選手たち。写真はその時間でソウル市内を観光している面々だ。キム・ジョンワンや松井大二郎の姿まで！

ソウル市内にある刑務所の観光スポットを楽しむアレックス・スティーブリング。サービス旺盛な[illegible]とに、この日は韓国MMAファンと一緒に観光を楽しんだようである。

『グラジエーター』はビザの問題で大会前日に中止になってしまいました

――選手や関係者を全員呼んだ上での前日キャンセルですから、大赤字だったでしょうね。

チョン　そうです。それに第2回の大会はマーク・コールマンや、マリオ・スペーヒーらも呼んでいて、カード的にも豪華になっていましたしね。それで、経費は飛行機代だけで700万円。全体では1500万円ぐらいかかりました。それも全部諸岡会長が立て替えました。その時点で諸岡会長は1回目のお金も返してもらってなかったんですが――

――ええっ!?　お金を返してもらってないのに第2回に協力したんですか？

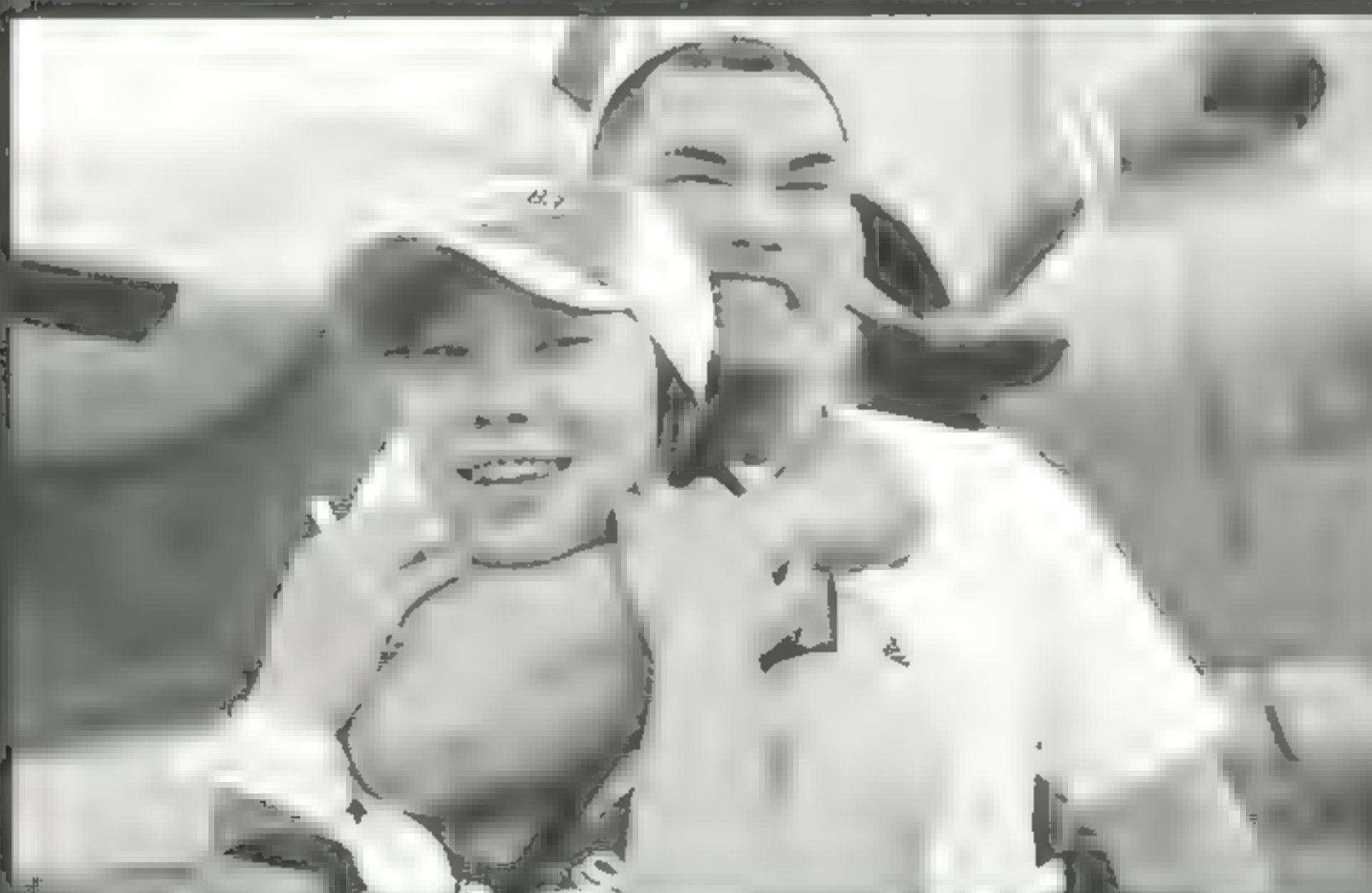
チョン　はい――。立て替えたぶんは必ず返すということでしたし。

――で、立て替えた2大会ぶんのお金は返してもらえたんでしょうか？

チョン　いいえ。主催者側はとりあえず大会を延期にして、もっといいスポンサーを集めてから返すと言ってたんですけど、結局150万円しか返ってきませんでした。会長も男ですから、自分が信じた人間のことなのでなんにも言いませんでした。

――この件で諸岡会長は1年間、韓国への入国が禁止されたとも聞きましたが。

チョン　いや、2年間です。会長のほうが被害者なのに出国するときにも20万円の罰金を払わされましたよ。主催者が現地で責任をとるべきなのに、ブッカーである会長が選手の世話をしただけなんですけどね。これもしっかり書いておいてくださいね。

――本当に理不尽極まりないですね……。お金儲けを考えていたら、二度と韓国格闘

韓国格闘技ノンフィクション劇場

6.2『Dynamite!! USA』メルヴィン・マヌーフ戦で見事な一本勝利を収めたユン・ドンシク。MMA初勝利となったメルヴィン戦、喜びは写真のとおり"ひとしお"である。

技界とは関わらないでしょうね。

チョン　だから会長は格闘技バカなんでしょうね。こんな目に遭っているのに、いまでも会長は韓国人の選手を育てようとしていますし、プロレスで儲けたお金をすべて格闘技に回していますから。

――そんなCMAですが、近々新しい大会を韓国で開く計画があると聞いたんですが。

チョン　いま、韓国には格闘技の団体が一つしかない状態なので、試合をしたい選手がいても上がれるリングが限られているんです。そんな選手に試合する機会を与えたいんです。7月23日もCMAフェスティバルが終わったあとをめどに、何かを行なう予定です。いま言えるのはそこまでですね。

UFCとPRIDEが一つの資本になることに韓国のファンは反対です

――では話題を変えましょう。格闘技界ではロレンゾ・フェティータの『PRIDE』買収、K-1&エリートXC連合という大きな動きがありますが、これは韓国にどんな影響を与えていますか？

チョン　韓国のほかの格闘技プロモーションについて、私の口から何か言うことは難しいですが、ファンのレベルでは、ほとんどのファンがUFCと『PRIDE』が一つの資本になることを反対していますね。UFCと『PRIDE』のファンがネットでいつもケンカしていますよ。以前は『PRIDE』の選手のほうが強いと見られていましたが、最近は逆転現象が起きていてUFCファンが幅を利かせています。

――韓国で総合格闘技界が始まって4年になりますが、このあいだに日本と韓国の格闘技のレベルはどうなったと思いますか？

チョン　2005年11月5日に韓国で『HERO'S』の大会で7試合の日韓戦がありましたが、そのとき勝てた韓国人は1人だけでした。その後、2006年5月24日にCMAフェスティバルで11対11で日韓対抗戦を行ないましたが、そのときも韓国は3対8と対戦成績はよくありませんでした。この一つの結果がそのまま両国の実力の差を示していたと思います。しかし2006年12月20日の『DEEP27』で行なわれた3対3の日韓対抗戦（男子）では、韓国格闘技の第一世代であるキム・ホンヒョン、キム・デウォン、キム・ドンシクらが日本人に全勝しました。メジャーの舞台では、最近ユン・ドンシクがメルビン・マヌーフに勝ちましたが、DEEPレベルの試合を見ても韓国人選手のレベルはどんどん上がってきていて、以前に比べてレベル差も詰まってきていると思います。

――なるほど。韓国格闘技のレベルに刮目せよ、ということですね。今日はどうもありがとうございました！　今後も地道な活動を続けるCMAの活躍を期待しています！

チョン　我々はエリートアスリートではなく、おもに底辺から韓国人格闘家を地道に支援・育成しています。今後もCMAの活動に注目してください。よろしくお願いします！

Back Number

元祖! 紙のプロレス BACK NUMBERは すべて50%OFF

特集 神秘とは何か? no.14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・ボディガード 清水白鵬・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!／遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲 no.15 780yen⇒390yen
あんた誰? 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負!／K－1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サタハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮 no.17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&永島勝司・村松維邦・破壊王・フル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」 各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

格闘ノストラダムス! no.16 780yen '99.02
[表紙:エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を「紙プロ」で語る!／引退後初! 前田日明インタビュー／石川孝司

"新"プロレスとは何か? no.32 840yen '00.10
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10番勝負／フ ノャ 木村

猪木祭り、いよいよ開幕ーッ! no.34 840yen '01.01
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ボブ&オバチャンチン

純プロレスを徹底検証! no.35 840yen '01.02
[表紙:サクマシン(イラスト)] ZERO ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!! no.36 840yen '01.02
[表紙:橋本真也(イラスト)] ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン ノゲイラに狼の伝言

小川直也は是か非か? no.38 840yen '01.05
[表紙:髙田延彦(イラスト)] 忘れ物の正体は、髙田延彦／ヴォルク・ハンの秘強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か? no.39 840yen '01.06
[表紙:前田日明] 前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは? no.40 880yen '01.07
[表紙:アントニオ猪木] 蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

"最後の黒船"WWF来襲!! no.41 880yen '01.08
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!! no.42 880yen '01.09
[表紙:アントニオ猪木] トン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／"ヒャ ホーの真実" 辻よしなり／高山×宮戸×金原

聖戦「PRIDE.17」迫る!! no.43 880yen '01.10
[表紙:桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー 金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と PRIDE の未来 no.44 880yen '01.11
[表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々! シーザー武志／怪物伝承対談 高山善廣&杉浦貴

一寸先はハプニング!! no.45 880yen '01.12
[表紙:アントニオ猪木(ホームレス姿)] 悪魔の害 現る ミスタ 高橋 ノ ォフルト・コルト 人生相談

田村潔司、PRIDE 討ち入り! no.46 880yen '02.01
[表紙:田村潔司] さらばリングス 金原×和田、浅草キッド／ならず者DEEPで勝利! エル・カネック／キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前! no.47 880yen '02.02
[表紙:ビンス・マクマホン・シュニア] "天才"武藤敬司か 紙プロ 隠密の初登場 ／噂の馳浩かミスタ 高橋本を語る

桜庭、満開の日は近い! no.48 880yen '02.03
[表紙:桜庭和志] 奇跡のメガトン対談 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に! 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発! no.49 880yen '02.04
[表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田／菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号 no.50 880yen '02.05
[表紙:桜庭和志] 「地方発世界」開始! 小川&橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁

揺るぎなきプロレスの確立 no.51 880yen '02.06
[表紙:橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也／ PRIDE」の魅力をマン開! 小池栄子／武藤敬司人生相談

戦慄の LEGEND 前夜!! no.52 880yen '02.07
[表紙:橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣／USAの處世人トン・フライ／ロシアン・トップチーム

Dynamite ド直前号! no.53 880yen '02.09
[表紙:桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ! マット・カファリ

Dynamite!」を大総括! no.54 880yen '02.08
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] "首の皮一枚" ホイス&エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負! no.55 880yen '02.10
[表紙:髙田延彦] 「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!／金原が PRIDE 参戦!／メガトン級の男、ボブ・サップ!

驚ガクの6周年記念号 no.57 840yen '02.11
[表紙:高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる "U" が始動! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号! no.58 880yen '03.01
[表紙:武藤敬司&船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×高阪、宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、PRIDE上陸 no.59 880yen '03.02
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

PRIDE」は変貌&再生する! no.60 880yen '03.03
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破! E・ヒョードル 驚愕の格闘芸術対談 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争! no.61 880yen '03.04
[表紙:橋本真也&小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ! no.62 880yen '03.05
[表紙:ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場! 佐々木健介／現役復帰? 船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断!

マット界、超絶リボーン!! no.63 880yen '03.06
[表紙:橋本真也&小川直也(イラスト)] 「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦／PRIDE・REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!! no.64 900yen '03.07
[表紙:桜庭和志] "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／ PRIDE ミドル級GP」出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦! no.65 880yen '03.08
[表紙:ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上! ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イスマイウ

ミルコ 武士道」電撃出陣! no.66 880yen '03.09
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場 ／ 東スポとは何か?

ミルコvsノゲイラ、迫る!! no.67 880yen '03.10
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー ミルコ／ PRIDE ミドル級GP 決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!! no.68 880yen '03.11
[表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前! no.69 900yen '03.12
[表紙:橋本&小川] 出てこい! 泣き虫! 橋本&小川／「泣き虫」著者、金子達仁登場!／田村潔司／美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括! no.70 880yen '04.01
[表紙:ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告!／健介&北斗WJの真実を語る! 紙プロ大賞&語録発表

ハッスル2」で大フィーバー! no.71 880yen '04.02
[表紙:ハッスルイラスト] 「PRIDE GP優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ／川田利明初登場!／猪木vsアミン戦の真実

PRIDE」に格闘ロマンを見よ! no.72 840yen '04.03
[表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!! no.73 880yen '04.04
[表紙:小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー 小川直也／PRIDE・GP出場全選手パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!! no.74 880yen '04.05
[表紙:小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也／リヘンシロート発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!! no.75 880yen '04.06
[表紙:小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シウバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也／奇跡の独占インタビュー! 髙田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦! no.76 880yen '04.07
[表紙:桜庭和志] 小川の"盟友"と"宿敵"が奇跡の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!! no.77 880yen '04.08
[表紙:小川直也] 「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

PRIDE GP徹底総括号 no.78 840yen '04.09
[表紙:小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨 no.79 840yen '04.09
[表紙:髙田総統] キャプテン、休息無し 小川直也 特別付録・髙田総統ポスター ／谷川さんも推薦「曙は是か否か?

守護神ミルコが外敵狩り! no.80 880yen '04.10
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／ 袋とじ企画 クノスリー岩本

究極のSADAME、迫る!! no.81 880yen '04.10
[表紙:桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ／新日本でハッスル成功! 小川直也／草野仁

男たちの祭りは激化する!! no.82 890yen '04.12
[表紙:桜庭和志] "道場破り"の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪

ミルコ激白! 打倒皇帝! no.83 880yen '05.01
[表紙:ミルコ・クロコップ] 04年 PRIDE男祭り」を大総括／05年ハッスル大進撃発表! 小川直也／橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!! no.84 880yen '05.02
[表紙:セルゲイ・ハリトーノフ] "殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

PRIDE」vs「HERO'S」開戦! no.85 860yen '05.04
[表紙:前田日明&髙田総統] PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、高田／パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

PRIDE GP直前大解剖号 no.86 840yen '05.04
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!

PRIDE GP開幕&大総括! no.87 860yen '05.05
[表紙:吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販方法 ▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①「kamiproHand」で注文 ②電話注文 03-5368-1797 ③メール注文 kapra@kamipro.com

新 卓球少女(旧) 松下ミワの ハガキ愛ランド

突然ですが、衝撃です!! 皆さん「でもそんなの関係ねぇ!」で検索してみてください。そこにはなんと、水着でチロチロ踊るマッチョボディのさわやか青年がっ!! いやー、これはかなりひさびさにドッキリ。辻褄なんてド返し状態、わけがわからないって、本当に最高ですね。えっ? 情報が遅すぎ!? でもそんなの関係ねえ! (怒髪天)。それでは今号もスタートしましょう。3、2、1、海パン、海パン、う～、オッパッピー!! (地球温暖化)。

kamipro111号へのお便り紹介

ダナ・ホワイトのインタビューは好き嫌いなど、物事をハッキリ語ってくれるのでインタビューを読み終えるととてもすっきりした清々しい気分になります。代表のインタビューを読んでいるときのワクワク、ドキドキ感がたまらなく気持ちいいので、僕は代表のインタビューが大好きです。

【兵庫県・田丸仁志さん・新聞配達員・22歳】

↓インタビューは抜群たけど、でもUFCのライバル団体って大変でしょうね。決して敵にしたくない人とは、とりあえずお友だちになっておくのが一番!!

ファースト・インプレッションで谷川貞治氏の顔写真がよかった。サダハルンバとカルビン・エアーがラスベガスで「坊主マッチ」をやるんだったら、トイチで金借りてでもアメリカに行きますよおおお!!

【神奈川県・なめこさん・契約社員・40歳】

↓ターザンばりの絶叫、ありがとうございます。しかし、そんな試合、アスレチック・コミッションストップですよおおお!(もしくはドラゴンストップ)

柴田勝頼と船木誠勝の師弟対談がよかったです。「刀をもらって研いでいたら、使いたくなった」は久々にプロレス界の名言だと思います。師弟ともいい意味で狂っていて最高!

【宮城県・毒柴さん・グウタラ社員・36歳】

↓谷川さん期待大の柴田勝頼、今後の試合は未発表ですが、日本のマット界を盛り上げてほしいものです。あと、船木さんにも盛り上げてほしいです

高阪剛のミルコ敗戦分析がよかった。ゴンザガの練られた戦略と、あらゆる角度から打ちおろされるエルボーの解説が興味深かった。

【東京都・佐藤望さん・会社員・46歳】

↓技術論なんて一切語らない『kamipro』ですが、ついに新開地へ突入!? いや～、ちゃんと教えてもらうと非常に勉強になりますねぇ

ボブ・サップはまた逃げたのかと思うと、もう笑えてきました。メールを25通送って確認をとっているにも関わらず、それでも来ないという"石橋を叩いても渡らない"という精神は筋金入り。でも、自分の周りにもそういうヤツがいます。正直、迷惑です(笑)。

【石川県・石橋ワタルさん・建築会社勤務・27歳】

↓谷川さんいわく、それか本物のヒール! それにしても、サップってまた素敵なキャラクターですねぇ

金原弘光インタビューが最高でした! 「プロレス界の敵は俺たちが倒す!」という言葉はまさに90年代Uインター健在あふれる発言。この危うさをはらんだ「一歩前へ」の姿勢にしびれました。「柔道上がり」発言も最高です!!

【栃木県・稲葉聡さん・会社員・34歳】

↓金ちゃんvs秋山成勲、実現するといいですよねぇ～ ちなみに、金ちゃんは「あと1試合で引退」宣言をしてから、各方面から試合のオファーが止まらないそうです

UWF変態座談会は勉強になりました。最近、PRIDEを見始めた自分は、桜庭vs田村のルーツを知らなかったので、この座談会で少しわかった気がします。

【埼玉県・嶋村昌範さん・会社員・25歳】

↓非常にためになる話だったとともに、出席者全員、本当に"変態"なんだなと思いました

やっぱりアントニオ猪木インタビューです! 「ムフ!」と本当に言ってるのかは別として、常人は4つも柱ないし。とにかく最高! 7月発売号は表紙で決まりダー!! (IGFのあとだけに)。

【東京都・寺田純さん・豆腐売り・25歳】

↓どうする? どうなる!? IGF!! というわけで、IGFは本誌発売日の一日後です ヨロシク～

自分はプロレスをあまり知らない人間なのですが、今月の『kamipro』にはアントキの猪木が載っていたので買いました! 小さい頃はぜんぜん猪木に似ていなかったアントキのさんが、成長するにつれて猪木になっていったのが興味深かったです。僕も将来は猪木さんに似るといいなと思います。コツみたいなのがあったら教えてほしいくらいです。

【高知県・アゴ伊佐美さん・高校3年生・18歳】

↓確かに、アントキの猪木さんの成長の過程は非常に勉強になりますね。ただ、「猪木さんに似るといいな」という願望は正直よくわかりません!

プロレス探検隊がおもしろかった。インリン様にムチをいただく小松さんがうらやましいと本気で思いました。

【北海道・安倍正典さん・フリーター・34歳】

↓隊員募集中なので、安倍さんも申し込んでみてください

マット界最強"ヒジ列伝"はヤバいです。アウトローズの二人が選ばれているのが嬉しかった。

【広島県・寺戸和之さん・会社員・43歳】

↓ヒジかとれたけ強烈な武器であるか、思い知らされた企画でした。ヒジ・ボルテージがレベル5に達している三沢光晴は、相当な威力なのですね。奥深い

111号・おもしろかった記事ランキング

順位	記事
1位	金原弘光
2位	UWF変態座談会
3位	越中詩郎×小林邦昭×ザ・グレートカブキ
4位	アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
5位	新堂冬樹

前号で人気トップに輝いたのは、なんと秋山成勲に噛みつきまくった金原弘光! 2位は桜庭&田村の因縁を大分析したUWF変態座談会、そして『kamipro』3号連続登場となった越中をはじめ、小林邦昭、ザ・グレートカブキも登場した平成維震軍座談会が3位に。また「キリンの次は虫だ!」ということで"最強の虫"を探求する新堂冬木が5位に入りました～。"最強"って奥深い!!

新堂冬樹の虫インタビューがおもしろかった。まったく格闘技に関係ないので最初は気にしてなかったけど、読み始めたらワクワクしてしまった!

【大阪府・松本浩志さん・会社員・38歳】

↓虫王決定戦はMMA以上に命のリスクが高い闘い。"60億分の1"エメリヤーエンコ・ヒョードルは人間を食べませんけど、リオックは対戦相手を遠慮なく食べちゃいますからね

ダントツで平成維震軍復活座談会です! 維震軍のファンで応援していた僕は、昔、周りにいじめられていました。……というか、正直、浮いてました。その頃のプロレス仲間とはいまではよい友人になれました。

【大阪府・山内義久さん・自遊業・38歳】

↓昔って、プロレス界の派閥と友人関係ってかなり関係してたんですね。興味深い時代ですねぇ

僕はハッスルを応援している。青森から海を渡り、北海道へもう一度!

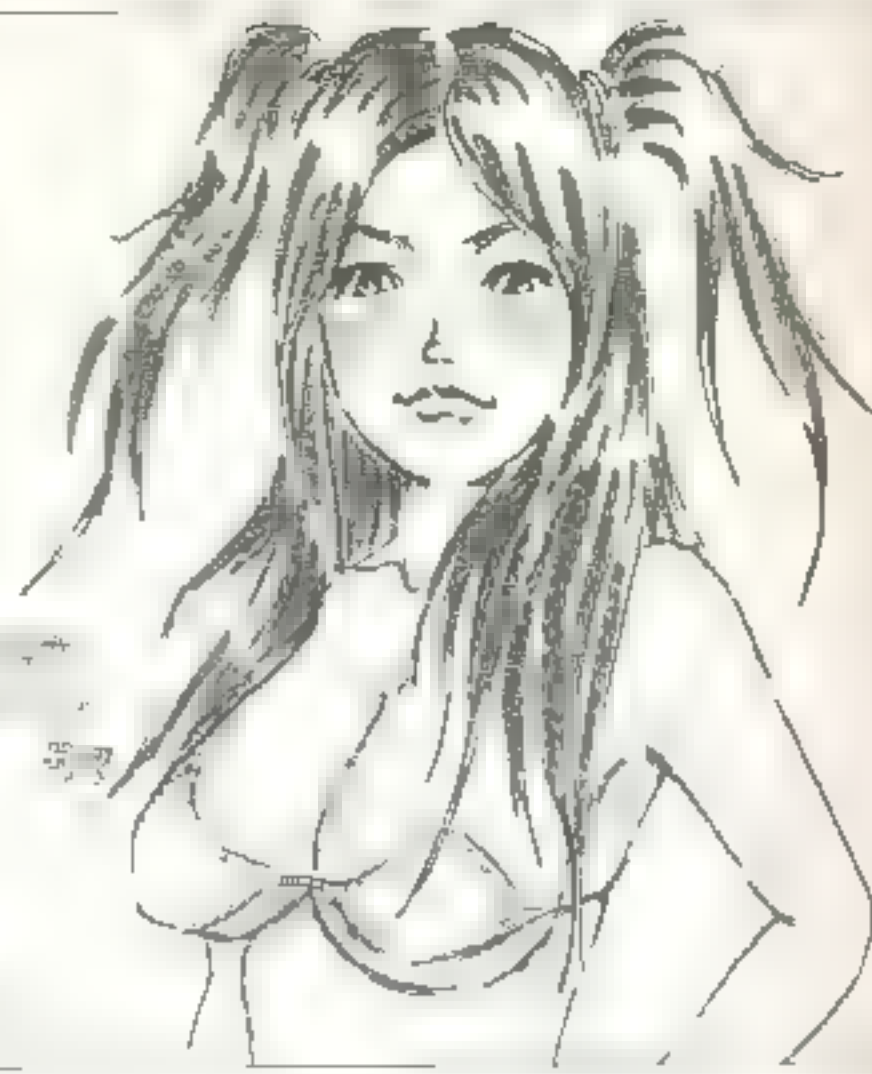
【北海道・佐藤稔さん・学校職員・40歳】

↓きっと"出版社社長"山口日昇も喜んでいることでしょ～。また「ハッスル」が津軽海峡を渡るよう、お祈りしてくださ～い

埼玉県・蘇蟹さん
↓現在kamipro Handでの毎日ブログ更新中の青木真也 なんだかこの絵はフランケンシュタインみたいですが、なんとか頑張ってほしいものです

埼玉県・蘇蟹さん
↓「5分3ラウンドじゃ足りないよぉ～ サダハルンバ調」という意見が聞こえてきそうな二人の再戦ですが、読者の皆さんはどうご覧になりましたでしょうか?

埼玉県・赫蛍さん
●ノクノュのイラストとしてお送りいただきましたが、角度によってはマサ斎藤さんに見える というか日本人みたいですね

埼玉県・稲葉咲さん
● ノンテレ・インノノ様 というより普通の秋葉系アイドルです

東京都・サカモトカスヤさん
●本誌・貝下義之もいろんな意味でブルブルしています。

スクープ! ザ・目撃!!

●先日、渋谷近辺ででっかい犬を連れて散歩をしていた村上和成さんを見かけました。リング上の形相とは違い、優しい表情で悠々と歩いていたので、「普段は優しいんだろうなあ」と思いました。
【東京都・真上さん】

●4月の ハッスル・ハウス のあと、六本木のスポーツバーでケビン・ランデルマンに会いました とても紳士的だったのでビックリ!! そして凄い身体なのに顔がちっちゃくてもっとビックリ!! めちゃくちゃカッコよかったです!
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・33歳】

●僕は代々木の会社に務めているのですが、この前、近所のampmでMARSの天野さんを見かけました 4月以降、大会も開催されず、kamipro.でも姿を見せなくなった天野さん しかし、まさかこんなに近場で見かけるとは 。ネットか何かで天野さんが不動産の仕事をしているという情報を得たことがありますが、この日はお客さんっぽい人と一緒にいたので、もしかしたら物件を案内していたのかもしれません 一見、ちょっと太ったように見えました 大会がなくてストレスがなくなったのかなあ
【東京都・下杉さん】

●ちょっと遅めの昼休みにランチを食べようと思って大久保駅あたりをウロウロしていたら、なんとあの青木真也選手を見かけました kamipro Hand では坊主姿の写真が掲載されていましたが、そのときはまだいつもの髪型でした。思ったよりもデカかったので、やっぱりファイターって体格にも恵まれてないとだめなんだなあと感じました サインしてもらえばよかった～。残念!
【神奈川県・青木珍也さん】

●6月9日のCAGE FORCEを観に行ったら、秋山成勲が会場に来ていました そろそろ試合の予感か・・・!?
【埼玉県・高木太郎さん・会社員・26歳】

衝撃ショット!!

本誌・常連投稿者のS波氏
今月は安田忠夫の娘AYAMIと橋本かずみさんをキャッチ!!

今月の衝撃ショットはS波氏が行きつけの店 わたる で橋本かずみさん 安田忠夫の娘AYAMIさんと遭遇したときの一枚 なぜ S波氏がこのタイミングで写真を送ってきたかというと ,じつは写真が編集部に届く直前に、S波氏のライバル誌である写真週刊誌 FLASH では レースクイーンのAYAMIは、じつは安田忠夫の娘だった!! という記事が踊っており そんなことは前から知ってたんだよ!!」と息巻くS波氏は、なぜか編集部に苦情の電話をかけ、さらに本誌で怒りの反撃に出たというわけだ その証拠としてS波氏は05年9月21日に自ら撮影した安田忠夫&AYAMIさんのツーショットを同封してくる念の入れよう こんなページで謎の反撃を仕掛けてるなんて、きっと FLASH の方も知らないと思いますが お役に立てれば何よりです!

上が反撃のツーショット写真 そして、代官山の和風ダイニング「わたる」でかずみさんとAYAMIさんに遭遇したときの写真が右のショットだ S波氏もノリノリである

kamipro初!メカが相談役に!! メカマミーの人生相談

今回もやってまいりました、メカ相談。……しかし! なんと、長らく続いたこのメカコーナーも、悲しいかな、最終回を迎えることになってしまいました! キーッ!!(オーバーヒート)。というわけで、残念でなりませんが、最後の相談、関係ある人もない人も、じっくり読んでくんなまし。では、メカマミー、よろしくッ!

フサフサへの道を教えてください!

お悩みごと

■育毛に関する問題
福井県・悩み無用さん、39歳、♂

はじめまして メカマミーさん! じつは僕、頭髪のことで非常に悩んでいます もう、39歳なので仕方ないかもしれないのですが 日に日に薄くなっているのを実感する毎日です 同年代のヤツを観察すると、そういう人間もいてもよさそうなのです がなぜか僕の周りにはフサフサのヤツが多いのです そういう現状がなお、僕を落ち込ませます メカマミーさんは最近「髪切りマッチ」でバッサリやられたそうなので、僕と同じく髪に関する悩みを抱えてると思います なので、ぜひフサフサへの道を一緒に歩みたいのです こんな僕に何か励ましの言葉をかけてもらえないでしょうか?

メカマミー

残念ながら、kamipro読者のくだらない相談に乗ってあげられるのもこれで最後になりそうだ メカ的視点から言わせてもらえば、どんな問題も結局は、メカになれ、ということだ それさえ肝に命じていれば、人間の悩みは解消される 今回はそのことだけを伝えようと思ってここに登場したのだが なに～!? 最後の最後にそれでは解決できない質問がやってきたな ノ、おまえらもようやく成長の片鱗を見せたということか 頭髪の悩みとは非常にいいセンスをしている しかも、それはメカ的に最も語りたかったことだといっても過言ではない。「髪」そして「フサフサ」といえば、やはりアデランスでおなじみのアッキーナこと南明奈だ メカマミーも髪切りマッチで負けて以来、メカ頭皮にメカ髪が生えなくて困っていた。しかし、そんなときにアッキーナが登場しているCMを見て、メカは一目ボレをした。そしてアデランスを試してみたのだが、これが驚くほど効果テキメン! メカにもアデランスが効くとは さすがア キ ナ というわけで、やはり髪のお悩みはアデランスが一番だ マネージャーと逃避行 だとか、「所属事務所を解雇 だとか、そんなことはメカには関係ない いま、メカマミーの一押しは誰がなんと言おうとアッキーナで決まりなんです!!」

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください! ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこうです お便りお待ちしています

こんな情報お待ちしています!

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
「adical@kamipro.com」
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「あじさい」係まで。
携帯サイト「kamipro Hand」からの投稿もできます。

マット界の日程、そして情報をツープラトンで一網打尽!!

kamipro よろず情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

6 June

3 TUE.

◆NOAH/千葉・ポートアリーナ(18:30)
◆ZERO1・MAX/大分・大分イベントホール(18:30)

4 WED.

◆ユニオン/東京・新木場1st RING(19:30)

5 THU.

◆みちのく/福島・南相馬市サンライフ原町(18:30)
◆ミスター雁之助自主興行/東京・新木場1st RING(19:30)

6 FRI.

◆新日本/東京・後楽園ホール(18:30)
◆NOAH/大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:00)
◆みちのく/岩手・釜石市民体育館(18:30)
◆NOSAWA BOM-BA-YE/東京・新木場1st RING(19:00)

7 SAT.

**ノゲイラがついにオクタゴンへ!!
ヒース・ヒーリングと3度目の対決!**

「UFC73」
米国・カリフォルニア州、サクラメント・アルコアリーナ

決定対戦カード
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs ヒース・ヒーリング
【UFCミドル級タイトルマッチ】
アンデウソン・シウバ vs ネイサン・マーコート　ほか

◆NOAH/京都・KBSホール(18:00)
◆ZERO1・MAX/千葉・東金アリーナ(18:00)
◆みちのく/青森・八戸シーガルビューホテル(18:30)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆MAKEHEN/東京・新木場1st RING(19:00)

8 SUN.

◆新日本/岐阜・岐阜産業会館(16:00)
◆NOAH/三重・四日市オーストラリア記念館(17:00)

27 WED.

◆全日本/山形・米沢市営体育館(18:30)
◆T-1/東京・新宿FACE(19:39)

28 THU.

**魔裟斗が「HERO'S」王者と対決!!
サワー、ブアカーオら強豪がズラリ!**

「K-1 WORLD MAX2007～世界一決定トーナメント開幕戦～」
東京・日本武道館(18:00)

決定対戦カード
魔裟斗 vs J.Z.カルバン
ブアカーオ・ポー.プラムック vs ニッキー・ホルツケン
アンディ・サワー vs オーレ・ローセン
アンディ・オロゴン vs TATSUJI　ほか
チケット情報
SRS=23000円、SS=14000円、
魔裟斗応援シート=14000円、S=10000円、A=6000円
問=FEG 03-3796-5060

◆全日本/新潟・酒田市営体育館(18:30)
◆IWAジャパン/茨城・鹿嶋市立カシマスポーツセンター(18:00)

29 FRI.

**レスナーは本当に現われるのか?
オーちゃん、ジョシュらもIGF旗揚げ戦に出場!**

「IGF 闘今BOM-BA-YE」
東京・両国国技館(18:30)

決定対戦カード
【IWGP 3rdベルトマッチ】
ブロック・レスナー vs カート・アングル
出場予定選手
ジョシュ・バーネット、小川直也　ほか
チケット情報
砂かぶり席=売り切れ、
特別リングサイド=売り切れ、
リングサイド=7000円、1階指定席=5000円、
2階特別席=6000円、2階指定席=3000円
問=IGF 03-5159-3380

◆全日本/新潟・新潟市体育館(18:30)

30 SAT.

◆NOAH/茨城・つくばカピオ(18:00)
◆ZERO1・MAX/鹿児島・キッチンMy-Sta(18:00)
◆無我ワールド/山形・米沢市営体育館(18:00)
◆みちのく/秋田・能代市民体育館(18:30)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆K-DOJO/千葉・BlueField(17:30&19:00)
◆WMF/東京・新木場1st RING(19:00)
◆修斗/東京・北沢タウンホール(18:00)
◆NKB/東京・後楽園ホール(17:30)
◆NEO/東京・板橋グリーンホール(18:00)

7

1 SUN.

◆LOCK UP/埼玉・狭山市焼肉レストラン大阪屋駐車場(13:00)
◆全日本/神奈川・横浜文化体育館(16:00)
◆NOAH/東京・ディファ有明(17:00)
◆DRAGON GATE/兵庫・神戸ワールド記念ホール(15:00)
◆DRAGON GATE/兵庫・ドラゴンゲートアリーナ(22:30)
◆無我ワールド/新潟・新潟フェイス(17:00)
◆DDT/東京・後楽園ホール(12:00)
◆みちのく/青森・青森市問屋町ビックサイト(15:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆NJKF/東京・後楽園ホール(17:00)
◆トライアルリーグ/東京・ゴールドジムサウス東京アネックス(14:00)
◆J-GIRLS/東京・新宿FACE(17:30)
◆伊藤道場/東京・新木場1st RING(12:00)

2 MON.

◆NOAH/群馬・伊勢崎市第2市民体育館(18:30)
◆みちのく/岩手・奥州市水沢体育館(18:30)

23 MON.

美濃輪(ミノワマン)デビュー10周年大会!
日本対韓国、9対9の対抗戦も開催!!

「CMAフェスティバル」
東京・後楽園ホール(18:30)

チケット情報
VIP席=15,000円、SRS席=10,000円、
A席=8,000円、B席=6,000円、C席=5,000円

24 TUE.
◆ZERO1・MAX/山形・山形市総合スポーツセンター(18:30)

25 WED.
◆全日本/岩手・宮古シーアリーナ(18:30)
◆DDT/東京・新木場1st RING(19:30)

26 THU.
◆DEEP GROVE/東京・後楽園ホール(18:30)

27 FRI.
◆全日本/福島・ビッグパレットふくしま(18:30)
◆ZERO1・MAX/広島・広島産業会館(18:30)
◆パンクラス/東京・後楽園ホール(19:00)
◆プロレスサミット/大阪・デルフィンアリーナ(19:00)
◆ボードッグ/カナダ・ブリティッシュコロンビア州バンクーバー

28 SAT.
◆ZERO1・MAX/大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:00)
◆DRAGON GATE/鳥取・鳥取産業体育館(18:30)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆K-DOJO/千葉・BlueField(17:30&19:00)
◆シュートボクシング/東京・後楽園ホール(18:00)

29 SUN.
◆K-1/香港・アジアワールドエキスポアリーナ
◆LOCK UP/東京・後楽園ホール(12:30)
◆全日本/石川・石川県産業展示館3号館(17:00)
◆ZERO1・MAX/和歌山・青岸渡寺三重塔前特設リング(15:00)
◆DRAGON GATE/福井・ウェルサンピア敦賀(17:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆アパッチ/東京・新木場1st RING(18:00)
◆ターザン後藤一派/東京・浅草インディーズアリーナ(17:00)
◆RIKI OFFICE/大阪・はびきのコロセアム(12:30&15:00)
◆全日本キック/東京・後楽園ホール(18:30)
◆NJKF/東京・ディファ有明(17:00予定)
◆NEO/長野・リージョンプラザ上田創造館(17:00)

30 MON.
◆大日本/東京・後楽園ホール(19:00)

31 TUE.
◆ZERO1・MAX/愛知・名古屋国際会議場(18:30)

15 SUN.
◆新日本/新潟・新潟市体育館(16:00)
◆全日本/東京・後楽園ホール(12:00)
◆NOAH/東京・日本武道館(17:00)
◆DRAGON GATE/福岡・博多スターレーン(16:00)
◆DDT/愛知・名古屋中スポーツセンター(14:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆K-DOJO/愛知・ワンダーシティイベントホール(18:00)
◆アパッチ/東京・新木場1st RING(18:00)
◆修斗/東京・後楽園ホール(17:30)
◆イーグル/栃木・小山市文化センター(13:00)

16 MON.
◆HERO'S/神奈川・横浜アリーナ(16:00)
◆全日本/新潟・サンビレッジしばた(18:30)
◆ROH/東京・ディファ有明(16:00)
◆ZERO1・MAX/東京・後楽園ホール(18:30)
◆DRAGON GATE/香川・高松シンボルタワー(18:00)
◆大日本/埼玉・桂スタジオ(15:00)
◆DDT/静岡・清水マリンビル(14:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆フーテンプロ/東京・北沢タウンホール(17:00)
◆東海プロ/愛知・日本ガイシスポーツプラザ第3競技場(17:30)
◆バトスカフェ/岩手・千厩維新館(13:00)
◆NEO/東京・後楽園ホール(12:00)
◆格闘美/東京・新木場1st RING(17:30)

17 TUE.
◆ZERO1・MAX/福島・福島市体育館(18:30)
◆ROH/大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:30)

18 WED.
◆DRAGON GATE/神奈川・横浜赤レンガ倉庫1号館(18:30)

19 THU.
◆全日本/北海道・旭川地場産業センター(18:30)
◆DRAGON GATE/東京・後楽園ホール(18:30)

20 FRI.
◆LOCK UP/栃木・栃木県総合文化センターサブホール(18:30)
◆アパッチ/東京・後楽園ホール(19:00)
◆修斗/東京・東京キネマ倶楽部(18:30)

21 SAT.
◆全日本/北海道・テイセンホール(18:00)
◆DRAGON GATE/岐阜・岐阜商工会議所(18:30)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆バトラーツ/埼玉・桂スタジオ(18:30)
◆WMF/東京・新木場1st RING(19:00)
◆CHAOS-MADMAX/東京・ディファ有明(18:00)

22 SUN.
◆全日本/北海道・テイセンホール(18:00)
◆ZERO1・MAX/青森・問屋町ビッグサイト(15:00)
◆DRAGON GATE/兵庫・神戸サンボーホール(17:00)
◆El Dorado/福岡・博多スターレーン(17:00)
◆ウルティモドラゴン自主興行/東京・後楽園ホール(12:00)
◆大日本/福岡・博多スターレーン(13:00)
◆K-DOJO/千葉・BlueField(13:30&15:00)
◆IWAジャパン/東京・新宿FACE(18:30)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆ターザン後藤一派/東京・浅草インディーズアリーナ(18:00)
◆R.I.S.E./東京・ゴールドジムサウス東京アネックス(17:30)
◆新日本キック/東京・後楽園ホール(17:00)
◆NKB/東京・ディファ有明(16:00)
◆JWP/東京・板橋グリーンホール(19:00)
◆NEO/東京・板橋グリーンホール(15:00)
◆仙台女子/宮城・仙台サンプラザ(17:00)

◆みちのく/宮城・杜のホスピタルあおば(14:00)
◆大日本/神奈川・横浜文化体育館(17:00)
◆El Dorado/東京・新木場1st RING(18:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆K-DOJO/千葉・Blue Field(15:00)
◆グレートプロ/埼玉・バトラーツジム(14:00)
◆びっくりプロ/大阪・アゼリア大正(17:00)
◆DEEP/大阪・Zepp Osaka(15:30)
◆新日本キック/東京・ディファ有明(16:00)
◆MAキック/愛媛・アイテムえひめ(14:30)
◆JWP/東京・東京キネマ倶楽部(13:00&17:00)
◆NEO/福島・サンシャイン浪江(15:00)
◆OZアカデミー/滋賀・長浜市民体育館(16:00)

9 MON.
◆新日本/岐阜・マウントエース(18:30)
◆DDT/東京・新木場1st RING(19:30)

10 TUE.
◆新日本/岐阜・高岡テクノドーム(18:30)
◆NOAH/新潟・ハイフ長岡(18:30)
◆DRAGON GATE/東京・後楽園ホール(18:30)

11 WED.
◆ハッスル/東京・後楽園ホール(19:00)
◆NOAH/秋田・秋田市立体育館(18:30)
◆DRAGON GATE NEX/東京・新木場1st RING(19:30)

12 THU.
◆新日本/宮城・Zepp Sendai(19:00)
◆NOAH/岩手・岩手県営体育館(18:30)
◆ソウルコネクション/東京・新宿FACE(19:00)
◆SUN/東京・新木場1st RING(19:30)

13 FRI.
◆新日本/宮城・Zepp Sendai(19:00)
◆NOAH/宮城・気仙沼市総合体育館(18:30)
◆大日本/横浜・横浜にぎわい座(19:00)
◆UWAI STATION/大阪・松下IMPホール(18:30)
◆666/東京・新木場1st RING(24:30)

14 SAT.

ボードッグ、ついにアメリカ大会開催!
近藤、高橋らパンクラス勢が参戦!!

ボードック
米国・ニュージャージー州、トレントン・ソフリンバンクアリーナ

決定対戦カード
近藤有己 vs トレバー・プラングリー
高橋義生 vs ジョシュ・"バッファローヘッド"・カラン ほか

◆ハッスル/静岡・アクトシティ浜松(18:00)
◆DDT/岡山・水島サロン(18:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆RIKI OFFICE/大阪・J2K道場(18:00)
◆OZアカデミー/東京・新宿FACE(18:30)

高田道場主催「みんな集まれや〜!」ダイヤモンド・キッズ・カレッジ開催!!

キッズたち集まれや〜! 高田延彦&向井亜紀夫妻か子どもたちにレスリンクとボクシング、格闘技の醍醐味を教えて大好評の高田道場主催のダイヤモンド・キッズ・カレッジが開催! 参加対象は4歳から小学6年生の男女! 5回目となる今回は、7月29日に青山学院大学の青山キャンパスにて。今回も参加費は無料、見学自由だから、お子さんのいるアナタはぜひ参加しよう!

★開催日／7月29日（日） ★会場／青山学院大学・青山キャンパス
★問／高田道場 03-5749-5030

無料体験も可能! グラバカジム&柔術クラブ会員募集中!

菊田早苗率いる"グラバカジム"かジム会員を大募集中!! 打撃、寝技、総合格闘技主体のグラバカジム（東中野）と、柔術、柔道、フィットネスが中心のグラバカ柔術クラブ（大久保）と選べる2タイプ。入会金は男性が12,000円、女性6,000円。月謝は男性10,500円、女性7,500円となっており、初心者には嬉しいビギナークラスも充実! どちらも無料体験が可能とのこと、この機会を逃すな!

★問／グラバカジム（東中野） 03-5368-3092
★問／グラバカ柔術クラブ（大久保） 03-5292-2494

あの「ぼく」シリーズ第3弾が登場! 桜庭和志、すべてを語る自叙伝『ぼく…。』発売!

桜庭和志の自叙伝シリーズ「ぼく。」「帰ってきたぼく。」に続く、第3弾「ぼく…。」がついに発売決定! 約3年ぶりの刊行となる今回は、02年の「Dynamite!」国立競技場大会の対ミルコ戦からスタート! 高田延彦引退興行、フジマール会長との運命的出会い、高田道場との決別から「HERO'S」参戦、そして07年大晦日の"あの一戦"と先日の「Dynamite!! USA」のホイス戦の裏話まで、桜庭か完全独白する!!

★ ぼく…。 桜庭和志著（東邦出版） 1,500円（税込） 6月23日発売

アントンが人生訓を語る新刊本『元気があれば何でもできる!』発売中!

元気が一番! とIGF旗揚げで、何かとお騒がせ中のアントン総帥が、「笑いながら歩こうぜ!」とばかりに独自の"生き方"を説く新刊本か発売中ターッ! 将来の不安や不景気をなげく現代の日本人に向けて、苦難のブラジル時代から、イノキアイランドのあるパラオの話、そして今後のビジョンまで、破天荒な人生訓が冴えわたる!

★ 元気かあれは何でもできる! アントニオ猪木著（ロングセラーズ） 1,470円（税込） 発売中

王拳聖の新作映画アルヨ! 『カンフー無敵』の日本配給が決定!

ZERO1・MAXで猛威を奮った"酔拳の使い手"王さんこと、王拳聖がまたまた編集部に来社! 王さんか出演した香港のカンフー映画「カンフー無敵」の日本公開がついに決定したアルヨ! と報告してくれた この映画は人気アクションスター、ヴァネス・ウー主演のワイヤーなし、スタントなしの体当たりアクションムービー。王さん（写真右）も重要な役どころで出演している。公開は今秋、シアターイメージフォーラムにて。王さんの活躍をスクリーンで見届けよう!

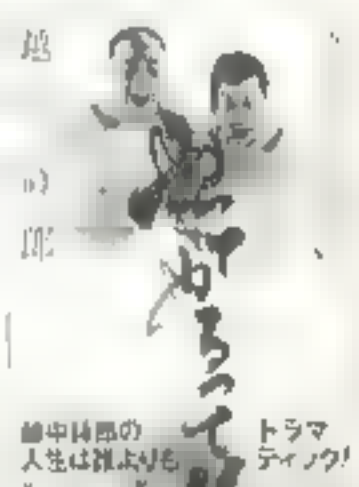
越中詩郎&ケンコバ共著! 『やってやるって!!』がいよいよ発売だって!!

まだまだ続く越中ブームの中、プロレス本にも「熱い風吹かせてやるって!」とばかりに、いよいよ越中&ケンドーコバヤシの共著が発売決定!! タイトルは、ズバリ「やってやるって!!」。二人がガッチリ強力タッグで「越中詩郎とは何か?」に迫りまくる本の詳しい内容はまだ明かされていないが、誰もがビビってたじろぐ夢の対談まで収録されているとのこと。発売まで首を長くして待ってろって!

★ やってやるって!! 越中詩郎、ケンドーコバヤシ共著（扶桑社） 1,300円（税込） 7月1日発売

kamipro バックナンバーも豊富! 紀伊國屋書店で今年も格闘技フェア実施!!

初夏こそ格闘技! 紀伊國屋書店の東京・新宿南店では、「格闘技／武道フェア 極める2007」を7月16日まで絶賛展開中!（写真は昨年度の様子）。格闘技コーナー常設の2Fと3Fのスペースも使用したこの大規模なフェアは、格闘技、プロレス、武道関連のDVDや書籍はもちろん、「kamipro」のバックナンバーも陳列! Tシャツまで取り揃えた充実の品揃え。とにかく一度、来店するベシ!

★問／紀伊國屋書店新宿南店 03-5361-3301

本誌でおなじみ"刺青カメラマン"菊池茂夫がタトゥー写真集を発売!!

「ういっす〜!」と本誌でも活躍中の"刺青写真家"菊池茂夫が、なんとミュージシャン43人のTATTOO&ライブ写真を撮りおろした入魂の写真集「ROCKER'S TATTOO」を発売! LAUGHIN NOSE、マキシマム・ザ・ホルモン、RISEといった有名ロックバンドのメンバーから、NOFXらの海外勢まで、ズラリと並んだ刺青ワールドは圧巻だ!

★ ROCKER'S TATTOO 写真・菊池茂夫（ミリオン出版） 1,680円（税込） 6月22日発売

第20回

TBSはストレスたまる

花くまゆうさく リングの汁

ロマティ（ワフー・マクダニエルファン）がハッスル 参戦と聞いて、シピンたったらなぁと思う今日この頃。最近観た大会は、田村彰敏が世界ライト級チャンプになった、5月18日のプロ修斗。

なんのバックアップもない、叩き上げの選手が、長い年月をかけて世界チャンプになる姿は気持ちがいい。ひさびさにいいエンディング。でもセミで、日沖発が負けてつまずいてしまったのが残念。1Rは寝技圧倒していたのになぁ。

あとは、『Dynamite!! USA』をテレビで観た。あいかわらず所選手の下からの十字は鋭い。ボールのように丸い寝技ムーノは、観てて楽しい 永田選手もあいかわらずで、上になってコツコツパンチスタイル。こちらは観ててつらい。総合がこのスタイルだけになったら、もう観なくなるんだろうな。

見事に極めたユン・トンシクよかったね 目腫らしてホロホロな勝利姿は、ロッキー」のようだった。それにしても、大量動員された韓国人の皆さんは、やっぱりサクラなのかな

ついにマルセロ・ガッシア総合初進出だが、『HERO'S』なのが、いろいろ心配。階級が、どちらもハンパなのでどうするんだろう。それにTBSのあの中に、ガッシアが入って汚されていくのは、なんか嫌だなぁ。でもグラップリングで桜庭戦は観たい。いつもバック取られても余裕の桜庭選手に、ガッシアがバックについたらどうなるのか？ 打撃のない世界で、寝技マジ強の人と出会った桜庭和志がどうなってしまうのかが観たい。『HERO'S』に来てから、マイナスなことばかりの桜庭選手にガッシアとの出会いは、何かプラスな光を与えると思うのたか

『ZST13』が、なかなかいい大会でした。いきり立って向かってくる階級上の後輩らに、必死で立ち向かう奥出雅之（あんなに必死な姿は、初めて観たような気かする） 若い世代を見事に返り討ちした大石真丈&小谷直之 植松直哉を秒殺してしまった衝撃のフーベンス・シャーレス。そして、いつもとおり2時間ぐらいで終わる大会進行がいいです（これとても重要）。

それにしても『PRIDE』はどうなるのかしら？ 青木vs五味は、やっぱ幻で終わるのか？

のんきなキューピー

Hanakuma Yusaku
メカアフロくん 新刊、モンキ ヒノネ人編発売中

リング上からプライベートまで！
"なんでもあり"の質問コーナー

第5回
所英男のトコロ天国

本コーナーは、読者か抱くさまざまなお悩み、質問に、所選手かすべて答えてくれるという天国のようなコーナーです(こしつけ)

突然ですが、所さん！ あの前田日明さんに、なんと男の子が誕生しましたね!!

所 あ、武虜(たけちか)くんですよね！ アメリカに行ったとき、前田さんにテジカメを見せていただいたんですよ

おっ！ さっそくご覧になったんですか

所 前田さんに似てる似てないはまたわからないんですけど、とにかくおっきいなって(笑)

情報によると3880グラムらしいですからね(笑)。普通は3000グラムあたりが平均値っていわれてますけど

所 でも、ホントにかわいいみたいですよ。産まれたばっかりのときに前田さんに電話したら、ありがと！ ありがと！ とか言われてて

かなりご機嫌じゃないですか

所 前までは、"妊娠オヤジ固め"なんかにかかるなよ」とか言われてたんですけど、いまは「早く子ども作れ！」って

"妊娠オヤジ固め"って(笑) ちなみに所さん、お子さんは得意なほうですか？

所 僕は……、かわいいなあって思うんですけど、正直、接し方がわからないですねえ 姪っ子も全然なついてくれないですし

ワハハハハ！ それはいい話ですねえ そんな所さんにはちょっと難関かと思いますか、今日は子どもにまつわる相談を集めてみました〜

徳島県・小島翼さん・10歳・小学生

僕は小学校5年生の小島[illegible]といいます。僕も所さんみたいに格闘技をやってみたいと思っています。でもお母さんは、小さい頃から筋肉をつけすぎるとダメだからやめときなさいと言います。なので[illegible]しないのです。小学校から格闘技をやるのはよくないことなんですかね？

所 「筋肉をつけたらダメ」っていうのが、また微妙ですねえ(笑)

背が伸びにくくなるとか、そういうことを懸念しているんでしょうか

所 それか……まあ、お母さんの個人的な趣味なのか

どんな趣味なんですか(笑)。所さん自身は小さい頃から格闘技をやってもいいと思いますか？

所 う〜ん、格闘技はケガも多いですしねえ

あら。じゃあ、あんまりオススメじゃないんですかねえ

所 やっぱり、ちっちゃい頃は僕みたいに野球やったほうがいいと思いますね〜

なんでいきなり野球の道を勧めちゃうんですか(笑) ちなみに、所さんが格闘技を始めたのは……

所 僕は21歳のときです

そのくらいに始めてちょうどよかったなって？

所 いやー、もっと早くやっとけばよかったなって思ってますよ!!

どっちなんですか、いったい(笑) なんだか、某老舗団体元社長の"コンニャク発言"みたいになってますよ

所 (無視して)やっぱり競技人口も増えるんで、格闘技界全体から考えてもぜひ始めてほしいですね〜

う〜ん、非常に強引なGOサインですが、とにかく翼さんは、お母さんを説得してみましょう〜

佐賀県・江頭さん・35歳・土木関係

[illegible]

全裸という開放感を覚えてしまった少年は、再び服を着てくれるのか!? どうする、所!

所 凄い子がいますねえ(あきれ顔で) 僕、スーパーでフルチンの子なんて、見たことないですよ〜

ワハハハハ！ しょっちゅう見てたら大問題です!!(笑)

所 でも、子どもの頃からやっちゃうってことはよっぽどですね。もう、大人になってもこの子は絶対にやりますよ！(キッパリ)

断言しちゃいますか(笑)。じゃあ、所さん的には、このお父さんはあきらめるしかないってことですね？

所 まあ、幼稚園とかで好きな娘とかできたら変わるのかもしれないですけどねえ…… でも、この子って凄く頭のいい子なんですよね？

お父さんいわく、そうみたいですね

所 じゃあ、ある意味それを得意分野っていうか、ウリにしたほうがいいんじゃないですか？

ウリ、というと？

所 僕、専門分野じゃないんでよくわからないですけど、芸能界とかでも井手らっきょさんとかいるじゃないですか

つまり、"全裸のプロ"になれってことですか!?(笑)

所 僕もいつかテレビを観たときに、「あっ！ あのとき相談してきた子かぁ」と思ったら凄く嬉しいですしね。だから、僕はこの子の将来に期待しますよ〜

というわけで、所さんとしては、お子さまの成長をそのまま見守ってほしいということみたいです！(笑)

東京都・タやけ子やけさん・31歳・プログラマー

この前、会社を抜け出して[illegible]へデート[illegible]していたところ、さ[illegible]8名の幼稚園児に[illegible]されてしまいました。彼らは僕が持っていたケータイに[illegible]取り上げられて、めちゃめちゃにされ、そしてよく見ると、なんと[illegible]くない昔の彼女への発信履歴が残っていたんです！ 僕は震え上がってしまい[illegible]怒りを抑えたのですが、見知らぬ子を叱るわけにもいかず、結局そのまま会社へ。もし所さんが僕の立場だったら、こんな子どものイタズラに対してどんなお仕置きをしてやりますか？

発信履歴が残っていたということは、当然向こうには着信履歴が……しかし、そんな傷心の投稿者に所の力が[illegible]さる!

所 あー、僕も一回、姪っ子にケータイを渡したときにカメラの連写でいたずらされそうになったことがありますよ

所さんになつかない姪っ子さんに？

所 そのときは、もう、パッと取り上げましたけどね(冷たく)

ワハハハハ！ いまの発言で、所さんがなつかれない理由がなんとなくわかったような気がします(笑)

所 だから、この人も普通に「やめなさい！」って言ったらいいんじゃないですかね。子どもでもその場の空気くらい読んでくれますよ

しかし、この方の場合だとすでに昔の彼女への発信履歴が残ってたってことなんですよねえ

所 あ〜 でもそれは自分が悪いですよ

ケータイを渡しちゃった自分が悪いってことですか？

所 それもありますけど、とりあえず昔の彼女の連絡先は残しとかないでしょ

あ、もしかして、所さんはすぐ消しちゃうタイプなんですか!?

所 消しますね(キッパリ)。それに、この人も「決して連絡を取りたくない昔の彼女」なんですよね。だったら、消しておけばよかったんですよ〜

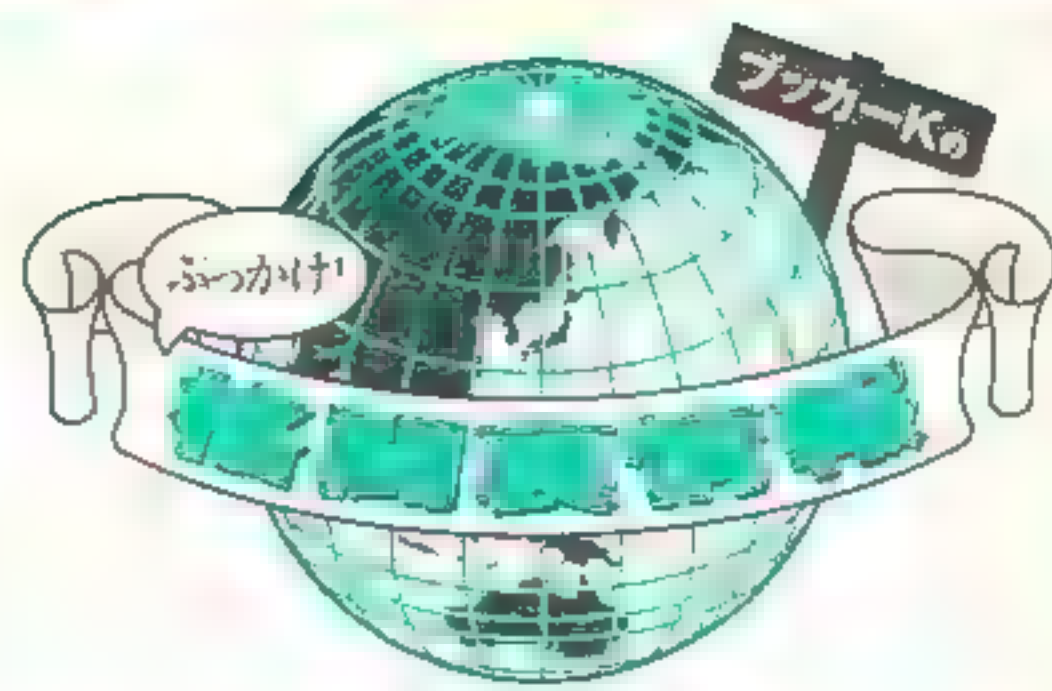
なるほど、なるほど。しかし、いつになく力強い発言ですね〜

所 僕もいろんなことを経験しましたからねえ……(しみじみ)

ワハハハハ〜 "経験豊富な"所さんのアドバイス、ぜひ参考にしてくださ〜い

Hideo Tokoro◎ところ・ひでお【所英男オフィシャルブログ】http://blog.livedoor.jp/zst_tokoro/ 【ZSTのHP】http://www.zst.jp/

COLUMN!

Booker K　本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー

第15回

私だけが知っているDynamite!! USAの裏側

4月8日の『PRIDE・34』以来、表立った動きが見られない『PRIDE』。新しい運営組織となるPRIDE FC WORLDWIDEの今後の進展を待っているところですが、UFCを運営するZuffa社とは日本人並びに外国人選手のブッキング等は随時、話しているところです。やはり裏方という仕事は、選手の発掘と売り込み等、日頃から常にやっていかなければならないし、契約選手とのコミュニケーションは大事なことです

たとえば、先日ロサンゼルスで行なわれた『Dynamite!! USA』。私は所用で日本にいましたが、同大会に出場した桜庭和志選手は以前から「シュートボクセのフジマール会長をセコンドにつけてほしいなあ」という話をしてました

桜庭選手は2年前の8月にクリチーバのシュートボクセに練習へ行き、その後も何度か同ジムを訪れております。今回も直前まで合宿をしていたのは周知のとおりフジマールの存在は桜庭選手にとって大きいのでしょう。私はさっそくブラジルのフジマールに連絡。フジマール本人もセコンドとして行くつもりでいましたが、しかし桜庭選手はアスレチック・コミッションのメディカルチェックでひっかかってしまい、出場が危ぶまれていました

フジマールのほうは、桜庭選手の試合出場が正式に決まればすぐにでもブラジルを発つ準備が整っていました。桜庭選手もフジマールが宿泊するホテルの手配も済んでおります　しかし、なかなかアスレチックコミッションの判断が下りません。たとえ出場がOKになっても、もうフジマールは大会に間に合わないのでは……

ようやく桜庭選手の出場が決定したとの連絡を受けた私は、すぐさまブラジルに連絡。しかし、電話に出たのはフジマールの奥さん。フジマールは家に不在とのこと早く伝えたいのに……、と思ったら！

「ああ、ジムの生徒がインターネットでサクの出場が決まったと知って、そのまま空港に向かったわよ　いま頃は雲の上」

なんという機転でしょう！　こうしてフジマールは桜庭選手のセコンドにつくことができました。しかし、その出場のニュースが誤報だったらと思うと、いやはやゾッとします

最近もヴァンダレイ・シウバがUFCへビー級王者のランディ・クゥートアーのジムであたかも合同練習をしているととられるような報道されていますが、実際は大きく異なります。ヴァンダレイはスポンサー（クゥートアーらも、スポンサードしている会社）の要請のもと、そのフロリダにあるジムでセミナーを開催しただけ。ここでは明かせませんが私が関係している選手のことで「どうして？」と首をひねりたくなるデマがさも当然のように報道されています

いまやMMAは世界中から注目されるジャンルになりましたが、それに伴なって適当なニュースも配信されるようになりました　冷静さを持ってよく考えれば間違いたとわかるニュースも多い。ダナ・ホワイト氏の「ネットを見るな！」は極論ですが、いざ私のビジネスに障害になって降りかかると、思わず賛同しかねません　だから私は外人選手たちには「ネットを見るな！」と言ってます（笑）

第14回「6.29 IGFやれんのか!」の巻

Hiromitsu Kanehara
本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

やぁ、『kamipro』前号のインタビュで、「引退前に秋山と闘いたい」ってこと話したら、凄い反響なんだよね　会う人ごとに「秋山戦、観たいです」「秋山をこらしめてください」とか言われるし、ファンからのメールもたくさんもらったんだよ。そのわりにはFEGからの連絡は全然ないんだけど（笑）、この〝民の声〟が届いて、やればいいけどね

というわけて、秋山成勲戦は進展ないんだけど、ひょんなことから6・29のIGFに出ることになったんだよ（笑）

なぜそうなったかというと、このあいだ、後楽園ホールに新日本キックの試合を観に行った帰りに、たまたま知人に会ったんだよね　その人が「明日、電話してきてよ」って言うんで、翌日連絡したのよ。そしたら突然「今日、アントニオ猪木さんと会うから来て」って言われて、急遽、猪木さんと会うことになっちゃったんだよね

それで猪木さんに会ったら、マネージャーやってる人が「6月29日は空いてますよね？」って言うから、「一応、空いてますけど……」って答えたら、知人が「金原をよろしくお願いします」とか言って、いつの間にか俺が出ることになってるんだよ（笑）。それでなぜか1週間に3度も猪木さんに会うことになっちゃってさ。「俺はいまさらプロレス界に関わりたくなかったけど、プロレスをもう一度盛り上げるには、IGFはどうしても必要なイベントなんだ。そのために力を貸してくれ」って猪木さんに言われて、そこで「NO！」と言えるプロレスラーはいないでしょう（笑）

俺も最初は「あと1試合で引退を発表してるんで、ちょっと難しいです」って、やんわりと断ってたんだけどさ、「そんな小さいことでカタガタ言うな」って言われちゃって。俺は一大決心で引退発表したんだけど、とうやら小さいことだったみたいなんだよね（笑）

そういうこともあって、やっぱり俺もUWFインターでスタートした人間だからさ、引退前にプロレス界への恩返しとして、俺が少しでもお役に立てるのなら、やってもいいのかな、と思ってね。でも、俺は普通のプロレスの試合って、新日本とUインターの対抗戦のときぐらいしかやったことないから不安だったんだけど、高山（善廣）くんと組んでジョシュと闘えるって聞いてるからさ。そのマッチメイクなら、思う存分、UWFスタイルで闘えるからね

こうしてIGF参戦が決まったんだけど、やっぱり前田（日明）さんに報告しとかないといけないなと思って、「猪木さんのイベントに出ることになりました」って電話したんだよね。そしたら「おう、そうか。良かったやんけ。でもな、猪木さんには気をつけろよ」って、さんざん猪木さんの大会に出る際の注意事項を熱くアドバイスしてくれたよ（笑）

それで猪木さんは猪木さんでさ、「アキラにいまさら何ができるっていうんだい！」とか言ってたからね　もう、俺は板挟みでつらかったよ（笑）

まぁ、IGFは俺にとってひさしぶりのプロレスの試合なんで、一生懸命頑張るよただ、これに出るからといって、引退を撤回したわけじゃないから。今年中にバンクラスで引退するっていうことには変わりないからね

でも、引退発表してから！　IGF以外にも、けっこうオファーが来てるんだよ。去年まではなかなか仕事がなくて困ってたんだけど、引退発表したらオファーが増えちゃってさ、おかしなもんだよね　だから、この際もうなんでもやってやろうと思って。現役生活に未練を残さないよう、完全燃焼できるように、1試合1試合、めいっぱい闘うよ！

せき詩郎のサムライ三昧

シロー

第15回

GBH15変化

とある楽屋でRG君に会った

「明日、天龍さんと闘うんですよ」

私の煙草の煙の向こうで、RG君はそう呟いた

彼が勝ったら試合の模様を書こうと思った　なぜかはわからなかった　さっきまで海老蔵のモノマネをしていた彼とのギャップなのか、それとも梅雨前の蒸し暑さのせいなのか。とにかく私は書こうと思った

天龍といえば誰もがその名を知っている大レスラーだ　私たちの世代は天龍の勝負を見て育ってきた　ファンであろうがなかろうが、天龍が闘う姿を見ずに避けることは不可能だった

だが、さすがの天龍といえどももう高齢だ　メンタルは昔のままであってもさすがにフィジカルの衰えは隠せない。一方のRG君はどちらも充実した年齢である。負けるわけがないと思った。きっと彼の勝利を書くことになるだろうと私は予感した

しかし、結果は天龍の勝ちだった

負けは負けで試合について書けないことはなかったのだが、肝心の試合を寝過ごして観ることすらできなかった

書くことがなくなった　時間だけがなくなっていった

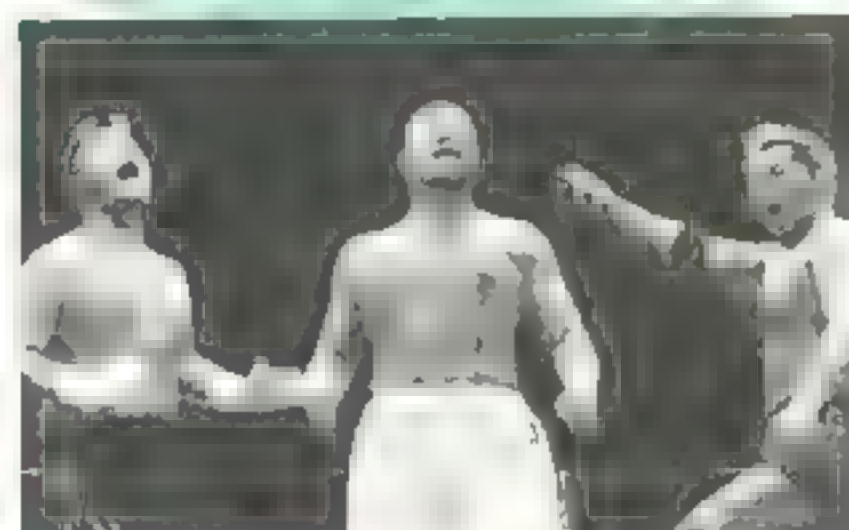
仕方ないのでGBHの写真にキャプションをつけることにした。荒々しい彼らがキャプションひとつで意外な表情を垣間見せる

様々な彼らを楽しんでもらいたい

今年も各地で大荒れの成人式となった

30人31脚の練習に余念がないＧＢＨ軍

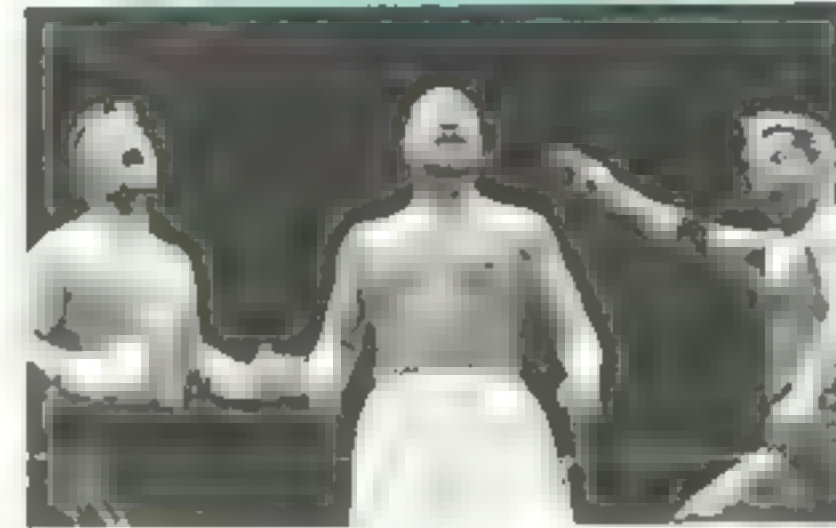
真壁はメラを唱えた! しかしMPが足りない!

このメンバーで高校生クイズ予選を見事突破だ!

しかしこの写真が表紙に使われることはなかった! 山王工業との死闘にすべてを出し尽くしたGBH軍は、続く3回戦、愛和学院にウソのようにボロ負けした

メンバーチェンジを終え、いよいよ新生globeが動き出す!

「俺たちもう終わったのかな?」「まだ始まってもいねえよ」

ホールスタッフ募集! 笑顔が絶えない職場です

GBH軍が現れた! しかし天山たちはこちらに気づいていない!

あのバルセロナFCが日本へやってくる!

スペースシャトル日本人搭乗員が決定しました

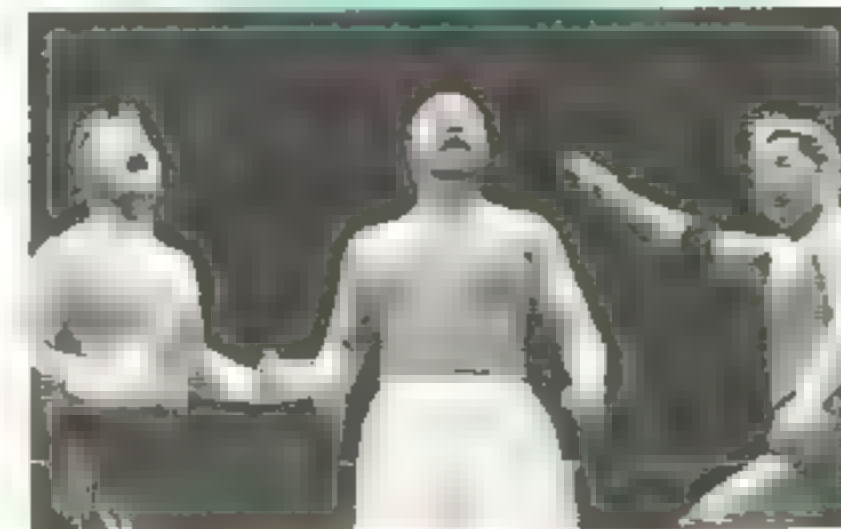
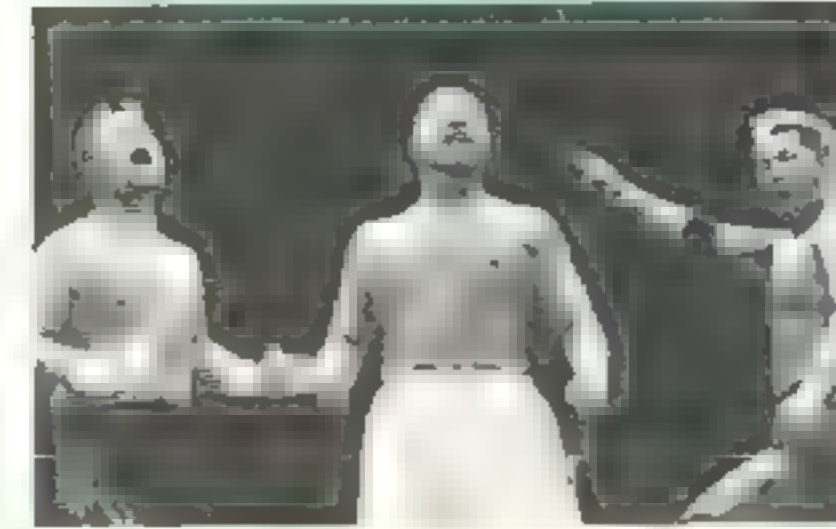
このあと、スティービー・ワンダーのピアノが!?

イメージ検索結果・1件中1件目

一足早い海開きにはしゃぐ海水浴客たち

本物そっくり! 東京タワー蝋人形館へようこそ

椎名基樹の サムライ三昧

第15回 真夏の夜の夢

TBS偉いぞ〜！ 先日の『Dynamite!! USA』の放送で、幻の名勝負・ノゲイラvsサップを完全ノーカットで流してくれて感激。急いで（画面に向かって、待って待ってとか叫びながら）録画。

この試合、筆者の中では、佐藤ルミナvs（ヒカルド・リッキー・）ボテーリョ、桜井〝マッハ〟速人vsフランク・トリック、ヴァンダレイ・シウバvsクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンなどなどに並ぶ、総合格闘技においてA中のAの名勝負に位置づけられていたが、K-1と『PRIDE』の共同開催だったので、両者の関係が悪くなってから、再び見る機会を失ってしまい、当時は国立競技場の現場で観戦したので、テレビ画面で冷静に見ることもできず録画もしていなかったので、ずーっと待望の的、おかげさまでこの度、約5年ぶりのご対面 やはり記憶にたがわぬ素晴らしい試合だった

当時、筆者は他誌に格闘技をタダ見したいがための連載を持っており、この興行も記者として入場したのであるが、記者口から入ってスタンドを見上げた時の興奮はいまだに明瞭に覚えていて、真夏の野外スタジアムに10万人近くが埋め尽くした壮観は、総合格闘技のウッドストックのように思え、同時に入場した外国人記者と思わず目が合い、声にならない声を発し、言葉通じずもお互い伝えたい興奮が伝わったのが強く印象に残っている まさに真夏の夜の夢、実際 この規模の興行はこの後、行なわれてないので奇跡としか言うほかなく、そんな祭りの興奮で、このノゲイラvsサップも蜃気楼の様な印象たったのだが、改めて見て、やはり歴史に残る名勝負たったと確認した

6月4日、TBSの『Dynamite!! USA』中継では5年前、国立競技場でのノゲイラvsサップ戦をほぼ完全放送。あれから様々な騒動を起こしたサップは6・23K-1オランダ大会で衝撃復帰！

いまは悪い噂しか聞こえてこぬサップであるが、この試合は、ノゲイラが本誌で「誰も倒す方法を見いだせぬ怪物」と語っていた通りリングに立つだけで、もの凄い殺気、試合前テレビ解説を務めていた宇野薫さんが、ノゲイラかとう闘うべきか訊ねられたにも拘わらず。その弁語る途中で思わず「凄い身体してますね」と漏らしてしまうほと肉体も充実、まさにノゲイラ自身が語っていたように怪物に見え、それを相手にするノゲイラに悲壮感すら漂う

当時耳にした噂によれば この試合、ノゲイラが「猪木祭り」に出場した制裁のために組まれたとか、蛇足であるか、この興行、東京上空から猪木がパラシュートで野外スタジアムである国立競技場へ降り立つ珍企画も盛り込まれていたが、これも制裁として行なわれたとの噂もあり、これが本当ならば、格闘界の恐ろしさととも に子供っぽさには呆れながらも、笑いが漏れる。さて、この怪物と柔術家の死闘といえば、闘いの映像は見たことはないか、伝説のヒクソンvsスール、そして初期UFCのホイスvsキモのホイスかホコホコにされなからキモの弁髪掴んでしのぎ三角絞めを極める伝説の一戦にだぶり、いわは暴力vs技術の闘いは総合格闘技の醍醐味を最も味わうことができ、筆者がノゲイラvsサップを名勝負中の名勝負に選ぶ所以もそこにある

最後はスタミナ切れしたサップにノゲイラか腕十字を極めて見事逆転勝利したわけであるか、1ラウンドはノゲイラが攻めに攻められゴングに救われたとはまさにこの試合のこと。試合の中で、猪木vsアリ状態の上からサップが、ブーツィー・コリンズのごとき奇声を発しながらパンチを放つ姿はまさに怪物めいていた

録画したこの名勝負、何度も何度も見返したわけたか、この試合が突然解禁されたのは、『PRIDE』の崩壊（気味？）、ノゲイラのUFC移籍か影響したのは否定てきぬはず 他にも この日の放送では、先日『PRIDE』のリングで涙を流したばかりの田村潔司さんが、ケツのごとき巨乳の谷間をこれ見よかしに誇示した、我か心の妻・井上和香嬢の横に座り解説を務め、『PRIDE』の衰退をK-1側が和香嬢のオッパイと合わせてアピールしている様である。股間を膨らましつつ筆者は、格闘界の混迷を傍観するより手はないが、それにしても総合格闘技のnWo（ニュー・ワールド・オーダー）は一向に見える気配はない。ふっと気付けば日本で見られる一般にメジャーとよばれる総合格闘技団体は『HERO'S』だけであり、本誌前号の『UWF変態座談会』でバーリ・トゥード大国ニッポンなととのたまわった筆者であるが、環境の余りに即急な激変に、ただ茫洋と遥か沖の船に手を振るかごとく心境

チャック・リデルvs〝ランペイジ〟・ジャクソンの大一番も、WOWOWの唐突なUFC打ち切り宣言を思い出しつつ、もはや苦笑しながらネットに上げられたものを観戦 リデル、ビビリ過ぎたったと感じつつ、元『PRIDE』勢が初めてUFC選手に一矢報いたとほっと胸をなで下ろすも、これから先盛り上がっていくUFCをこうやってネットで見るのかと思うと、非常に納得かいかぬ 総合格闘技の中心にいたと思えばとんだ勘違いで、手の平の中よく見れば『HERO'S』とイノキ・ゲノムとは、なんとも悪い冗談、饅頭たと思い頬張れは糞団子であった、狸に化かされた民話の登場人物のようである

そんな中、スカイスポ-ツで、初代シューターの川口健次選手、我らが川やんの7年ぶりの修斗復帰戦（06年5月12日、後楽園ホール vsディヴィダス・ベトラウスカス）を観戦 コンディションの良さを伺わせる身体で見事バックマウントからのパウンドで一本勝ちの川やん

試合後マイクを持って「『PRIDE』、UFC、『HERO'S』に負けないような団体にできるよう頑張る」と人柄の良さがわかる、朴訥とした口調でコメント、セコンドに付いた我らがガッツマン・桜田直樹会長か涙するのを見て、なぜたかわからぬか筆者ももらい泣き（笑）。思えば日本が総合格闘技の中心であってほしいという願いは、修斗の組織かそのまま財政的に大きくなってほしかったのだと感じる 一時期は修斗か日本独特の公営ギャンブルになれば、選手も潤うだろうし、中野浩一のごとき怪物か誕生するかもと夢想したほとてあった

その修斗のおかげで、70キロ以下の総合の選手なら、日本は世界水準に達し、選手層も厚い。ライト級グランプリが『PRIDE』を日本で開催する唯一合理にかなった大会たと思っていたのたが、延期発表以来ナシノツブテ 総合ファンとしてはただただ、ライブでニアライブで大画面で、今一番の試合が見られるような状態に戻ってほしいたけなのである

99年のニュートン戦での敗戦から7年、昨年5月に修斗のリングで復帰し、勝利を収めた川口。もうすぐ39歳の川口のもう一丁はあるか？

いまやインディー界を代表する女子レフェリー！ と言っても過言ではない、大日本プロレスの李日韓レフェリー。画鋲や蛍光灯の破片の散らばるリングで試合を裁く姿は、性別を超えた頼もしさも感じさせる マッスル」への登場や、アイスリボンてはレスラーでデビューなど、その存在感と知名度はますます上昇中！ さらに大日本のエース、伊東竜二の奥さんでもあるから興味は尽きないか、今回は、彼女の波乱に富んだ人生＆ユニークすぎる特殊技能（？）など、濃厚な話を披露してくれた！

ハードコア列伝1 世界のプロレスで業界潜入!!

彼女が、プロレス界へ足を踏み入れたのは、なんとペプシマンやコーラキッドなどが、怪しさ満点で活動していたインディー団体『世界のプロレス』だった―

「地元の岐阜のタウン誌のカメラマンをやってた頃、全日本プロレスさんを取材して、小さい頃のプロレス熱が再燃して、プロレス雑誌で"世界のプロレス"旗揚げ、スタッフ募集"って記事を見て、レフェリーになりたい！ と思ったんですでも人手が足りず、運転手に売店、営業、ポスター貼りとなんでもやらされて、レフェリーにはなれずじまいで辞めちゃって」。

りにっかん■1975年4月15日、韓国・ソウル生まれ 滋賀県長浜市出身 『世界のプロレス』で業界入りし、大日本プロレス入団 99年3月にレフェリーデビュー そのあと、300戦以上のテスマッチを裁き続ける 00年には大日本プロレスの伊藤竜二と結婚し、テスマッチ夫婦として知られる、血液型O型

一時は軽度のホームレス状態？ 李日韓レフェリーの壮絶人生とは

さらにここから、大日本プロレスに至るまでの過程が壮絶だ

「その頃は22歳かな。親から勘当されてて、一度は実家に戻ったけど追い出されたんです 東京の兄のとこに居候して団体を探したんですけど、兄は彼女もいるし「邪魔だ」と。それで夕方の5時から朝の5時まで西麻布でバイトして、昼間はず～っと山手線をクルグル乗って寝てました（笑）。で、出勤前にマンガ喫茶でシャワー浴びてから出勤したり。また朝になると西麻布から渋谷まで歩いて、橋のたもとで横になったり。そこに2週間くらい住んでましたから。ま、こぎれいにしてましたけど（笑）」となんと軽めのホームレス状態だったことも告白―

「それから、『世界のプロレス』で知り合った、ウォーリー山口先生のとこで『週刊ゴング』のお手伝いをして、事務所で寝泊まりさせてもらいました。で、『ゴング』で大日本がレフェリーを募集してるって記事を見て、行きたいです！ って言ったら、同し時期に レディースコング」も求人してる、って誘われたけど断って（笑）。どうしてもリングに上がりたかったんですよ」。『ゴング』休刊のいまとなってはまさに正しい選択だった

ハードコア列伝2 蛍光灯の束が直撃で、大出血!!

波乱の末、晴れて大日本に入団した彼女は、当時レフェリー兼任だった登坂栄児部長をはじめ、先輩の本間朋晃、山川竜司から 女だからって、ひいきはしない と宣言され、厳しい激務に耐え、徐々にレフェリーとして頭角を現わしていく また、韓国出身の彼女に"李日韓"というじつにわかりやすい、リングネームをつけたのも、登坂部長だった

さて、大日本のリングには、デスマッチアイテムがゴロゴロしてるから、彼女もケガが絶えない。「蛍光灯の破片で皮膚がめくれたり、手のひらには蛍光灯の破片が入ってますよ。私が、一番嫌いなのは画鋲！ 手に刺さるともう痛くて痛くて」と苦労を語る

「佐々木（貴）さんの、相手の顔の横に蛍光灯を置いて蹴る「右足」って技で、吹っ飛んだ蛍光灯の束が直撃して、頭から大出血したこともあります。試合中は平気だったけど、終わってから凄く痛んで。選手は、こんなに痛いんだって。最近だと、葛西純さんの二か後頭部に当たって救急車で運ばれました。でも記憶かないのに、カウントは叩いてました（笑）」と、脳しんとうを超えるくらい、彼女のプロ意識は高い

ハードコア列伝3 血液型は血の匂いで判別!!

さて、彼女は血まみれのリングで試合を裁いていくうち、自分の特殊技能を開花させてしまった。それが、"血の匂いで血液型がわかる"という凄いシロモノ―

「私、匂いフェチなんです（笑）リンク上って、血の匂いが充満するから、アメリカ人の血は臭いなぁとか。金村（キンタロー）さん、伊東（竜二）さん、沼澤（邪鬼）さんの匂いは違いがないなと思ってたんですよ。それで調べたら、みんなB型だった。そこに（関本）大介が入ると、匂いか違うなと思ったら、O型でしたね て、（アブドーラ）小林さんはたぶんA型で、葛西さんはBが強いAB型ですね（笑）」

さらに彼女は、血を見ただけて、選手の健康状態までわかるという。「新陳代謝がいいと血がサラサラ、汚かったりドロドロだとすぐ固まるから、あー、体調が悪いんだなって。だから試合のあとに『小林さん、コレステロール高いんじゃないの』って、注意したりしますよ（笑）」

ハードコア列伝4 趣味は蛍光灯の破片抜き!!

彼女の特技はまたある 極めつけは、秘技"身体に埋まった、蛍光灯破片抜き"

「試合後に選手が、「かゆい」って言うと、たいたい身体から蛍光灯の破片の先が出てて、それをピンセットで抜くんです。そういう作業が大好き（笑）。手で抜けないのは、自分の眉切りバサミを消毒して、ほじって取るんです。デカいのが出てくるとヤッター！ って」。いままでで一番のオオモノをゲットした話も凄い

「小林さんの背中に破片が埋まってて、しかも幅が広かったんです。そ～っと抜いたら、アーチ型の破片がクルッとまるまる出てきましたね。デカ！ って」 そんな、オペの天才も治療不可だったものがあるというが、それはいったい？

「剣山デスマッチで、佐々木さんの頭に刺さった剣山は、ベタっとくっついて抜けなかったですねぇ。病院に行って、先生が二人がかりで抜いたんですが、頭皮の中で、針が曲がっちゃってた。先生も『こんな人初めてだ』ってあきれてました（笑）」

普通の団体のレフェリーでは、ありえないことを続々体験中の彼女 「笑っちゃいけないけど、試合中に『生け花か！』って心の中で突っ込みました」と、いたって余裕！ トドメの一言が「こんな人生、楽しくてやめらんないですよ（笑）」

とうですか！ 壮絶きわまりないリンクに上がり続ける女性が、この世には存在する 今後も、血と蛍光灯の破片にまみれたマットを叩き続けるであろう、李日韓レフェリー、マンセー!!

まさに「いつ何時も危険がいっぱい」な大日本リンク 7月8日には横浜文化体育館でBJWテスマッチヘビ 級選手権が実現！ 佐々木貴に挑むのは、"夫"の伊東竜二！ そして、裁くのはもちろん"妻"の李日韓！

萌えて萌えて萌えまくれ〜！ な、自称・萌えのアニマル浜口こと掟ポルシェがワンショルダーのタイツ姿で他人の家の娘さんを死ぬ気で応援するコーナー「萌え萌え女々苑」 今回はいつの間にか試合ポスターに"極太あやや"のネーミングで紹介されてる高橋奈苗選手！ もうこの際あややに似てるの前提でお話をうかがってきました！

第20回 高橋奈苗（プロレスリングSUN）の巻

たかはし・ななえ■12月23日、埼玉県川口市出身。アニマル浜口ジムを経て全日本女子プロレスに入門し、96年7月、中西百重戦でデビュー。全女ではWWWA世界シングル&タッグのベルトを巻きトップとして活躍するも、全女の解散によりフリーに。その後Hikaru、前村早紀、夏樹☆たいようらとプロレスリングSUNを立ち上げ、06年10月に後楽園にて旗揚げ戦を行なう。現在はエース兼団体代表。167cm、75kg。プロレスリングSUN&奈苗情報はコチラをチェック→ http://www.sun-sun-sun.jp/

このコーナーはですね、"萌え"の観点から見た女子プロレスラーということで、本日は"萌えアイドル"の高橋奈苗さんの登場です！

奈苗 よろしくお願いします！ ……でも、私のどこが"萌え"なんですかね？（不安げに）

いや、いま『東スポ』を中心に"極太あやや"って言われてるじゃないですか？ 一応あややである以上、充分"萌え"ジャンルだと思います！（キッパリ）。

奈苗 あ〜、それでなんだ（笑）。"極太あやや"っていうのは、なんか事務所で盛り上がってたものが、『東スポ』さんとかで使われるようになったんですよ

たとえば、今後、『ハッスル』とかに出る機会があったら、ぜひ、あややキャラクターでやっていただきたいな、と。あややに対抗して"ななな"ぐらいな感じで

奈苗 ななな？ はい、わかりました！

それに、高橋さんといえば、つんく♂プロデュースで「キッスの世界」としてCDも出してますからね！

奈苗 そうなんです！ だから、私、会ったことあるんですよ、松浦亜弥ちゃんに

え！ なななかあややと!?

奈苗 「キッスの世界」でCD出したあとぐらいで、ハロプロの方が出てるコンサートに行ったら紹介してもらえて。もう、すっごい、お人形さんみたいでした！

「キッスの世界」もハロプロ仲間ですしね

奈苗 あ〜、私もつんく♂さんファミリーですよね（笑）

間違ってないですよ！（笑） しかも「キッスの世界」は一時期銀色のスパンコールの衣装着てたときに、テンガロンハットを被ってたじゃないですか。あれは松浦亜弥の「桃色片想い」のときの衣装と同じ感じなんですよ！ おそらく、「キッスの世界」からインスパイアされたものだと思って間違いありません！

奈苗 マネしたんだ。あ、凄いじゃないですか!?

ふっふふふ（まんざらでもなさそう）

カラオケで、あややの歌を唄ったりとかしますか？

奈苗 飲む席で、酔っぱらってしまったときに、周りの人かあややの曲を入れて、よくわからず唄ったりとかはありますね（笑）

あややは好きですか？

奈苗 いや、好き・・でした

まあ、そうですよね 最近はちょっとアーティスト路線になったし

奈苗 いまも可愛いですけど、キャピキャピしてたときが凄く可愛かったですよね

「Yeah！ めっちゃホリディ」とか好きでしたね。みんなマネしてませんでした？

そうですね 前田健さんか松浦亜弥のアイドルのあややのモノマネですからね。「キッスの世界」時代は勝俣（州和）さんから"空飛ぶ冷蔵庫"って呼ばれてましたよね？

人間なのに巨大電化製品扱いはさすがに嫌じゃありませんでした？

奈苗 いや……、いいんじゃないですか？

街で「あ、冷蔵庫の人だ！」って言われる可能性もあるわけじゃないですか？

奈苗 あ〜、それ言われたことある

あ、やっぱりあるんだ（笑）

奈苗 ファンの方か「空飛ぶ冷蔵庫」って垂れ幕を作ってくれたり、テレビ中継でも「冷蔵庫が飛ぶ〜！」とかアナウンサーの方とか言ってたので、けっこう認知されてたし、選手の目にもつくわけですよ。『あの垂れ幕って凄いね。何、冷蔵庫って？』って。やっぱ目につくっていうのはいいことじゃないですか？ こういう職業をしてたら、目立ったもん勝ちなんで

正直、抵抗ありませんでした？

奈苗 いや、自分では冷蔵庫は気に入ってたんですけどね（笑）

家電扱いでもOK？

奈苗 たって、夢があるじゃないですか？

冷蔵庫には夢がある!? ま、確かにいろんなモノ冷やしてくれますからね（笑）

奈苗 どこでもドアみたいな感じで

ドラえもんがポケットから「れいぞうこ〜（大山のぶ代の声で）」って出してくれるのって……いや、便利だからいいか。ヨドバシカメラの店員でもできそうですけど

奈苗 ハノハノハッー 私的には、冷蔵庫でも"極太あやや"でもオッケーです

みんなか喜んでネタにしてくれるならしょうがないかって（笑）

ポジティブですねぇ。コスチュームもおもいきって、「桃色片想い」のときの松浦亜弥の衣装で出るっていうのはどうですか？

奈苗 それなんか、マエケンさんみたいですよね（笑）。マエケンに似てるって言われたことはあります

「極太あやや」っていうか「男あやや」扱い（笑）

奈苗 「おまえはあややじゃなくて、あややのマネをしてるマエケンに似てる」って（笑）

マエケンさんはメイクするとホントに松浦亜弥に見えますからね いっそマエケンさんをマネージャーとして帯同して入場するってどうですかね？

奈苗 そんなに、あややネタやったほうがいいんですかね（笑）

正直、こんなにあややネタで引っぱれると思ってませんでしたよね？

奈苗 はい（笑）。

すいません！ そういう雑誌のそういうコーナーです！ 最後に、団体の代表として、今後プロレスリングSUNをどうしていきたいとかありますか？

奈苗 いまは所属選手が4人しかいなくて、自分たちだけで興行することができないので、選手を増やしていってSUNだけで全国を回れるように力をつけたいな、ともっともっと、世間に対して広げていく作業をしていかなきゃいけない。ただ、試合をやってるだけじゃなく、こうやって取材受けたりとか。"極太あやや"でもいいから（笑）

SUNを広めるためなら"極太あやや"でもかまわない？

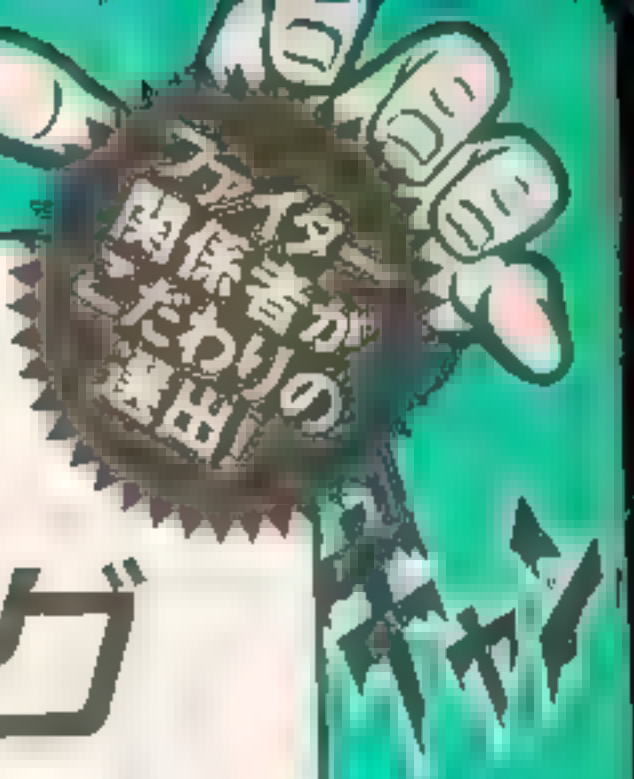
奈苗 はい！ ホント、なんでもやります、みたいな（笑）

一時期、女子レスラーのヘアヌードブームとかありましたけど、そういう話が来たらどうします？ 「極太あややが脱いだ！」ってなったら『東スポ』の1面になるかもしれませんよ！

奈苗 エ〜〜〜ッ、1面はなりたいですけど、さすがにそれは誰も見たくないと思うんで遠慮しておきます（笑）

00年、納見佳容、脇澤美穂、中西百重らと、つんく♂プロデュース「キッスの世界」のメンバーとしてCDデビューした"極太あやや"こと奈苗 デビュー曲は「パクパクKiss」！

Okite Porsche・掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）
■6／29（金）@沖縄那覇CLUB ECHOでDJとして出演。7／13（金）〜15（日）@札幌スピカで行なわれるCLUB MUSIC FESTAにDJとして出演 詳細は掟ポルシェブログをチェック・
【http://blog.excite.co.jp/porsche】

ファイター関係者がこだわりの選出！

“俺だけの”なんでもランキング

“マッドネス”・船木誠勝

『僕が人生に影響を受けた映画ベスト5』

俺だけの、俺だけによる、俺だけのためのランキング……、このコーナーはジャンルにとらわれない、“俺流のこだわり”をファイターや関係者にうかがって、独自のベスト5を選出！　第6回目のゲストは、俳優でも絶賛活躍中の船木誠勝。船木の人生に影響を与えたという5本をチョイスしてくれた！

映画『燃えよドラゴン』をドキュメンタリーだと勘違い!!

映画が好きになったきっかけは、小学校に上がる前に父親に連れていかれたブルース・リーの『燃えよドラゴン』です

当時は小さくて“映画”ってもの自体がよくわからなくて、講演会でも始まるのかな？　と思ってたら、ブザーが鳴って暗くなったから、怖くってね

そしたら、裸の男が闘ってるじゃないですか？　僕はあれはドキュメンタリーだと思って（笑）。途中から“鉄の爪”って敵まで出てきたから、子ども心に「ヤバイ！　主人公が刺されて死ぬに違いない！」と怖くなって場内を出て、母親と二人で待合室で待ってたんです。

少しして親父が出てきたから、「（主人公は）死んだ？」って聞いたら、「勝ったよ」って。どうやって勝ったのか不思議でね。

そこで映画に興味を持ったんですけど、親父はそのことがあって、映画に連れてってくれなくなっちゃったから、テレビの映画番組を観ましたね。それが小学校の低学年で『燃えよドラゴン』もテレビで観て、「こうやって勝つのか」と（笑）。普通の子は『東映マンガ祭り』とかですから、マセてたと思いますね

当時はハリウッドの勢いも凄くて『未知との遭遇』とか、『スーパーマン』とか、子どもでも楽しめる大作がバンバン来てましたから、僕も『スターウォーズ』とかガンガン行ってました。しかも朝イチで入って、夕方まで映画館に一日中ずーっといるんです（笑）。小学校高学年の頃は、友だちと遊ぶよりは、映画館にいたほうが楽しいな、と。その頃から、同年代とは話が合わなかったですし（笑）

ただ新日本プロレスに入ってからは、練習練習の毎日で、映画に行く時間がなかったんです。海外から帰ってきて、新生UWFに入って、一人暮らしをしてから、ビデオレンタルでまた映画にハマりました。

旗揚げ時のパンクラスにはデ・ニーロの影響があった？

ベスト5の1位は圧倒的に『燃えよドラゴン』。それで2位はロバート・デ・ニーロの『タクシードライバー』。NYの鬱屈した男が暴走する話ですけど、海外から帰ってきて観た映画の中で一番の衝撃でした。新生UWFで腕を骨折して、半年以上休んでいたときに観たので「なんかやらなきゃ」と思って。ま、モヒカンにはしませんでしたけど（笑）。デ・ニーロは大好きだし、デ・ニーロが作品ごとに肉体を改造する姿勢は、旗揚げ時のパンクラスとかも影響を受けてるかもしれない。

3位は黒澤明監督の『用心棒』。これも20歳頃に観たんですが、二つの勢力が対立してる宿場町に浪人の三船敏郎さんがやってきて、念密な作戦を立てる描写がいいですね。「どうやって相手に勝つか？」って戦略は格闘技にも通じますし。『用心棒』は、織田裕二さんでリメイクするみたいですけど、やっぱり三船さんじゃないと。

4位は高倉健さん主演、降旗康男監督の『夜叉』。元ヤクザで足を洗った男の任侠の話で、男が求める理想の男性像ですね。25歳くらいの頃に観返したら凄く感激して、ちょうどパンクラスの2年目くらいで、家庭も持ってましたから、「人生の意味ってなんだろう」って気分に直結しました。ヒクソン・グレイシー戦で着た和服コスチュームも少し影響あるかもしれない。ある意味、僕も命のやりとりをしに行ったわけですからね

5位はここ数年で何回、観返しても観られる映画『力道山』（笑）。自分が出ているとか、関係なしでおもしろい。DVDになったあとも二日間で3回くらい観ちゃいましたから

これは英雄になってしまったために、普通に生きれなくなってしまった男の話。特別な人間になっちゃうと、どこか孤独感を背負っていかなきゃいけない。

それはパンクラスの長のときも感じました。横にいる人間にも、一歩距離を取られてしまったり……、そういうつらさに共感しますね。ただ力道山役のソル・ギョングの相手もしたんですけど、あっちは加減を知らないから、本気で蹴られたりして大変でしたけど（笑）。

番外編で最近、一番ハマった映画は『ロッキー・ザ・ファイナル』（笑）。映画館には行かなかったんですが、『Dynamite!!　USA』の解説でロスに行ったとき、飛行機の中の行き帰りで3回も観ちゃいました（笑）

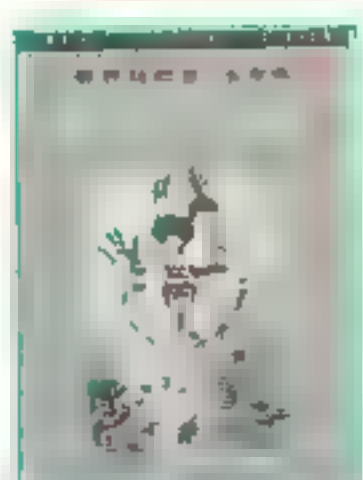
もうロッキーは60歳なんですけど、ロッキーの気持ちは引退した人間じゃないとわからない。僕もまだモヤモヤしている部分や、完全には出しきっていない部分ってありますから。

ビッグマッチ前には松田優作の墓に墓参り

自分でも映画に出たり、自主映画を撮ったこともありますけど、結論から言うと「映画はやるより、観るもんだな」と（笑）

とくに日本映画で自分の知ってる役者さんが出ると、気になってまともに観れなくなっちゃうんですよ。映画の現場的な視線が入ってきちゃいますから

役者でいうと、松田優作も好きなんです。パンクラスのときはビッグマッチの前によく松田さんのお墓参りに行ってましたね。人生の先輩みたいな部分で無理矢理に願かけに行ってました。一回、行ったら習慣になっちゃって。しかも行っても負けることもあるんですけど（笑）。

ただ、ブルース・リーも松田さんも亡くなってますから、やったことは絶対に崩れない。ストイックに生きた人に憧れますね。遊びがなさすぎて引いちゃう人もいると思うけど（笑）。僕はそういうほうが気持ちいいんです

1　『燃えよドラゴン』1973年
監督　ロバート・クローズ
出演　ブルース・リー

2　『タクシードライバー』1976年
監督　マーティン・スコセッシ
出演　ロバート・デ・ニーロ

3　『用心棒』1961年
監督　黒澤明
出演　三船敏郎

4　『夜叉』1985年
監督　降旗康男
出演　高倉健

5　『力道山』2005年
監督　ソン・ヘソン
出演　ソル・ギョング

ふなき・まさかつ■元プロレスラー。1969年3月13日、青森県弘前市出身。新日本プロレスから新生UWFなどを経て、93年にパンクラスを発足。00年にヒクソン・グレイシーと対戦して引退。現在は、柴田勝頼とチームARMSを結成

COLUMN

“UFC絶対王者”を破った男

地球規模の頂上対決ついに実現！

“PRIDE絶対王者”を破った男

UFC CAMPION vs PRIDE CAMPION

MMA WORLD SERIES
9.8 LONDON

俺は日本だけで闘ってきたミルコとは違う！

PRIDE WELTER WEIGHT AND MIDDLE WEIGHT CHAMPION

DAN "Hollywood" HENDERSON

"PRIDE絶対王者"シウバを倒した二冠王がついにUFC侵攻！

今年2月、ヴァンダレイ・シウバを豪快にKOし、ミドル級王座を獲得。ウェルター級王座と併わせて『PRIDE』初の二冠王として、その歴史に名を刻んだダン・ヘンダーソン。そのダンヘンが、なんと！ 5月の『UFC71』ラスベガス大会でオクタゴンに電撃登場!! ライトヘビー級新王者となったクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンへの挑戦を表明。これによりUFCと『PRIDE』の現役王者対決がついに実現することになった。地元・テメキュラで練習を積むダンヘンを直撃！

聞き手／上杉先輩面　撮影／乾晋也、Josh Hedges / UFC

――ダン選手！『UFC71』で、いきなりオクタゴンに登場したもんだから、日本のファンは、いったい何がどうなっているのか、気が気じゃないんですよ。

ダン　ああ、それは申し訳ないことをしたね（笑）。

――単刀直入に聞きますけど、UFCとはもうすでに契約しているんですか？

ダン　いいや、まだUFCとは契約してないよ。というよりも、このUFC参戦の話は、これまでと同じ『PRIDE』での契約のもとに進んでいるんだ。

――といいますと？

ダン　日本のファンも知っているように、『PRIDE』とUFCの二つの団体が統一オーナーの傘下に入ったことで、こういった動きができるようになったわけさ。UFCで闘ったあと、新生『PRIDE』とは新しい契約を結ぶことになると思うけどね。

――なるほど。それでは、UFCではさしあたって1試合だけ闘うということですか？

ダン　そういうことだね。まずはUFCライトヘビー級の新王者になったクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンと闘うことで話がまとまっているけど、その後については、何も決まってないんだ。すべては、『PRIDE』次第になると思うけどね。いまのところ、1試合だけ闘ったら、『PRIDE』に戻って自分のベルトを防衛したいと考えているんだ。

――つまり、ダン選手の主戦場はあくまで『PRIDE』だ、と。

ダン　そりゃあ、だって俺はPRIDEチャンピオンだろう。だから『PRIDE』のリングから離れることはないよ。とはいっても、ファイターにとっては、闘う

『PRIDE.33』で体格差をものともせずシウバと殴り合ったダンヘン。ジャクソンをKOしたシウバを沈めたことから、精神的にはダンヘン有利か

PRIDE WELTERWEIGHT AND MIDDLE WEIGHT CHAMPION

DAN "Hollywood" HENDERSON

のが仕事。だから『PRIDE』が再び始動するまで、王者として、そして団体としてのプロモーションも兼ねてUFCに上がろうかなと思ったんだ。『PRIDE』こそがベストということを証明できるいいチャンスだと思うしね。

——だから、あえて『PRIDE』ミドル級とウェルター級の二本のベルトを肩にかけてオクタゴン入りしたわけですね。しかし、日本のファンはビックリしてるんですよ。アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラの電撃移籍の件もあったばかりなんで。

ダン 日本のファンにショックを与えていたら、謝らないとね（笑）。今回の件は、そもそも俺がチャック・リデルとクイントンの勝者と闘うことになったら、おもしろいだろうと思って、UFCのスタッフに話したんだ。彼らも、そのアイデアを気に入ってくれて、急遽、実現したんだ。

——じゃあ、あのサプライズはダン選手自らの発案でしたか。ひさしぶりにオクタゴンに上がってみて、どうでしたか?

ダン 多くのファンが声援を送ってくれて、気持ちよかったよ。みんな俺のこと、そしてPRIDEチャンピオンの価値をわかってくれているな、とね。あとは、さっきも言ったように、俺が試合で『PRIDE』の凄さを見せつけるだけさ。エキサイトしているよ。

——UFCでは、『PRIDE』のベルトは懸けないんですね。

ダン 懸けない。今回はUFCのルールで闘うわけだから、あくまでUFCのタイトルマッチになる予定だ。たぶんベルトの統一戦は、ルールが統一されるまではないだろうね。ま、どっちにしろ俺が勝つから『PRIDE』のベルトが懸けられても懸けられなくても、関係ないけどね。俺のベルトコレクションが一本増えるだけさ（キッパリ）。

——自信満々ですね。

ダン クイントンはタフな相手だよ。でも、グラウンドのテクニックもパンチ力も俺のほうが強い。

——実際に目の前で、リデルとジャクソンの試合を観ていかがでしたか?

ダン あっけなく、終わったという印象しかないね。実力伯仲した接戦になって、長い試合になると思ったんだけど。せっかくなら、リデルが勝ってくれていたほうが、俺との試合はもっと注目を集めることになったんだろうけどね（笑）。

——あ、リデルのほうが対戦相手としては、ご興味がありましたか?

ダン どうせやるんなら、稼ぎのいいほうがいいだろう?（笑）。

——いまやすっかり〝スポーツ・セレブ〟の仲間入りをしたリデル戦のほうがPPVの件数も上がるんでしょうしね。

ダン だから、クイントンに勝ったらチャレンジャーにリデルを指名したいね（笑）。

——ジャクソン戦の時期については、いつになりそうですか?

ダン たぶん9月か10月になると思うよ。それまでに充分にクイントン対策は立てておける。

——試合までは比較的に時間の余裕がありそうですね。ただ、クイントン対策以外にも、ルールの面でも対策を立てる必要があると思うのですが。UFCでは、『PRIDE無差別級GP』の覇者だったミルコが2戦目でKO敗けしていますし。

ダン たぶん、ミルコは自分以外のほかの選手がハイキックを打てることを忘れていたんじゃないか（笑）。ハイキックをガードするには、手を上に挙げないとね。とい

クイントンに勝ったら、次はリデルを指名したい。稼ぎのいい試合がいいよ（笑）

うのはジョークだけど、彼はグラウンドでのエルボー対策もまったくできてなかった。ルールが違えば、トレーニングも違うのはあたりまえのことだけどね。

――ダン選手からすると、オクタゴンの広さや、ヒジありルールは問題ではない、と？

ダン　ないね。これまでUFCでも闘っているし、エルボー対策はわかっている。ブラジルに行ったときなんかはエルボーもヘッドバットもありのルールを体験してきたからね。

――それは、ずいぶんハードコアなルールですね。

ダン　だろう。だから、日本でしかMMAで闘ったことのなかったミルコとは違うよ。自分にとっては今回はいいチャレンジなんだ。そして、エルボーやケージに慣れるだけの適応性はあると思っている。それにまだ完成してないけど、自分の家にオクタゴンのある練習環境を作ろうとしているんだ。

――ジムではなくて、ご自宅にオクタゴンですか！　確かにご自宅はメチャクチャでかいですよね。ひょっとして、家のように自分で作ったりとか？

ダン　いいや、さすがにそれは買ったほうが早いからね。すでにトレーニング場はもうできているんだ。あとはケージを入れるだけさ。

――では、新しい戦場を前にとくに不安はない、と。かつての盟友であり、現UFCヘビー級王者のランディ・クートゥアーからアドバイスなどはありましたか？

ダン　いや、まだとくに連絡はないね。ただ、同じチーム・クエストのマット（・リンランド）はクイントンとも闘っているから、アドバイスをもらうつもりだよ。

――昨年7月に行なわれたWFAの旗揚げ戦のメインがジャクソンvsリンドランドでしたね。そのWFAもUFCに買収されたわけですが、『PRIDE』も含めて、MMA界で資本の統一が進んでいますよね。それについてはどう思いますか？

ダン　ん～、目の前にある現実だけが、現実だからね。だけど、UFCと『PRIDE』のオーナーになったロレンゾ・フェティータは、このスポーツをさらに成長させるために大きな貢献をしてくれたと思ってるよ。

ただ、ファイターとしては、闘いの場の選択肢が減ってしまったわけですよね。

ダン　それはしょうがないさ。ただ、まだチョイスはあるから。『エリートXC』、ボードッグ、K-1などね。

――なるほど。市場のバランスは保たれている、と。その一つ、日本のビッグイベント『Dynamite!!』がアメリカで初めて大会を開催しましたが、ご覧になりました？

ダン　観てないんだ（あっさり）。

――興味はなかったんですか？

ダン　いや、決してそういうわけじゃないんだけど、あの日は息子のベースボールのゲームが7時まであって、そのあとファミリーとムービーを観に行ったんだ。

――ダハハハハ！『Dynamite!!』より映画でしたか。

ダン　俺は、ずーっと試合ばかりして、家族と一緒にいなかったからね。でも大会についてはいろんな人から聞いているよ。「メインはつまらなかった」って。

――あ、アメリカでの評判はよろしくないですか（笑）。

ダン　ただ、メイン以外ではいい試合もあったって聞いてる。たぶん、K-1はもっといいショーができたと思う。何が悪かったかは直接観てないからわからないけど。

現場はとにかく大変な進行になってたらしいです。

ダン　最初は簡単にはいかないだろうけど、多くの人も集まってたようだし、新しいファンも獲得したんじゃないかな。MMAシーン全体を考えると、こうやって盛り上げてくれるのはいいことだと思うよ。

――『PRIDE』といい、FEGといい、日本の団体がアメリカに進出するなど、すっかりMMAの中心がアメリカに移ってきた感じがしますよね。

ダン　アメリカではMMAのムーブメントは、いまちょうど始まったばかりなんだ。そして、さらに大きなレベルに移行しようとしている。ここで私は生きているから、家族のことも考えると、嬉しいことだよ。

そうですよね。一方、日本は『PRIDEライト級GP』開催が延期になるなど、不安に思っているファンも多いのですが、日本を闘いの場にしていた選手の中にもそういった動揺は拡がっていたりしますか？

ダン　『PRIDE』を巡って、さまざまな噂が流れていて、ちょっと気になるけど、とにかくクエスチョンだらけだから考えてもね……。ただ状況がよくなるように祈っているし、新オーナーは『PRIDE』を元の『PRIDE』のまま残してくれると信じているよ。

――これまでどおり、日本オリジナルの『PRIDE』で闘いたい、と。

ダン　そうだね。あとアメリカで闘えるのはいいことだけど、やっぱりこの8年間、日本で闘えたことの意味は大きかったし、闘えたことに感謝している。それに日本のファンは世界でもベスト。早く日本で闘いたいね。

【07年5月30日／国際電話にて収録】

Dan Henderson■1970年8月24日、アメリカ・カリフォルニア州出身。グレコローマン・レスリングで二度オリンピックに出場したスーパーアスリート　05年12月にウェルター級GPを制覇し、同級王座戴冠　今年2月、シウバからミドル級のベルトを奪い『PRIDE』初の二冠王に。9月のUFCロンドン大会でクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンのUFCライトヘビー級王座に挑戦する　180cm、82.9kg

——やったじゃん、ジャクソン！ 王座奪取おめでとう!!

ジャクソン なんだよ、スコット！ UFCからは取材禁止されてるんじゃないのか？（笑）。俺様はいまや、UFCライトヘビー級チャンピオンなんだから、これまでみたいに気安く話しかけられても困るなぁ（ニヤリ）。

——ええっ、そんな！

ジャクソン ……というのは、冗談さ。ガハハハハ！

——（ホっとして）まぁ、今日は『kamipro』っていう日本の雑誌の取材なんだけどさ。

ジャクソン 俺様の大好きな日本のメディアへのインタビューなら、喜んで受けるぜ。取材依頼が立て込んでいて、忙しいんだけどな。ガハハハハ！

——いやぁ、しかし変わったね、ジャクソン。日本で会ったときはスポンサーを求めて……。

ジャクソン （さえぎって）いいんだよ、もう、そんな湿っぽい話はよ！ 確かに、日本での俺様は紆余曲折あったよ。『PRIDE』だけじゃなく、ローカルの団体にも出場したし（バトラーツでアレクサンダー大塚と対戦）、苦労してなんとか決勝まで進んだ2003年のミドル級GPでは、（ヴァンダレイ・）シウバ戦で不利なレフェリングをされて負けたりね。でも、俺様はUFCの人気ナンバーワンファイター、〝ザ・アイスマン〟チャック・リデルを溶かした男なんだ。

——つらかった日々は、もう完全に過去のものだ、と。日本を離れてアメリカへ戦場を移すことを考えた時点で、成功する自信はあったってこと？

ジャクソン あったね。だって、俺が

チャンピオン同士の闘いでガッポリ金を稼いでやるぜ！

UFC LIGHT HEAVY WEIGHT CHAMPION

QUINTON "Rampage" JACKSON

"UFC絶対王者" チャック・リデルに激勝！ "噛ませ犬" がついに世界の頂点に立った!!

ウォ〜〜〜ン！ 狂犬、ついに頂点へ！ あのランペイジが5.26『UFC71』で"アメリカMMAシーンの象徴"チャック・リデルを破り、UFCライトヘビー級王座を奪取。かつては"格闘ホームレス"と呼ばれるほどの極貧生活を経験し、『PRIDE』ではシウバと二度にわたる激闘を展開するもなかなかベルトに手が届かなかった男が、ついに世界の頂点をつかむことに成功した。そんなランペイジに旧知の仲である『MMA WEEKLY』のスコット・ピーターソンが直撃！ 狂犬、歓喜の雄叫びをお届けしよう！

聞き手／スコット・ピーターソン 構成／上杉先輩面 撮影／Josh Hedges / UFC

［5.26 UFC71］
米国ネバダ州ラスベガス／MGMグランド・ガーデンアリーナ
○クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン vs チャック・リデル×
（1R 1分53秒 KO）

03年『PRIDEミドル級GP』で、ジャクソンに敗れたリデルの"雪辱戦"として組まれたこのカードだったが、主役の座を奪ったのはジャクソン。何もさせずに秒殺！

ころの『PRIDE』のレベルは間違いなく世界最高峰のレベルだったからな。それは今回のタイトル戦で簡単に証明できたと思うけどね。あそこのトップ戦線で闘ってきたことで、力を磨いたのさ。ただ、俺様は自分の扱われ方が気にくわなかった。金銭的な面も含めてね。だから、とにかく『PRIDE』との契約が終了した時点で、俺様にとってふさわしい、新しい場所を探そうと決めていたんだ。それで、契約が終わったときにロケットみたいに飛び出したんだ。ま、簡単に言えば、金がほしかったんだけどな。ガハハハハ！

――確かに外国人ファイターにとってスポンサー探しは難しかったと思うよ。ただ、日本のファンはジャクソンを好きだったと思うけど。

ジャクソン　ベイビー！　俺様も日本のファンは大好きさ。このスポーツに対する理解度は世界中でベストだと思うしね。

――アメリカに帰ってきたときの、ファンの反応はどうだったの？

ジャクソン　最初はWFAだったからな。ガラガラのアリーナで寂しかったよ……。

――ハハハハ！　大失敗だったよね、あのイベントは。結局、従業員と元オーナーの訴訟合戦にまで発展してしまって（笑）。ま、倒産しそうになったことでUFCが買収して、ジャクソンのUFCデビューにつながったからよかったじゃん。何があるかわからないよ。

ジャクソン　ああ、それが人生ってもんだろ。ブラザー！

――そうして迎えたUFCデビュー戦で、K―1参戦経験もあるマービン・イーストマンを見事にKO。いきなり、リデルとのタイトル戦をゲットしたわけだけど、歓声を浴びた日本とは違ってブーイングが飛び交ってたね。

ジャクソン　あ～ん、オマエ、俺を悪者呼ばわりしようっていうのか？　ブン殴るぞ！　アスホール！

――チョ、チョイ、事実を曲げないでくれよ。だって凄かったじゃん。あのブーイング！　なんで、認めようとしないのさ。MMAシーンきっての人気者が相手ということもあって、しょうがないんじゃん？

ジャクソン　うんうん、そうだな。あんなにブーイングを浴びたのは、生まれて初めてだったから、ちょっとヘコみかけたけどな。ま、あれは、俺にとっていいガソリンになったぜ！

――いきなり、ポジティブ・シンキングになるね。

ジャクソン　試合のときも、なんて言うか、闘争心に火をつけられた感じだった。「絶対、負けらんねぇ」って気持ちになれたから、悪くはなかったけどな。ガハハハハ！

――試合では、とても集中していたよね。

写真には映っていないが、奪取したベルトを巻いて『Dynamite!! USA』の会場に姿を現わしたジャクソン。客席からは、この日一番の大声援が巻き起こった。

入場から顔つきが違ってたよ。

ジャクソン リデルが倒れるシーンしか頭になかったんだ。年間ベスト試合、いや俺の人生のベストファイトになるってイメージだけを持ってね。だって、俺様は地獄のようなトレーニングを積んだんだからな。まるで動物みたいな日々だった。

——よっぽど自分を追い詰めたんだね。

ジャクソン だから、チャックと顔を合わせたときは、アイツの目の中に、俺がベルトを巻く姿が映ってたよ。

ええっ！ ちょっと、その幻覚はヤバいって！ 追い詰めすぎたんじゃないの！

ジャクソン （無視して）だって、チャックの腹を見たら、わかるだろ？ いったい、あの胃袋に何が入ってたっていうんだ？ ブ～ヨブヨ。まるで、試合直前にスイカを丸呑みしたような腹だったじゃないか。だから、ヤツのケツを簡単に蹴飛ばせることがわかったのさ。

——なるほどね。

ジャクソン だから試合が始まると同時に、パンチの届く距離まで一気に詰めたんだ。自信があったからな。ヤツはパンチを交換するのをいやがった。フットワークはうまくなっているから、オクタゴンを回りだしたんだ。

——リデルのフットワークには定評があるしね。

ジャクソン でも、俺様はチャック戦用にトレーニングしていたから、やつの足さばきを封じ込めた。動きをカットされたリデルは前に出てきたけど、ヤツのパンチは俺様には当たらない。完璧に研究していたからな。そして、ボディを狙ってきたところにカウンター！ それで、彼の夜はおしまいさ。完璧なゲームプランだった。ガハハハハ！

——技術的にもずいぶん上達しているよね。チーム・オオヤマから移籍して、コーチらも一新したそうだけど、今回一緒にトレーニングしたのは？

ジャクソン 一新したというか、（前に所属していた）チーム・オオヤマのメンツは俺を罵倒して、汚いウサギのように捨てやがった。でも、いまの俺様は新しいチームにいて、プロのトップファイターたちとトレーニングする環境がある。ジョシュ（・バーネット）らとも一緒にトレーニングしているんだ。

——そいつは、ずいぶんと豪華な練習環境だね。

ジャクソン ああ、彼らと一緒にスパーリングすることが、何よりの練習だ。打撃のスピードもパワーもよくなったからな。

——次のヘンダーソン戦にも、自信満々に見えるけど。

ジャクソン ああ、ダンとは以前、一緒に練習していたことがあったけど、その頃の俺とはまるで違う。いまの俺様の強さを見せつけてやるよ。昔、アイツの強い右パンチをもらって痛い目に遭わされたから、リベンジするいい機会だな。

——ヘンダーソンは、ジャクソンがいないあいだに『PRIDE』で二冠王になったわけだけど。

Quinton "Rampage" Jackson■1978年6月20日、アメリカ・テネシー州出身 01年 PRIDE.15 の桜庭戦で初来日後、ミドル級戦線の中心人物となり、03年の PRIDEミドル級GP に出場、ヴァンダレイ・シウバに敗れるも、準優勝を果たす。04年には同級王座を懸けてシウバと再戦するも、惜しくも敗退 その後、WFAを経てUFCへ。現UFCライトヘビー級王者 185cm、92.9kg

ジャクソン じゃ、ヤツもベルトを持ってくるべきだろ。じゃないと、フエアじゃないよな？ オマエ、ちゃんとダンに伝えとけよ（ギロリ）。

——そんなこと言われても、決めるのはUFCだと思うけど……。

ジャクソン ま、ダンとは仲がいいんだけど、俺ら二人で闘ってメイク・マネーできるんだから悪くないよな。ガッポガッポだよ！ ガハハハハ！

——シーンの成長の中、王者になったことで、すっかり人生が変わったよね。『Dynamite!! USA』のコロシアムに入ってきたとき、ファンが狂ったように歓声をあげてたけど、そういう予想はあったの？

ジャクソン それについては、俺もわかりかねるな。ブーイングを浴びたり、歓声を送ったり、どのファンが味方で、どのファンが敵だかわかんないよ！

——たぶん逆に、ファンもジャクソンのことをわかってないんだろうけど。

ジャクソン そう！ ファンの中には、たくさんの新しい層もいる。彼らはこのスポーツのことも、そして俺様のこともわかってないんだろうな。そんなファンはリスペクトできないけど、ファンはファンだし……、不思議な気分だよ。

——やっぱり、チャンプになったことで、環境が変わったってことじゃないの。念願だったチーズ（お金のスラング）が目の前にブラさがっているのが見えてきたんじゃない？

ジャクソン それはもう、一口食っちまったけどな！

——かじっちゃったんだ（笑）。PPVの契約数も凄かったらしいから、インセンティブもたんまり入ったんだろけどさ。もう家を買ったりとかしたの？

ジャクソン それは、まだだ。ただF-350っていうフォードの4WD車は買ったけどな。パパとしてワイフたちをドライブに連れていかないといけないからな。

——ワイフ？ 離婚したって聞いてたけど、日本人の奥さんとヨリを戻したんだ。

ジャクソン （嬉しそうに）ああ、彼女が戻ってきてくれたんだ！ いまは仲良くやっているよ。

——へぇ～、よかったじゃん。確実に生活を向上させてるね。

ジャクソン ああ、そうだ。つまり、やっぱ、マネーってことだな！ ガハハハハ！

【07年6月4日／ラスベガスにて収録】

別れたワイフが戻ってきてくれたんだ。やっぱ、マネーってことだな！ ガハハハ!!

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールなUSAニュースをお届け!!

USA COOL宅急便

Vol.15

FEG初のMMA海外進出となった『Dynamite!! USA』。そのインパクトは太平洋を越えて日本にも届いたが、はたしてアメリカ人の目にはどう映ったのか? クールでホットな最新アメリカンニュースをまとめてデリバリー!

聞き手/デューク東郷　助手/上杉先輩面

PROFILE

Scott Petersen【すこっと・ぴ・たーそん】
格闘技情報WEBサイト「MMA WEEKLY」(http://www mmaweekly.com/) を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「表現の問題だ」。予約制の運営の難しさを痛感している」。

新UFC王者クイントン・ジャクソンの"八百長"発言の真相とは……?

スコット　た、大変だよ! FEGの恐るべき営業力が明らかになったよ!

——どうしたんだよ、スコット? まるで小松隊員みたいなあわてぶりは。

スコット　『Dynamite!! USA』の観客発表について、計算していたんだけど……これは凄いよ!

——もったいぶらずに教えてよ!

スコット　カリフォルニア州アスレチック・コミッションの発表によると、『Dynamite!! USA』で売れたチケットの枚数は4万2575枚。これは、MMAイベントでの入場者数の北米レコード(『UFC69』オハイオ大会での1万9079人)をダブルスコアで上回る凄い記録なんだけど、チケットマスター(日本における「ぴあ」のようなもの)や券売所を通じて購入した人はわずか3674人だった。

——ふんふん。で?

スコット　コミッションの報告によると、残りの約3万8000枚のチケットはFEGが独自に売りさばいたということなんだ。

——ギョッ!! 一般流通を通さずして、自力でそんな大量のチケットを売れるんだ!

スコット　尋常じゃない営業能力だよ、これ。ミスター・タニカワ(谷川FEG代表)は韓国人コミュニティをあてにした発言をしていたけど、その連帯感は凄かったってことだよ。

——FEGが発表した観客動員数は約5万4000人ということだったけど。

スコット　それは、売れたチケットに加えて、FEGはコンプと呼ばれる無料チケットも1万3600枚配布していた。だから、4万2575枚にそれを加えると、FEGが公式発表した、約5万4000人と近くなる計算なんだ。

——なるほどね。しかし公式発表で"約"がつくなんて初めて聞いたような気がするけど(笑)。

スコット　ただ、チケットの販売枚数や流通量とは別に、アスレチック・コミッションは、入場ゲートでのドアをくぐった人の数もカウントしていたんだ。

——つまり、持っていたのが有料チケットなのか招待券なのかわからないけど、裏口から入る関係者などを除いた、入場者の数をちゃんとカウントしていた、と。

スコット　そういうこと。アスレチック・コミッションによると、実際にそうやって入場した人は1万8340人だった。公式発表の約5万4000人とは開きがあるけど、この数字は、06年のストライク・フォース、サンノゼ大会での総入場者記録(1万8265人)を上回って北米歴代2位! だから、大健闘したと言っていいね。残りのチケットがどうなったかちょっと気になるけど。

——いいんだよ! 年金記録が5000万件消える世の中なんだから、数万単位のことなんて気にしないの!

スコット　ネンキン? ホワット!?

——それより大会自体についてアメリカのファンはどういう反応だったの?

スコット　ん〜、FEGの真髄はアメリカのMMAファンにはいまいち届いてなかっ

ステロイドに対する処分を下されたホイスは「私は自然のサプリメントやプロテイン以外のものは一度も摂ったことはない」と反論しつつも、「ショックを受けている」とコメント。

日米格闘文化比較論 USA Cool宅急便

たね。というより、これはいままで口が酸っぱくなるほど言ってきたことだけど、日本とアメリカでは、プロレスとMMAの関係性に大きな差がある。アメリカは、日本と違ってプロレスとMMAが地続きでないから、ブロック・レスナーの総合デビュー戦でワクワクするようなファンは少ないんだ。

——ジョシュぐらいだよね、レスナー参戦で興奮しているのは（笑）。

スコット　ミスター・タニカワは、レスナーの試合をアメリカ向けの目玉カードだと考えていたけど、アメリカのファンにはまったく響かなかった。またKO負けした元NFLのスター選手、ジョニー・モートンのMMAデビューについても、競技に対して真剣なファンの多いアメリカでは、「充分な経験がないのにリングに立たせるべきじゃなかった」っていう批判の声が多いね。

——アメリカのファンはガチバカだらけなんだ。じゃあ、『kamipro』がアメリカで売れる要素はないってことね（笑）。

スコット　ただ、もう一つのメインイベント、サク（桜庭和志）vsホイス・グレイシーには、驚くほどの関心が寄せられていた。新しいファンにとって、サクはまだ見ぬレジェンドだったからね。でも、サクに元気がなかったから、多くのファンはガッカリしたようだけど。「サクラバの何が悪かったんだろ?」って。

——ん〜、サクの調子が悪かったんじゃなくて、ホイスがいつもよりよかったのかも。コミッションからはホイスに対してステロイド使用に対する処分が下されたんでしょ。

スコット　そう！　まさか柔術界のレジェンドにして、薬物とは無縁だと思われた、あのホイスがステロイドに手を出すなんて！　アスレチック・コミッションからの発表だということを考えると、残念ながら事実らしいし。ショックだね……。

——これでホイスはどうなってしまうのさ?

スコット　アスレチック・コミッションはホイスに対し、1年間の試合出場停止と2500ドル（約30万円）の罰金を課す処分を発表している。

——1年間も！　でも、これはカリフォルニア州での処分で、主戦場だった日本やラスベガスではこれまでどおり闘えるんじゃないの?

スコット　いや、そうじゃないんだ。この処分によって、カリフォルニア州でプロモーターライセンスを持つ団体は、ホイスをほかの地域でも起用すればライセンスを没収されることになる。だから実質的に、ホイスの試合はどこで開催するイベントであろうと組めなくなるんだ！

——それは厳しい！　っていうか、FEGはプロモーターライセンスを持ってないけど?（今回は一時的なライセンスで『Dynamite!! USA』を開催）。で、もっとも収益が期待されるPPV件数はどうだったの?

スコット　さすがにUFCには遠くおよばなかった。その正確な数字はわからないけど、噂によると、ヒョードルが出場したボードッグ・ロシア大会と同じぐらいらしい。

——そもそもボードッグの数字がわかんないよ！　次回大会があるかどうかも知らないけど、PPVを流したショータイムは、この数字でも放映を続けるのかな?

スコット　それはショータイムがMMAをどう捉えるかによるね。儲からないと判断して、やめるのか。それともいまは投資段階なのか。ただ、ショータイムはMMAビジネスを長期的スパンで見ているようだし、ショータイムと直接提携しているエリートXCにとっても、FEGは有力選手を抱える魅力的なパートナー。エリートXCがFEGとイベントを共催する以上、PPVは続くんじゃないかな。

——なるほどね。

スコット　ちなみにショータイムは、エリートXCがストライク・フォースと共催するサンノゼ大会（6月22日）も放映する。この大会にはムリーロ・ニンジャ、フランク・シャムロック、フィル・バローニ、ジョーイ・ヴィラセニョール、チャールズ・ベネット、カーター・ウィリアムス、ドウエイン・ラドウィックら『PRIDE』やK-1で闘った知名度のある選手が大勢出場するんだけど、『MMA WEEKLY』でのアクセスを見ると、『Dynamite!! USA』のときよりも、この大会のほうがファンは盛り上がっているね。

——やっぱりアメリカンファンの関心は日

この号が出る頃には結果は出ているが、バローニはエリートXCミドル級王座に挑戦。勝てば、ダナはUFC引き抜きを明言しており、"ジョーク団体"であっても競合をツブしにいく構えを見せる。

UFC72
6.16（現地時間）
「VICTORY」
北アイルランド・ベルファスト
オデッセイ・アリーナ

UFC4連勝中の岡見が前ミドル級王者、リッチ・フランクリンとメインイベントで対戦！　勝てば、次期同級王座挑戦権が懸けられていたものの、僅差の判定で敗北を喫した。フランクリンは次戦で、現王者アンデウソン・シウバとネイサン・マーコートの勝者とタイトルマッチを闘うことになる。

【ミドル級 5分3R】
○リッチ・フランクリン
［3R判定 3-0］
岡見勇信×

【ライトヘビー級 5分3R】
○フォレスト・グリフィン
［3R判定 3-0］
ヘクター・ラミレス×

【ヘビー級 5分3R】
○エディ・サンチェス
［2R 0分32秒 TKO］
コリン・ロビンソン×

UFC73
7.7（現地時間）
「STACKED」
米国・カリフォルニア州サクラメント
アルコ・アリーナ

UFC参戦を表明したノゲイラのデビュー戦の相手が、『PRIDE』ですでに2勝しているヒーリングに決定！　アメリカではサクvsホイスに続いて日本マット界の"リメイク"が続いている。金網とヒジありというルールの違いに、ノゲイラがどう対応できるのか。元パンクラスミドル級王者のマーコートは2年前のUFC参戦以来4戦全勝の実績を残し、ついにタイトル挑戦権獲得。王者アンデウソンに挑む。また、ダナ・ホワイトとのボクシングマッチをキャンセルしたティトは「TUFシーズン2」の勝者、エバンスと対戦。

【ヘビー級】
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
vs
ヒース・ヒーリング

【UFCミドル級タイトルマッチ】
アンデウソン・シウバ（王者）
vs
ネイサン・マーコート（挑戦者）

【UFCライト級タイトルマッチ】
ショーン・シャーク（王者）
vs
エルメス・フランカ（挑戦者）

【ライトヘビー級】
ティト・オーティズ
vs
ラシャド・エバンス

本のファンのものとは違うなぁ。
スコット サンノゼはストライク・フォースのお膝元。フランク以外にもジョシュ・トムソンやカン・リーら地元の英雄が出るから、ゲート収益は相当上がるだろうよ。
――ところで、ファンの関心と言えば、いまアメリカのネットメディアでクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンの発言が話題になっているらしいけど、どういうことなの?
スコット 一部の報道によると、ジャクソンが2001年の『PRIDE.15』でサクラバと闘ったときに「KOまたは一本負けをすれば、1万ドルのファイトマネーに加えて、2000ドルのボーナスをやる」とDSEから言われたとされている。
――KOされて、たったの約24万円! それってちょっと安すぎるような気がするけどね。ファイトマネーも含めて。
スコット 当時、ジャクソンはまったく無名だったから、ファイトマネーはそれぐらいだったかもしれない。でも、負けるのにたったの20パーセントのアップってのは、ちょっと安すぎるよね。関係者から聞いたところによると、当時の『PRIDE』は勝っても負けても、一本もしくはKOならばボーナスを支給していたらしいんだ。「試合をよりアグレッシブにしたい」という主催者の狙いがあったみたいで。
――じゃあ、「負けたらいくら払う」というような話ではなかったと。
スコット 元DSEの関係者は勝ったときのボーナスを明記した契約書もあると発言しているしね。それに実際、クイントンは契約書を読んではなかったらしく、口頭で聞いただけとのことなんだ。通訳を介したこともあって、ちゃんとジャクソンに伝わってなかったのかもしれない。
――しかし、なんで6年も経ってから、こんなこと言ってるのかな?
スコット UFC王者になったいま、過去の敗北をとり繕おうとしているのかもしれないけど(笑)。しかしUFCの勢いは凄いよ。6月は3度も大会を開催しているからね。さらに7月のPPV大会では、ノゲイラがデビューする上に、ミドル級とライト級のタイトル戦も行なわれる。これはPPV記録を塗り替える大会になりそうだね。
――『PRIDE』と『武士道』を連発していた、時期のDSEみたいだね。というか、そんなにUFCが忙しい状態なら、同一資本になった『PRIDE』には手が回らないんじゃないの?
スコット そうだね。ダナ・ホワイトにインタビューしても、まったく具体的な話は出てこないしね。ただ『PRIDE』のブランドネームは依然強い。わざわざ大金を投じた以上、『PRIDE』は開催されると思うけどね。
――う~ん。先が見えないね。ところで、先月号でスコットが話していたIBFボクシング王者、カーミット・シントロンのUFC参戦はどうなったのさ?
スコット どうにも進んでないみたいだね(胸を張って)。
――なんで、そんなに自信満々に答えるんだよ!
スコット ダナは「シントロンなんて知らないし、そんな無名のファイターとウチのチャンピオンを闘わせるわけにはいかない」って言っているんだけど、これには事情があるようなんだ。
――ふんふん、というと?
スコット ダナが狙っていたのは、この試合をきっかけとした、IBFも放映しているHBO局とのテレビ契約なんだけど、ちょうど、HBO社内でMMAを推進していたCEOのクリス・アルブレヒットがガールフレンドへの暴行により逮捕! 辞任してしまったんだ。
――ありゃま!
スコット これによって、UFCがHBOへ進出する話そのものが立ち消えになりそうというわけさ。そうなると、ただIBFの王者をオクタゴンに上げても、盛り上がらないし、万一、UFCファイターが負けたら、UFCの人気が下がってしまうだけになる。そこで、ダナは「(WBC世界ウェルター級前王者の)メイウェザーのようなビッグネームでないと、UFCには上げない」なんて話しているのさ。
――なるほどね。そのへんはじつにしたたかだなぁ、ダナは。結局心配したとおり、対ボクシング戦は実現しなかった、と。やっぱりアンタの話はあてにならないってことだね。
スコット ギャフン!

【07年6月15日/国際電話にて収録】

『PRIDE.15』で初来日したジャクソン、出国直前に空港で逮捕された憂さ晴らしか、桜庭をパワーボムで投げる豪快なファイトを展開したが桜庭のチョークに一本負けを喫した

USA NEWS Cool宅急便

元NFLスターにもステロイド疑惑!

全米の期待を浴びつつ『Dynamite!! USA』に出場した元NFLスター選手のジョニー・モートンが試合後の薬物検査を拒否! そのため無期限の試合出場停止と10万ドルのギャランティの差し止め処分となっていたが、アスレチック・コミッションが採取していた血液サンプルを検査したところ、なんとステロイドの使用が判明した 現在、アスレチック・コミッションはモートンに公聴会への出席を呼びかけているが、モートンが出席しない場合、ライセンスの剥奪と2500ドルの罰金が科されることになる。はたして、元NFLスターは再びリングに上がることができるのか?

ステロイドだけじゃなくて覚醒剤まで!

さらに衝撃! 6月2日(米・現地時間)に行なわれた『Dynamite!! USA』では、複数の選手にステロイド陽性反応が出たが、なんとドラッグ使用が発覚した選手も出現した。アスレチック・コミッションは、アントニオ・シウバの欠場に伴なって、急遽出場することになったヘビー級ファイター、ティム・マーシーから興[illegible]剤であ[illegible]メタンフ[illegible]タミンが検出されたことを発表[illegible]れにより、マーシーは6ヵ月間の出場停止処分と1[illegible]0ドルの罰金が科せられることになった。マーシーによると、これは試合直前に摂取したものではなく、友人らとのパーティで使用とのこと

アウレリオもUFCと契約!!

『PRIDE武士道』でエース五味隆典から一本勝ち奪い、ライト級王座にも挑戦経験を持つ、マーカス・アウレリオがUFC参戦! 所属するアメリカン・トップチームによると、アウレリオはUFCと4試合契約を結んだとのこと。UFCデビューの時期は未定だが、現在UFCは軽量級戦線の拡大に力を入れており、活躍が期待される

Q. kamiproはIGFを熱烈に応援していますが、6月29日の大会は本当にできるんでしょうか？

［東京都・ズッコケ3人組・33歳］

A.

ズバリ言って、IGFにとってできるとかできねえとか、そんな小さなことはどーでもいいんです!!

というわけで……

JOSH BARNETT

6.29 IGFホントに参戦!!
いまマット界にはイノキゲノムが足りない

聞き手・撮影／坂井ノブ　通訳／石井史彦

ロサンゼルスのINOKIドージョーで蒼い目のケンシロウをキャッチ!!

『PRIDE』がDSEからPRIDE FC WORLD WIDEへの移管作業を進める中、トップファイターたちが相次いでUFCへの参戦を決めている。そんな状況下でただ一人、プロレス団体、しかもアントニオ猪木がトップに立つ団体IGF（イノキ・ゲノム・フェデレーション）への参戦を決めた男がいる。"蒼い瞳のケンシロウ"ジョシュ・バーネットだ。

この原稿を書いている6月18日の時点でまだ対戦カードは発表されていない（その他のトンデモぶりは148ページを参照）が、『Dynamite!!』取材で渡米した本誌取材班は、ロサンゼルス南部にあるINOKI道場でIGF参戦を早々と決めたジョシュをキャッチした。

以前は新日本プロレスが運営していたLA道場は、現在サイモン猪木・前新日本プロレス社長が管理しており、場所もサンタモニカから移動。いまは写真のように殺伐とした光景が広がるヒスパニック居住区にあるのだ。中南米からの移民も多いこの地域は、地元の人に言わせると治安はあまりよくない場所らしい。道場の壁や看板に「INOKI」の文字はなく、でっかく「LUCHA LIBRE」と描いてあるではないか！「こう描かないと地元の人はわからないですからね」とサイモン氏。そんな場所でジョシュがMMA業界の現状以上に熱く語ったのは、アントニオ猪木論だった！

——インタビューに入る前に、まずジョシュさんに巻頭で登場してもらった本誌前号です（と手渡す）。

ジョシュ （表紙を見て右上の虫を指差しながら）オー、カキハラサン!?

——ダハハハ！　ミヤマ仮面こと垣原さんのことは、アメリカまで浸透してるんですか？（笑）。ミヤマ仮面は今号に登場してるんで、残念ながらそれは垣原さんじゃないんですよ。

ジョシュ そうなの!?　じゃあ、楽しみにしてるよ。

というわけで、元気ですかーッ!?　IGFに参戦するジョシュさんに、INOKI道場までお越しいただきました。

ジョシュ （日本語で）ゲンキガアレバ、LAドウジョウニモ、コレル！　何度か来ているけど、ここはとてもいい環境だね。猪木さんの歴史を感じることもできるし、トレーニングもできる。ちょっとしたショーもできるからね。ボクも試合前はここに来て練習することがあるんだ。まだ対戦相手は決まってないけど、IGFに出られることを楽しみにしているよ。

——6・29のIGF『闘今BOM-BA-YE』には参戦が発表されていますよね。MMAの試合の予定はないんですか？

ジョシュ （日本語で）ソウゴウカクトウギについては何も試合は決まってないけど、とにかくグッドシェイプを保つようにしている。いまはエリック・パーソンのジムやオレンジカウンティ・シュートレスリングでトレーニングを積んでいるよ。いまはプロモーションも多いし、ボクと一緒に仕事をしたがっている人も多いからね。

——具体的に参戦が決まっている団体もあるんですか？

ジョシュ いや、何もないよ。ただ、パンクラスとはいまのいい関係をキープしたいとは思っているけどね。何も具体的には考えてないけど、8月か9月には試合をできるといいなと思ってる。今年のアブダビ（・コンバット）には出たかったんだけどねぇ。また2年後に開催されるだろうから、そのときには出場したいよ。

——そういえば、今年のアブダビで大活躍したマルセロ・ガッシア選手が、先ほどMMA参戦を表明しましたけど(インタビュー当日に発表になった)。

ジョシュ　え〜っ、キイテナイヨ!　本当?

——本当です。元NBAのデニス・ロッドマンも、そのうち出るみたいですけど。

ジョシュ　(興味なさそうに)それはどうでもいいよ。

——あ、そうですか(笑)。

ジョシュ　(日本語で)メジャナイネ。

——ジョシュさんから見て、ガッシア選手はMMAでも成功できそうですか?

ジョシュ　成功するね。彼は凄いグラップラーだから。テイクダウンもうまい、ディフェンスもうまい、関節技もうまい。ハイレベルな相手と闘うのならわからないけど、並の選手が相手なら簡単に勝てると思うよ。(同じくグラップラーの)ハニ・ヤヒーラも、総合に転向してすぐに成功してたよね。ガッシアもたぶん、同じような道のりをたどるんじゃないかな。

——明日の『Dynamite!!』は?

ジョシュ　会場で観戦するつもりだよ。サクラバサンの試合と(ブロック・)レスナーの試合を楽しみにしてるんだ。

——レスナー選手とはIGFで絡みがあるかもしれないですからね。桜庭選手といえば、あのヌルヌル事件の当事者である秋山成勲選手に対して金原弘光選手が挑戦を表明しています。

ジョシュ　オー、Uインター。おもしろい考えだね。もし試合するのなら、カネハラサンはもっと体重を絞らないと。

——あ、なるほど(笑)。

ジョシュ　ただ、カネハラサンの気持ちはよくわかるよ。アキヤマは柔道時代から不正をしていたと聞くし、今回の件でルールを知らなかったわけはないからね。友人のサクラバサンがやられたことで怒るのもよくわかる。もし、ボクの親友のアベアニ(阿部裕幸)がそういうことをやられたら、絶対に許さないし、不正を行なった相手を控室でボコボコにするね。

ソウゴウカクトウギの試合はまだ未定
自分にとって居心地のいい場所を探さないと

——リングの上ではなくて?

ジョシュ　アキヤマみたいな人間はリングに上がって試合をする価値はないよ。いいかい?　リングに上がれば、彼にギャランティも支払われるし、スポットライトを浴びせてやることになるってことなんだぜ。そんなヤツにそんな権利はないさ。

——こ、怖い!

ジョシュ　そして、一緒にリングに上がるってことは、お互いにリスペクトするってことを意味するからね。そんなヤツにはリングはいらないさ。控室でやってやるよ。

——な、なるほど。そんな感じでFEGサイドの動きはいろいろと活発なんですけど、『PRIDE』になかなか動きがないですね。UFCが同一オーナーのもとで運営されることになって、『PRIDE』で活躍していた選手がUFCに参戦するという話が続々と出ています。ジョシュさんは今後どこのリングに上がるんでしょうか?

INOKI道場の壁に飾られたアントニオ猪木の栄光の歴史をじっくりと見つめるジョシュ。Uの源流である猪木イズムに共鳴しているのだ

ジョシュ　それは、なんていうかシチュエーション次第なんだけど……。いまのところ、ボクはどこにも属していないんだ。だから、ボクは自分にとってよい居場所を探さないといけないね。

——では、『PRIDE』との契約は?

ジョシュ　これからフィックスしないといけない部分があるよ。ほかのファイターもそういった懸念を抱いていると思う。たぶん、その原因は『PRIDE』の次の大会が発表されないからだと思うけどね。

——そうですね。先週(5月26日)の『UFC71』はご覧になりましたか?　チャック・リデルvsクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンのタイトルマッチがありました。

ジョシュ　会場に行ったよ。クイントンが勝ってよかった。完璧なタイミングの左フックだったね。クイントンもチャックもボクの友だちだから、どっちもケガしないようにって祈ってたよ。

——オッズでは、クイントンが格下になっていたようですけど。

ジョシュ　そうだね。でも自分がランディ(・クートゥア)と闘ったとき(02年3月22日、『UFC36』ジョシュが勝利してUFCヘビー級王座を獲得)よりは、差が出なかったみたいだけど。ボクが闘ったときは、4倍のオッズがついていたからね。

——で、クイントンの次の対戦相手はダン・ヘンダーソンになりそうです。

ジョシュ　ヘンダーソンはちょっと身体が小さいよね。ただ、デンジャラスなファイターであることに変わりはないよ。

——どっちが勝つと思いますか?

ジョシュ　どっちかといえば……、クイントンかな。

——ヘンダーソンは『PRIDE』のウェルター&ミドル級王者ですけど、その一戦が決まると『PRIDE』vsUFCの対抗戦がいよいよ本格開戦か、という見方もできますよね。

ジョシュ　(日本語で)ジュッチュウハック『PRIDE』の勝利さ。ただ、ミルコがやらかしちゃったけどね。でも、ミルコが次に(ガブリエル・"ナパオン"・)ゴンザガと闘えば、きっと勝つと思うよ。

——なぜ、そう思いますか?

ジョシュ　ミルコはあの試合に集中してなかったからね。準備もしていなかったようだったし。

——ジョシュさんはその対抗戦の渦の中に入っていく気持ちはないんですか?

ジョシュ　もちろん。「誰でもかかってこい!」と思っているよ。

——ではその場合は『PRIDE』とUFCのどっち陣営に?

ジョシュ　う〜ん、どっちと言われてもねえ。『PRIDE』自体は次にいつ開催されるのかわからないし、どっちか言えば……、プロレス軍団かな。

——ダハハハハ!　プロレス軍団ですか(笑)。

アントニオ猪木
JOS
BARN

ジョシュ　ん?　おかしい?
　いや、MMAの世界的な対抗戦の中に1人でプロレスを背負っていくのは凄いですよねぇ。
ジョシュ　チョットマッテ!　(真顔で)　ボクはずっとプロレスラーとして闘い続けているんだぜ?　ボクにとっては、プロレスとMMAは同じさ。
　わかります、そのこだわり!　いま、そう言いきれる人がホントに少ないんで、そのモチベーションは大事にしていただきたいと思います。
ジョシュ　プロレス・イズ・ファイティングだからね。
　「プロレスとは闘いである」。つまり、猪木イズムですね!　IGFは「一番強いヤツを決める」というコンセプトらしいんですが、ジョシュさんがIGFでもっとも注目してるのはどの選手ですか?
ジョシュ　ブロック・レスナーかな。彼にはIGFのリングに上がってきてもらいたいね。IWGPのベルトを持っているわけだし。ぜひ闘いたいよ。
——本人も「まだ俺が真のチャンピオンだ」と言ってます。防衛戦を一方的にキャンセルしたんで王座剥奪になってますけど、まだベルトは持ったまま。
ジョシュ　もしレスナーがボクの対戦相手としてリングに上がったら、状況は変わると思うよ。ボクが新日本でIWGP王座に挑戦したあと、パンクラスで王者になったけど、そのあいだにボクより強い王者は誕生しなかった。プロレス業界も強い選手がいないとダメ。ボクが強いプロレスラーを体現してみせるよ。
——現IWGP王者は永田裕志選手です。
ジョシュ　ナガタサンはいいチャンピオンさ。これまでのすべての歴代王者と比べても一番強いと思うよ。ただ、ボクならナガタサンからベルトを獲れる。もっともボクはニュージャパンから離れてしまっているから、もう一度挑戦できるかどうかわからないけど(笑)。
——カート・アングル選手もIGFには参戦しますね。
ジョシュ　とにかくリングに上げろ!　ボクの強さを証明するよ。たぶんレスナーのほうがアングルよりも強いね。レスリングでは、レスナーよりアングルのほうが実績を残してる。でも、レスナーはいまミネソタで、エリック・パーソンの下でトレーニングを積んでいるんだ。そこは、(UFCライト級王者の)ショーン・シャークも練習している場所なんだけどね。レスナーはそこでキャッチ・レスリングを習っているわけさ。しかも若いし、大きい。
——ジョシュさんとキャッチ・レスリングでぶつかったら凄い試合になりそうだなぁ。鈴木みのる選手との対戦希望も表明してましたよね。
ジョシュ　ぜひ闘いたいね。彼とはタッグで闘ったこともあるけど、とても尊敬している。去年、プロレス大賞を獲ったと聞いたときは嬉しく思ったからね。もし、ボクらがタッグを組んだら、誰にも負けないと思うよ。
——みのる選手以外で対戦が実現するとしたら誰がいいですか?
ジョシュ　カワダ(川田利明)とはぜひ手を合わせたいね。あとタムラ(田村潔司)にはリベンジしないと、ね。あと、TK(高阪剛)ともやりたいね。引退したから難しいかもしれないけど。
　あと藤波辰爾さんがIGFに参戦するという噂もあります。ご本人からは「出る」という言葉はなかったですけど。
ジョシュ　オフィシャルのアナウンスは聞いてないけど、その噂は知っているよ。
　藤波さんの印象は?
ジョシュ　彼はルチャドールではないけど、かつてジュニア戦士として空中戦を見せていた。さすがに、もう体力は落ちているかもしれないけど、彼はキャッチ・レスリングができるし、ベースがしっかりしているから強い選手だと思うよ。
——「旅に出る」とハッスルを離脱してIGFに参戦表明した小川(直也)選手はどうですか?
ジョシュ　もしオガワがIGFに来たら、ケツを蹴飛ばしてやるよ。オガワがハシモト(橋本真也)に(1・4事変で)やったようなことはボクにはできないはずさ。
——そういう展開は観てみたいですねぇ。
ジョシュ　試合をすぐに終わらせてやるだけさ。まあ、そうなったら、もう誰もボクとは闘ってくれないと思うけどね(笑)。
　凄い自信ですねぇ。
ジョシュ　プロレスはゲームやショーじゃないんだ。そして、同時に、"なんちゃって格闘家"が出てくる場所でもない。そうなったら、誰でも叩きのめしてやるよ。あ、でもフジメグ(藤井恵)が来たらかなわないかもしれないけどね(笑)。
　まあ、いま挙げた選手のうち、誰が出るのか最終的には当日まで誰もわからないとは思いますけどね(笑)。しかし、ここ最近、MMA業界は殺伐とした話題ばかりですけど、プロレスの話題はなんというかいろんな意味で夢がありますねぇ。
ジョシュ　でも、プロレス業界のほうが、団体同士が協力的じゃないし、リング上のことも、まだまだ頭が固いと思うよ。
　まあ、冷静に考えれば、確かにそう

過密スケジュールだった昨年とはうって変わって、今年のジョシュはリラックスモード。だが、北斗を背負う男に休息は許されない。また闘いへと身を投しるはずだ　ほわたっ!

イノキサンは異種格闘技戦で世界を教育した
その功績は計り知れないほど大きいんだ!

ですけど（笑）。

ジョシュ　たとえば、いまでも日本人vsガイジンの構図は多いし、日本人じゃなきゃチャンピオンになれないとかね。その点、MMAはもっと国際的になってきている。プロレスでも30年前なら、日本人vsガイジンでファンがついてきたかもしれないけど、いまは状況が違うよ。団体側はそれを理解しないとね。

その状況を打ち破る可能性があるのが、ジョシュさんですよね。

ジョシュ　そうなったら最高だね。ただ、新日本のときはスコット・ノートンもそうだったけど、〝ガイジンのエース〟というポジション止まりだった。

——昨年の『PRIDE』ではジョシュさんが完全にエースでしたからね。

ジョシュ　エースに、ガイジンも日本人もないだろう？　ニュージャパンに上がっていた頃、ボクはニュージャパンのレスラーだったんだから。それをわかってほしかった。ボクとタカシ・イイヅカ（飯塚高史）のチームは強いチームだったけど、結局プッシュされなかったし、タッグ王者になってもおかしくはなかったはずなのにね。逆に、ナカムラ（中邑真輔）、タナハシ（棚橋弘至）は若すぎるのに簡単に王者になってしまった。

——若すぎたと思いますか？

ジョシュ　タナハシはいいレスラーだけど、そのときの能力の応じたポジションにいないと、ツブされてしまう。つまり王者になるタイミングが早すぎたりすると、その責務を果たせなくて、ファンは彼を責めることになるだろう。本当に責められるべきなのは会社なのに。ノアでも、コバシ（小橋建太）とミサワ（三沢光晴）しかトップにいない。彼らが凄い高いレベルにいるのは間違いないけど、追いかけるはずの存在がそこまでのレベルに達していない。彼らが引退するときにノアはどうするつもりなのか心配だよね。

——ノアの心配まで！（笑）。とにかく、IGFでは何がどうなるかわからないんで楽しみですねぇ。総帥・アントニオ猪木さんとの関係はどうですか？

ジョシュ　いい質問だね。ボクにとっては、心の師匠みたいなものだね。イノキサンとタカダ（髙田延彦）サンの関係とは違うかもしれないけど。

まあ、誰も同じとは思わないでしょう（笑）。

ジョシュ　タカダサンはグリーンボーイのときからイノキサンに接していたから、自分とは状況が違うよね。ボクはニュージャパンに入ってすぐにいろいろとこのビジネスについてイノキサンと話したんだ。

——猪木さんの持論だと、プロレスは闘いだということですよね。

ジョシュ　そう。リアルファイトと同じトレーニングをしないといいショーはできない。

——猪木さんの言葉で印象に残っているものはありますか？

ジョシュ　一番印象に残っているのは、リング上では、単純にムーブを見せるなということ。つまり、ちゃんとどういう動きを見せるかということをクリエイティブに考えないといけないということだね。

——なるほど。一番印象に残っている猪木さんの試合は？

ジョシュ　ビル・ロビンソンとの試合だね。もし誰かに「プロレスとは何か？」を教えるとしたら、まずこの試合を見せる。

——渋いなぁ（笑）。そういえばI編集長もこの試合を絶賛してましたね。

ジョシュ　じつはこの試合のビデオをミヤト（宮戸優光）サンの家で観たんだ。

——宮戸さんの家で！（笑）。それは最高のシチュエーションですね。

ジョシュ　ミヤトサンの解説つきで何度も何度も観たんだ（笑）。最高だったよ。ほかにも、ウィリー・ウィリアムス戦、（ビッグバン・）ベイダー戦、ウィリアム・ルスカ戦もそうだね。イノキサンの有名な試合はほとんど観ているよ。アックスボンバーで失神した試合も観たよ。

——まさか、自分でも舌を出して失神してみたりしませんでしたよね（笑）。

ジョシュ　あと（アクラム・）ペールワンの試合も観たよ。

よく観てますねえ。猪木さんはプロレスに異種格闘技戦を持ち込みましたが、それについてはどう評価していますか？

ジョシュ　プロレスラーは強くないといけない、ということだよね。昔は、空手家や柔道家が「プロレスは強くない」ってドージョーヤブリに来てた。でも、キド（木戸修）サンやクロネコ（ブラック・キャット）サンが彼らを打ち負かしていた。

LAまで来て木戸さんやクロネコさんの名前が出てくるとは思わなかったなぁ（笑）。

ジョシュ　（さらに熱くなって）なぜならプロレスリングはリアル・ファイティング・アートだからね。イノキサンは異種格闘技戦で世界を教育したんだ。「とにかくプロレスラーは強いんだ！」ってことをね。その功績は計り知れないほど大きいよ。

——IGFではそういう世界観をもう一度、見せたいということですか？

ジョシュ　そうだね。そのために日々、トレーニングを積んでるんだ。

——猪木さんといえば、巌流島や北朝鮮など、いろんな場所でプロレスをやってますが、たとえば、ジョシュさんもどこかやりたい場所はありますか？

ジョシュ　どこだろう？　日本のお寺とか神社でやってみたいなぁ。ゴングの代わりに鐘とか使ってね（笑）。あと、リキドウザン（力道山）センセイのお墓があるお寺（池上本門寺）でもやってみたい！　正月にアベアニと一緒に行ったんだ。彼のキッズクラスの生徒を連れてね。キッズたちはリキドウザンセンセイのことを知らなかったけど。

——まあ、わからないでしょうね（笑）。でも、池上本門寺はコンサートも頻繁に開催されたりしてますから、プロレス開催も夢じゃないと思いますよ。

ジョシュ　IGFでいろんなことができたら最高だね。とにかく楽しみにしていてよ。マヨワズイケヨ、イケバワカルサー！

【07年6月1日（現地時間）／ロサンゼルス・INOKI道場にて収録】

JOS
BARN

JOSH BARNETT■1977年11月10日、アメリカ・ワシントン州出身。UWFや『北斗の拳』をはじめとする日本の文化を愛する世界最強のオタク。第7代UFCヘビー級王者、第10代キング・オブ・パンクラス無差別級王者、『PRIDE無差別級GP2006』準優勝など輝かしい戦績を誇る。191cm、116.5kg。

んだぁ♪」と楽しんでいるアナタは、立派な「kamipro」読者です。

「週明けにも旗揚げ戦のカードおよび出場選手を発表する」

（アントン）

【5月5日／都内主要部でゲリラ公演】

IGFから「猪木がゴールデンウィークの都内に出没!!」「アントニオ猪木がゴールデンウィークの東京に突然卍固めを敢行!! 神出鬼没の猪木をキャッチせよ!!」というロマン溢れるリリースが到着！ さっそく最初の出没地帯である「14時に新宿歌舞伎町入り口もしくはアルタ付近」に行ってみたけど、いつになってもアントンは登場しない。次の出没地点の原宿でも姿を現わさないから、どうなってるんだよ!? とIGF関係者に連絡をとると、すでに原宿でのゲリラ公演は終わっているとのこと。なんじゃそれ!! 「週明けにも旗揚げ戦のカードおよび出場選手を発表する」というボンヤリとした方向性を含めてどこへ向かってる見当もつかないが、そんなIGFが大好きなんだ!!

「カート、ブロック、オマエらはもう死んでいる!!」

（ジョシュ・バーネット）

【5月7日／北斗からの手紙】

「PRIDE」、UFC、ボードッグ、K-1……選手争奪戦が激化する中、ジョシュが選択した戦場は、な、な、なっんと、IGFだった！ 人生は遠回りしないとわからないことも多いんだが、もはや大がかりなドッキリとしか思えないからグレートだ。

「いまはいろんなジャマが入ってきてますから」

（アントン）

【5月9日／ブルック・ホーガン日本CDデビュー会見】

きっと「日本に帰ったら殺される!!」ような出来事が起こっているのだろう。

「行く前は写真も見てなかったんで、顔もわからなかった」

（アントン）

【5月18日／成田空港会見】

アメリカでカート・アングルと会談を行なったアントンが衝撃発言！ 本当に〝迷わず行けよ、行けばわかるさ！〟を地で行くアントンなのであった。

「ブロック、IWGPのベルトを懸けて俺と勝負しろ！」

（ジョシュ・バーネット）

【5月22日／ジョシュから2通目の手紙】

「kamipro」のインタビューでは「どうやらアングルとレスナーとは闘えないみたいなんだよね」ということを明かし、「ミノル・スズキと闘いたい！」と、〝風〟になりたがっていたジョシュだが、ここにきて突如、対戦表明！ う〜ん。ここから「ホントに本人がメッセージを送ってきてるの？」という疑問が噴出し始める。要はゲノムにエンジンがかかってきたわけだ！ やったね!!

「ジョシュがIWGPのファーストを懸けると言っているが、受けて立とうじゃないか」

（カート・アングル）

【5月25日／アングルから2通目の手紙】

ジョシュのメッセージにアングルが反応！「IWGPのファーストって何？」って、すでに混乱している読者も多いと思うが、初代ベルトはアントン、3代目はレスナーが所有、レスナーがいまだに返還しないので現王者の永田さんは2代目を腰に巻いているのです。これを受けたアントンは「IWGP本来の姿に戻すべく、初代IWGPを懸けた闘いを検討しております」と発表しております。

「アトランタオリンピックのゴールドメダルを懸けて闘う」

（カート・アングル）

【5月29日／アングルから3通目の手紙】

早くも3通目の手紙となった、やけに筆まめなアングル。どういうわけなのかIWGPへの執念は凄まじく「アマチュアの最高峰がオリンピックであるならば、プロの最高峰であるIWGPを目指すのは当然だ」と激筆！ だったら新日本プロレスに参戦すればいい話なんだが、アングルには「3本になってしまったベルトを一つにまとめて、ミスター・イノキに返すのがオレの役目」という、崇高な理由があるのだ！ なぜ統一したベルトをアントンに渡すのかは意味不明だが、そこには涙なくしては聞けない心温まるエピソードがあるんだろう、きっと。

「レスナーが『Dynamite!!』に出るのはお金のため」

（アントン）

【5月30日／都内某所にて会見】

連日の会見＆リリースラッシュで勢いに乗るIGFがまたまた会見を開催！ 出席したアントンは、レスナーの「Dynamite!! USA」について「よくわからねえんですよ」と言いながらも、「ハッキリ言えば、金のためでしょうね」と、事情を知らないのに断言するから、さすがアントンはムテキング！ また、「まだ発表できないが、ブロードバンドでの世界発信も予定」と景気のいい話をブチ上げるが、この会見でとくに具体的な発表はなし！ わざわざ会見を開いてこのクオリティ。どうだ、これがIGFの恐ろしさ！

「特別リングサイドは完売になりました」

（IGF廣瀬副社長）

【5月30日／都内記者会見】

どういうことかといえば、残りわずかの席をスポンサーが「引きとりたい」と購入いただき、完売となりました」とのこと。スポンサーは神様です!! これにて団体運営や永久電機への投資も順調にはかどるというものだ。

「6月29日、最強の男が日本に上陸するぞ」

（ブロック・レスナー）

【5月31日／レスナーからの手紙】

「Dynamite!! USA」を目前に控えたブロック・レスナーが日本のファンのためにわざわざメッセージを送ってきたよ！「6月29日、すべての〝評決〟が下されるだろう」という最後のシメは、いろんな意味で興味深い!!

「無我として手を挙げていただいたことはありがたい」

（アントン）

【6月1日／IGF事務所にて会見】

我らがドラゴン藤波率いる無我がIGF参戦!? アントンが藤波辰爾と会合した事実をマスコミに発表。「この業界が非常に閉塞した状態になっている」と憂う藤波が「プロレス界を元気にしたい」という猪木の主張に賛同し、参戦交渉していることを明かした。しかし、アントンは「一国一城の主としてのプライドもあるだろうから、俺が藤波本人への参戦を発令しないほうがいいんだろう」という、非常にグレーな言い回し。まあ、「（無我として）手を挙げていただいたことはありがたい」と話がまとまりかけていることを匂わせているし、広報担当者も旗揚げ戦で無我提供試合が組まれる可能性も示したから、前向きなプランだと思われたが……。

「IGF？ オレは何も聞いていない」

（ブロック・レスナー）

【6月1日／「Dynamite!! USA」直前会見】

サンタクロースなんていないことは知っていた。ただ、あからさまにその事実を突きつけるのは野暮だよ!! ということで、破壊力満点のレスナーの衝撃コメントだ。「まあ、エージェントは聞いてるかもしれない」のが救いの綱だが、よくよく考えると一部で流れていた「コメントねつ造説」を裏づけるかたちになってしまったからダメじゃんか！ ああ、サンタクロースなんていないことは知っていたのに……。

「ビックリしたか」

（ブロック・レスナー）

【6月4日／レスナーから2通目の手紙】

自分でIGF参戦を表明しておきながら、「IGF？ オレ何も聞いていない」という衝撃発言をぶっ放したレスナー。「やっぱり、来ないじゃん！」「また猪木がウソをついた」とファンや関係者から大人げない声が上がる中、IGFスタッフがレスナーへのコンタクトに成功！ 電話でのやりとりをリリースしてきた。そのやりとりがあまりにも素晴らしいので、〝原文ママ〟でお届けします！ 暗唱できたら、ズンドコ三段を名乗ってよし!!

――「Dynamite!! USA」での勝利おめでとう。

レスナー　当たり前だろ。

――「Dynamite!! USA」の前日会見でのあなたの発言にはビックリしたが。

レスナー　日本ではオレの発言で、オマエ（IGFスタッフ）も忙しいだろ。ビックリしたか。人生はサプライズだ。オマエのボスも言ってるだろう。ガッハッハッハ！

レスナー「そんなに驚くな。チャンピオンはちゃんと日本に行ってやるよ。オレも楽勝だったし、気分がいいぜ。ところで、あの"金メダル野郎"(カート・アングル)はまだ吠えているのか?(語気が強まり)オレのところにも聞こえてきてるぞ。あの"金メダル野郎"がオレのことを腰抜けって言ってるみたいだな。許されねえぞ! イノキに伝えておけ。IWGP 3rd MATCHをやってやる。あの"金メダル野郎"はちゃんとメダルを持って来るようにな。オイ、もし、持って来なかったらキャンセルだからな。」

……ずいぶんゴキゲンじゃないか、ブロック! しかし、「金メダルを持ってこなかったらキャンセル」という最後のフレーズがやけに気になるなあ。

「ゼロとは言えないけど、いまはまったくない!」

(藤波辰爾)

【6月5日/サムライTV!にて会見】

サムライTV!の番組で川田利明と対談した我らがドラゴン藤波辰爾が、IGF参戦問題について注目の発言!! 当初は、にこやかに報道陣の囲み取材に答えていたドラゴンだったが、話題がIGFになると、ダークドラゴン変身寸前の状態に!! 「試合に出てくれとかそういう話はない。熱きプロレスの話はしましたけど、それは思い出話」と、アントン側が明かす会談内容をキッパリ否定。しかし、「ゼロとは言えないけど、いまはまったくない!」と、あいかわらずのドラゴンゲノム溢れる発言がこぼれだすから、取材陣は戸惑うばかり。ドラゴンの公式ブログでも「さぁーこれから、どういうことに向かって行くのか気も抜けない」などと、おもいきり気も抜けた書き込みをしてしまい、ブログのコメント欄に過剰な反応が続出! ドラゴンも「ブログなんかでの反響は凄いですね」と驚きを隠せないのであった。

「オ~ケイ! やりたいヤツとやれ!!」

【6月5日/アントン×小原道由会談】

元・新日本プロレスで『PRIDE』参戦経験もある小原がアントンに出場を直談判! アントンは小原にいきなりの闘魂ビンタを炸裂させ、「オ~ケイ! やりたいヤツとやれ!!」と出場を了承! ここまでお騒がせしておいて、詳細が一向に決定してなかったIGFだが、ようやく日本人選手の参戦を発表。それが小原というのがゲノムらしいのであった。

「おい、ミネソタの田舎っぺ大将」

(カート・アングル)

【6月8日/アングルから4通目の手紙】

とりあえず、大きな声を出して読んでくれ! アングルからの手紙を!!

「おい、ミネソタの田舎っぺ大将が、MMAでまぐれ勝ちしたからといって、ほざいてくれるじゃねーか。坊やにはWWE時代にプロレスの怖さをしっかり染み込ませる必要があったな。まあ、IGFでは坊やにプロレスの厳しさを教え込んでやるさ。シルバーメダリストに勝ったくらいで、いい気になってもらったら困る。俺はゴールドメダリストだぞ。国内王者どまりのユーよりミーのほうが上だ。坊やには世界の広さを教えてやるよ。MMAとは違う、時間無制限の地獄をみせてやるよ」

どうだろうか。このシドニィ・シェルダンも腰を抜かしかねないゲノム超訳は。どうすれば、「ミネソタの田舎っぺ大将」などと訳せるのか。「ユーよりミー」というフレーズもイカしてるじゃないか。それにしても以前の手紙とは、アングルの性格が変わっていないか。疑問を言いだしたらキリがないが、まあ、IGFは何をやっても許されるのだ! わかったか、ユー!

「対戦相手はおそらくみんなも予想するあの選手」

【6月6日/ジョシュから3通目の手紙】

業界のウワサでは小川直也でしたが……。

「6月28日の23時59分まで引っぱる」

(アントン)

【6月7日/ニッポン放送にて会見】

参戦を表明し続ける安田忠夫の処遇について、くれぐれも大会の全カードのことではないということを強く申しつけておくのであります。

「IGF自体が何をやりたいのか、イマイチわからない」

(小川直也)

【6月13日/都内・某公園にて会見】

「ハッスル」一時離脱を表明した小川直也がIGF参戦に名乗り!! その胸中を語った。以下、抜粋です。

「猪木さんがIGFに出たいヤツは手を挙げろみたいなことを言ってたんでね。師匠である猪木さんがIGFをやるわけだから、弟子である私が何もしないわけにはいかないんで」「いま『ハッスル』ではストーリー上、俺がいなくても差し支えないというか」「勝ち負けにこだわるよりはおもしろいほうがいい。でも、いまはそういうレスラーも減ってきたよね。みんなちっちゃくなってしょーがないよ!!」「アングルとやりたい。ジョシュもいるけど、彼には悪いがレスラーとしてだったらアングルのほうが上」「こっちはボールを投げ返したんだから、あとはどうキャッチボールできるか。某老舗団体みたいに何も返ってこないのが心配だけど(笑)」

一通り読んだ感想は……ズバリ言って、オーちゃんは早く「ハッスル」に帰るべき! いまさら「某老舗団体」という死語を持ち出すセンスは、しょっぱいかぎりだって!!(涙)

「俺がイラクでやってきたこととかを話しました」

(アントン)

【6月15日/成田空港会見】

小川直也の参戦が決定し、大会まで2週間を切ったIGF。選手視察のため渡米していたアントンが帰国し、成田会見が開催されたが、具体的な話はいまだなし!! 小川がアングル戦を希望したことを伝えると、なぜかおもいきり話題をズラして「俺も昨日はワシントンで国連のメンバーのアフリカ関係に強い財団と中央アフリカの紛争などについて、俺がイラクでやってきたこととかを話しました」ときたもんだ。本誌のゲノム研究班によれば、このパターンはあの"触ってねえんですよ"水域に近づいているという。[illegible]!!

「(小川の要求を)全部、受けなきゃしょうがない」

(アントン)

【6月18日/ニッポン放送「テリー伊藤 のってけラジオ」】

小川直也のカート・アングル戦要求に関してアントンがようやくストレートな反応。唯一正式発表しているアングル vs レスナーを変更する可能性が高まってきた。しかし、だ。なぜ小川の要求をすべて受け入れなければいけないのか。メインカードをこのタイミングでひっくり返す行為は本来であれば、ファン不在ととらえられてもおかしくない。でも、熱心なズンドコマニアからすれば、このファン不在ぶりが逆にたまらないのである! この調子でどんどんやってくれ! ダーッ!!

35

恒例なる『kamipro』読者ならおわかりのように、ズンドコ興行というものは、大会一週間前くらいからワクワク感が増してくるもの。[illegible]の段階での低評価はしょうがないのだが、こうした数多くの"?"がタネとなり、ゲノムな伏線となっていずれは我々ズンドコマニアを充分に楽しませてくれる材料となるのだ。あとはIGFの手腕にかかっている!! 不安要素があるとすれば、レスナーやアングルからの手紙がストップしている。

そもそも、人生は遠回りしないと見えないものがある。遠回りして遠回りして、転んで傷ついて、浮き上がってくるもの、そして感じられるものがある。とんでもなく遠回りしているIGF、大会当日には何が見えるのだろうか。ダッ、ダッ、ダッ!!(ラップで乗りまくるアントン調)

今回の探検隊はプロレス界最大の〝謎〟に挑む!!

「ヒールって本当はいい人じゃないの？」

イギリス人登山家ジョージ・マロリーは「なぜエベレストに登るのか？」という質問にこう答えている。「そこに山があるからだ」。元「週刊ゴング」編集長・金沢〝GK〟克彦氏は、なぜプロレス界を探検しているのか？ しかも、そんな格好までして。そんな問いに〝GK〟ならこう答えるだろう「そこにプロレスがあるからだ」。この連載は金沢〝GK〟克彦隊長と小松隊員が命懸けでプロレス界の謎にアタックする冒険浪漫ドキュメンタリーである！

構成／坂井ノブ　撮影／平工幸雄

マット界に残された数少ない〝謎〟に元「週刊ゴング」編集長・金沢克彦が捨て身で挑む感動巨編！

金沢克彦隊長

かなざわ・かつひこ■元「週刊ゴング」編集長。テレビ朝日「ワールドプロレスリング」の解説も務める。プロレスマスコミの重鎮として幅広い取材活動を行なうが、[illegible]のため探検隊を結成。体当たりで取材に挑む！

小松伸太郎隊員

こまつ・しんたろう■元「SRS-DX」編集部[illegible]

GKスペシャル プロレス探検隊

GBH
GREAT BASH HEEL
「なんか文句あんのか?」
「探検隊、ぶっ潰してやるって!」
「GBHをナメんじゃねえぞオラー、エー!」
真壁刀義
越中詩郎
天山広吉

GK　（小松隊員の耳元で小声でささやくように）今回は新日本プロレスの凶悪ヒール軍団のGBHを探検してみようと思うが、彼らはとても危険な人種だ。旧知の仲である私ですら、下手に刺激して怒らせると取り返しのつかないことになる。危機センサーをしっかり働かせて探検に臨んでくれ。いいな、小松隊員？　それではヴァモス！

小松　（小声で）隊長、ラジャーです！

GK　（意を決してGBHのほうを向き）どうも！　隊長の金沢です。さっそく始めますけど、GBHのリーダーって誰なんですか？　天山さんでいいんですかね？

真壁　そうだよ、何か文句あんの？

GK　巷ではリーダーだけ目立ってないんじゃないかという噂があるんですけど。一歩引いてるんですか？

天山　おいおい、いきなり失礼なこと聞くやないか！　引いてるわけじゃなくて、メンバーのみんなにデカくなってもらいたい気持ちがあるから、好きなように暴れさせてるだけや。なんか文句あんのか!?（怒）。

小松　うむむ、GBHのメンバーは放し飼い、と。確かに、管理されてる顔には見えませんねぇ。

天山　おい、タコ！　何か言ったか？

GK　（小声で）小松隊員、刺激するなと言ったろ！　で、このあいだ、GBHのシリーズをやりましたけども、どうでした手応えは？　長州力は「吠えたって、客に届いてない」っていうようなことを言ってたんですけどね。

真壁　シリーズ通しての手応えは半々だな。会場全体でヒートしたところもあったけど、選手のあいだではヒートした部分とヒートしてない部分が感じられたからな。まあ、これからだよ。

GK　試合前には前口上をやってたみたいですね。

GBHはグレート・バッシュヒールの略。偉大なる最悪のヒールって意味や！（天山）

小松　GBHの前口上！　自分は目撃できなかったであります！

GK　落ち込むな、小松隊員。しかし、あれは必要ですか？

真壁　まあ、必要ねえよな。むしろ、客の一人を血みどろにして、引かせるぐらいのことをしないといけないよな、俺たちは（ニヤニヤ）。

天山　憎まれてなんぼやからな（ニヤリ）。

小松　おお、こわ……。

GK　でも、越中さんはどこへ行ってもベビーフェース扱いされますよね？

越中　俺はベビーもヒールも、何も考えてないよ。

天山　客は応援したけりゃ応援すればいいし、ブーイングしたけりゃブーイングすりゃあいい。それだけだよ。

GK　でも、越中さん自体のファイトスタイルは変わってないですよね？　昔からイス攻撃を使っていたし。

越中　天山だって、何も変わってねえじゃん。蝶野（正洋）と組んでた頃からこんなんだったよな？

GK　「試合に生活感が出てる」って、長州力が言ってましたけどね（笑）。

天山　テメエ、ええ加減なこと言うんやないぞ！　言われたくねえよ、あんなおっさんには！

越中　それは飯塚（高史）だろって！

小松　なぜ、そこで飯塚さんが（笑）。（エル・）サムライさんもマスク越しにかなり生活感を漂わせてますけどね。

越中　（無視して）だからさ、GBHでシリーズを占領して、「やってやるぞ！」って旗掲げてんだよ。それで声が届くも届かねえもねえだろうが、ああん？　ガタガタ言うなら、潰してみろって！　俺らはどんな方法だろうと正々堂々と受けてやるから。それが俺らのスタイル（キッパリ）。

GK　なるほどね。ところで真壁選手、（つなぎの内ポケットから写真を取り出しながら）こんな秘蔵写真があるんだけど。

真壁　写真？　これ、いつ撮ったの？

GK　真壁選手がデビューする1ヵ月前にやった宴会のときの写真だよ。

越中　おい、マジックで身体に何か書いてねえか？

真壁　みんな酔っぱらって、俺の身体にマジックでイタズラ書きしたんだよなぁ。

天山　ガッハハハハー！（と、笑いすぎてヒジがコップにぶつかり、水がこぼれる）。あ、すいません……。

小松　いま「すいません」って言いませんでした？　ヒールらしくないような……。

天山　……ああん？　そんなこと言ってねーよ！　おまえが拭いとけ、このタコ！

小松　ラ、ラジャーです、リーダー！

GK　天山選手のもあるよ。ほら、ジャッキー・チェンにサインもらってる写真（笑）。

天山　これ、香港興行のときの？　……って、へんな写真持ってきとるんやないぞ！　恥かかすな、ボケぇ！

小松　た、隊長が刺激してどうすんで

談笑するGBHだがその机の上には有刺鉄線とチェーンが無造作に置かれているため、常に一定の緊張感は保たれているのだった。さすが偉大で凶悪なヒール！

GBH構成員

"猛牛" 天山広吉 Hiroyoshi Tenzan

1971年3月23日、京都府京都市出身。90年に新日本プロレスに入門、91年デビュー。長らく"黒の総帥"蝶野正洋と「蝶天タッグ」を組んでいたが、袂を分ってからは越中、真壁、矢野通、石井智宏らとともにGBHとして暴れまくっている。IWGPヘビー級、IWGPタッグなど数々のタイトルを獲得してきたが現在は軍団抗争の真っただ中で新日本隊をぶっ潰す勢いで大暴れしている。183cm、115kg。

"ド演歌ファイター" 越中詩郎 Shiro Koshinaka

1958年9月4日、東京都江東区出身。78年に全日本プロレスに入門、メキシコ遠征を経て新日本プロレスへ85年に移籍。平成維震軍として新日本隊とはてしない抗争を続けてきたこともあり、GBHでも精神的支柱となっている。本誌109号から毎号連続登場！　さらに本誌の携帯サイト「kamipro Hand」では毎週火曜日更新の人生相談「解ケツしてやるって！」を連載中！　読むしかないって！　185cm、105kg。

"暴走コング" 真壁刀義 Tougi Makabe

1972年9月29日、神奈川県相模原市出身。96年に新日本プロレスに入門、97年にデビューアキレス腱断裂で長期欠場した時期もあったが06年に越中とのタッグでIWGPタッグ王座を奪取。天山の呼びかけでGBH入り。アパッチプロレス軍の大会にも出場し、金村キンタローらを相手に流血しながら大暴れしている。7月6日、新日本プロレス・後楽園大会で永田裕志のIWGP王座に挑戦決定!!　181cm、110kg。

目的達成のためには手段を選ばねえ。チェーン、鉄柱、なんでも使うぞ！（真壁）

すかぁ！　では、あらためてGBHの名前の意味を教えてください！

天山　ずいぶん、基本的な質問だな、おい！　グレート・バッシュ・ヒール、すなわち最強・最悪のヒールという意味や。

小松　おお！　ヒールらしい物騒な意味ですね。

GK　それは誰が考えたんですか？

天山　会社がいくつか候補を考えて……いや、メンバーみんなで決めたんや！　おい、あんまり突っ込むな！

小松　む、歯切れが悪いですね。

GK　（小声で）小松隊員、必要以上に刺激するなよ。彼らは凶悪だ。

小松　ラジャーです、隊長。では、いままでnWoやT2000などいろいろなヒール軍団が存在しましたけど、彼らとの違いは何なんでしょうか？

天山　トコトン悪いことやって、トコトン好きなことやる（キッパリ）。GBHはnWoとかT-2000以上のことをやっていかなあかんから、生半可なことはやらんぞ！

GK　トコトンやるということで言えば、真壁選手、次はIWGP挑戦ですね？

真壁　まずはGBHにベルトがほしいね。タッグだろうがシングルだろうが、それを制圧するのが当面の目標だ。

越中　だからさ、さっき天山が目立ってないなんて言ってたけど、いまは真壁が突っ走ってんだから、任せておけばいいんだよ。真壁だって、誰だって、突っ走ってたら息切れちゃうんだから。そうしたら天山が出てくればいいんだよ。それがチームなんだから。

GK　抗争相手の本隊についてはどう思っていますか？

越中　永田（裕志）と中西（学）しかいないじゃん。もの足りないよね。もっと、ガッチリしてくれないとな。てめえらが、だらしねえんだってことですよ。

GK　長州さんはどうですか？

天山　（うんざりした顔で）いつまでやんだよ、あのおっさん？

GK　フフフ　そういえば、長州さんに正面から両手でガーッと首絞められたことあったよね？

天山　（吐き捨てるように）嫌なこと思い出させよって……。そういえば、このあいだ、うちの嫁に首絞められたな。

GK　ガッハハハハ！　嫁さんに？（笑）。

天山　ガーッと絞められて倒されたら、ニードロップ落とされて……。一瞬、死ぬかと思った。

GK　それは何が原因なの？（笑）。

天山　そ、そんな話はいいから先に進めろ！

越中　（無視して）でも、それでなんで生活感が出ちゃうのか不思議だよね？　普通、家庭でそこまでやられてたら、生活感なんて出ねえだろう。

天山　ホンマ、シャレにならんわ……。

越中　（しみじみと）真壁くん、結婚はいいもんだよ。なあ、天山？

天山　……。

GK　ダンマリかい（笑）。ところで、このあいだの越中さんのIWGP挑戦はどうでした？　天山さんは泣いてました？

天山　もう、スタンバイしているときからなんかジーンときてたね。お客さんの声援も凄かったし、一緒に入って行ったら、これは感極まるよな……。

GK　真壁選手は感動しました？

真壁　そりゃしたよ。ひさしぶりだろう、新日本の会場であんなに一致団結して、一選手に声援を送るっていうのは。それを見てて、越中さんが泣いていたから、俺ももらい泣きしそうになったんだよ……。

小松　へえ？　皆さん、じつは心の温かい方たちなんですね……。

天山　おい、仲間の晴れ舞台に心を打たれて何が悪いんや!?　さっきから俺らはヒールだって言ってんだろ！　話題を変えろ！　殺すぞ！

小松　ヒャッ！　す、すいません。では、またヒールっぽいことを聞きますけど、真壁選手がチェーンを使うのは、肌と肌を合わせるのと別の気持ち良さがあるんでしょうか？

真壁　気持ちいいだぁ？　おい、俺はサド侯爵じゃねえぞ！　俺はGBHを始めたときから、目的達成のためには手段を選ばないって決めたんだ。だから、チェーンだろうが鉄柱だろうが、なんでも使うんだよ。それだけ（キッパリ）。

小松　手段を選ばない！　そういう真壁さんの姿勢に対して、天山さんと越中さんはどういう意見をお持ちですか？

天山　さっきも言ったけど、トコトンやらんとな。中途半端が一番あかん！　やるなら、武器持とうが何しようが徹底的にやらんと！

越中　真壁のスタイルなら、それでいいじゃねえか。ガタガタ言うなって！　ホント、おまえらの話を聞いてるとイライラしてくんだよなぁ。

GK　おっと、雲行きが怪しくなってきた……。じゃあ、天山選手、あなたが鈴ちゃんジャンプしている写真を今日の記念にプレゼントして終わりにしますよ。

天山　おいおい、なんでこんな写真持っとんねん！　おまえら、俺らをおちょくんのもええ加減にせえよ！

真壁　天山さん、こいつらに現実を見せてやったほうがいいんじゃないッスか？

天山　おい、タ～コッ！　こっちにこい！

小松　あわわ、隊長、なんてものを見せるんですか！　危機センサーがマックスに達してますよおぉお！

GK　小松隊員、あとは任せたのだ！

【07年5月30日／新日本事務所にて収録】

メンバー同志の結束はとにかく固い　越中詩郎がIWGP王座に挑戦したときも、全員がセコンドについてサポート　極悪なヒールだが、仲間を思う気持ちは熱い

なぜだ!? 凸凹大学校の復活を望む声が本誌発行元に寄せられた!?

kamipro SHOPPING

♪バカサバイバー! 買いあされ、され!! 新生『PRIDE』の星、青木真也、通販登場!

青木LOCK STAR Tシャツ
イエロー／ネイビー ¥4,200(税込)
S·M·L·XL

《kamipro》通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます

★全国どこでも送料一律500円です
(何枚でも可 離島・山岳部の方はお問い合せください)

★代引き手数料は315円です
(代引き金額によって異なります)

kamipro Hand でご注文の場合

詳しくは「kamipro Hand」の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

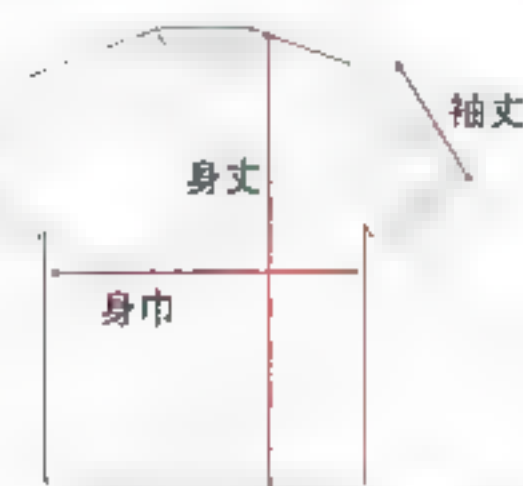
電話でご注文の場合

平日13:00〜19:00
(株)ダブルクロス
TEL.03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承ください)。
販売元／(株)ダブルクロス

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]

袖丈 / 身丈 / 身巾

(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

ラ・ニーニャ現象もなんのその! 猛暑はkamiproTシャツで!

I編集長"殺し"Tシャツ
[S·M·L·XL ブルー] ¥3,990(税込)

ハリトーノフFACE Tシャツ[★]
[S·M·L·XL カーキ] ¥3,990(税込)

ハリトーノフ"死神"Tシャツ
[S·M·L·XL ホワイト] ¥4,200(税込)

ハリトーノフSTAR Tシャツ
[S·M·L·XL レッド] ¥3,990(税込)

ニューリン様"BERO"Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990(税込)
(身丈57cm、身巾38cm、袖丈13cm)

ニューリン様"BERO"Tシャツ
[M·L·XL ブラック] ¥3,990(税込)

ニューリン様"SIGN"Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990(税込)

ニューリン様"SIGN"Tシャツ
[M·L·XL ブラック] ¥3,990(税込)

ニューリン様"SIGN"スウェット トートバッグ
[ブラック(プリント:ピンク)、ブラック(プリント:シルバー)]
¥2,100(税込)
※バックサイズ 24×11×35cm
(持ち手のぞく)

ハリトーノフ スポーツタオル
¥3,150(税込)

Kamiproマスクシャツ
ホワイト×レッド ¥3,990(税込)
S·M·L·XL

ケータイサイトはもちろん 24時間受付OK!

非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で 検索!!

au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

SoftBank メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[QRコード]

※価格はすべて税込みです [★]の商品は在庫終了次第、販売終了となります

みんなも一緒に！読プレ、バンザーイ!!

やったネ、クロウ！ 明日もホームランだ！

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、1～8の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもってご代えさせていただきます。賞品は7月22日以降発送予定です。

【質問事項】1郵便番号・住所・電話番号 2氏名 3年齢・職業 4希望商品 5おもしろかった記事&その理由 6つまらなかった記事&その理由 7 2007年上半期ベスト&ワーストバウト ベスト&ワーストファイター ベスト&ワースト興行

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6ハレ・シュノ2F (株)ダブルクロス「kamipro」編集部「大成功たったねぇ～」係まで

※締切は2006年7月20日（金）当日消印有効

HUSTLE

ウォーレン・クロマティのサインボール

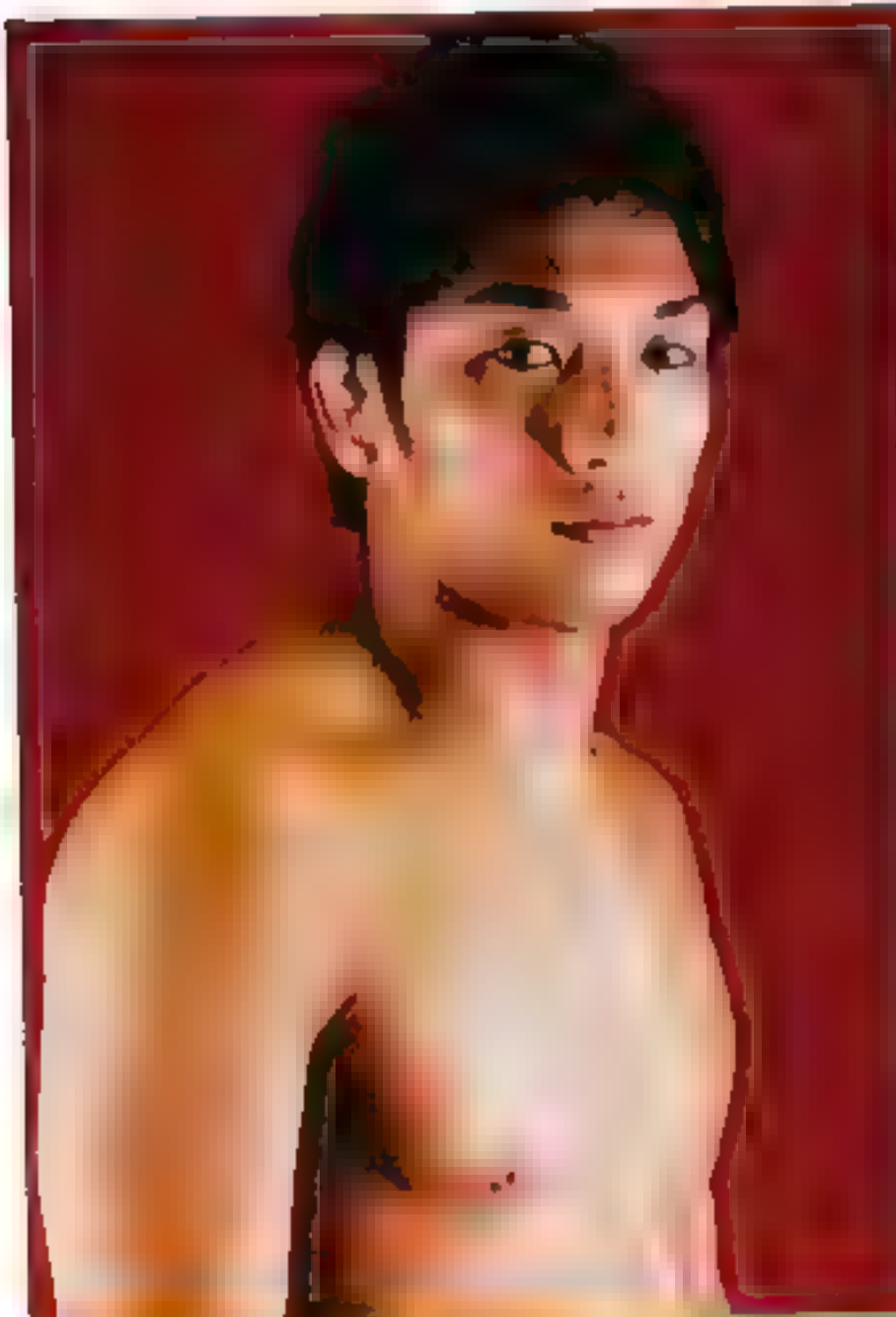
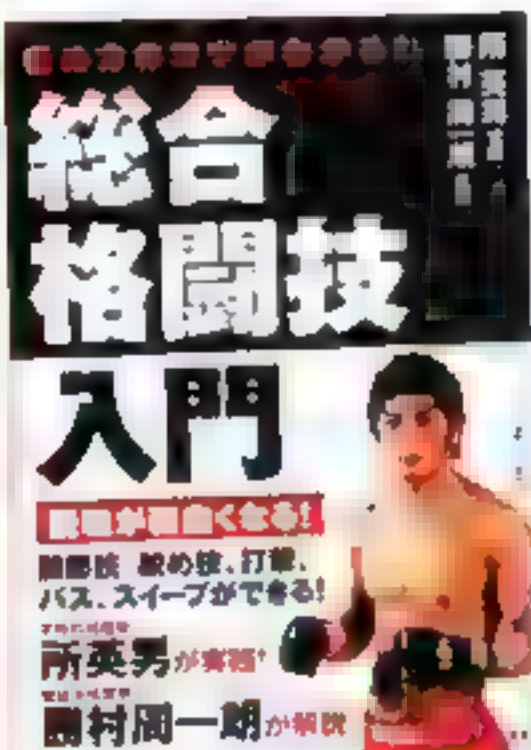
♪楽をしてもクロウ～クロウ～と「ハッスル・エイド2007」をホームラン級の大爆発で盛り上げた"史上最強の助っ人"クロマティの貴重すぎるサインボールを1名様に！ これをゲットした暁には、自宅でバンザイ三唱だ！

ハッスル・エイド2007 開催記念Tシャツ

ブラック／¥3,990（税込）

「ヤーヤーヤー～♪」と総統&川田の異様なハイテンションのチャゲ&飛鳥で幕を開けた「ハッスル・エイド2007」の開催記念Tシャツが到着!! 希少な大会限定品を手に入れよう！

2名様

HUSTLE http://www.hustlehustle.com/

HERO'S

総合格闘技入門

監修／勝村周一朗　実演／所英男（池田書店）
¥1,470（税込）

あの"世界の所さん"が総合格闘技の極め方をモデルで実演！ この本は"リアルタイガーマスク"ことZSTの勝村周一朗が格闘技の初心者向けに監修した技術本。所は実演しているだけなのだが、ふてぶてしく表紙を奪取！

1名様

PRIDE

青木真也 LOCK STAR Tシャツ

イエロー／¥4,200（税込）

ファオ！「kamipro Hand」での「やる気　起　青木日記」も日々、絶賛更新中の青木真也。そのニューTシャツが「PRIDE」から登場！ 元警察官の青木らしく手錠をイメージしたこのTシャツを着て、君もこの夏を生き残れ！ これ！

2名様

PRIDE http://store.prideofficial.com/

Dynamite!! USA

セットで1名様

坂井ノブ、ロサンゼルス出張おみやげセット

特派員として「Dynamite!! USA」に派遣、現地レポートをしてくれた本誌・坂井ノブのおみやげは、なぜかルチャ写真集にDVD、そしてカリフォルニアンシャツと現地直送のトンデモ逸品ばかり！

1名様

Dynamite!! USA 記念Tシャツ

（非売品）

う～っ、ダイナマイッ！ 我々の想像を超えるスケールで開催された「Dynamite!! USA」を現地で観戦した本誌・松林書編集次長がゲットしてくれた、かなりレア度高めのロゴ入りの大会特製Tシャツをドーンと放出！

HERO'S http://www.hero's...

NEW JAPAN

『NEW JAPAN FACTORY』Tシャツ&タオル

新日本プロレスが、永田克彦を中心に『NEW JAPAN FACTORY』を設立し、いよいよ本格的に総合格闘技に着手!! そのため道場まで絶賛改装中! とのこと。新日本の本気感あふれる、できたてグッズをプレゼント!

ART JUNKIE

格闘技世界一 スウェットメッシュキャップ

¥4,200(税込)

同じくART JUNKIEから、あのジョシュ・バーネットや、ビル・ロビンソンにも提供したという"格闘技世界一"のロゴ入りキャップが到着! 昭和のプロレスファンの心をくすぐる逸品だ。

BRZ Tシャツ

ホワイト/¥4,200(税込)

人気格闘デザインチーム、ART JUNKIEから、格闘王国ブラジルをモチーフにした、真のブラジル好きに捧げるオリジナルTシャツが到着! その名もズバリ"BRZ"Tシャツをプレゼント!

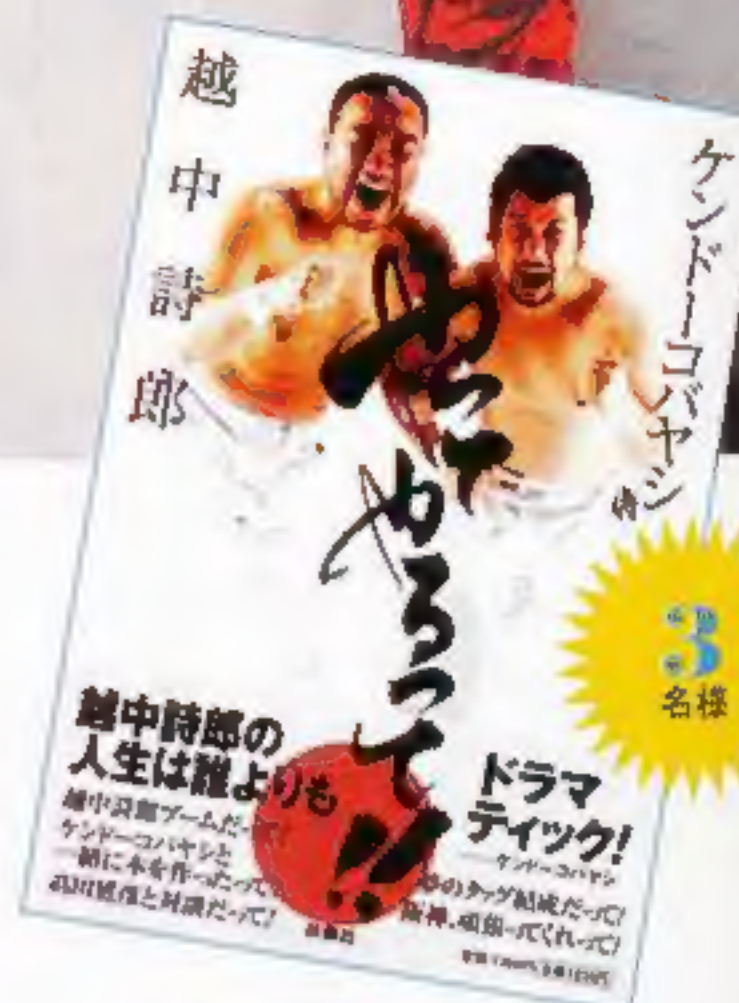
ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/

G・B・Hサイン入りシャツ

ホワイト/¥3,000(税込)

み～んなぶっ潰してやるって! と越中&天山&真壁を筆頭に、「徹底的に悪いことをする、この上なく凶悪なワル」(天山談)を目指し、ヒールの中のヒール道を邁進する無法軍団から、サイン入りTシャツを提供!

闘魂SHOP■http://shop.njpw.co.jp

『やってやるって!!』

著者/越中詩郎&ケンドーコバヤシ(扶桑社)
1,300円(税込)

そこのけそこのけ、越中&ケンコバですよ! と雑co?ファン待望の越中本が完成! タイトルは直球な『やってやるって!!』。本の詳細はまだ未定だが、中には仰天の対談記事もあるというから、ゲットして確かめろって!

扶桑社■http://www.fusosha.co.jp/

GRABAKA

菊田早苗率いる、"異能の寝技集団"GRABAKAが、今年も人気デザイナーとのゴキゲンなコラボレーションTシャツ4バージョンを発表! この夏はコレをゲットして、"極めて、そして勝つ"GRABAKAスタイルを体感するベシ!!

GRABAKA "catch & win" ArmBar Tシャツ
ベージュ/¥3,600(税込)

GRABAKA "catch & win" Typo Tシャツ
ブラック/¥3,600(税込)

2007 GRABAKA ロゴTシャツ
ホワイト/¥3,600(税込)

2007 GRABAKA シンプルTシャツ
ネイビー/¥3,600(税込)

GRABAKA■http://www.grabaka.com/

GENKI

『GENKI SUDO』

(TCエンタテインメント)65分/¥5,250(税込)

07年末の『Dynamite!!』で突如、引退を発表した須藤元気が沈黙を破ってDVDを発表! なんと企画から編集まで本人が監修した本作はマルチな活動に加え、宇野薫とのシークレットマッチなどの秘蔵映像や、お宝コンテンツも多数収録!

TCエンタテインメント■http://www.tc-ent.co.jp/

DVD

『天龍源一郎 ～魂の章～ 怒りの軍団抗争史』

237分/¥5,880(税込)

今年の『ハッスル・エイド2007』でHGに敗れ、ハードゲイ化するのか? 否か? が話題の天龍。その天龍のWAR時代の妥協なき軌跡を追ったDVD。"ミスタープロレス"の神髄がここにある。

『ブラジリアン柔術完全教則 上級篇』
134分/¥5,880(税込)

『新極真会 最強を極める空手入門 DVD-BOX』
505分/¥21,000(税込)

『武神館秘巻伝照シリーズ 初見良昭 口伝 その四』
113分/¥5,040(税込)

『吉鷹弘 総合格闘技 完全打撃マニュアル』
127分/¥5,880(税込)

各1名様

QUEST■http://www.queststation.com/

REVERSAL

TEAM ZST Tシャツ

ブラック/¥4,200(税込)

reversalとZSTがガッチリとタッグを結成した最新のコラボレーションTシャツが完成! 所英男や勝村周一郎らのZST選手だけでなく、関係者も絶賛愛用中のこのシャツで君もZSTの一員だ!

BIG MARK T-shirts

ホワイト/¥5,040(税込)

人気格闘ショップ、reversalから、定番のreversalのオリジナルロゴTシャツが到着! 非常にシンプルなデザインだけに、誰もがいつ何時でも着用することができるスグレモノの逸品だ。

reversal■http://www.rvddw.com/

kamipro 紙のプロレス
No.112
2007年7月11日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
堀江ガンツ
松下ミワ
上杉先輩面
八木賢太郎（「終わったらごはん」のため非番）

電気部
松澤チョロ
真下義之

見習い
もとぞのくん

企画制作部
坂井ノブ

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子

編集次長（闇の御意見番）
松林 貴

デザイン大将
出田さん（TwoThree）

デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子

お勘定&衣料部
ニュー林様

超電撃入籍!
入江生田神宮（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“スカパラ大熱唱”芳司

新弟子編集庶務
原 正典

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

［カスタマーサポート］
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00～17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

♪いまから一緒にぃ～
♪これから一緒にぃ～
♪殴りにぃ～行こうかぁ～

7・7『UFC73』サクラメント大会

ノゲイラ、UFCに殴り込み!!

YAH～
YAH～
YAH～

NEXT ISSUE

6.29 IGF『闘今BOM-BA-YE』ズンドコレポート、
7.16『HERO'S』ダイナマイト徹底詳報!!

次号No.113は
7月23日(月)発売予定!

☆なお、かなりの高確率で発売日は変更します。

24時間プロレス・格闘技専門チャンネル「FIGHTING TV サムライ」
Toys In The "Attack"
ひっくりかえした、格闘おもちゃ箱!
瀧本vsMIKU、横田vsデヨン、今成vsフラザト、長谷川vsマックス!
DEEEEP IMPACT（#12）
●ON AIR…6/27(水)22:00~24:00、他
※6.10名古屋、6.16新宿、6.17新宿(「DEEP X」)
ミドル級王者・長南亮が故郷凱旋!石川英司、長岡弘樹ら出場
「DEEP in YAMAGATA」
6.24三川町民体育館
●ON AIR…7/5(木)22:00~23:00、他
中尾受太郎vs國奥麒樹真!池本誠知vsハン・スーファンなど
「DEEP 30 IMPACT」
7.8 Zepp OSAKA
●ON AIR…7/14(土)22:00~24:00、他
総合×キック×エンターテインメントのニューイベント!
「DEEP GLOVE」
7.26後楽園ホール
●ON AIR…8月放送予定
「DEEP 31 IMPACT」
8.5 後楽園ホール
●ON AIR…8月放送予定
8戦無敗の川村亮が因縁のシュートボクセと激突!
パンクラス 5.30 後楽園ホール
●ON AIR…7/4(水) 10:00~12:00
石毛慎也vsムエタイ王者センチャイ・ソー・キング・スター
ニュージャパンキックボクシング連盟
7.1後楽園ホール
●ON AIR…7/12(木)22:00~23:00、他
立ち技格闘技最高峰のステージをインサイドレポート!
「K-1 BATTLE SCRAMBLE!」
●ON AIR…7/13・27(金)23:00~23:30、他
美濃輪育久×パク・ヒョンガップなど日本対韓国全面対抗戦!
「CMAフェスティバル」
06.5.24後楽園ホール
●ON AIR…7/1(日)15:00~17:00、他
美濃輪育久デビュー10周年記念試合!
「CMAフェスティバル2」
7.23後楽園ホール
●ON AIR…7/30(月)22:00~24:00、他
世界フェザー級&ライトヘビー級チャンピオンシップ!
プロフェッショナル修斗
「BACK TO OUR ROOTS 04」
7.15 後楽園ホール
●ON AIR…7/18(水)22:00~24:00、他
プロフェッショナル修斗
6.30 北沢タウンホール
●ON AIR…7/19(木)22:00~23:00、他
VS
Sustain
※放送内容は予告無く変更する場合がございます。 ※この他にも、様々な番組を放送しています。
©DEEP事務局 ©SUSTAIN
絶対中継宣言! 8月からサムライの番組編成が変わります!

2007年7月11日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤伸一、青柳昌行　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社　©2007 ENTERBRAIN,INC.　©2007 DOUBLECROSS
enterbrain

定価：本体838円＋税
雑誌61955-17　Ⓗ2007.10
Printed in Japan 図書印刷

ISBN978-4-7577-3620-7
C9476 ¥838E